(3) 弥生時代後期後半の遺構・遺物

当時期は鹿田・後・3および後・4期にあたる。竪穴住居7棟，井戸10基，溝12条，土壙56基，土器溜り2ヶ所，柱穴多数を検出した。

後・3期の遺構は竪穴住居3棟，井戸1基，土壙21基，土器溜り1ヶ所がある。遺構の分布状況は東側の高位部に集中する。土壙の中で注目されるものは粘土を多く含む土壙8のみで、遺物包含土壙21・4等も柱穴の可能性が高い。前段階に比べて土壙の機能分化は少ない。

後・4期に属する遺構は竪穴住居4棟，井戸9基，土壙35基，土器溜り1ヶ所，柱穴多数である。この時期は井戸の増加が注目される（東側に5基，西側に4基）。土壙の包含物をみると，ガラス滓を多く含む土壙202，墓の可能性をもつ土壙230のみに特徴があり、出土遺物は非常に少ない。それに対して，貝塚を有す土器溜り2が多量の遺物を伴って検出されている。その他に井戸13については袋状貯蔵穴の可能性が高く、注目に値する。

以上のように調査区中での井戸の増加が後・3期から後・4期にかけて進む。一方，土壙の機能分化，遺物の出土量が急激に減少し，遺物を豊富に有す土器溜りが出現する。井戸の増加，土壙の減少，土器溜りの出現等，様々な点で変化の認められる時期である。（山本）

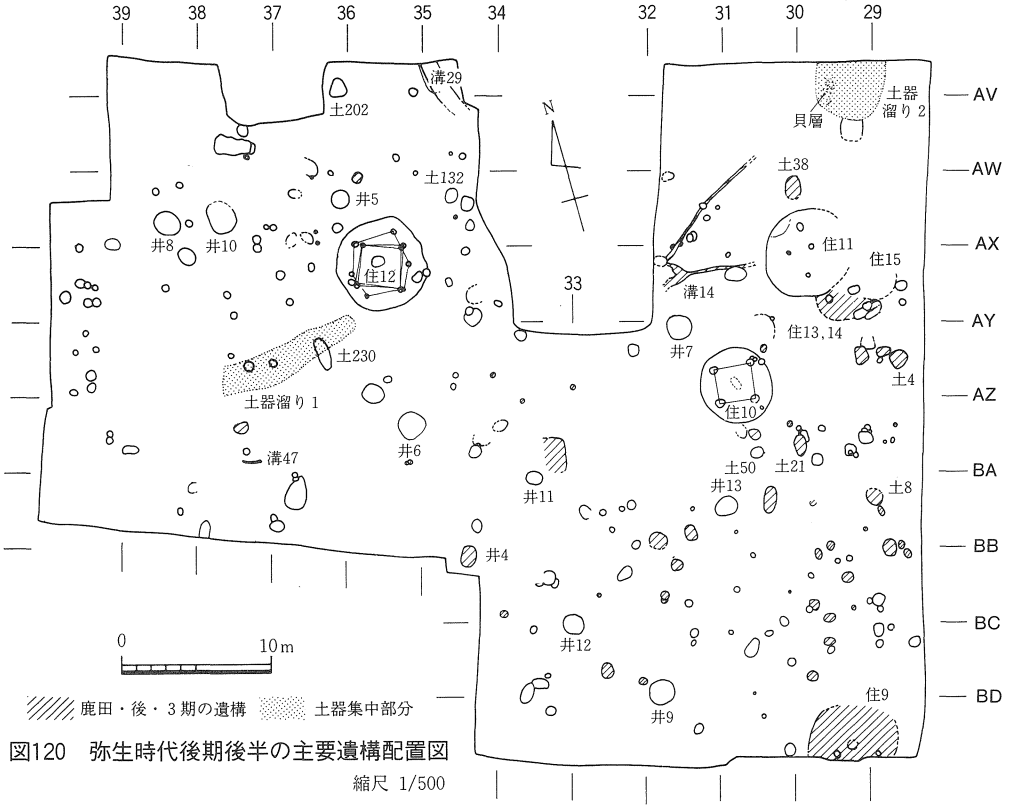


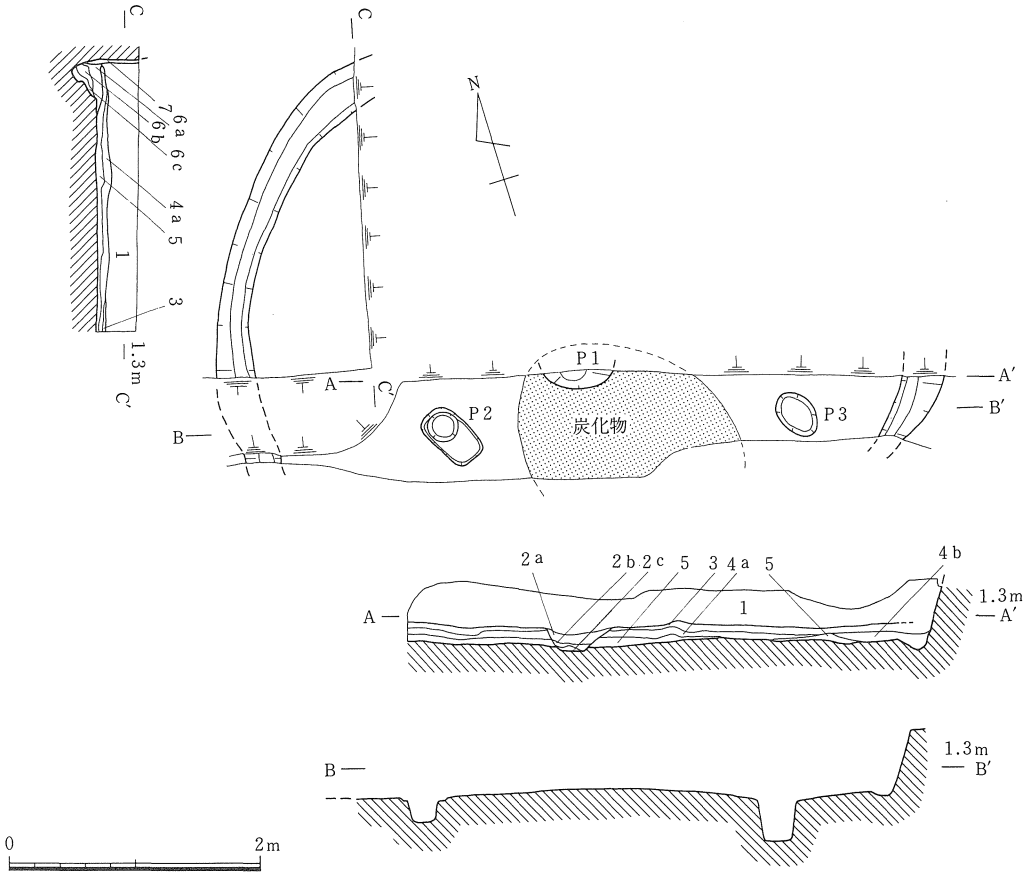
図120 弥生時代後期後半の主要遺構配置図

縮尺 1/500

a．竪　穴　住　居

竪穴住居－9（図121・122）

ＢＤ28～29区に位置する。調査区南端に位置し，北～東部の大半を攪乱穴に大きく削られる。旧状の復元は困難で径500～600㎝の円形に近い平面形が想定されるのみである。床面は２枚検出されている。１次住居の床面は標高110㎝前後を測る。床面直上に炭・焼土を多量に含む層（５層）が厚く堆積する。最終住居床面は標高120～125㎝を測る。貼り床（３層）は北側で一部存在しないが東半部に向って厚く認められる。また，中央穴Ｐ１から南側に向っては炭の分

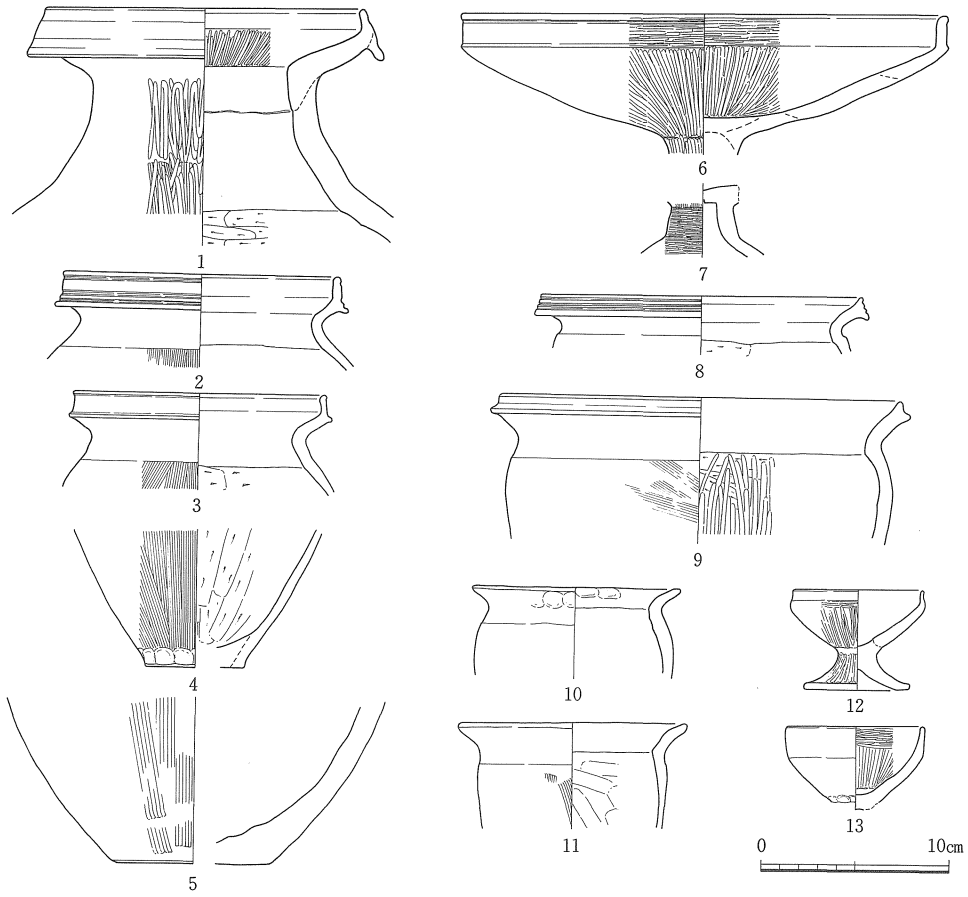


1　茶褐色土……最終埋土
2a　暗灰褐色粘質土（粘土塊含）……最終床ピット埋土
2b　〃　〃　（炭多含）……　〃
2c　暗青灰色粘質土……　〃
3　黄褐色土（粘土含）……最終住居貼床
4a　茶褐色土（〃　〃・焼土多含）
……１次住居埋土・最終住居床
4b　暗茶褐色土（焼土・土器含）……１次住居埋土
5　暗～黒褐色土（炭多含・焼土塊含）　〃
6a　暗茶褐色土（炭多含・焼土含）……１次住居壁体溝埋土
6b　黄褐色土　……　〃
6c　暗茶褐色土　……　〃
7　暗灰色砂質土（炭含）……板壁痕跡？

図121　竪穴住居－９　縮尺 1/60

布が広がる。柱穴は最終住居床面上に中央穴以外２本が検出されている。底面高は標高70～80cm・深さ40～50cmを測る。両住居は壁体溝を共有し，その溝中には壁際に壁体痕跡の可能性をもつ７層が検出されている。以上の状況から両住居間に大きな拡張はなかったと考えられる。

遺物は最終住居に伴って出土しており，鹿田・後・３期に比定される。



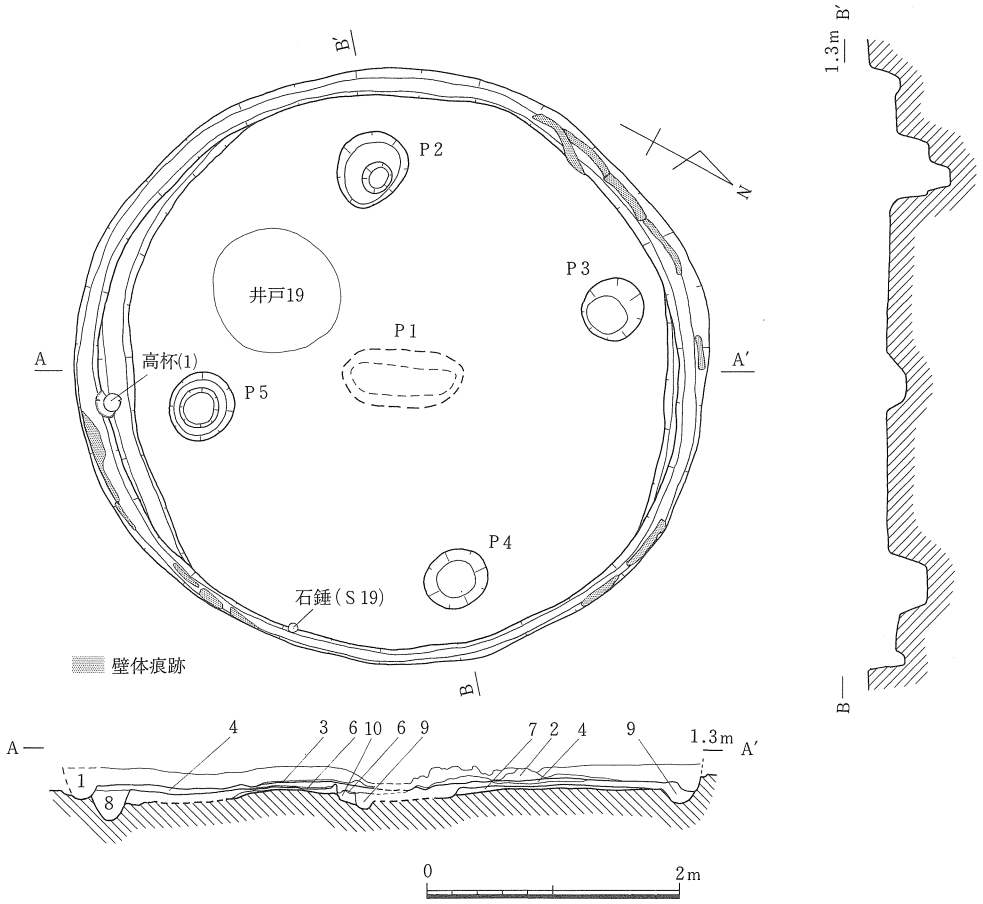
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	17.0	－	－	頸部下半～体部外面ハケ後篦ミガキ，No５と同一個体の可能性あり	淡赤褐	微～細砂
2	甕形土器	14.7	－	－	全体磨滅で不鮮明，内面の篦ケズリ方向不明	〃	〃～〃 ㉓
3	〃	13.7	－	－	外面ハケ，内面篦ケズリ	〃	〃～粗砂
4	〃	－	5.2	－	底部外面押圧・ナデ	㈠灰黒 ㈡黒褐	〃～〃
5	壺形土器	－	8.0	－	磨滅で不鮮明，底部内外面ナデ，黒斑，No１と同一個体の可能性あり	明褐～淡灰白	細砂㉓
6	高杯形土器	25.8	－	－	全面篦ミガキ	明赤褐	微砂㊱，水漉粘土
7	〃	－	－	－	外面ハケ後篦ミガキ，杯部内面篦ミガキ，脚部内面ナデ	淡赤褐	〃〃，〃
8	鉢形土器	17.0	－	－	口縁部凹線３条	淡灰褐	〃
9	〃	21.3	－	－	外面ハケ後ナデ、内面篦ケズリ後篦ミガキ，黒斑	淡赤褐	〃
10	〃	11.0	－	－	内面篦ケズリ後ナデ，他は押圧・ナデ	㈠灰黒 ㈡淡黄褐	〃 ㉑，精良
11	〃	12.1	－	－	内面工具使用ナデ，外面ハケ後ナデ	明赤褐	〃〃，〃
12	台付鉢形土器	7.0	5.6	5.3	小形土器，外面篦ミガキ，口縁部・台部内面横ナデ・黒斑	〃	〃〃，〃
13	〃	7.4	－	－	小形土器，外面ナデ，内面篦ミガキ，鉢底部内面押圧，黒斑	淡黄褐	〃〃，〃

図122　竪穴住居－９　出土遺物　縮尺 1/4

竪穴住居－10（図123・124，図版80）

ＡＹ・ＡＺ30・31区に位置する。南半部の一部を井戸19に深く削られ，また，東半部分では竪穴住居８の上部と重複関係をもつ。

床面は２枚検出されている。１次住居の平面形は径470㎝前後の円形である。床面高は標高100㎝前後を測り，全面に貼り床がなされる。住居のほぼ中央部には中央穴が土層観察により確認されている。長軸96㎝・短軸46㎝の長楕円形のプランが推定され，深さは床面より16㎝を測る。中央穴の南東部分には床面が４㎝程度の高まりをみせ，土手状の炉肩を形成していたと考えられ，周辺部には広範囲にわたって炭化物が堆積する。中央穴Ｐ１は土層断面観察から，１次床にのみ想定される。



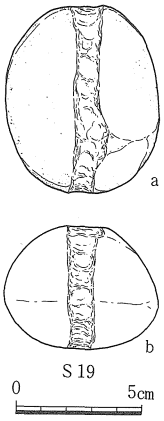
1	明茶褐色土	……最終住居埋土	6	炭化物層	……１次住居床直上
2	暗茶褐色土	…… 〃 〃	7	茶褐色土	…… 〃 貼床
3	炭化物層	…… 〃 床直上	8	暗茶褐色細砂土	…… 〃 壁体溝埋土
4	暗褐色土（炭・焼土含）…	〃 貼床	9	黒褐色土（炭含）	…… 〃 中央穴 〃
5	黒褐色土（炭含）	……１次住居埋土	10	暗褐色土（炭含）	…… 〃 〃 〃

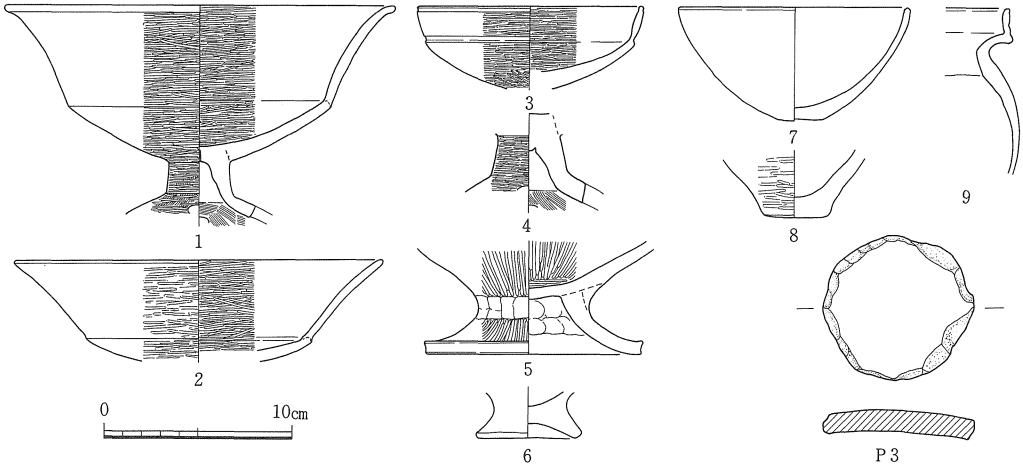
図123　竪穴住居－10　縮尺 1/60

最終住居は520×480cmの円形プランを有し，南東―北西方向に僅かに拡張が認められる。床面は標高105～108cmを測り，貼り床は南に向ってなされ，炭化物も貼り床上に厚く堆積する。壁際には，炭を含む軟質の黒褐色土が部分的に検出される。一単位は長さ50cm，幅５cm前後で住居内側に向って若干内彎する。壁体痕跡と考えられ，残存状況が良好な部分では数枚が連続して認められる。柱穴は１次住居から踏襲したＰ２～５のみで中央穴は存在しない。いずれも径50cm前後・深さ床面下45cm前後を測る。両住居は床面を張り替える程度の建て替えであったと考えられる。

出土遺物は最終住居床面上から高杯（１），石錘（Ｓ19），埋土中から高杯（２～４），鉢（５～８），甕（９），円盤形土製品（Ｐ３）があげられる。全体的に量は少ない。

時期は鹿田・後・４期に比定される。





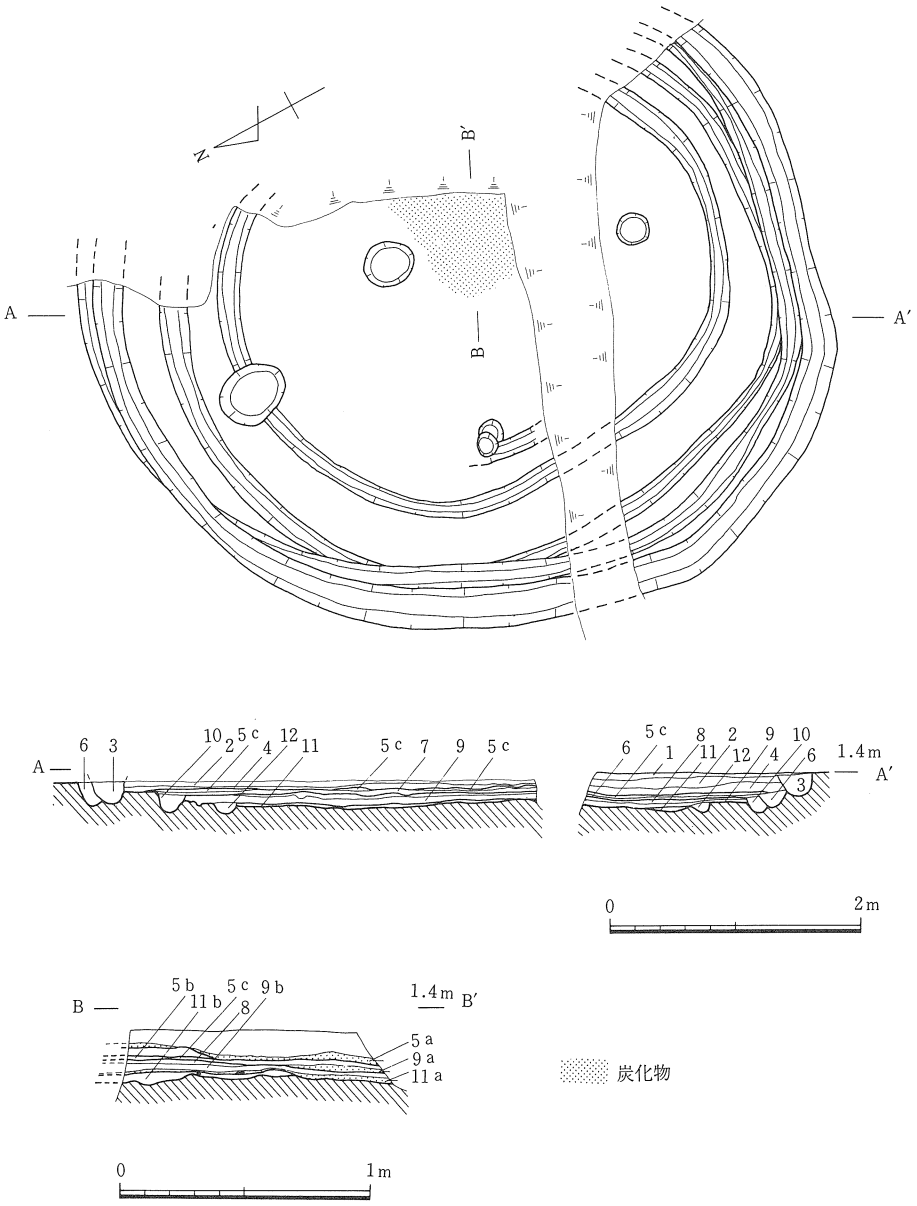
遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	高杯形土器	20.8	－	－	脚裾部外面ハケ後篦ミガキ，口縁部煤少量	明赤褐	微砂⑧，水漉粘土
2	〃	19.5	－	－	篦ミガキ	〃	〃 〃，〃
3	〃	12.0	－	－	口縁端部沈線１条	淡黄褐～赤褐	〃 〃，〃
4	〃	－	－	－	外面篦ミガキ	明赤褐	〃 ㉔
5	台付鉢形土器	－	11.4	－	鉢部と台部の境押圧，黒斑，台部内面上半押圧・下半ナデ	淡灰～灰褐	細～粗砂㉘
6	〃	－	5.3	－	ナデ	淡黄褐	微砂㉔
7	鉢形土器	12.3	2.4	6.0	全面磨滅で不明	赤褐	細砂㉘
8	〃	－	3.3	－	内面ナデ・押圧，外面篦ミガキ，底部外面ナデ	〃	〃 ㉔
9	甕形土器	－	－	－	体部内面篦ケズリ，外面ナデ後一部縦位篦ミガキ	淡乳黄褐	微砂

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S19	石錘	7.4	6.1	5.0	340.0	玢岩	長軸方向に敲打による溝，a面裏面中央部で途切れる

遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P3	円盤	7.6	8.0	1.1	84	上面ナデ，下面工具使用ナデ，大形壺の破片を再利用	淡褐	粗砂，細礫㉒

図124　竪穴住居―10　出土遺物　縮尺 1/4，1/3(S19)

竪穴住居－11（図125・126，図版80－２）



1　淡黄灰褐色粘質土…最終住居貼床
2　淡黄褐色　〃
3　暗褐色砂質土　…最終住居壁体溝埋土
4　暗黄褐色粘質土　…３次住居埋土
5ａ　炭　層
5ｂ　暗灰褐色土
5ｃ　黄褐色粘質土　…３次住居貼床
6　黄褐色砂質土　…　〃　壁体溝埋土
7　暗褐色砂質土　…２次住居埋土
8　灰黄褐色粘質土　…　〃　貼床
9ａ　炭　層
9ｂ　暗灰褐色砂質土　…２次住居床土
10　暗褐色　〃　…　〃　壁体溝埋土
11ａ　炭　層
11ｂ　暗黄褐色粘質土　…１次住居貼床
12　暗灰褐色土　…壁体溝埋土

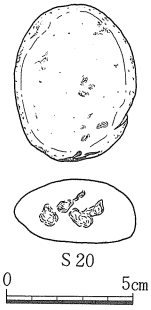
図125　竪穴住居－11　縮尺 1/60，1/30(B－B′断面のみ)

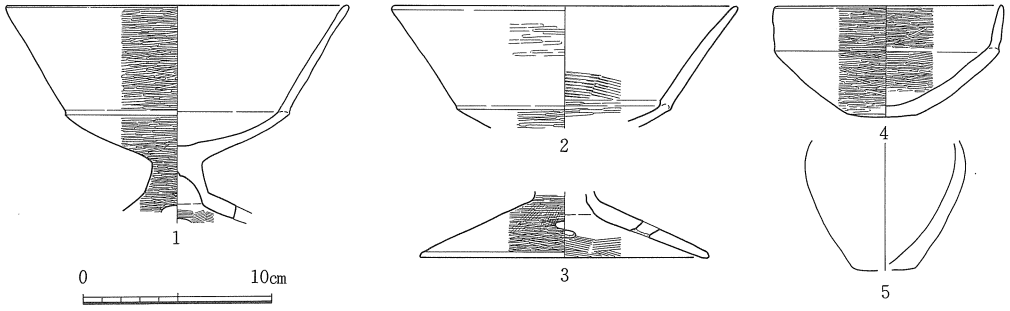
ＡＷ・ＡＸ29・30区に位置する。東側と住居内を深い攪乱で削られる。遺構検出は平面的調査は非常に困難であり，土層観察に頼らざるを得なかった。

床面は４枚確認された。１次住居は長軸408cm，短軸330cm前後（推定）を測り，南北に長い隅丸方形を呈す。床面高は標高115cm前後である。２次～最終住居については東側の攪乱のため，平面形の旧状復元は不可能である。南北の長さは２次では490cm，３次・最終両住居では570cm前後である。壁体溝は互いに交錯する。床面高は115～120cm（２次面）・120～125cm（３次面）・140cm前後（最終面）を各々測る。いずれの住居床面にも貼り床が認められる。

Ｂ断面においては中央穴周辺の堆積状況が検出された。１次住居では床面が中央穴肩部で高まりを持ち，土手状をなす。貼り床は肩部には及ばない。中央穴の本体は東側に形成される。炭化物は中央穴内外に認められるが内側に特に厚く堆積する。２次住居では土手状の肩部は形成しないが，状況は同じである。３次住居では貼り床形成後に中央穴が構築される。肩部には床土とは別の土（５ｂ層）が５cm前後に盛り上げられ，しっかりした土手状部を形成する。炭化物も厚い。最終住居は床面を削平されて不明である。中央穴の位置は住居中央部のやや東寄りである。

遺物は全体的に少ない。高杯（１～３），鉢（４・５），敲石（Ｓ20）があげられるが，いずれも最終住居に伴う。時期は竪穴住居10とほぼ同時期と考えられ，鹿田・後・４期に比定される。（山本）





遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	高杯形土器	18.2	－	－	外面篦ミガキ，杯部内面磨滅で不明，黒斑	赤褐	微砂㊟，水漉粘土
2	〃	18.3	－	－	全体的に磨滅で不鮮明，黒斑	〃	〃 〃，〃
3	〃	－	15.4	－	外面ハケ後篦ミガキ，脚裾部内面上半ナデ，黒斑	明赤褐	〃 〃，〃
4	鉢形土器	12.2	3.6	5.9	底部外面丁寧なナデのためか篦ミガキ痕消失	淡赤褐	〃 〃，〃
5	〃	－	3.2	－	全面ナデ	淡黄褐	〃 〃，精良

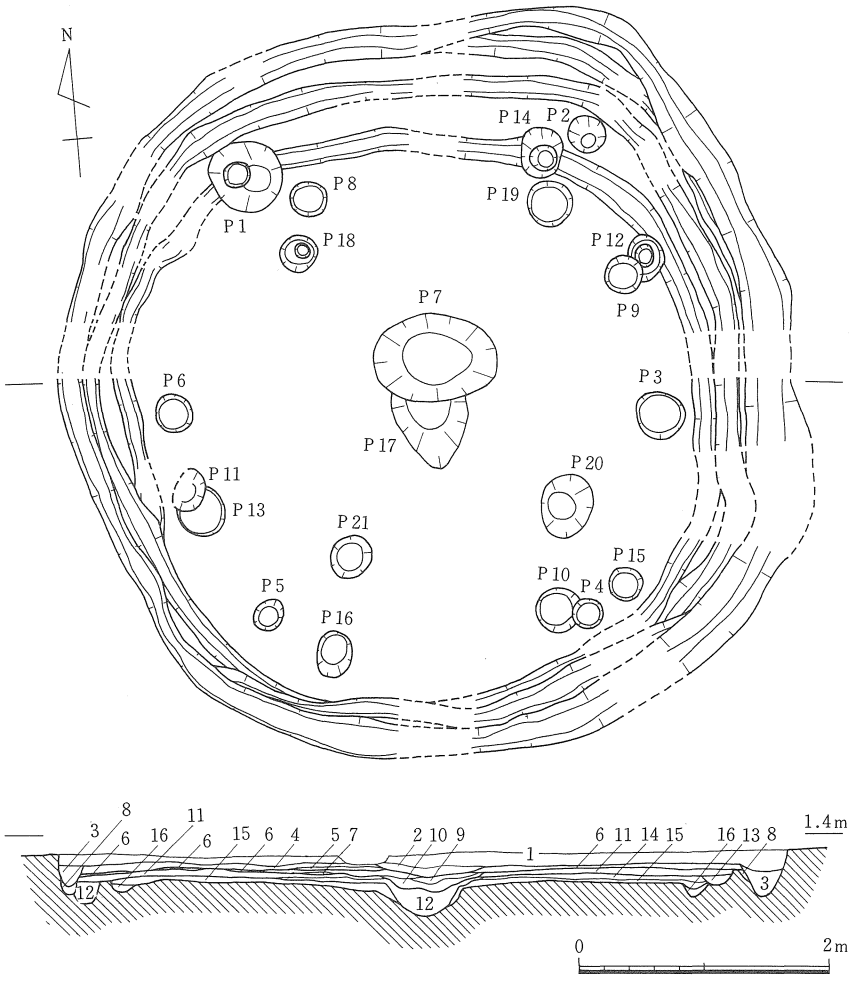
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
Ｓ20	敲石	6.2	4.8	2.7	112.0	珪長岩	小形扁平円礫，側面に敲打痕

図126　竪穴住居－11　出土遺物　縮尺 1/4，1/3（Ｓ20）

竪穴住居－12（図127～129）

本竪穴住居は主にＡＷ35区の南半部とＡＸ35区を中心に，一部ＡＷ・ＡＸ36区にまたがり位置している。４本の壁体溝を検出しており，土手断面の検討から４回の建て替えが認められる。

１次住居は径約4.8ｍの円形プランである。Ｐ18～21を主柱穴とする４本柱である。床面は地山面で，標高105㎝前後である。２次住居は主に北側に拡張し，径約5.3ｍの円形プランである。主柱穴は４基でＰ14～16が相当し，残り１基は５次住居の柱穴Ｐ１の位置に存在したとみ

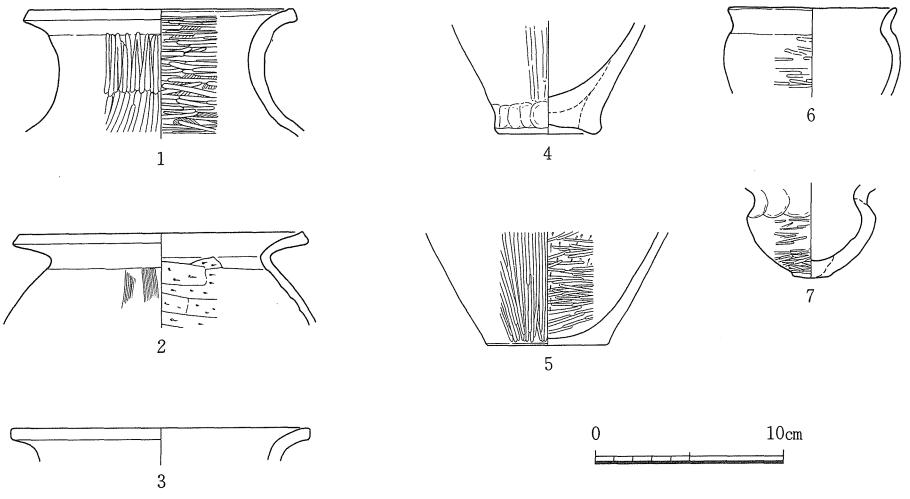


1　淡褐色土　（焼土含）
2　茶褐色粘質土（焼土含）
3　明黄褐色粘質土
4　暗茶褐色土　（焼土含）
5　暗茶褐色土　（炭・焼土多含）
6　黄褐色粘質土
7　炭
8　茶褐色土
9　暗赤褐色土（炭含・焼土多含）
10　赤褐色土　（炭含・焼土多含）
11　淡黄褐色土
12　暗茶褐色粘質土（炭多含）
13　明茶褐色粘質土
14　灰褐色粘質土
15　明黄褐色土
16　暗茶褐色土

図127　竪穴住居－12　縮尺 1/60

られる。14層および15層上面が床面であり，Ｐ17が中央穴で，大量の炭を含んでいる。３次住居も主に北へ拡張され，東西約5.8ｍ，南北約5.6ｍの不整円形プランである。Ｐ８・10・12・13が主柱穴で，11層が貼り床である。５次住居の中央穴Ｐ７にほぼ重なった位置に焼土を多量に含む深さ15㎝前後の中央穴が存在する。４次住居は壁体溝と４基の主柱穴のうちの２基（Ｐ８・10）を３次住居と共有する。他の２基の柱穴Ｐ９・11は３次住居の柱穴を切っており，全体の主柱穴の配置は３次住居とほぼ同じである。床面は３次住居の床面上に一部黄褐色土（６層）を貼り床にしたもので，床面中央部には炭・焼土を大量に含む暗茶褐色土（５層）が堆積している。５次住居は全体に若干拡張し，径約６ｍの不整円形プランを呈している。主柱穴は従来の４基から６基に増加し，Ｐ１～６が相当する。床面は４次住居床面上に一部暗茶褐色土（４層）を貼り床としており，Ｐ７が中央穴であり，焼土を大量に含んでいる。住居は基本的に建て替えによって拡張しており，最小の１次住居の推定床面積は約18.7㎡，最大の５次住居で約28.5㎡である。

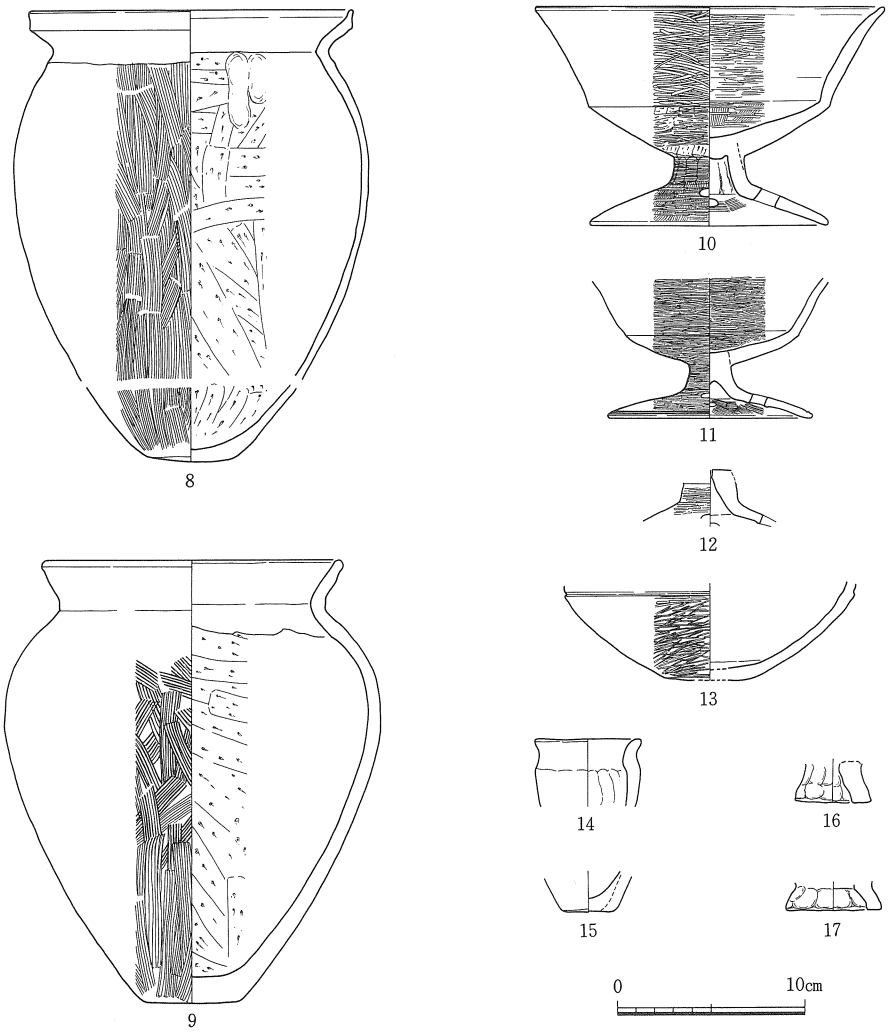
本住居からは性格不明の鉄製品が１点出土しているほかに最終の５次住居の埋土中から，鹿田・後・４ａ期の土器（８～17）がまとまって出土している。１～２次住居に伴う土器（１～



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	14.1	－	－	内面ハケ後篦ミガキ，外面篦ミガキ	黄褐	微～細砂
2	甕形土器	15.1	－	－	体部外面ハケ後横ナデ・内面篦ケズリ	淡灰	〃～〃
3	〃	15.8	－	－	外面煤付着，No４と同一個体	褐	微砂㊎，粗砂
4	〃	－	5.6	－	外面縦位の調整痕・煤付着，底部押圧，No３と同一個体	暗黄褐	細砂㊎
5	壺形土器	－	6.5	－	内面篦ケズリ後篦ミガキ，外面篦ミガキ，底部外面押圧，外面煤付着	内)灰褐外)明黄褐	微砂
6	鉢形土器	8.9	－	－	全体磨滅で不鮮明	赤褐	細砂
7	〃	－	2.0	－	外面篦ミガキ，底部外面篦ケズリ，他はナデと押圧，黒斑	黄褐	微砂㊎，水漉粘土

図128　竪穴住居－12　出土遺物(1)　縮尺 1/4

7）は鹿田・後・２ｂ～４ａ期に属し，本住居は鹿田・後・２ｂ～４ａ期にかけて営なまれたとみられる。　（栄）



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
8	甕形土器	17.1	4.9	－	底部外面ナデ，内面篦ケズリ後肩部に一部押圧，外面ハケ，煤付着	(内)褐(外)黒褐～赤褐	粗砂㉖，細礫㉗
9	〃	16.0	5.0	23.5	底部外面ナデ，底部は４×５ｍの楕円形，外面煤付着㉙	明赤褐	〃 〃，〃
10	高杯形土器	18.6	12.7	11.6	杯受部内面ハケ後篦ミガキ・外面篦ケズリ後篦ミガキ	明赤褐～黄褐	微砂㉘，水漉粘土
11	〃	－	10.7	－	脚裾部内面ハケ，他は篦ミガキ	〃	〃 ㉔，〃
12	〃	－	－	－	内外面磨滅で不鮮明	〃	〃 ㉘，〃
13	鉢形土器	－	4.8	－	外部篦ミガキ，内面ナデ，黒斑	(内)淡黄褐(外)黄褐	〃 〃，〃
14	〃	5.6	－	－	手捏ね土器，ナデ・押圧，	(内)淡赤褐(外)暗黄褐	〃 ㉔
15	〃	－	2.8	－	〃 ，〃，黒斑	淡灰褐	〃 〃
16	製塩土器	－	4.0	－	押圧，２次焼成痕	淡黄～白～赤白	粗砂㉖
17	〃	－	5.0	－	〃 ，〃	〃 ～〃～〃	〃 〃

図129　竪穴住居－12　出土遺物(2)　縮尺 1/4

竪穴住居－13・14（図130・131）

ＡＸ29区に位置する。北半部で後世の攪乱穴によって切られ，また，竪穴住居11・15・16・17・20によって削平されるため，平面での検出はほとんど不可能で断面観察（図130－Ａ・Ｅ断面）によって南半部の範囲確認が行われた。

竪穴住居13では床面は３枚検出された。１次住居は東西長336㎝前後，２次・最終住居は365㎝前後の隅丸方形に近い平面形が推定される。床面の標高は１次床面：115～120㎝，２次床面：120～125㎝，最終床面：125～135㎝を測る。下部住居が存在するためか，中央部が低く凹み気味である。いずれも貼り床が認められ，特に，下部住居の柱穴上部等は厚く覆われる。壁体溝は西側では１次～最終住居まで，東側では２次・最終住居において共有される。

一方，竪穴住居14は竪穴住居13の下層において検出された。残存状況が悪く平面では不明な部分が多い。断面土層観察（図130－Ａ断面）により２枚の床面が認められた。最終床面は標高110㎝・１次床面は50～70㎝を測る。柱穴は１次住居に伴って１ヶ所検出される。炭化物・焼土等を多量に含む。壁体溝には壁際に沿って立上がる層（16層）が検出され，壁体痕跡の可能性を持つ。

遺物は，竪穴住居13・14との間で明確に分離し得なかったが，壺等（８・11・12），土錘（Ｐ４）は確実に竪穴住居14出土の遺物であり，他は竪穴住居13からの出土遺物の可能性が高い。いずれも時期的な差は見出し難く，鹿田・後・３期～４ａ期と考えたい。

竪穴住居－15（図130・132）

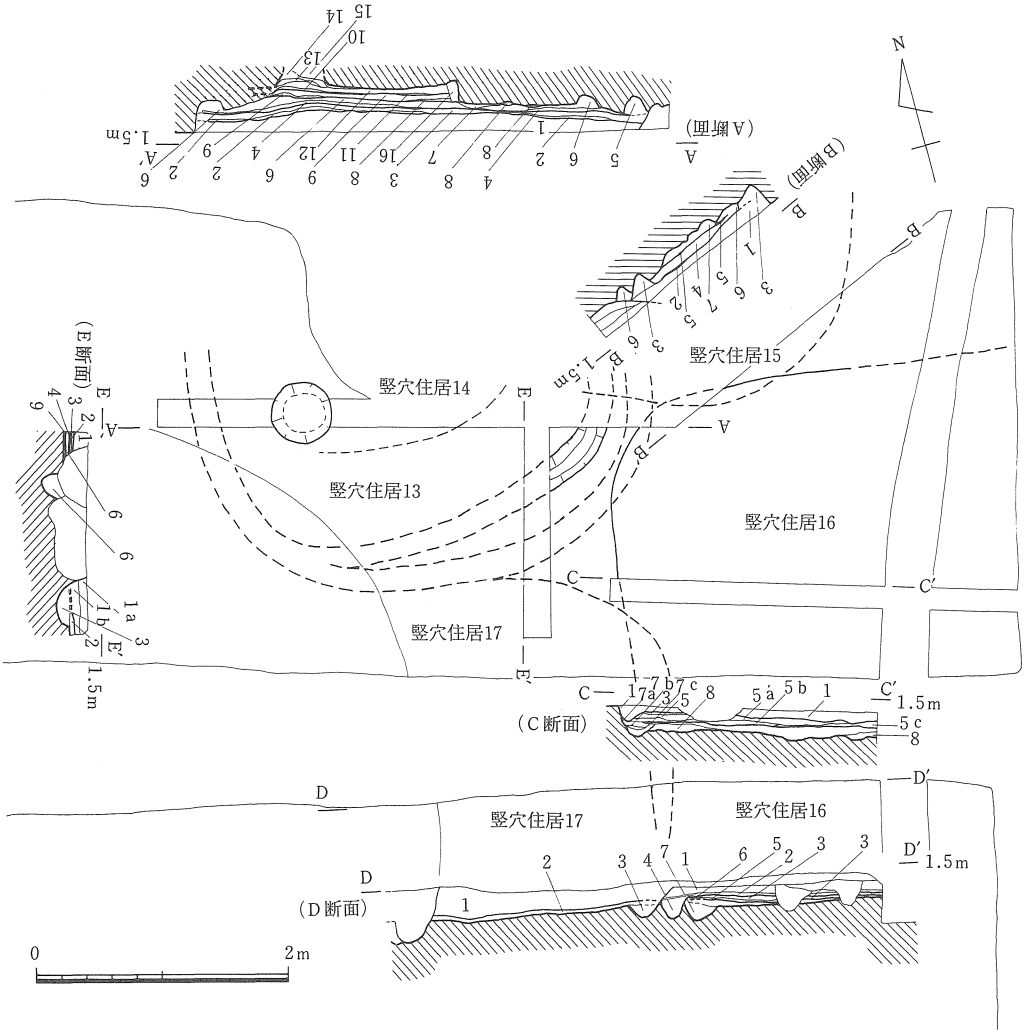
ＡＸ28・29区に位置するが，その大半を後世の攪乱により消失する。竪穴住居16に南側を切られ，一部を断面（図130－Ｂ断面）に残すのみである。不鮮明ながらも，２枚の床面が確認された。１次床面高は標高125㎝・最終床面は130㎝前後を測る。いずれも一部に貼り床が認められる。数少ない出土遺物から，鹿田・後・４期の時期が考えられる。

竪穴住居－16（図130・133）

ＡＸ・ＡＹ28区に位置する。調査区東端部のため，東側を側溝に，南側を後世の攪乱溝に切られる。また，北西端では竪穴住居13・15の上層と重複関係をもち，南西端部では竪穴住居17に削平を受ける。

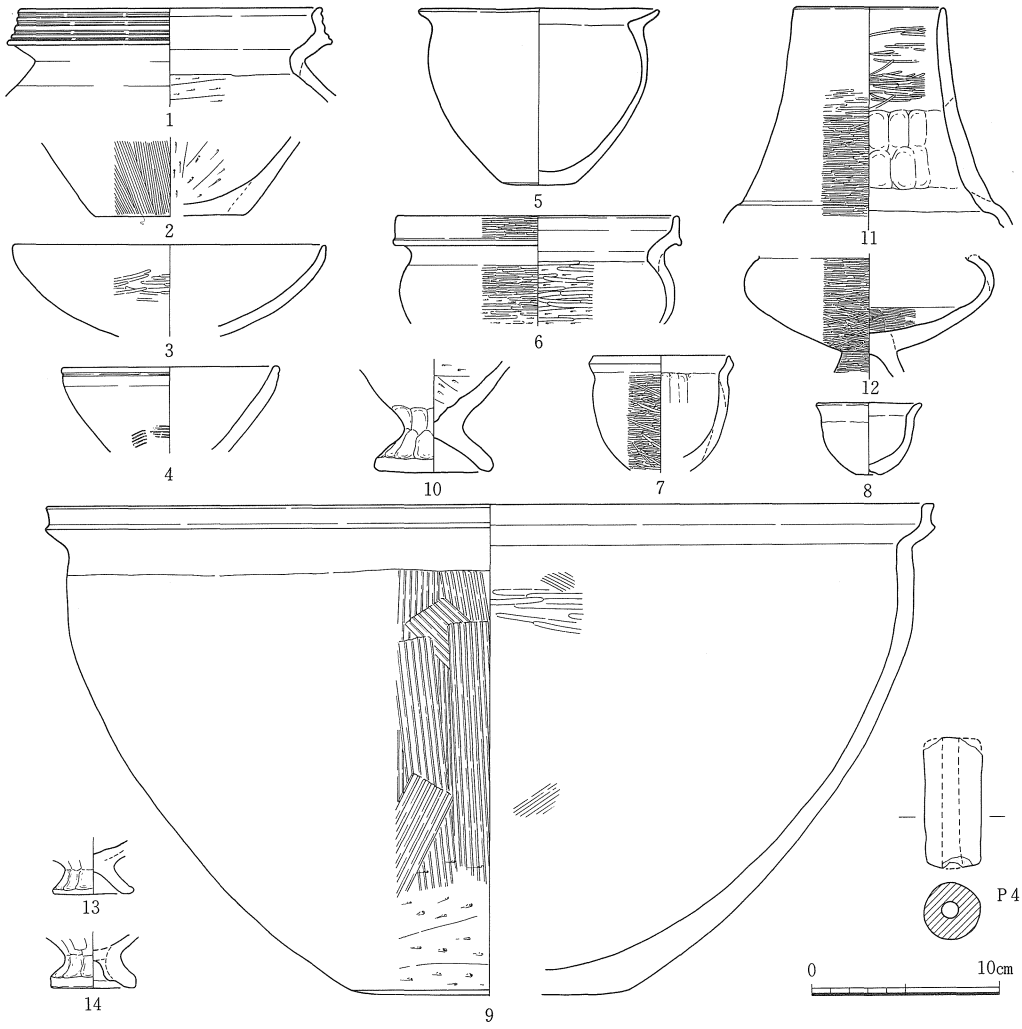
平面形は東南の端部が未確認のためほぼ方形のプランが推定できるのみで規模は不明である。断面観察（図130－Ｃ・Ｄ断面）により２枚の床面が確認される。床面レベルは１次床面が標高125～130㎝・最終床面が127～135㎝を測る。いずれも貼り床がなされ，また，壁体溝近くに炭化物が堆積する。壁体溝は一部で20㎝程度の拡張が認められるが，全体に大きな拡張は行なわれていない。

遺物は数少ないが，鹿田・古・１期と考えられる。



（A・E断面）
竪穴住居13
1　灰黄色土　…最終住居埋土
2　黄褐色粘質土…　〃　貼床
3　暗黄褐色土　…2次住居埋土
4　黄褐色粘質土…　〃　貼床
5　暗褐色土　…　〃　壁体溝
6　暗黄褐色土　…1次住居埋土
7　炭　層　…　〃　床上
8　黄褐色粘質土…　〃　貼床
（A断面）
竪穴住居14
9　暗褐色土　…最終住居埋土
10　炭　層　…　〃　床土
11　暗黄褐色粘質土…　〃　貼床
12　黄褐色土　…1次住居埋土
13　黒褐色混土炭層…1次住居ピット内埋土
14　黄褐色粘質土　…　〃　〃　〃
15　黒褐色混土炭層…　〃　〃　〃
16　暗褐色粘質土　…壁体痕跡
（B断面）
竪穴住居15
1　暗灰褐色土　…最終住居埋土
2　黄褐色粘質土　…　〃　貼床
3　暗褐色土　…　〃　壁体溝埋土
4　灰褐色土　…1次住居埋土
5　暗黄褐色粘質土…　〃　貼床
6　暗黄褐色土
（C・D断面）
竪穴住居16
1　淡黄褐色土　…最終住居埋土
2　暗灰褐色土混炭（炭多含）
…最終住居床土
3　黄褐色土　…最終住居貼り床
4　暗黄灰色砂質土　…　〃　壁体溝埋土
5a 暗灰褐色土
5b 炭　層　…1次住居埋土
5c 灰褐色土
6　明黄褐色土　…　〃　貼床
7a 暗灰褐色土
7b 明灰褐色土　…　〃　壁体溝埋土
7c 黒灰褐色土
8　明褐色土
（D・E断面）
竪穴住居17
1a 暗黄褐色土
1b 暗茶褐色土　…埋土
2　黄褐色土　…貼床
3　灰褐色土　…壁体溝埋土

図130　竪穴住居―13・14・15・16・17　縮尺 1/60



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	15.9	—	—	口縁端面凹線4条	淡灰褐	細砂㉟
2	〃	—	8.0	—	底部外面ハケ	暗茶褐	細砂
3	鉢形土器	16.5	—	—	磨滅で全体不鮮明，外面篦ミガキ残存	淡赤褐	微砂㉗
4	〃	11.5	—	—	口縁端部沈線1条，全面ナデ下半荒いハケ	灰褐	微～細砂㉙金雲母
5	〃	12.6	3.9	9.3	磨滅で不明	赤褐	〃～〃 ㉟
6	〃	14.9	—	—	口縁部内面篦ミガキの可能性あり，体部内外面篦ケズリ後篦ミガキ	赤褐	微砂㉗
7	〃	7.2	—	—	内面ナデ	淡黄褐	〃 ㊱，水漉粘土
8	〃	5.45	1.3	3.8	全面ナデ・押圧，底部小孔未貫通	〃	〃 ㉗
9	鉢形土器	37.1	14.8	25.8	内面ハケ後篦ミガキ，外面篦ケズリ後幅広のハケ，底部外面ナデ	(内)明褐(外)黄褐	細礫
10	台付鉢形土器	—	6.3	—	台部押圧，鉢部外面ナデ	明～暗褐	微～細砂
11	台付直口壺形土器	7.9	—	—	全体に磨滅で不鮮明，体部内面篦ケズリ後ナデ，黒斑	(内)淡黄褐(外)淡赤褐	微砂㊱，水漉粘土
12	〃	—	—	—	内面ナデ，体部下半ハケ	淡赤褐	〃 〃，〃
13	製塩土器	—	4.2	—	全体ナデ・押圧，体部外部上半縦位の工具痕	黒褐～褐	粗砂㉟
14	〃	—	4.4	—	〃 ・〃，〃	淡赤褐～黄褐	〃 〃

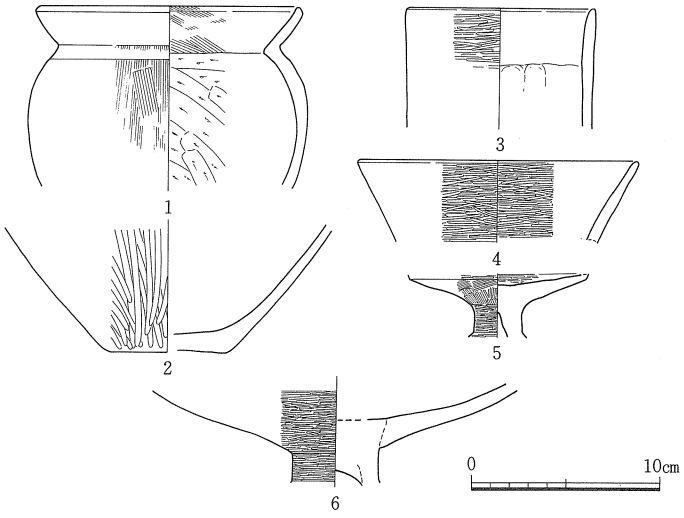
遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P4	土錘	7.0	3.1	3.1	57.0	ナデ・押圧	茶褐	微砂㉙，精良

図131　竪穴住居－13・14　出土遺物　縮尺 1/4

竪穴住居－17（図130，図版76）

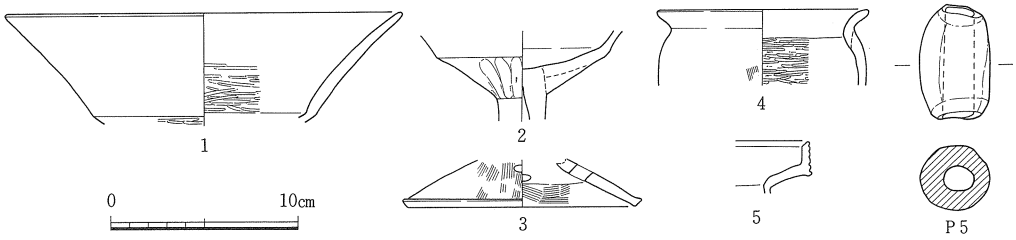
ＡＹ29区に位置する。中央部を攪乱溝により切られ，西半部は竪穴住居20により削平される。平面での検出が困難であり，土層観察（図130－Ｄ・Ｅ断面）によって確認した。規模は不明であるが，隅丸方形に近いプランが予想される。床面は１枚で，標高125～130cmを測り，全面に貼り床がされる。

出土遺物は非常に少なく，時期決定可能なものはないが，住居の切合い関係から鹿田・古・１期の範囲と考えられる。



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	13.8	－	－	外面ハケ，剝落で不鮮明	黄褐	微～細砂
2	壺形土器	－	6.2	－	内面磨滅で不明，底部外面ハケ	(内)淡黄褐(外)灰褐	微砂
3	直口壺形土器	10.0	－	－	口縁部横ナデ・下半浅い押圧，外面下半の篦ミガキ不鮮明	明赤褐	〃 ⑩，水漉粘土
4	高杯形土器	14.9	－	－	内外細密な篦ミガキ	〃	〃 〃，〃
5	〃	－	－	－	杯受部外面ハケ，脚柱部内面ナデ，他は篦ミガキ	〃	〃 ②，〃
6	〃	－	－	－	内面ナデ，外面篦ミガキ	淡赤灰	〃 〃

図132　竪穴住居－15　出土遺物　縮尺 1/4



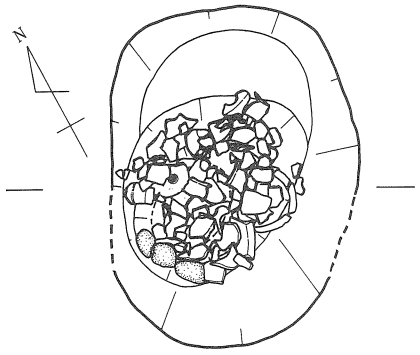
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	高杯形土器	21.1	－	－	内外面篦ミガキ，単位は不鮮明で強い横ナデに近い	暗褐	微砂②，精良
2	〃	－	－	－	内面ナデ，杯部外面縦位篦ケズリ後幅広い篦ミガキ	淡赤褐～黄褐	〃 〃
3	〃	－	12.1	－	外面ハケ後あるいは篦ミガキ	淡赤褐	〃 〃，水漉
4	鉢形土器	11.2	－	－	体部内面篦ケズリ後篦ミガキ，外面わずかにハケ残る，他は横ナデ	暗褐	微～細砂
5	甕形土器	－	－	－	口縁端面篦描沈線５条	茶褐	細砂④

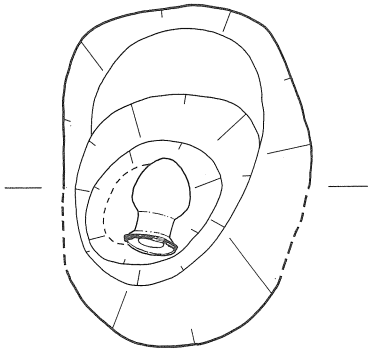
遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P５	土錘	6.1	3.7	3.4	70.0	全面押圧	黄褐	微砂，精良

図133　竪穴住居－16　出土遺物　縮尺 1/4

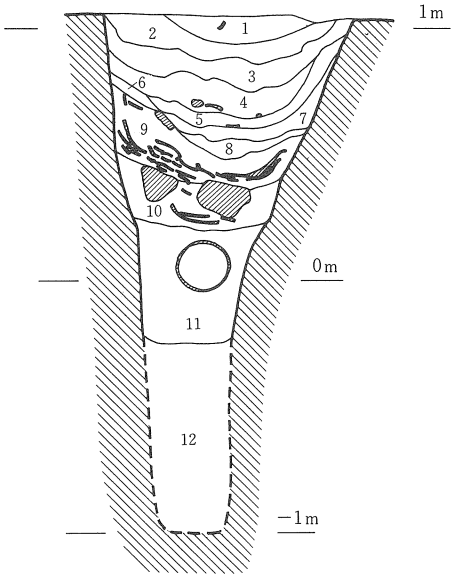
b．井　　戸

井戸－4（図134～137，図版17・18-1・59）





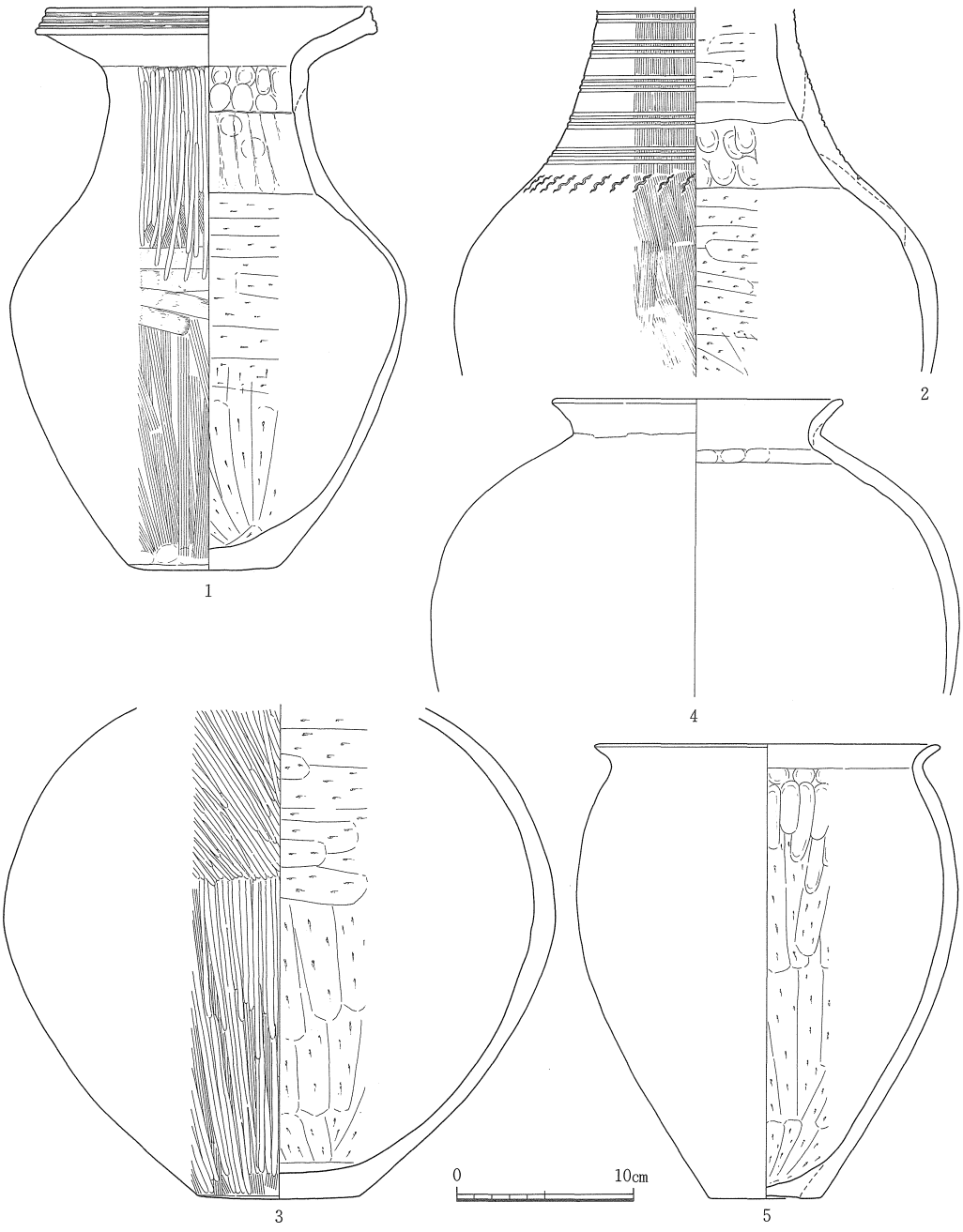
壺(1)出土状況



1　淡灰褐色砂質土
2　灰褐色　〃
3　暗黄灰褐色　〃
4　暗灰褐色土（土器・角礫含，粘土粒少含）
5　暗灰褐色粘質土（黄白色粘土粒・淡灰色砂多含）
6　暗灰褐色土
7　黒灰色粘(質)土（炭多含，土器・角礫含）〈炭　層〉
8　暗灰色粘質土
9　黒灰色粘(質)土（炭・焼土・土器多含）〈炭・土器層〉
10　暗黒灰色粘土（炭含，土器・角礫多含）
11　暗青灰色粘土（炭・土器・有機物含）
12　暗灰色粗砂粘土

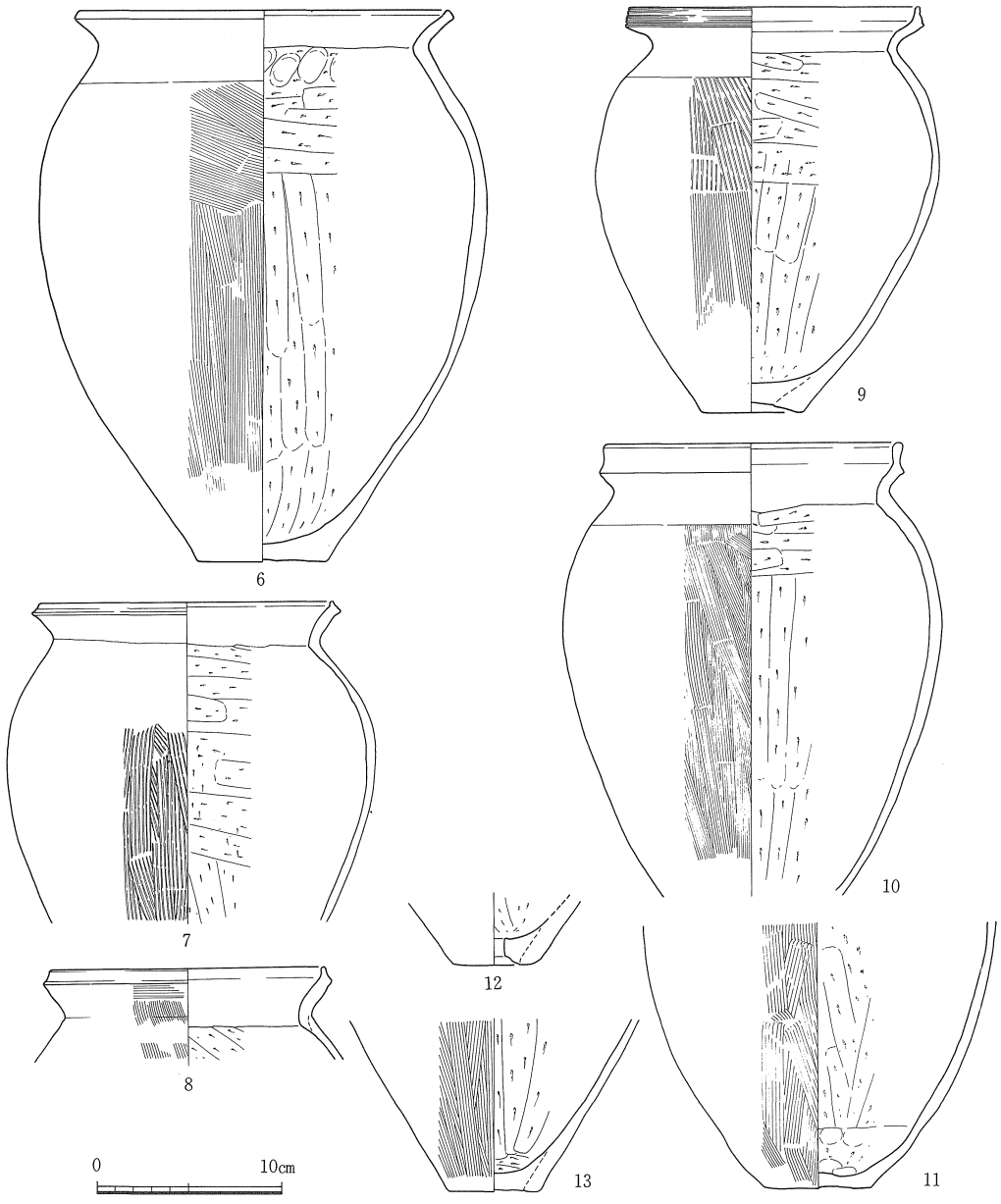
図134　井戸－4　縮尺 1/30

ＢＢ34区に位置する。調査区南端部にあたり，中央部分上層は側溝によって削平を受ける。平面形は南北135㎝・東西98㎝の楕円形を有す。底面高は検出面下205㎝・標高－100㎝前後を測る。井戸下半部の径は非常に細く調査不可能なため，ボーリング調査で底を確認した。掘り方は径30～40㎝の狭い底面から標高０㎝付近まで垂直に立ち上がり，そこからやや摺り鉢状に開き，上面に至る。北側部分では一部に緩やかなテラス状部を形成する。埋土は１～３層と４～11層と12層とに大きく三分され，遺物は人為的埋土とみなされる中層下半（９～11層）から一括廃棄された状態で出土した。多量の炭化物を伴い摺り鉢状に落ち込んだ状況を呈す。共伴する角礫は南半に集中する。遺物量は豊富で，大形破片が大半を占める。最下部には完形の壺（１）が横位に置かれる。下層（12層）では出土遺物は非常に少ない。時期は鹿田・後・３期に比定される。　　（山本）



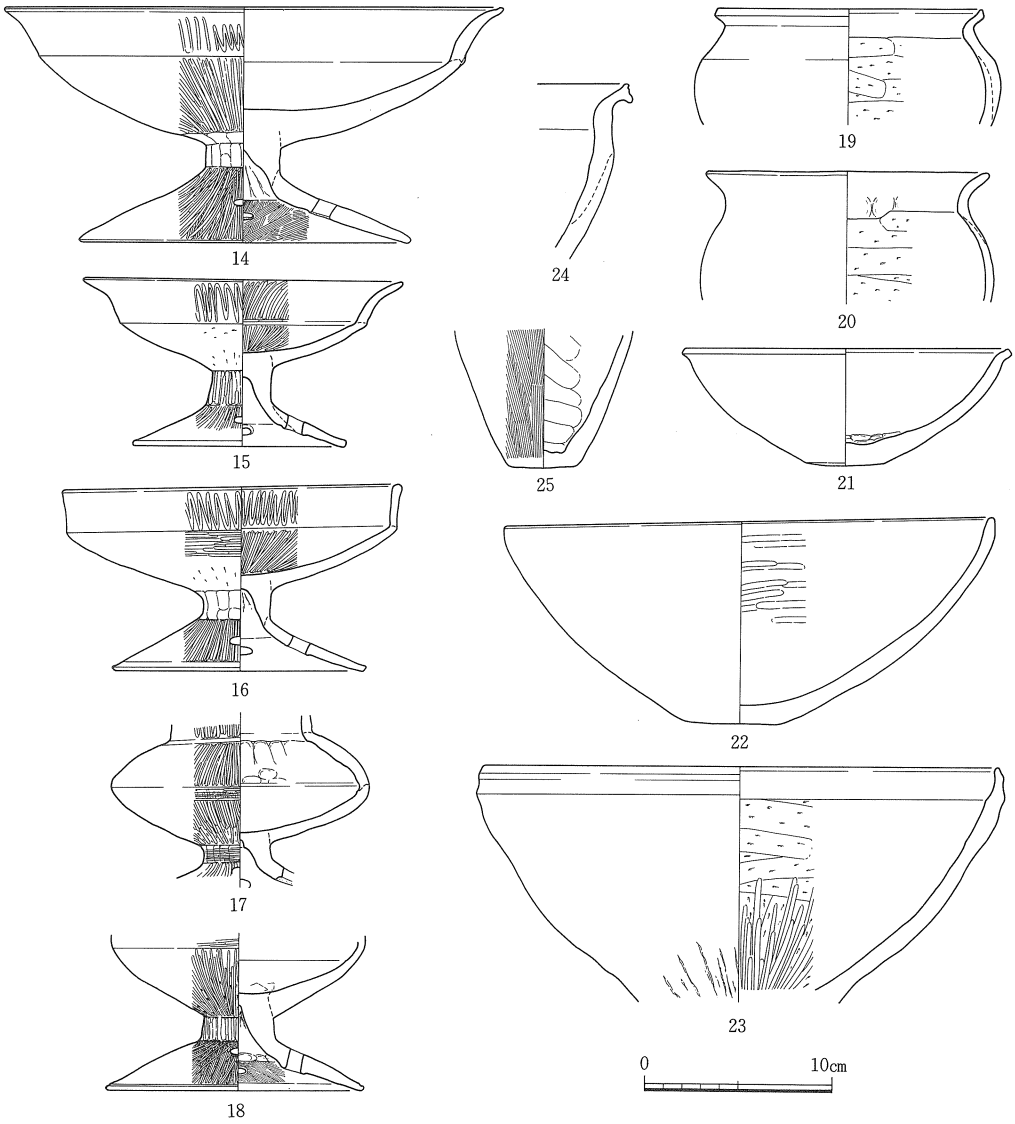
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	18.3	8.4	31.9	肩～胴部外面ハケ後工具使用ナデ，底部外面ナデ，黒斑3ケ所	内淡灰褐内灰黒	微砂◎
2	〃	—	—	—	頸部に3条1単位の沈線5段残存，頸部内面篦ケズリ後軽いナデ	淡褐	〃 〃
3	〃	—	9.2	—	底部外面ハケ後ナデ	淡灰褐	粗砂～細礫◎
4	〃	16.5	—	—	磨滅で不明	淡黄褐～淡黄灰	微砂◎，白色粒子
5	甕形土器	19.6	6.2	25.8	外面ナデ・煤，内面上半篦ケズリ後ナデ上げ	内淡灰褐内暗灰褐	〃

図135　井戸－4　出土遺物(1)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
6	甕形土器	20.0	6.9	29.8	底部外面ナデ，外面煤，体部外面下部ハケ後ナデ	淡赤褐～淡黄褐	微～細砂㊎
7	〃	15.8	—	—	底部外面磨滅で不明	(内)明黄褐(外)明黄灰	〃～〃〃
8	〃	14.9	—	—	外面ハケ後軽い横ナデ	淡茶褐	〃～〃〃
9	〃	15.7	5.5	21.9	外面下半ハケ後ナデ，底部内外面篦ケズリ後ナデ，細い条線5条，煤	黄褐	微～細砂
10	〃	16.1	—	—	〃，外面煤，黒斑	暗赤褐～黄褐	微砂，白色粒
11	〃	—	5.8	—	底部外面篦ケズリ後ナデ・外面煤付着	茶褐	微～細砂
12	〃	—	4.4	—	外面ナデ，底部焼成前穿孔有り	暗灰褐	〃～〃㊎
13	〃	—	4.8	—	底部外面押圧，外面2次焼成痕，内面下半炭化物付着	(内)明褐(外)黒赤褐	微砂

図136　井戸－4　出土遺物(2)　縮尺 1/4

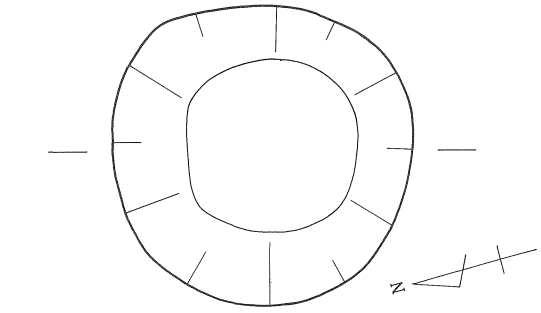


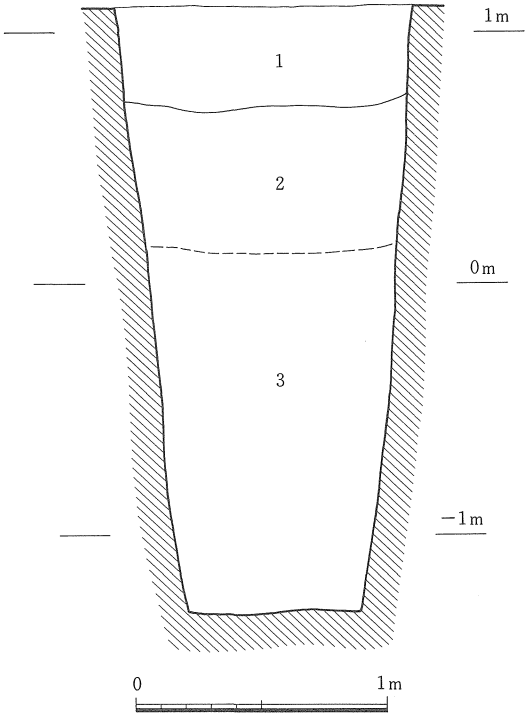
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
14	高杯形土器	26.5	17.6	12.5	杯部内面磨滅，沈線1条，黒斑2ケ所，杯外面に補修用粘土帯が巡る	明赤褐	細砂㊱，精良
15	〃	17.0	11.2	8.9	杯部外面篦ケズリケズリ後篦ミガキ（磨滅で方向不明），脚裾部内面磨滅	内)淡黄灰外)赤褐	微砂㊱，〃
16	〃	18.1	13.3	9.9	〃（〃），脚裾部内面ナデ	淡赤褐	〃 〃，〃
17	台付直口壺形土器	−	−	−	内面ナデ	内)暗茶褐外)黄褐	〃 ㉒，〃
18	〃	−	13.7	−	脚裾端部沈線1条，壺部内面丁寧な工具使用ナデ	明赤褐～淡黄褐	〃 〃
19	鉢形土器	14.0	−	−	体部外面磨滅で不明，黒斑	黄褐～淡黄灰	微～細砂
20	〃	15.0	−	−	体部外面ナデ押圧	暗灰褐	〃～〃 ㉒
21	〃	17.1	4.1	6.2	全体磨滅で不鮮明ナデの可能性高い，黒斑	明赤褐～黄褐	微砂㊱，精良
22	〃	26.0	4.5	11.0	外面ナデ，内面篦ミガキ，全体磨滅で不鮮明	灰褐～褐	微～細砂，白色粒
23	台付鉢形土器	27.4	−	−	外面剝離・下半しぼり目残る	内)灰褐外)淡黄灰褐	〃～〃，〃
24	鉢形土器	−	−	−	体部内面横位工具使用ナデ，外面横～斜位ハケメ	内)暗灰外)黄灰褐	〃～〃，〃
25	〃	−	3.6	−	内面ナデ，2次焼成痕，黒斑	褐～茶褐	粗砂㊲

図137　井戸ー4　出土遺物(3)　縮尺 1/4

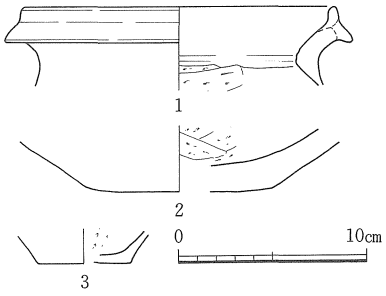
井戸－5 （図138）

本遺構はＡＷ36区東側中央に位置する素掘り井戸である。最上位部分は古代の土壙によって削平され，現状で平面形は径120cm前後の円形をなしている。底の標高は－140cm前後で，平面形は径70cm前後の円形である。壁は垂直に近い角度で立ち上がり，現状では段掘りの痕跡は認められない。井戸内の埋土は３層に分かれる。１層は茶灰色土であり，淡黄褐色粘質土ブロックを混入するが，炭・焼土などは含まず，土器も少量しか出土していない。２層は灰褐色粘質土で淡灰黄色粘質土ブロックを含むが，他の混入物は乏しい。３層は２層とは漸移的に変化する暗灰褐色粘土であり，遺物は出土していない。最上部が削平されていたためか，本井戸からは１層より少量の土器片が出土しているにすぎない。本井戸は出土土器が乏しく明確ではないが，鹿田・後・３～４ａ期に属するとみられる。





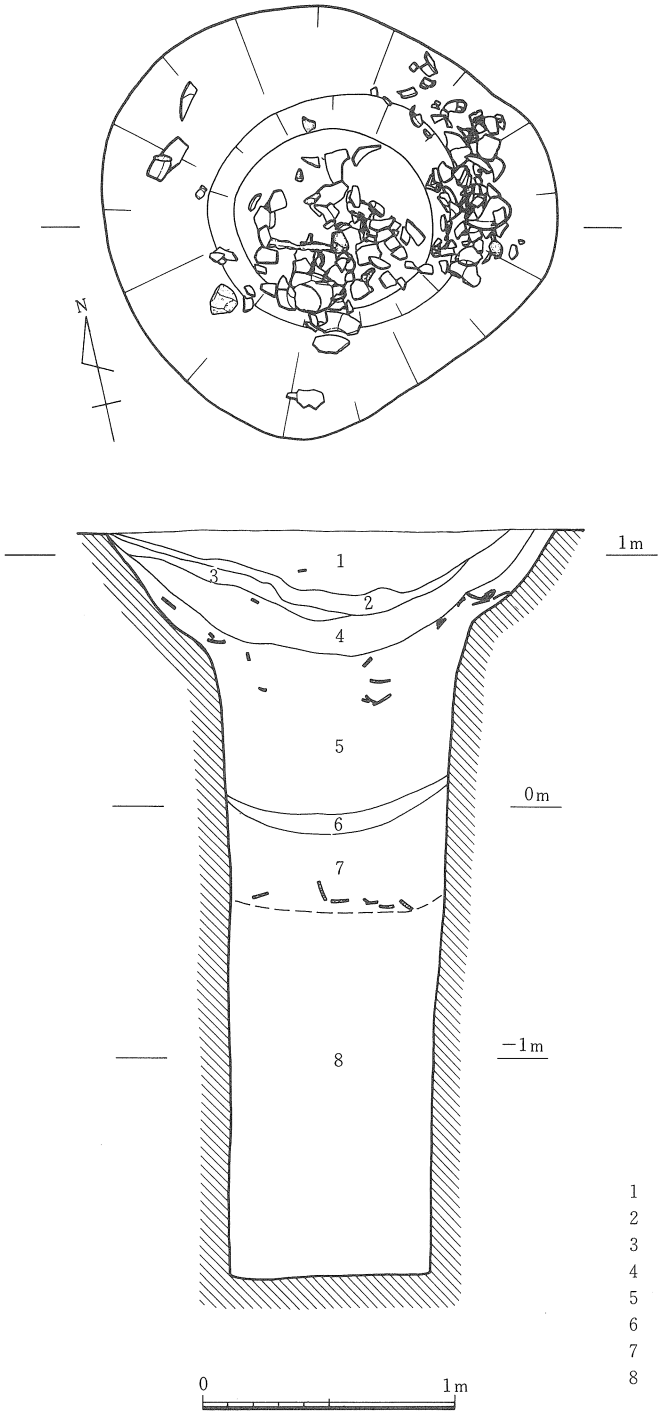
1　茶灰色土
2　灰褐色粘質土
3　暗灰褐色粘土



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	16.4	－	－	体部内面篦ケズリ	黄褐	微～細砂㊎
2	壺形土器	－	9.8	－	外面ナデ，底部外面篦ケズリ，黒斑	内黒外淡灰褐	微砂
3	甕形土器	－	5.0	－	〃　・煤付着，底部外面篦ミガキ	内明褐外黒褐	細砂

図138　井戸－5　出土遺物　縮尺 1/30，1/4

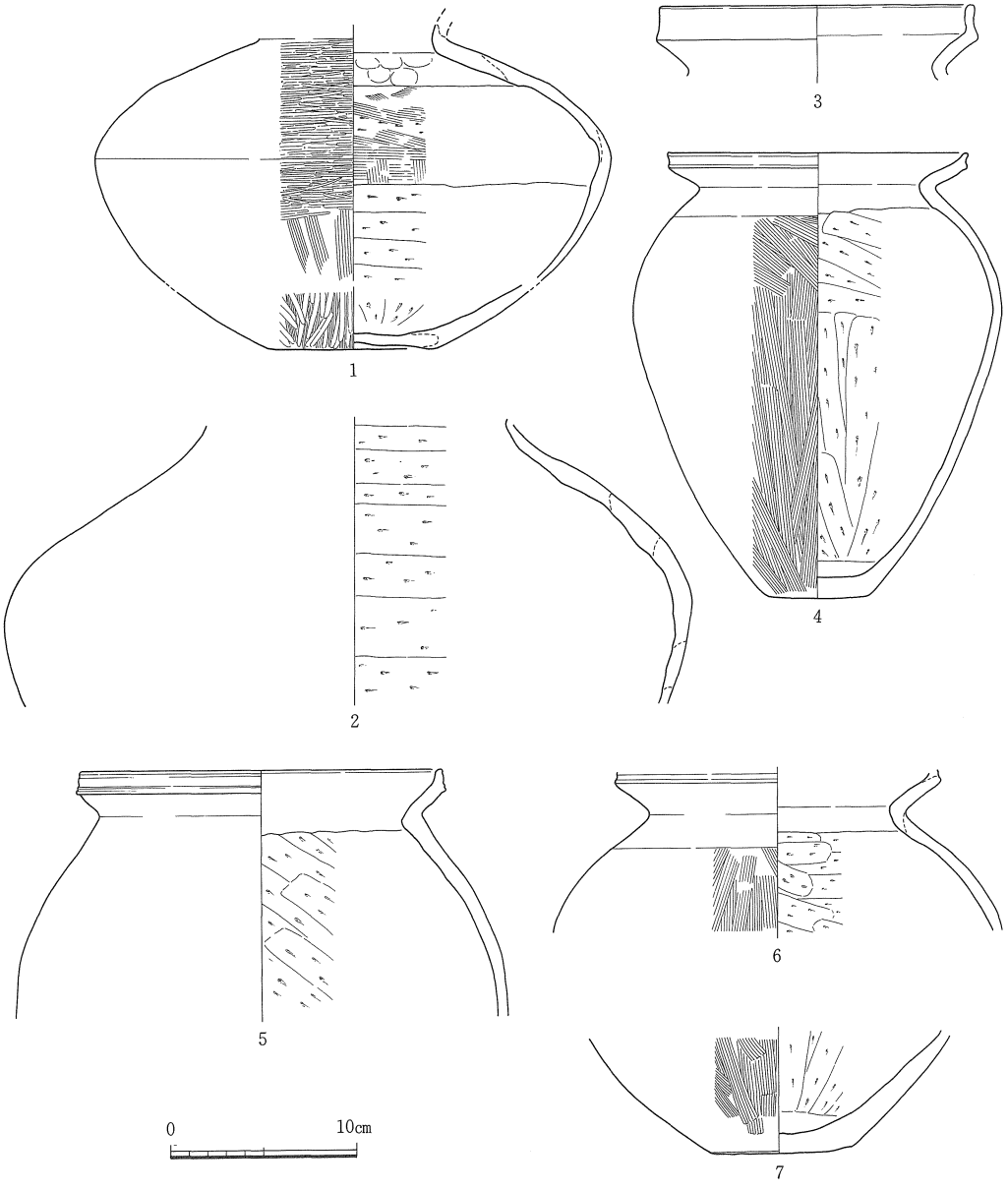
井戸－6（図139～142，図版78－1）



本遺構はＡＺ35区東側中央から一部ＡＺ34区にまたがって検出した素掘り井戸である。井戸の平面形は東西径181㎝，南北径173㎝の不整円形である。掘り方上部は摺鉢状に大きく開いており，検出面から35～50㎝の深さで大きく屈曲し，以下はほぼ垂直に湧水層まで掘り込まれている。屈曲部の径は95～100㎝，底径は75～80㎝を測り，検出面から底までの深さは約300㎝，底の標高は約－190㎝である。井戸内の埋土は８層に分かれる。１～４層は明灰褐色～暗灰褐色の微砂土であり，井戸中央部に向かって傾斜して堆積している。いずれも炭・焼土を若干混入しており，特に２層（暗灰褐色微砂土）はブロック状で比較的多量に含ん

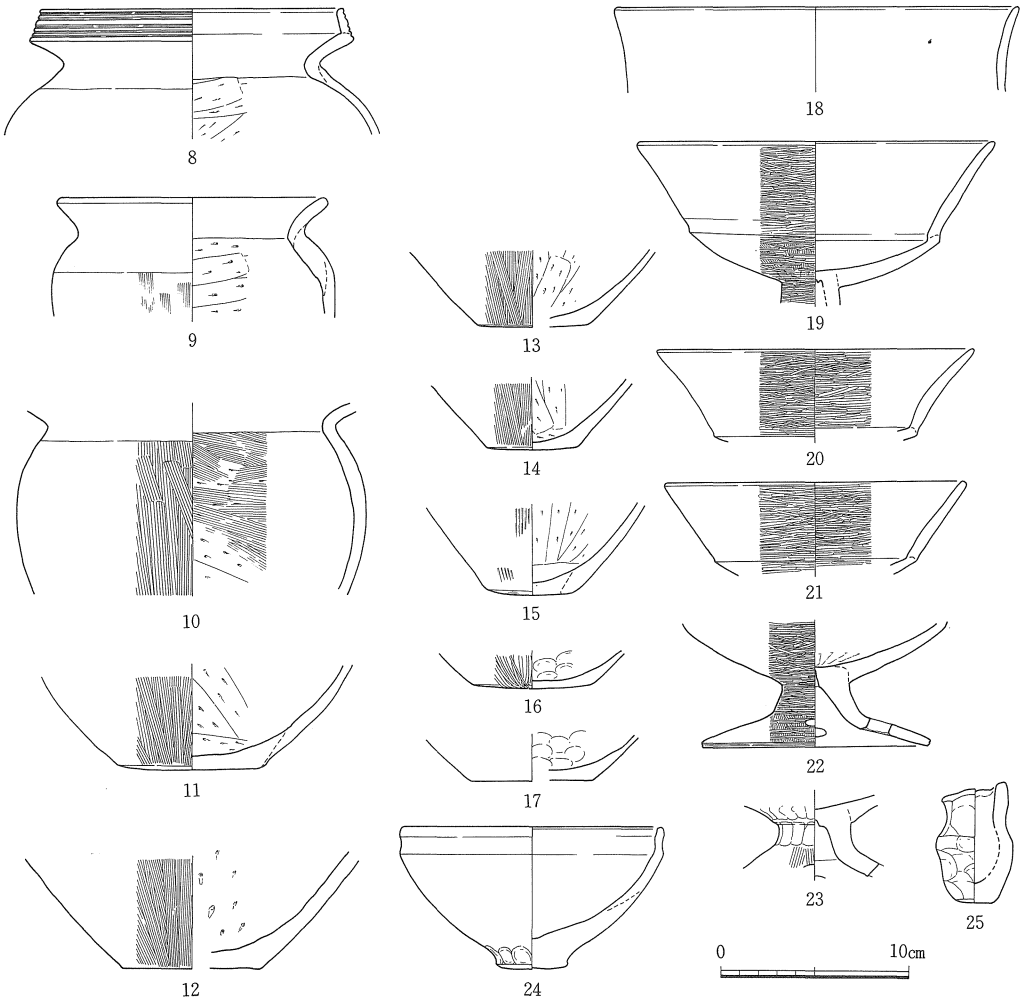
1　明灰褐色微砂土　（炭・焼土含）
2　暗灰褐色微砂土　（炭・焼土多含）
3　灰褐色微砂土
4　暗灰褐色微砂土　（炭・焼土含）
5　暗灰褐色～灰色粘質土（土器多含）
6　暗茶褐色～黒褐色未分解有機物
7　暗灰色～灰色粘質土　（土器含）
8　暗灰色～灰色微砂質土

図139　井戸－6　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	—	8.2	—	底部外面不定方向篦ミガキ，黒斑	(内)灰黒(外)淡黄白	粗砂◎
2	〃	—	—	—	外面磨滅で不明，黒斑，2次焼成痕	暗灰～淡灰褐	微～細砂◎
3	〃	17.0	—	—	横ナデ	(内)灰白(外)明赤褐	微砂◎
4	甕形土器	16.2	5.4	24.1	底部外面ハケ，外面煤付着，2次焼成痕	(内)暗褐(外)黒	粗砂
5	〃	19.5	—	—	体部外面ナデ	淡褐	〃 ◎
6	〃	—	—	—	黒斑，No 7と同一個体	淡灰褐	〃 〃
7	〃	—	7.5	—	〃，底部外面平行篦ケズリ後ナデ，No 6と同一個体	(内)淡灰白(外)淡灰褐	細～粗砂

図140　井戸－6　出土遺物(1)　縮尺 1/4

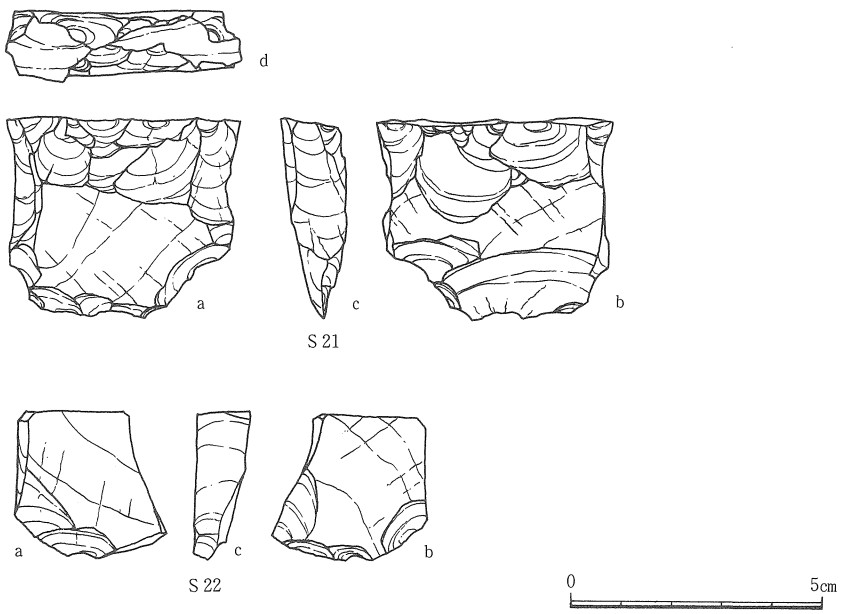


遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
8	甕形土器	16.0	—	—	口縁端面凹線5条，外面磨滅で不明	明赤褐	粗砂㉕
9	〃	14.0	—	—	外面ハケ残存⑯，外面煤付着	淡赤褐～淡黄白	〃 〃
10	〃	—	—	—	内面篦ケズリ後ハケ，外面煤付着	内灰白外淡赤褐	〃 〃
11	〃	—	7.6	—	底部外面篦ケズリ後ナデ	内暗灰白外暗褐	〃 〃
12	〃	—	7.2	—	底部外面篦ケズリ，2次焼成痕	内暗褐外暗灰	〃 〃，細礫㉔
13	〃	—	5.8	—	底部外面ハケ，外面煤付着	暗褐	細～粗砂
14	〃	—	4.8	—	〃 ，〃	内淡褐外褐	粗砂
15	〃	—	4.8	—	底部外面ハケ後ナデ・内面篦ケズリ後ナデ，外面ハケ後ナデ・2次焼成痕	灰黒～暗褐	細砂
16	〃	—	6.2	—	底部外面平行篦ミガキ	内暗褐外明褐	〃 ㉓
17	〃	—	6.4	—	外面ナデ，内部押圧，煤付着	明褐	〃
18	高杯形土器	21.3	—	—	内外面強い横ナデ，黒斑	明赤褐～明黄褐	微砂⑱，水漉粘土
19	〃	18.8	—	—	杯部内面磨滅で不明，杯受部外面放射状篦ケズリ後ハケ後篦ミガキ	赤褐	〃 〃，〃
20	〃	16.7	—	—	内外面篦ミガキ	明赤褐	〃 〃，〃
21	〃	15.8	—	—	〃 ，黒斑	褐～赤褐	〃 ㉑，精良
22	〃	—	12.0	—	杯・脚部内面ナデ，杯部内面中央に放射状工具痕残存，脚端面沈線1条	淡赤褐	〃 ⑱，水漉粘土
23	〃	—	—	—	杯部内面篦ミガキ（不鮮明），杯～脚柱部外面面取り的篦ミガキ	〃	〃 〃，〃
24	鉢形土器	13.7	3.8	7.5	内外面磨滅で不鮮明だがナデの可能性あり，黒斑	明赤褐	〃 〃，〃
25	〃	3.6	2.1	6.4	手捏ね土器，全体の½に黒斑	灰白～淡黄白	細～粗砂㉕

図141　井戸－6　出土遺物(2)　縮尺 1/4

でいる。１・２層には若干の土器片を含むが，３・４層はほとんど含まない。ただし，３・４層中から石器が１点出土している。５層は暗灰褐色～灰色粘質土で，中央部の厚い部分では層厚60㎝以上を測る。５層上位には中央部に向って傾斜した状態で大形の土器片が大量に出土しており，井戸の周囲から流入したものと考えられる。５層は下部になる程土器の破片は小さく，出土量も少なくなっている。この５層中には土器以外に，礫，焼土，炭などが少量含まれるほかに，材やモモの種子も出土している。６層は暗茶褐色～黒褐色の未分解有機物層で，上層と同様に中央部に向かって傾斜して堆積している。本層は厚さが中央部で約８㎝の薄い層で，植物繊維状の有機物が密集し，遺物等は含まない。７層は層厚が中央部約30㎝，周辺部で40～45㎝を測る微砂を含む暗灰色～灰色粘質土である。本層の下部では比較的大量の大形の土器片が面的に堆積しており，石器も１点出土している。８層の暗灰色～灰色微砂質土は７層とは漸移的に変化しており，両層の境界はやや不明瞭である。本層は少量の木葉片を含んではいるが，他の遺物はまったく出土していない。

遺物は既述のように５層上部および７層下位から大量の土器が出土している。図示した土器のうち（１，３～11，13～17，19～25）が５層から，（２，18）が７層から（12）が３層または４層からの出土である。また石器はＳ21が７層からＳ22が３層または４層からの出土である。本井戸は出土土器から鹿田・後・４ａ期に属する。（栄）



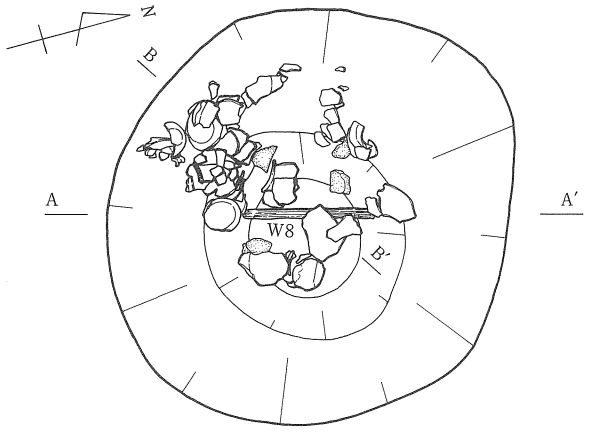
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S 21	楔形石器	4.0	4.7	1.2	32.0	サヌカイト	c面載断面，b面折れ面敲打痕残す，a面下端微小剝離痕
S 22	〃	3.0	3.7	1.1	13.0	〃	c面載断面，a面上・左縁折れ面，下縁つぶれ

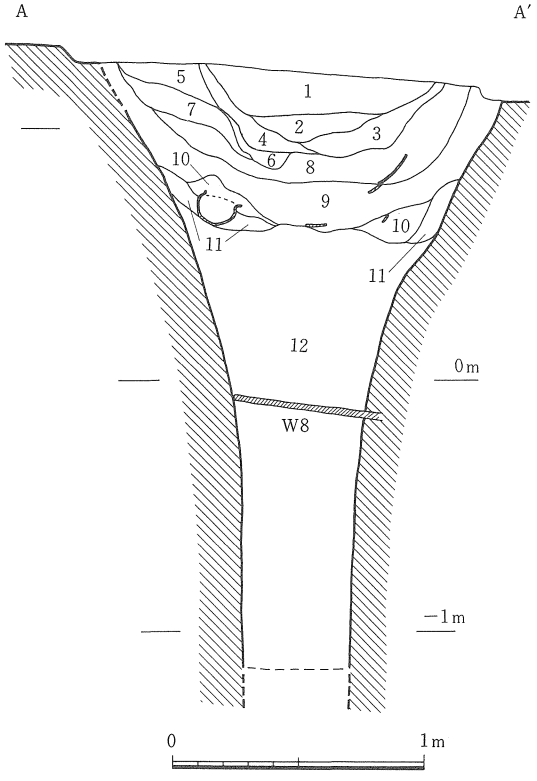
図142　井戸－６　出土遺物(3)　縮尺 2/3

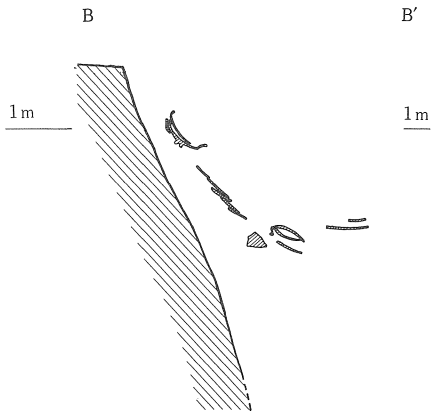
井戸－7（図143～147，図版18-2・19・60・80－1・82）

ＡＸ・ＡＹ31区に位置し，竪穴住居2を一部削平する。平面形は長軸166㎝，短軸160㎝の不整円形を呈す。掘り方は底面から径45㎝前後の幅でほぼ垂直に立上がり，標高0ｍ付近で上面に向ってラッパ状に開く。深さは検出面下240㎝までは確認したが，それ以外は不可能のため未確認である。

井戸内には底面～下半に軟質の粘土（12層）が，また，その上部には炭化物・焼土・土器等を多量に伴う3～11層が各々厚く堆積する。3～11層は包含物の多少によって九分されているが，基本的には一連の堆積層である。ごく短期間での埋没が予測される。主要遺物は8・9層を中心に出土しており，その出土状況は図143のB





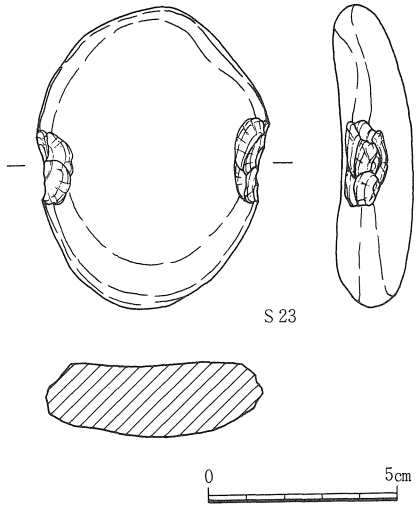


遺物出土状況（B断面）

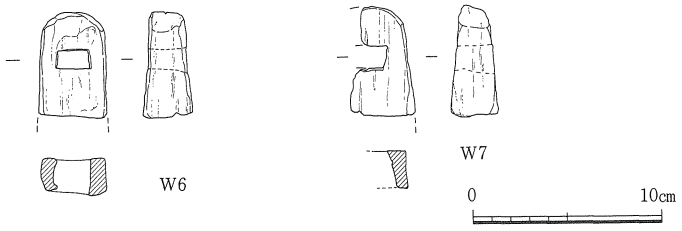
1　暗茶褐色砂質土
2　暗茶褐色土
3　炭　層　（土器多含）
4　暗茶褐色粘質土（炭・焼土・土器多含）
5　黒褐色土　（〃・〃・〃・〃）
6　暗灰褐色粘質土（土器・地山粒含）
7　〃　〃（〃・〃・〃）
8　暗茶褐色土　（炭・焼土・土器多含）
9　黒灰褐色粘質土（〃・〃・〃・〃）
10　暗灰褐色　〃（土器含）
11　〃　〃（炭・焼土多含・土器含）
12　暗灰色粘土　（有機物多含，土器含）

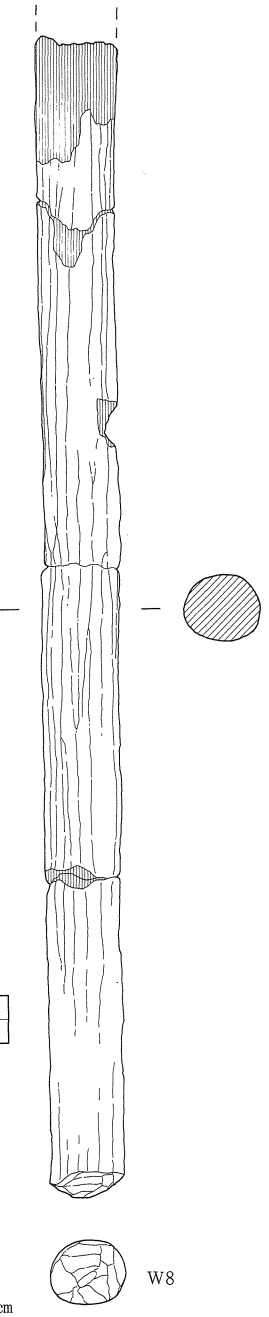
図143　井戸－7　縮尺 1/30

断面にみられるように，南西側から掘り方の壁に沿って急激に落ちこんでいる。また，12層中からも標高－10cm付近で木器（W８）が井戸中央部に横たわり壁にくいこんだ状況で，標高－44cmの高さで小形壺（４）が，標高－115cmで石錘（S23）・木器（W６・７）が出土する。遺物は各器種とも量は豊富であるが，特に高杯・鉢の類の占める割合が高い。また甕（５）のような搬入品も含まれる。土器以外ではモモの種子が下層から出土している。時期は鹿田・後・４ａ期に比定される。　　（山本）



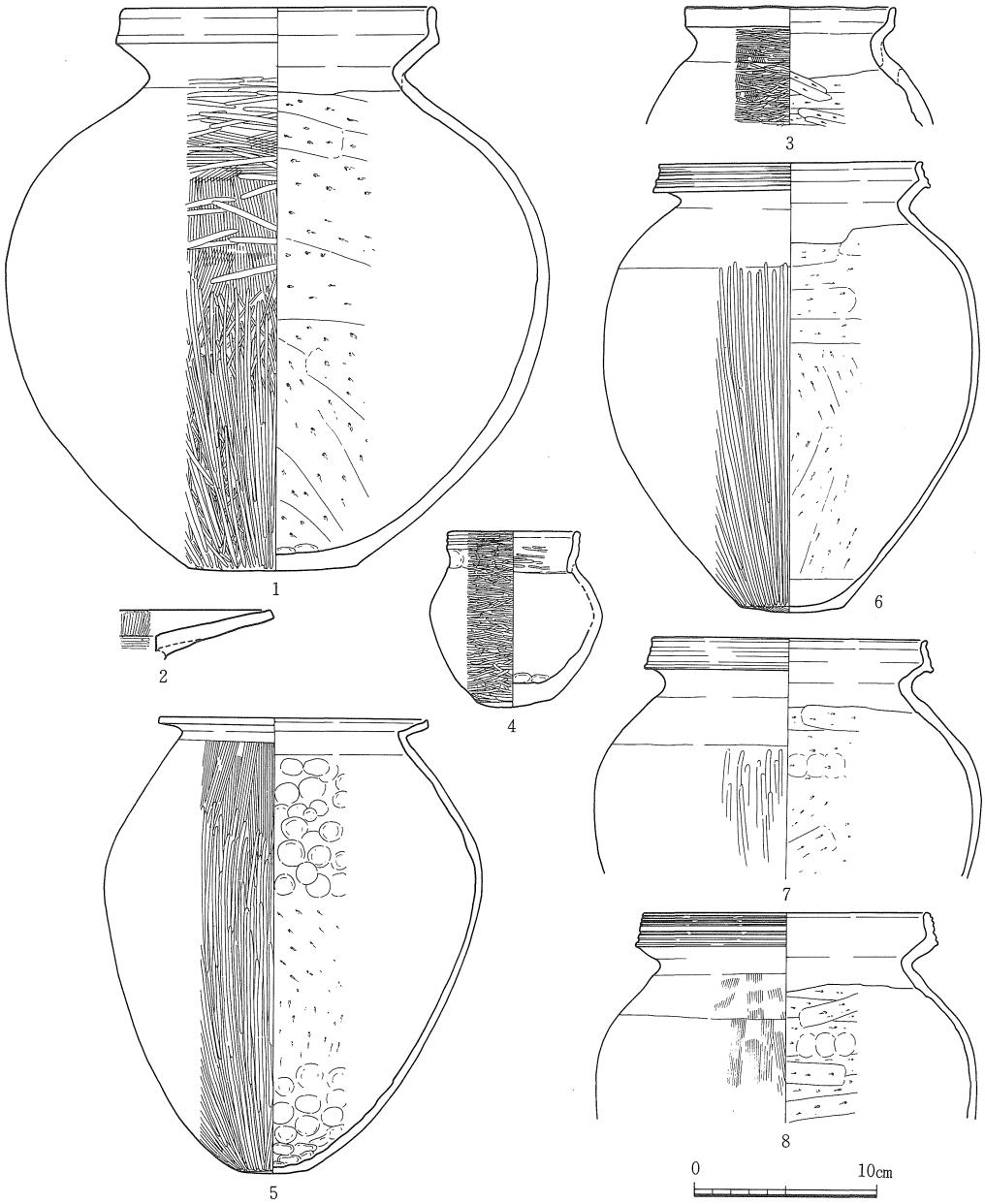
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S23	石錘	8.1	6.1	2.0	130.0	流紋岩	短軸両端に敲打による抉り





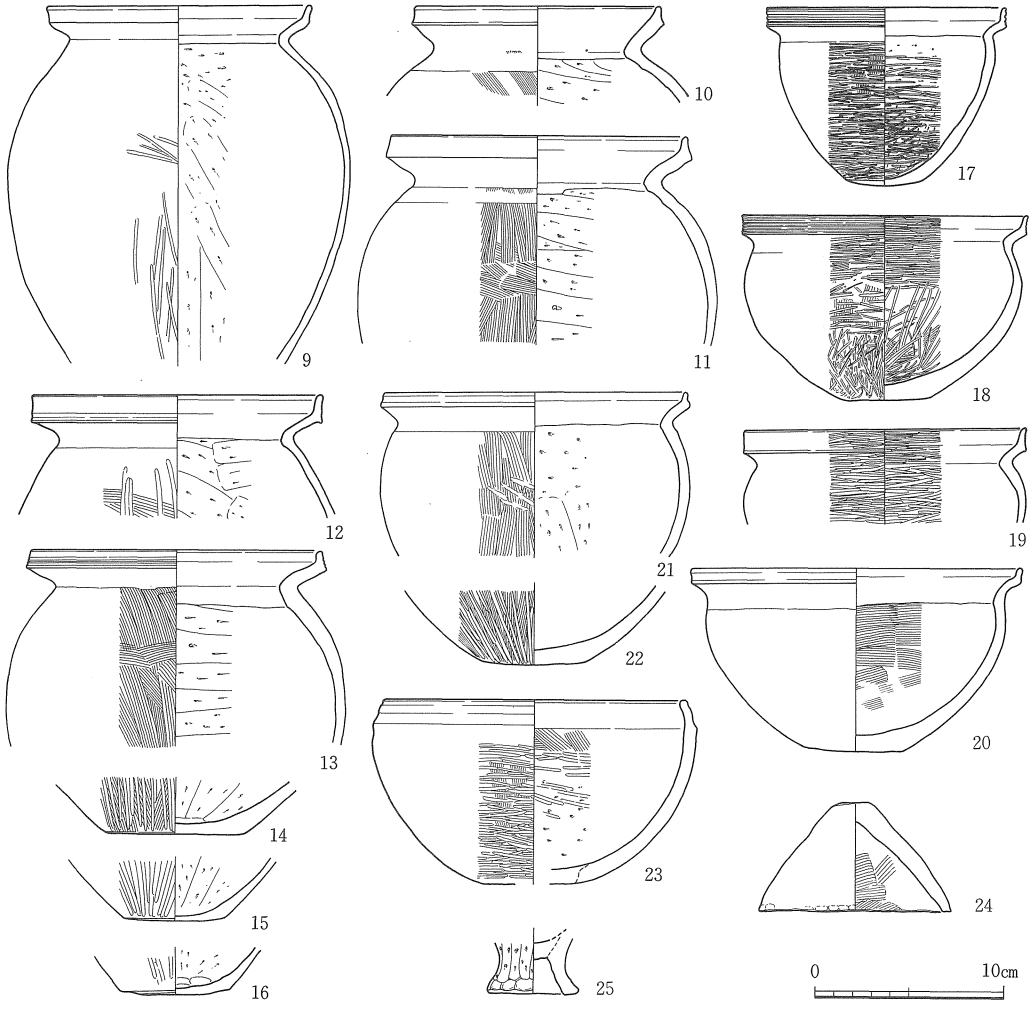
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W６	組合部材	5.6	3.6	2.6	－	組合部材の頭部枘穴の部分，柾目材
W７	〃	5.8	－	2.6	－	組合部材の頭部枘穴の部分，柾目材のW６と同一個体か
W８	棒状木製品	61.7	4.1	3.6	－	細かく入念な面取りにより断面は円形となる，基端は丸く削る心持ち材

図144　井戸－７　出土遺物(1)　縮尺 1/2（S23），1/4



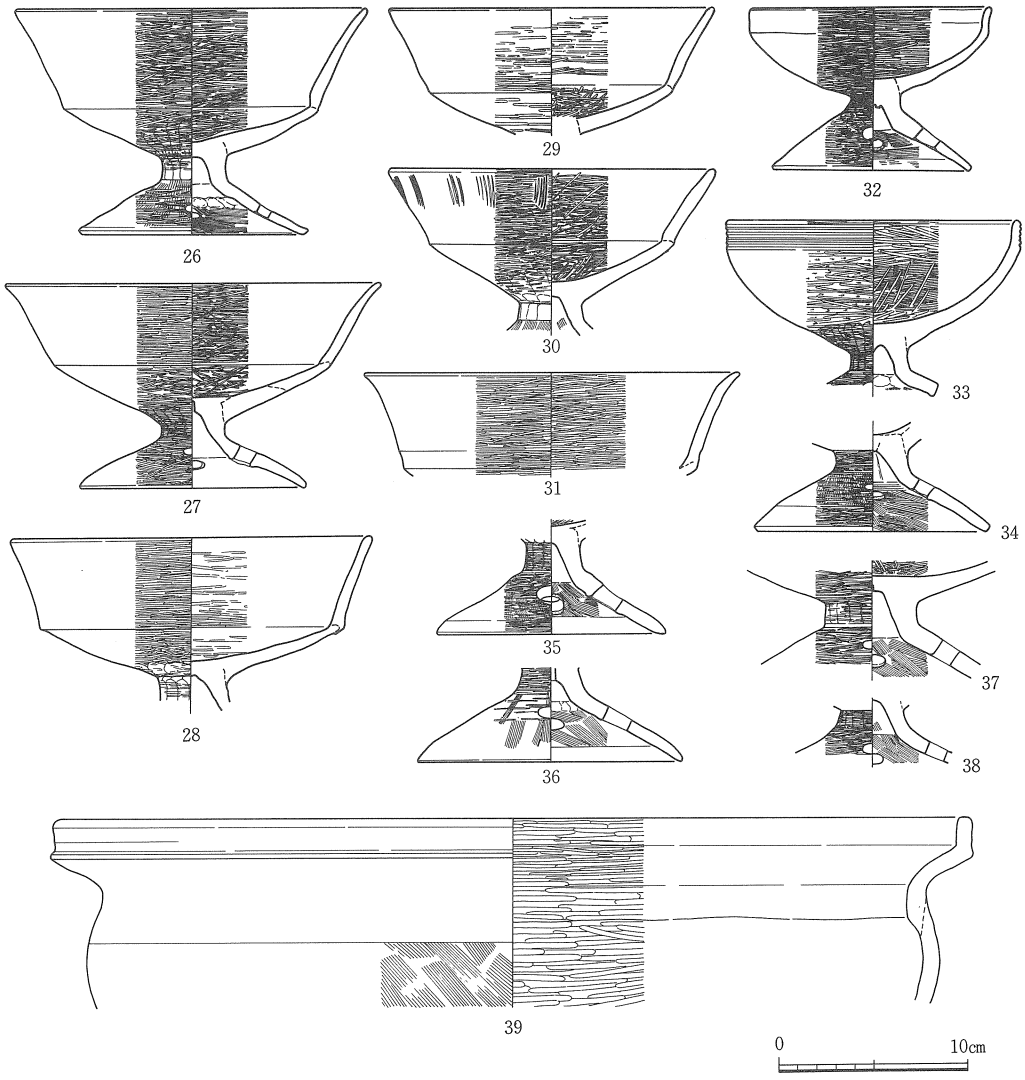
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	17.2	9.5	30.9	底部外面篦ケズリ後篦ミガキ，黒斑，外面煤	明茶～黄褐	粗砂～細礫
2	〃	—	—	—	内面放射状篦ミガキ，外面横位篦ミガキ	内黒褐外茶褐	微～細砂
3	〃	11.6	—	—	外面ハケ後細密な篦ミガキ	淡乳灰褐	微砂㊟・水漉粘土
4	小形壺形土器	7.2	4.0	9.6	底部外面ナデ，口縁部２条の凹線，体部内面ナデ・押圧	〃	〃 〃・ 〃
5	甕形土器	14.7	3.7	25.0	底部外面は破片小さく調整不明，外面煤付着，外面ハケ後篦ミガキ	暗茶褐	〃 ，金雲母㊂
6	〃	14.4	5.6	24.7	口縁端面凹線３条，底部外面平行篦ミガキ，外面煤付着	明～暗茶褐	〃 ㉗
7	〃	15.0	—	—	〃 5条，内外面煤付着，No16と同一個体	暗黄褐	細砂㊂，白色粒子
8	〃	15.7	—	—	〃 5条，外面煤付着㊂	灰褐～暗褐	微～細砂㊂

図145　井戸－７　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
9	甕形土器	14.1	—	—	外面刻離で不鮮明，一部篦ミガキ残る，外面煤・変色あり	明～暗茶褐	細～粗砂㊎
10	〃	13.0	—	—	外面ハケ，内面篦ケズリ	明黄褐	粗砂～細礫㊐
11	〃	15.6	—	—	外面横位ハケ後縦位ハケ，外面煤付着	(内)黄灰(外)赤褐	〃 ～ 〃 〃
12	〃	15.5	—	—	外面ハケ後一部篦ミガキ，No15と同一個体	(内) 〃 (外) 〃	細砂
13	〃	15.4	—	—	口縁端面櫛描沈線は横ナデで上半消失，外面煤付着	(内)黄褐(外)赤褐	粗砂～細礫㊐
14	〃	—	7.4	—	底部外面ハケ後篦ミガキ，外面煤付着，No12と同一個体	(内)黄灰(外)赤褐	細砂
15	〃	—	5.4	—	底部外面平行篦ミガキ，外面煤付着少量	淡灰褐	微～細砂
16	〃	—	5.8	—	〃 ，内外面煤付着，No 6 と同一個体	暗黄褐	細砂㊎，白色粒子
17	鉢形土器	12.7	4.0	9.4	内面篦ケズリ後篦ミガキ，底部外面篦ケズリ後ナデ，外面煤付着少量	明赤褐	微砂㊍，水漉粘土
18	〃	15.1	4.4	9.8	底部外面ナデ，口縁部の櫛描沈線6本は篦ミガキでつぶれ気味	明茶褐～黒褐	〃 〃，〃
19	〃	15.0	—	—	内外面細密な篦ミガキ	(内)赤褐(外)暗灰褐	〃 ，〃
20	〃	17.6	5.2	9.7	外面刻離で不明，２次焼成痕	赤褐～明褐	粗砂～細礫㊎
21	〃	16.0	—	—	口縁部凹線１条，黒斑，No22と同一個体の可能性あり	淡灰褐	粗砂
22	〃	—	5.5	—	内面篦ケズリ後ナデ，No21と同一個体の可能性あり	暗～淡灰褐	〃
23	〃	16.1	5.8	9.8	口縁部強い横ナデ，２次焼成痕	淡黄白～明赤褐	〃 ㊏
24	蓋形土器	10.2	—	5.8	外面ナデ，口縁部小さな押圧，黒斑	淡乳黄褐	微砂㊍，水漉粘土
25	製塩土器	—	4.8	—	内面ナデ，２次焼成による変色著しい	淡赤白～黒紫灰	細礫㊎

図146　井戸－７　出土遺物(3)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
26	高杯形土器	18.6	11.8	12.0	黒斑，杯部底部内面放射状の工具痕あり	淡乳褐	微砂㊇，水漉粘土
27	〃	20.0	12.1	10.9	脚裾部内面磨滅のため不明	淡黄灰	〃 〃，〃
28	〃	19.2	—	—	内外面篦ミガキ，黒斑	明赤褐～乳褐	〃 ㉒，精良
29	〃	17.2	—	—	〃	淡乳褐	〃 ㊇，水漉粘土
30	〃	17.3	—	—	口縁部外面に焼成後ハケ状施文が17～19ケ所巡る，外面煤付着少量	赤褐	〃 〃，〃
31	〃	20.0	—	—	内外面篦ミガキ	淡黄褐	〃 ㉒，精良
32	〃	12.8	10.4	8.7	脚柱部～裾部上半篦ミガキの下に面取り的成形あり，黒斑	(暗)赤褐	〃 〃，〃
33	〃	15.4	—	—	内面ハケ後篦ミガキ，外面篦ケズリ後篦ミガキ，柳描沈線５条，煤付着	赤褐	〃 〃，〃
34	〃	—	12.1	—	杯部内面不明，杯部外面篦ミガキ（方向等不明），脚裾部煤付着	〃	〃 〃，水漉粘土
35	〃	—	12.1	—	脚裾端部内外面横ナデが及ぶ	(内)灰白(外)赤褐	〃 ，〃
36	〃	—	14.0	—	全体に磨滅で不鮮明，２次焼成痕	赤褐	〃 ，精良
37	〃	—	—	—	杯内面ハケ後篦ミガキ	淡黄褐	〃 ㉒，精良
38	〃	—	—	—	外面篦ミガキ	明赤褐	〃 ㊇，水漉粘土
39	鉢形土器	48.8	—	—	内面篦ミガキ，体部外面ハケ	黄灰	細砂，細礫㉒

図147　井戸－７　出土遺物(4)　縮尺 1/4

井戸－8（図148～150，図版20-1・80－1・82）

本井戸はＡＷ37区の中央からやや西南寄りに位置する。北側を攪乱によって破壊されている。現状からは本井戸の平面形は円形もしくは長軸をほぼ南北方向にとる楕円形と推定され，東西径は約170㎝を測る。本井戸は素掘りで，掘り方上半部が大きく開き，中位で屈曲し，下位は底に近づくほど狭まっており，全体として深めの摺り鉢状を呈している。底は長径約40㎝，短径約30㎝の小楕円形をなしている。底面の標高は約－20㎝で，検出面からの深さは約130㎝と本遺跡の中ではかなり浅い井戸である。埋土は15層に分かれ，いずれも中央部に向かって緩やかに傾斜した堆積を示している。１・２層は土器・炭・焼土等を若干含む粘質土であり，本井戸の埋没後掘り込まれた土壙の埋土である可能性が認められる。３層は炭・焼土を僅かに含む

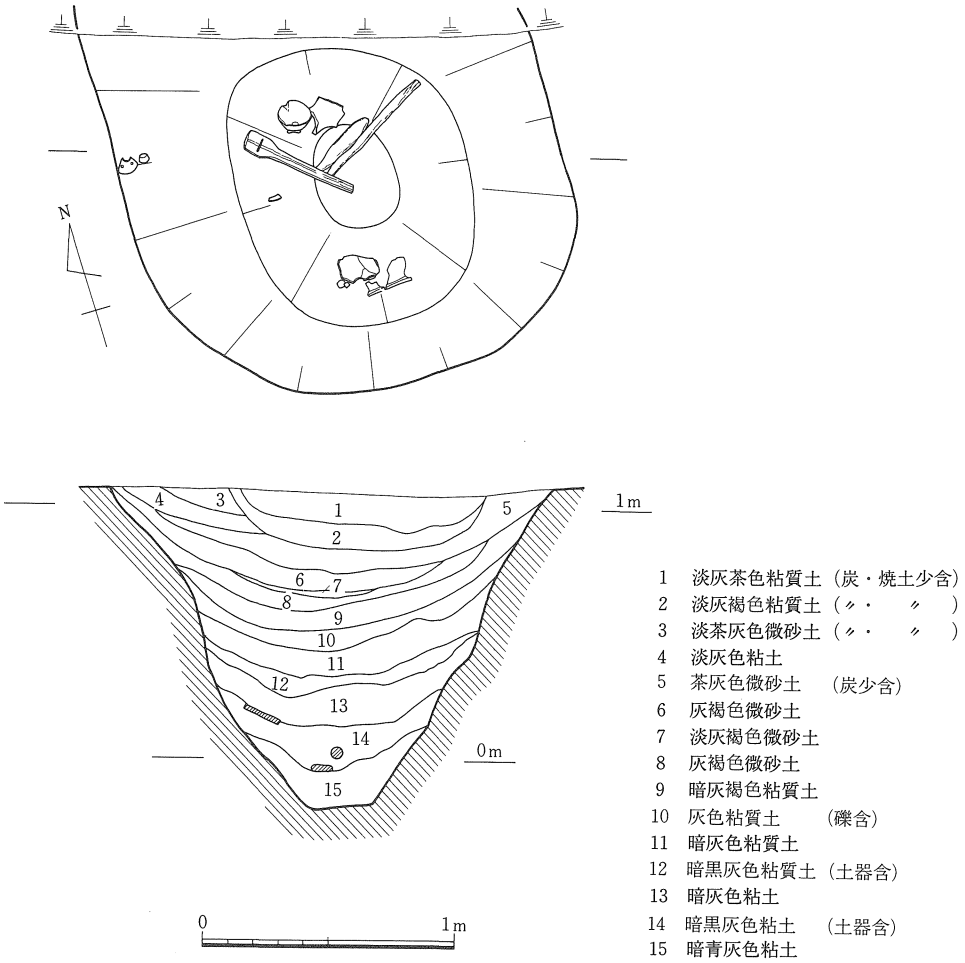
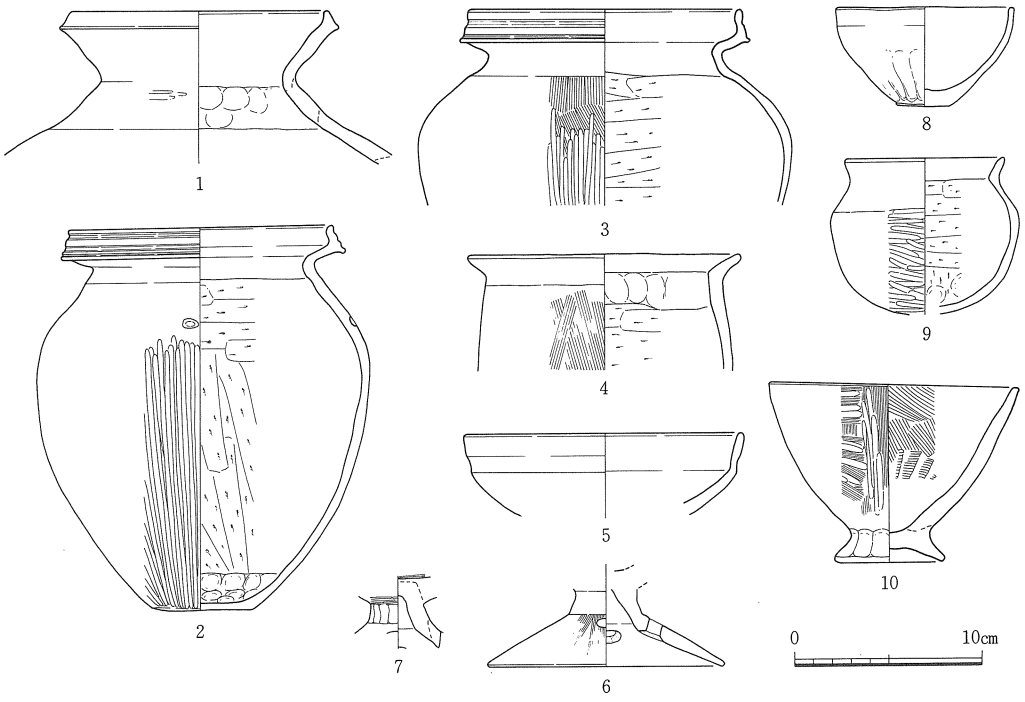


図148　井戸－8 縮尺 1/30

淡茶灰色微砂土であるが，４層はこれらの混入物の認められない淡灰色粘土である。５～８層は比較的類似した特徴を示す微砂土であり，遺物の出土は僅かである。９～12層は粘性の強い粘質土で主に12層からは比較的大形の土器片が出土している。13～15層は粘土層である。14層は上下の層に比べシルト質であり，木器および木片を含んでいる。また13～15層中からは若干の土器片や石器も出土している。

本井戸の埋土は以上みてきたように，粘質土や粘土などが連続的に堆積した上層（１～４層），比較的均質な微砂土が堆積した中層（５～８層），粘質土が連続的に堆積した下層（９～12層），そして粘土が堆積した最下層（13～15層）に大別することが可能である。

出土土器には壺（１），甕（２～４），高杯（５～７），鉢（８～10）などがあるが，全体と

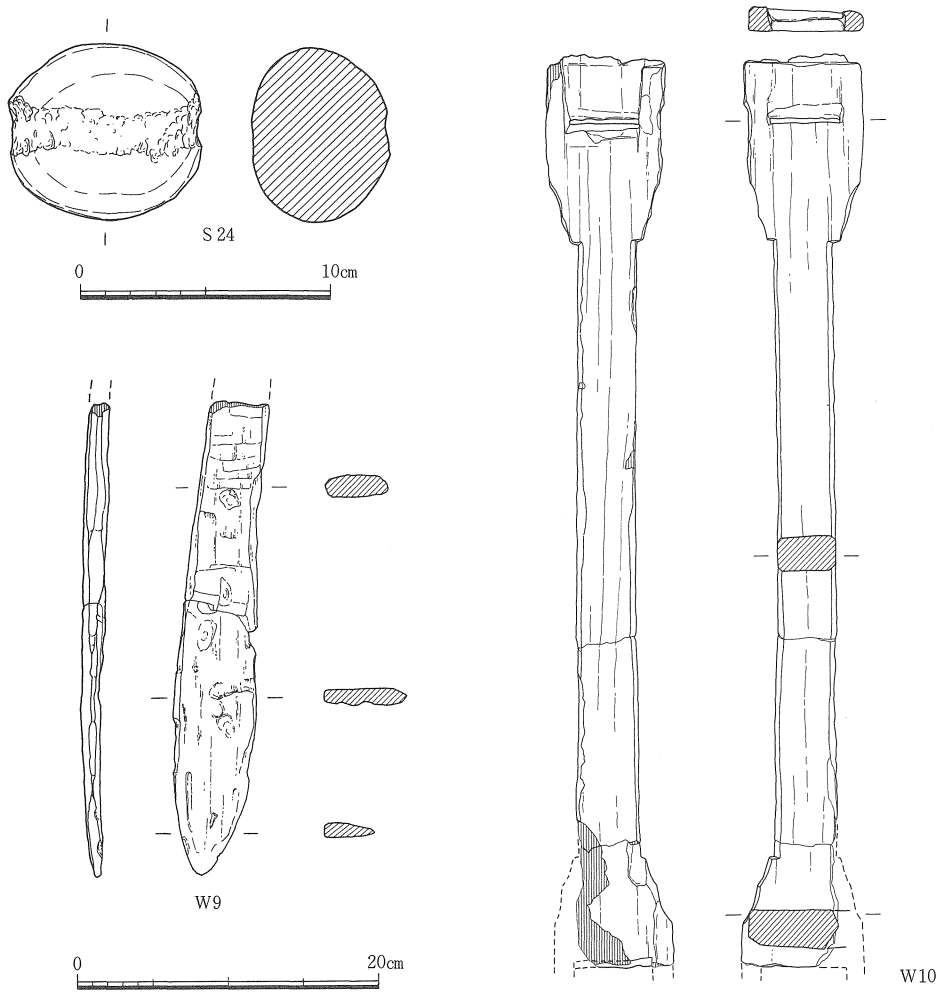


遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	13.7	—	—	体部内外面磨滅で不明	(内)灰黒(外)暗灰褐	微～細砂◎
2	甕形土器	14.0	5.3	20.4	底部外面篦ミガキ，肩部外面磨滅，刺突文１個のみ確認，外面煤	明褐	微砂◎
3	〃	14.4	—	—	口縁端面凹線２条，外面煤付着	暗褐	微～細砂◎
4	〃	14.3	—	—	内面磨滅で不鮮明，〃	明茶褐	〃～〃〃
5	高杯形土器	14.7	—	—	全面磨滅で不明	淡赤褐～淡黄褐	微砂◎，水漉粘土
6	〃	—	12.4	—	〃 不鮮明	明赤褐	〃〃，〃
7	〃	—	—	—	杯部篦ミガキ	赤褐	〃〃，〃
8	鉢形土器	9.5	2.9	5.2	内外面ナデ・押圧，底部は2.5×3.1cmの楕円形	淡黄褐	微～細砂
9	〃	8.4	—	8.3	内面篦ケズリ後底部に押圧	(内)淡黄褐(外)灰褐	〃～〃
10	台付鉢形土器	13.2	5.8	9.5	外面縦位ハケ後篦ミガキ・一部後横位のハケ・篦ミガキ，黒斑	淡灰白～淡黄灰褐	微砂

図149　井戸－８　出土遺物(1)　縮尺 1/4

して土器の出土量は少ない。これらの土器のうち（4・5・9）は上層からの出土であり，いずれも小破片である。一方，他の土器は基本的に下層からの出土である。下層から出土した土器のうち（1・3・6～8）は小破片であるが，（2）の甕はほぼ完形に復元されたものであり，(10) の台付鉢は完形の状態で出土している。この両者は共に12層の暗黒灰色粘質土からの出土である。以上の土器のほかに，本井戸からは最下層から石錘（S24）1点と木器（W9・10）2点のほかモモの種子が出土している。

本井戸は，出土遺物から鹿田・後・4a期に属する。



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S24	石錘	7.5	6.9	5.6	400.0	細粒花崗岩	長軸方向に敲打による溝

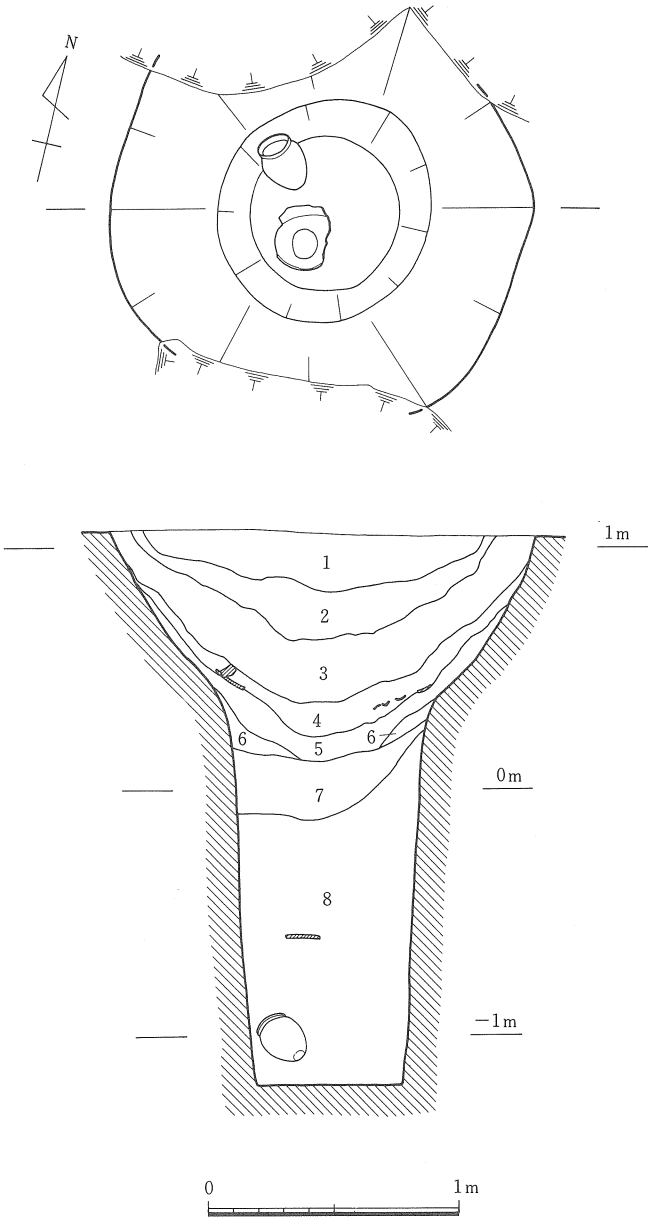
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W9	鋤先	31.5	5.5	1.5	アラカシ	二又鋤の鋤先にわずかに刃先に向かって反っている，板目材
W10	柄状木製品	60.8	7.8 3.9	2.0 2.4	コナラまたはアベマキ	柄は断面長方形でその角を落とすように削りその両端は対称形をなす，上端では4.6cm×0.8cmの幅狭な孔から端部にかけて凹みを持つ，凹みは押圧により孔へと傾斜する

図150　井戸－8　出土遺物(2)　縮尺 1/3(S24)・1/5

井戸－9（図151～153，図版62）

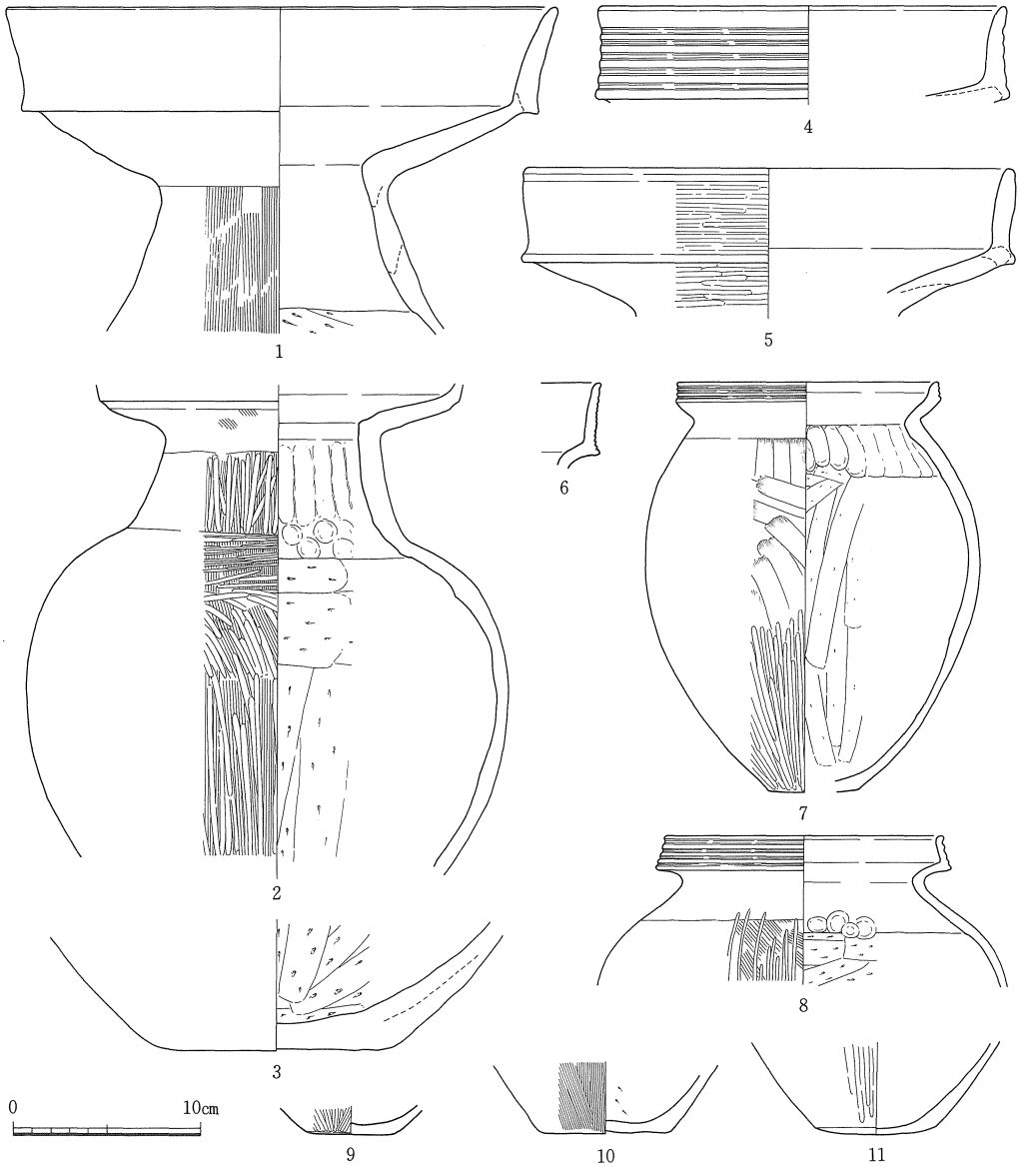
本遺構はＡＷ38区中央やや南東寄りに位置する素掘り井戸である。本井戸は北側および南側の一部を攪乱によって破壊されているが，平面形は東西径が約170㎝のほぼ正円をなすものと推定される。掘り方上部は摺鉢状に大きく開いており，検出面から65～70㎝のところで強く屈曲し，以下はほぼ垂直に掘り込まれている。屈曲部の上面観は東西径約85㎝，南北径約90㎝の円形であり，底面は径約60㎝の円形である。検出面から底までの深さは約220㎝を測り，底の標高は約－120㎝である。

井戸内の埋土は８層に分かれる。１層は中央部で層厚25㎝前後を測り，周辺部で薄くなる茶褐色微砂土である。本層中には炭は僅かしか含まれないが，中央部に焼土塊が集中して分布している。２層は中央部で層



1　茶褐色微砂土　（炭少含，焼土多含）
2　暗灰茶色粘質土（炭・焼土少含）
3　黄褐色粘質土　（炭・焼土少含）
4　暗青灰色粘土　（角礫・炭含）
5　黄灰色粘土（淡灰黄色砂質土含）
6　灰色粘土　（細砂・炭少含）
7　暗黒灰色粘土
8　灰青色粘土

図151　井戸－9　縮尺 1/30

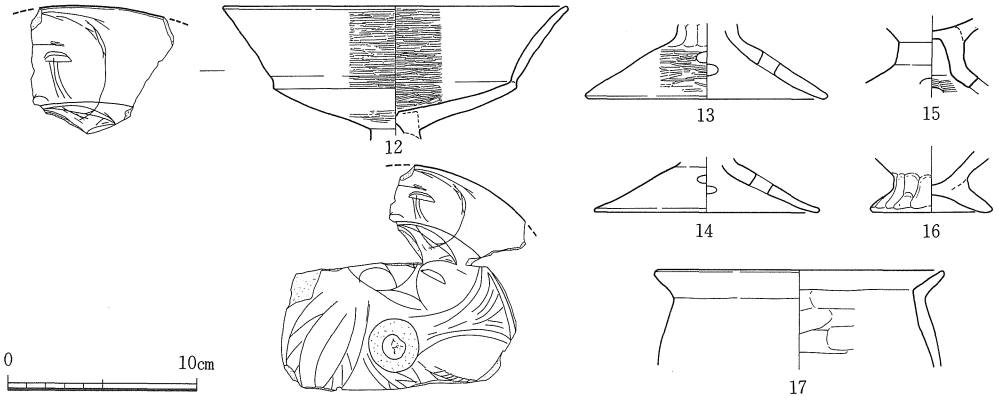


遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	29.3	—	—	全体的に磨滅で不鮮明	淡赤褐～淡灰褐	細砂～礫，赤色粒
2	〃	—	—	—	頸部内面ナデ・押圧・しぼり目残存，外面ハケ後篦ミガキ，黒斑	(内)灰褐(外)明褐	粗砂～細礫◎
3	〃	—	12.3	—	外面磨滅で不明	淡灰褐	細礫◎
4	〃	21.6	—	—	横ナデ，口縁端面凹線5条	淡黄褐	微砂
5	〃	26.0	—	—	内面横ナデ，外面篦ミガキ・口縁端面のミガキは強い横ナデに似る	赤褐～茶褐	粗砂～細礫◎
6	〃	—	—	—	円外面横ナデ・丹塗り，口縁端面沈線13条	茶褐	細砂◎
7	甕形土器	13.9	4.7	21.8	体部外面非常に細浅なハケ後下半篦ミガキ，底部外面篦ケズリ，煤	灰黒～暗灰褐	粗砂
8	〃	14.8	—	—	口縁端面凹線4条	茶褐	細砂
9	〃	—	4.7	—	内面磨滅で不明，底部外面平行篦ミガキ，黒斑，外面煤付着	淡茶褐	微～細砂
10	〃	—	7.0	—	内面篦ケズリ後ナデ，底部外面ハケ，内外面煤付着	(内)灰褐(外)黒褐	〃～〃
11	〃	—	6.4	—	内外面磨滅で不鮮明，外面煤付着	(内)明黄褐(外)暗褐	細砂◎

図152　井戸－9　出土遺物(1)　縮尺 1/4

厚25cm前後，周辺部で５cm前後となる暗灰茶色粘質土である。灰色粘土のブロックや，炭・焼土などを少量含んでいる。３層は中央部で層厚約25cm，周辺部で９cm前後の黄褐色粘質土である。灰褐色粘質土や淡灰黄色砂質土などのブロックを多量に含んでいる。４層は暗青灰色粘土であり，層厚は３～13cm前後である。本層からは井戸周囲から流れ込んだとみられる土器片が比較的大量に出土している。５層は層厚４～10cm前後の黄灰色粘土であり，周辺部を中心に淡灰黄色の砂質土の薄層が混入している。６層は周辺部に堆積する灰色粘土である。以上の１～６層はいずれも井戸中央部へ向って傾斜した堆積を示しており，井戸周辺部から流入したものと考えられる。７層は暗黒灰色粘土であり，混入物は少ない。８層は均質な灰青色粘土層で，本層中位からほぼ完形の甕（７）が出土しているが，それ以外の遺物は検出されなかった。この７・８層は断面でみると，これらより上層が中央に向って凹むのに対し，７・８層の上面が一方に片寄って高くなっており，これらより上位の層とは異った要因によって堆積したものと推定される。

出土遺物には壺（１～６），甕（７～11），高杯（12～15），台付鉢（16），鉢（17）などがある。これらの中で高杯（12）の杯部の外面には焼成後に鋭い細沈線で２つの人面が描かれており，数少ない人面を線刻した土器として注目される。これらの出土遺物は先に触れた８層から出土した壺・甕（１，７）を除きいずれも４層からの出土である。本井戸は出土土器から鹿田・後・４ｂ期に属する。（栄）



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
12	高杯形土器	18.3	－	－	内外面施ミガキ，外面に人面他の線刻文あり	淡赤褐	微砂㊉，水漉粘土
13	〃	－	12.8	－	内面ナデ，黒斑	淡灰褐	〃 〃，〃
14	〃	－	12.0	－	〃，外面磨滅で不明	内淡黄褐外赤褐	〃 〃，〃
15	〃	－	－	－	脚部内面のハケ以外は磨滅で不明	淡赤褐	微砂㊀，精良
16	台付鉢形土器	－	6.4	－	全面ナデ・押圧	淡乳褐	細砂㊉，赤色粒
17	鉢形土器	15.3	－	－	全面磨滅で不明，外面煤付着	赤褐	〃 〃，〃

図153　井戸－９　出土遺物(2)　縮尺 1/4

井戸－10（図154～157）

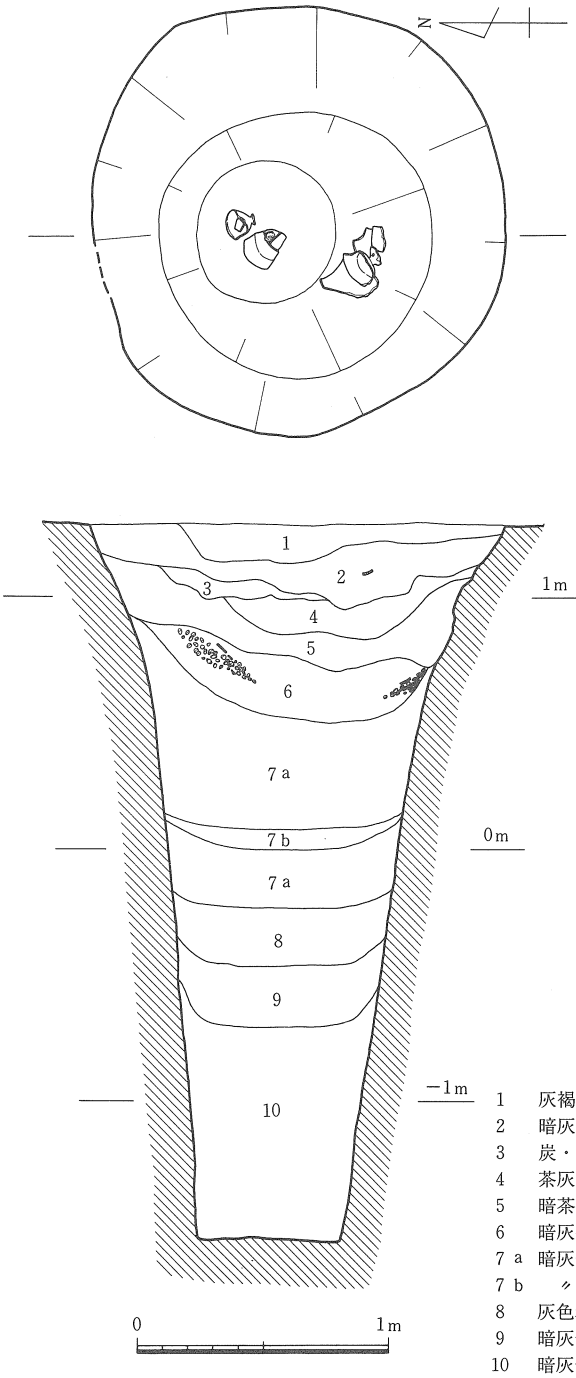
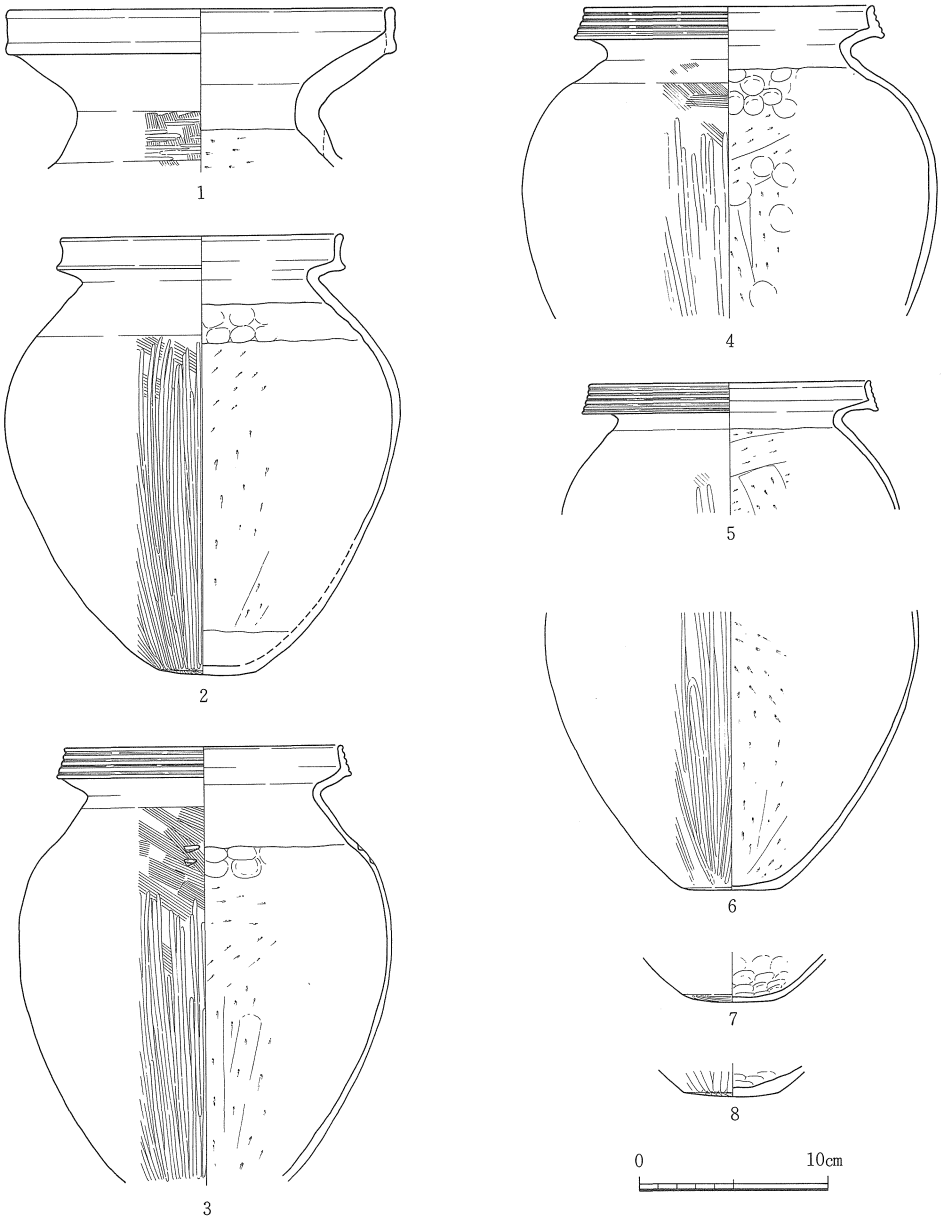


図154　井戸－10　縮尺 1/30

ＢＣ・ＢＤ31区に位置し，竪穴住居３・４を切る。平面形は東西170㎝・南北164㎝の円形を呈す。掘り方は上部で若干摺り鉢状になるが，下部は直線的で急角度に掘り込まれ湧水砂層に至る。底面は検出面下284㎝・標高－155㎝を測る。上層（４～６層）では多量の灰色粘土粒・黄白色細砂粒などが混在し，汚れの少ない下層（７層以下）に比べ大きな差をみせる。

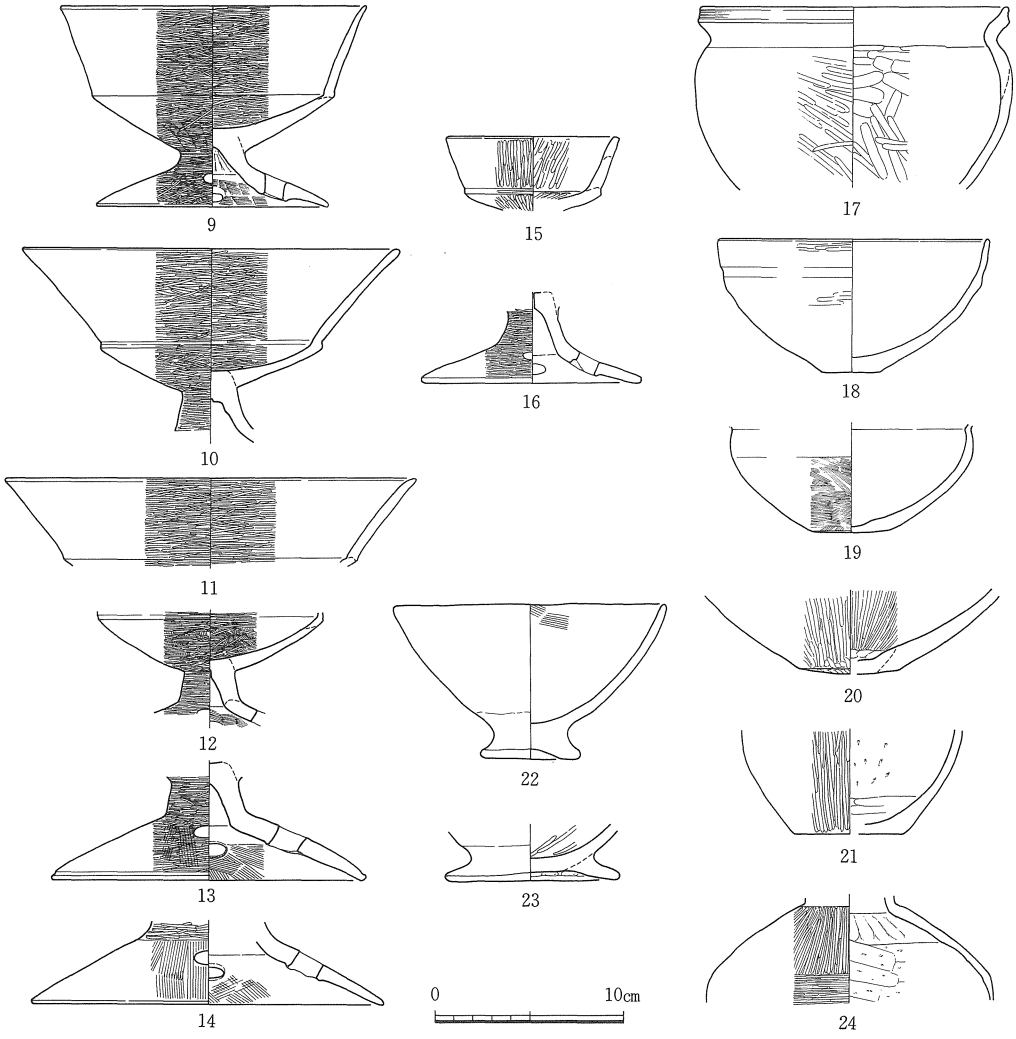
遺物は井戸上面（２層以上）と５～７層から出土する。前者は非常に多量に集積しているが，流入土中に含まれ，小破片が多く図化可能なものは少ない（図157）。時期は鹿田・古・１期に比定される。後者の全体量は上面に比べて少ないが，大形破片が多く（図155・156），人為的埋土中からの出土である。時期は鹿田・後・４ｂ期に比定される。以上の状況から，本井戸は鹿田・後・４ｂ期に埋没し，鹿田・古・１期になってその上面の凹みに遺物が廃棄されたものと考えられる。

1　灰褐色土　（炭・焼土多含，土器含）
2　暗灰褐色土　（〃・〃　〃，〃〃，細砂少含）
3　炭・焼土層
4　茶灰褐色砂質土　（炭・焼土・粘土粒含，細砂多含）
5　暗茶褐色　〃　（〃・〃・土器含，粘土粒・細砂多含）
6　暗灰褐色細砂土　（土器含，粘土粒～塊・細砂・円礫多含）
7ａ　暗灰色細砂混粘土（土器・種子含）
7ｂ　〃　粘土　（土器多含）
8　灰色粗砂混粘土
9　暗灰色粘土混粗砂
10　暗灰色細砂混粘土



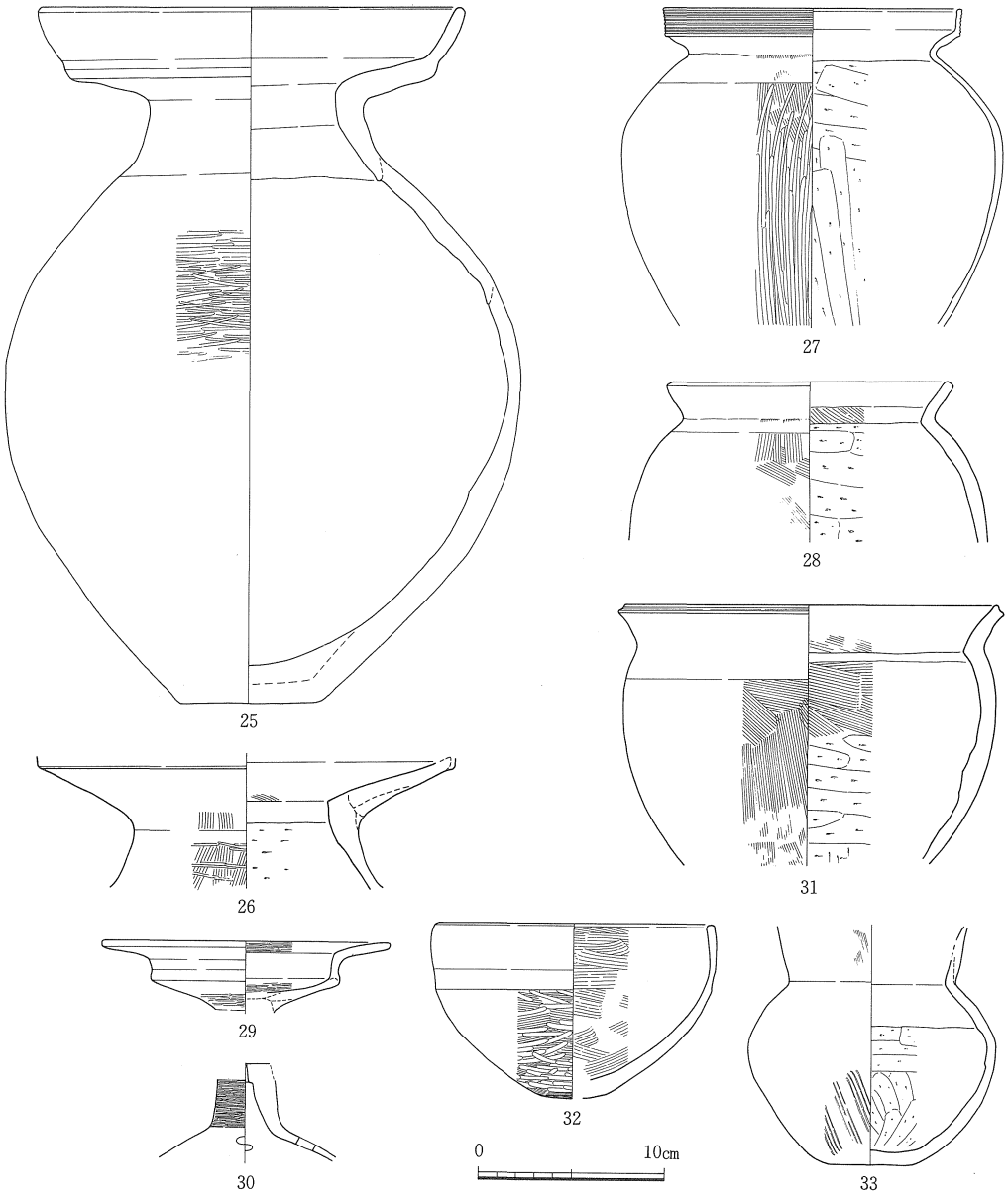
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	20.5	—	—	頸部内面篦ケズリ・外面ハケ後篦ミガキ	明赤褐～淡赤白	微～細砂◎
2	甕形土器	15.0	5.1	23.4	外面一部3×2cm位の面取り（タタキ？），口縁楕円形，煤	淡灰褐	微砂
3	〃	14.8	—	—	口縁端面凹線4条，刺突文肩部に1ケ所，内面下半・外面煤付着多量	淡褐	微砂～細砂
4	〃	15.4	—	—	凹線4条，肩部刺突文の有無は不明，外面煤付着◎で調整不明瞭	灰褐	〃～〃，雲母
5	〃	14.9	—	—	〃 5条，〃	淡褐	粗砂
6	〃	—	5.1	—	外面篦ミガキ◎，底部外面ナデか篦ミガキ，外面煤付着多量	黒褐	細～粗砂
7	〃	—	5.3	—	底部外面不整方向の篦ミガキ，外面煤付着で調整不明	内淡灰褐外暗灰	微～細砂
8	〃	—	4.9	—	底部外面平行篦ミガキ	内淡茶褐外灰黒	〃～〃

図155　井戸－10　出土遺物(1)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
9	高杯形土器	16.3	12.4	10.7	脚裾部内面ナデ，杯部外面下半放射状面取り	明赤褐	微砂㊇，水漉粘土
10	〃	20.1	—	—	脚部内面ナデ，他は細密な篦ミガキ，内外面煤付着	淡乳褐	細～粗砂
11	〃	21.9	—	—	内外面細密な篦ミガキ	明赤褐	微砂㊇，水漉粘土
12	〃	—	—	—	杯部内面ハケ後篦ミガキ	赤褐	〃 〃，〃
13	〃	—	16.8	—	脚端部に沈線1条，脚裾部外面ハケ後篦ミガキ	〃	〃 ㉖，精良
14	〃	—	18.8	—	脚裾部内外面ハケ	明赤褐	〃 ㉓，水漉粘土
15	〃	9.2	—	—	内外面篦ミガキ，黒斑	(内)灰白(外)黄灰	微砂，粗砂㉖
16	〃	—	11.6	—	脚裾部外面ハケ後篦ミガキ，円孔4個は長方形を描く位置	淡赤褐	〃 ㊇，水漉粘土
17	鉢形土器	16.2	—	—	口縁端面にはナデ時の工具によるハケ状の凹凸が廻る	淡乳褐	〃 〃，〃
18	〃	14.5	3.0	7.1	内外面磨滅・剝離	暗灰～黄灰	微～細砂㉖
19	〃	—	4.0	—	内面丁寧なナデ，外面下半細いハケ・上半横ナデ，外面煤	(内)暗灰(外)赤褐	微砂㊇，水漉粘土
20	〃	—	5.2	—	底部内面押圧，他は篦ミガキ	(内)黄灰褐(外)淡黄褐	〃 ，雲母㉖
21	〃	—	5.8	—	底部内面篦ケズリ後ナデ，外面篦ミガキ（底部含む），黒斑	赤褐～暗褐	〃 ㊇
22	台付鉢形土器	14.5	5.3	8.2	台部押圧後横ナデ，他は磨滅・剝離で不明，外面煤付着少量	淡～明赤褐	〃 ㉓，精良
23	〃	—	9.3	—	内面ナデ後一部篦ミガキ，他は押圧・ナデ，台部は不整円形，黒斑	黄～赤褐	〃 ㊇，水漉粘土
24	直口壺形土器	—	—	—	頸部内外面横ナデ，肩部内面しぼり目	明茶褐	〃 ㉔，金雲母㉘

図156　井戸－10　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
25	壺形土器	22.8	7.6	37.4	内面篦ケズリ・外面篦ミガキの可能性が高い，底部外面ナデ	淡乳白～明(赤)褐	細～粗砂，細礫②
26	〃	－	－	－	口縁部内ハケ後横位の篦ミガキの可能性あり	黄褐	微～細砂，〃 ②
27	甕形土器	16.0	－	－	口縁端面櫛描沈線７条，肩部刺突文の有無は不明，外面煤	(内)暗灰褐(外)黄灰	〃～〃，〃
28	〃	14.8	－	－	体部外面磨滅で不鮮明	淡黄褐	細～粗砂，〃 ②
29	高杯形土器	15.5	－	－	内外面細密な篦ミガキの可能性高い	赤褐	微砂④，水漉粘土
30	〃	－	－	－	脚柱部外面細密な篦ミガキ，他は磨滅で不明	明赤褐	〃〃，〃
31	鉢形土器	20.0	－	－	凹線１条，内面下半篦ケズリ・上半篦ケズリ後ハケ，外面下半磨滅	暗灰～黄褐	〃，粗砂②
32	〃	15.0	3.5	9.4	内面浅いハケ後軽いナデ，体部外面ハケ後篦ミガキ，底部外面ハケ	黄灰～明赤褐	〃 ④，水漉粘土
33	壺形土器	－	4.5	－	外面ハケ後ナデ	淡黄白～淡乳白	〃〃，〃

図157　井戸－10　出土遺物(3)　縮尺 1/4

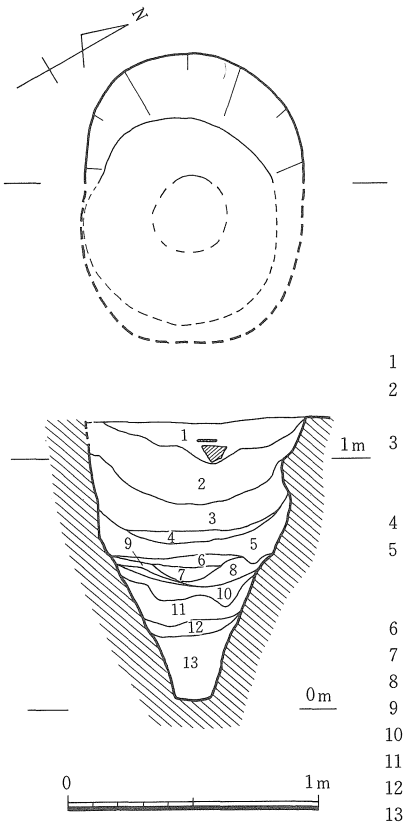
井戸－11（図158）

ＢＡ33区に位置する。東側上半部は後世の攪乱により大きな削平を受ける。竪穴住居６を切って作られる。

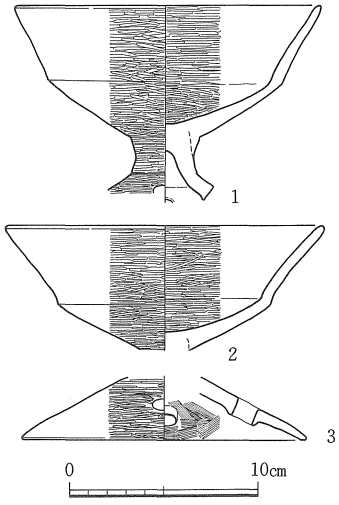
平面形は長軸については115㎝前後（推定）・短軸は87㎝の楕円形を呈す。掘り方は多少の凹凸はあるが逆台形に直線的に底面から立上がる。断面図では攪乱の影響で実測位置が中心をはずれたために，下半が急に細くなっている。底面形は壁面の崩壊で正確な旧状復元は不可能であるが径30㎝前後の円形が推定され，深さは検出面下110㎝・標高５㎝を測る。

埋土は13層に分層したが３～12層については上・下層に大きく二分される。下層（８～13層）は底面から井戸のほぼ中位，標高50㎝あたりまでに堆積し，暗灰色砂混り粘土層（８・11層）と淡灰色細砂層（10・12層）とが互層構造を示す。層間の差は明瞭である。井戸のほぼ中央部にあたる８層上面での凹みには７層が堆積する。非常に軟質で鉄分の沈着が特徴的であり，上層への堆積土の変化を示すかのように，他の層とは明瞭に異なる。一方，上層（３～６層）においては黄白色粘土粒・黄褐色微砂粒を多く含む３・５層と暗灰褐色粘質土の４・６層とがやはり互層堆積をなす。

遺物は全体的に非常に少ない。高杯（１～３）は上面の１層からの出土である。時期は鹿田・後・４期に比定される。



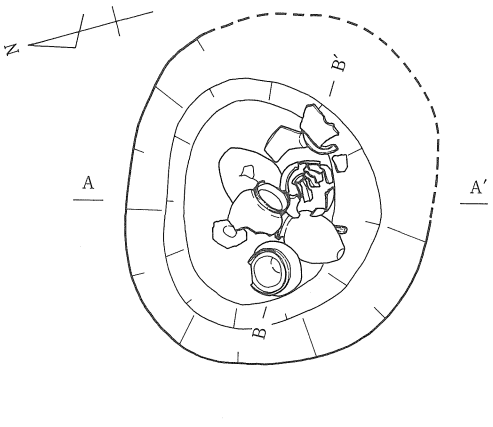
1　灰褐色砂質土
2　茶褐色土
　　（炭・土器含，細砂粒多含）
3　暗茶褐色土
　　（炭多含，土器・焼土含，
　　粘土粒・黄色砂粒多含）
4　暗灰褐色粘質土（炭・土器含）
5　暗黄灰褐色粘質土
　　（炭・土器含，
　　粘土粒・黄色砂粒多含）
6　暗灰褐色粘質土　（炭・粘土粒含）
7　暗黄灰色土　（軟質）
8　暗灰色砂混粘土
9　炭　層
10　淡灰色細砂　（粘土粒含）
11　暗灰色砂混粘土（炭含）
12　淡灰色細砂　（粘土粒含）
13　灰色細砂　（炭少含）

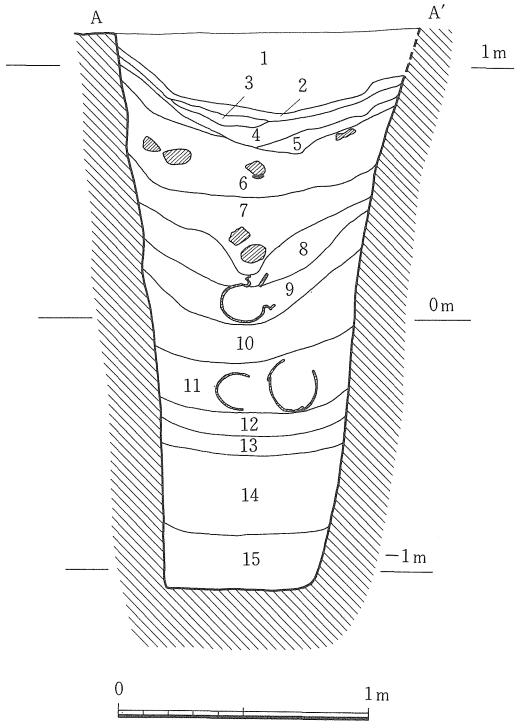


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	高杯形土器	16.3	－	－	杯部底部内面ハケ後篦ミガキ，脚部内面ナデ，他は篦ミガキ，黒斑	明赤褐	微砂㊞，水漉粘土
2	〃	17.0	－	－	内外面細密な篦ミガキ	〃	〃 〃，〃
3	〃	－	15.0	－	内面非常に細く浅いハケ，外面篦ミガキ	〃	〃 〃，〃

図158　井戸－11，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

井戸－12（図159～161，図版20-２・61・82）



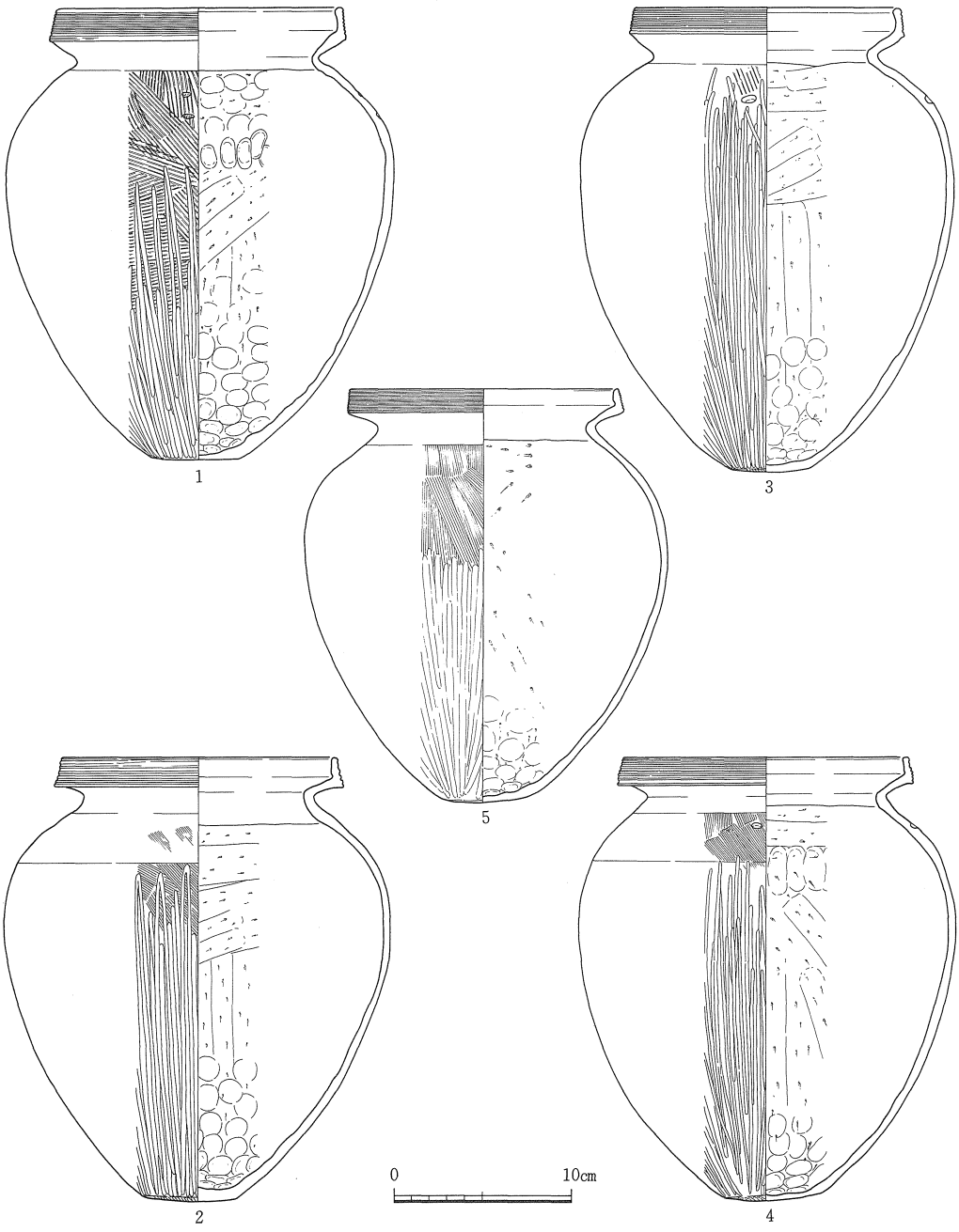


1　黄灰色砂質土（炭・焼土含）
2　茶褐色土（炭多含）
3　黄灰褐色砂質土
4　灰色細砂
5　暗茶褐色土（土器含・粘土含）
6　灰褐色粘質土
　（土器・角礫・粘土粒含）
7　青灰色粘土（地山ブロック含）
8　〃　〃（炭含）
9　青灰色粘土（土器含）
10　青灰色粘土
11　暗灰色細砂混粘土
　（炭・土器・植物質多含）
12　暗灰色粘土（土器・木器含）
13　灰色粗砂（土器含）
14　暗灰色粘土
　（赤色顔料・貝含）
15　灰色細砂混粘土

図159　井戸－12　縮尺 1/30

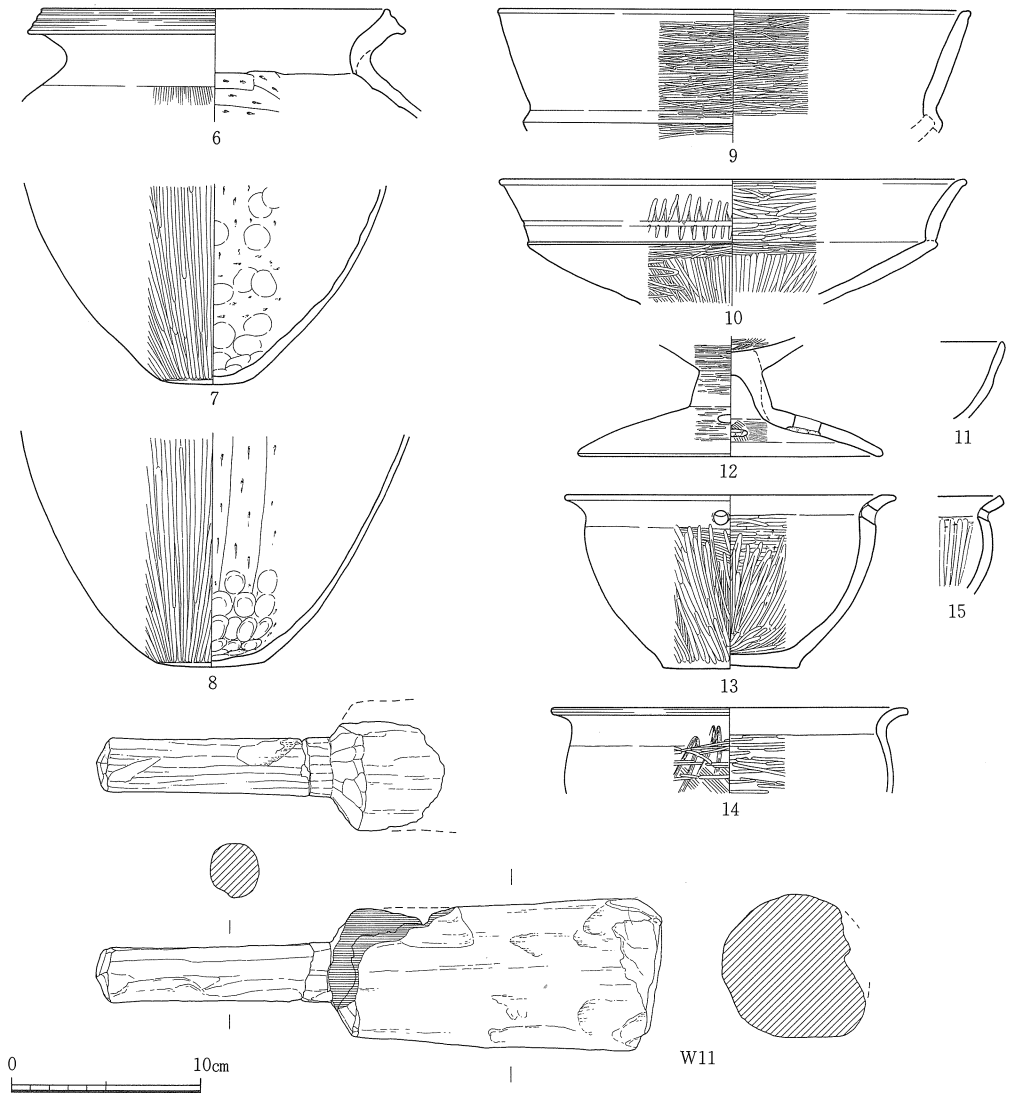
ＢＣ33区の基準杭が中心に位置する。平面形は長軸復元推定140cm前後，短軸124cmの楕円形を呈す。掘り方は長軸81cm，短軸60cmの楕円形の底から上面に80～85°の傾斜で直線的に立上がる。底面は検出面下221cm，標高－108cmを測る。

埋土は５層以上では砂質傾向が強く，いずれも基本的に薄い堆積を示す。特に注目される包含物はない。６層以下では粘質が強く，大形の遺物・炭化物・植物質を埋積する。14層中には赤色顔料が認められ注目される。遺物出土状況は，まず，９層から甕（１）を中心に，高杯・鉢（９・11～13・15）が出土する。次に，無遺物層の10層を挟んで11～13層にも９層以上に多量の遺物が埋積する。特に，11層には完形の甕４個（２～５）が縦横に並べられるほか，甕・高杯・鉢（６～８・10・14）を含む。木器（きぬたW11）は並べられた甕の直下の12層から，また，最下層からはトチの果皮が出土した。古い時期の遺物（６・９・10・13～15）も含まれるが混入と考えられ，時期は鹿田・後・４ｂ期の末から古・１期にかけてと考えられる。



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	16.2	4.9	25.5	櫛描沈線8条，外面横位後縦位ハケ，底部外面篦ミガキ，外面煤付着	暗灰褐	微～細砂
2	〃	15.7	5.4	25.2	〃 6条，外面煤・煮こぼれにより一部⑱，篦ミガキ⑲，刺突文⑳	〃	〃～〃
3	〃	15.0	4.4	26.3	〃 7条，〃，底部外面平行篦ミガキ	〃	〃～〃
4	〃	16.3	5.5	25.1	〃 6～7条，外面煤付着，底部外面平行篦ミガキ，篦ミガキ⑲	〃	〃～〃
5	〃	15.3	4.9	23.3	〃 8～9条，〃，篦ミガキ不鮮明	黒褐	微砂

図160　井戸－12　出土遺物(1)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
6	甕形土器	18.6	—	—	口縁端面凹線3条	淡黄褐	粗砂～細礫
7	〃	—	4.5	—	底部外面平行篦ミガキ，外面煤，底部内面炭化物	黒褐	微砂
8	〃	—	5.7	—	外面煤，底部外面不明	〃	微～細砂，赤色粒
9	高杯形土器	25.1	—	—	内外面篦ミガキ，外面2次焼成痕	明赤褐～黄褐	細砂㉔，精良
10	〃	24.8	—	—	杯部外面放射状ハケ後篦ミガキ後一部横位篦ミガキ，2次焼成痕	赤褐～黒褐	微砂
11	〃	—	—	—	細密な横位篦ミガキ	淡褐	〃 ⑯，水漉粘土
12	〃	—	16.3	—	杯部内面ハケメ後篦ミガキ	明赤褐	〃 〃，〃
13	鉢形土器	17.7	7.2	9.2	底部外面篦ケズリ後ナデ，内面篦ミガキ，穿孔は$\frac{1}{3}$の破片中に1個，黒斑	淡乳褐	〃
14	〃	19.0	—	—	内面横位の工具使用ナデ後篦ミガキ，外面ハケ後篦ミガキ，2次焼成痕	〃	〃
15	〃	—	—	—	外面不明，内面縦位篦ミガキ，穿孔は3cm間隔で2ケ所，2次焼成痕	褐～赤褐	微～細砂

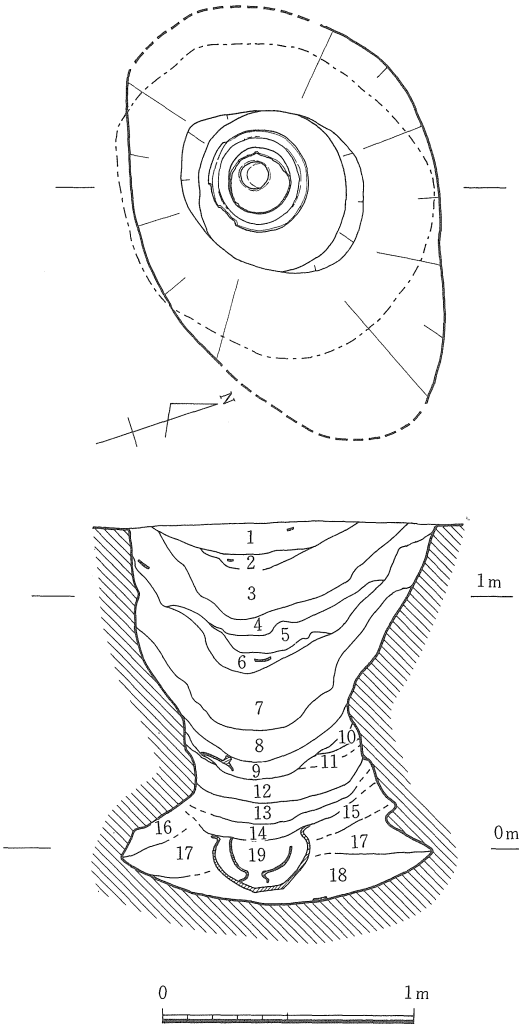
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W11	きぬた	30.1	8.0	7.0	ウバメガシ	柄は径3.5×2.5cmで丁寧な面取り，槌部分は表面の傷みが激しい，四分割した材使用。

図161　井戸－12　出土遺物(2)　縮尺 1/4

井戸ー13（図162～164，図版21・62・80－１・82）

ＢＡ30～31区に位置する。東・西両端部を側溝で削平される。平面形は東側に張り出した不整楕円形を呈し，長軸復元推定180㎝前後，短軸120㎝を測る。括れ部では径65㎝前後の円形，底面では径120～130㎝の円形を呈す。掘り方は，上面から60～65°の傾斜で落ち込み，標高50㎝付近で垂直に変換した後袋状に広がり，標高－20㎝で底に至る。検出面下150㎝である。

遺構内の埋土は大きく四分割される。上部流入土層（１～４層），炭・焼土層（５～８層），有機物層（９～12層），粘土層（13～18層）である。炭・焼土層のうち，５層では炭化物が，６層では焼土が特に多い。有機物層はほとんど括れ部に堆積し，その上面（９層上面）には薄皮状の木片が全面を厚く覆う。木片下には炭化木が多数堆積し，それに続いて12層上面から木器（W12・13・14）が出土する。組合せの木器（W12）は（W13）と同一個体と考えられる。また，壁際には棒状の木材が数本検出され，斜めに組合せながら袋状部へ向けて打ち込まれた状況が看守された。残存状態が非常に悪く図化・取上げは不可能であった。11層にあたると考えられる。粘土層はいずれも均一で汚れの少ない粘土である。袋状部分の奥からはガラス滓が，また，底面の中央部にはほぼ完形の大鉢（13）が据えられ，その中に甕（１）が伏せられた



1　灰褐色砂質土（炭・焼土・土器含）
2　〃　〃（〃・土器・粘土粒含）
3　茶褐色土（〃・焼土・土器多含）
4　〃　〃（〃・〃・〃含，粘土粘多含）
5　茶褐色粘質土（〃・〃多含）
6　黄褐色粘質土（焼土多含，炭・土器含）
7　〃　〃（炭・焼土多含，粘土粘含，軟質）
8　灰色　〃（〃・〃・土器・粘土粒含）
9　暗灰色粘土（〃・土器含，炭化木・木質多含，礫・種子含）
10　青灰色粘土
11　黒褐色粘土（炭化木多含，土器・種子含）
12　暗灰色粘土（炭含，木器含，木材・植物質多含）
13　〃　〃
14　淡灰色粘土
15　暗灰色粘土
16　暗青灰色粘土
17　暗褐色粘土（木質含，ガラス滓含）
18　暗青灰色粘土（土器・種子含）
19　灰色粘土（炭・土器・木質・種子・赤色顔料含）

図162　井戸ー13　縮尺 1/30

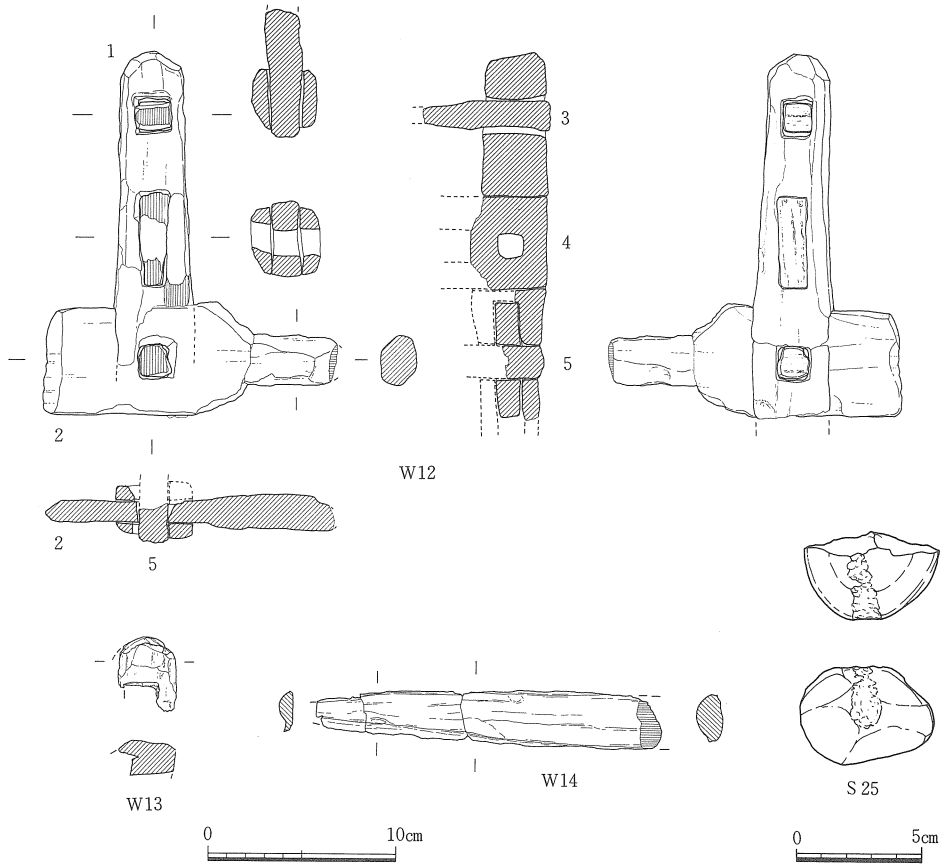
状態で各々検出された。鉢内埋土（19層）中には赤色顔料が少量認められる。

他の出土遺物としては，炭・焼土層以上から甕等（3～8・10・12），有機物層から高杯等（2・9・11），最下層から石錘（S25）がある。また，種子も出土しており，有機物層からマクワウリ・モモ，鉢（13）の中からマクワウリ・クルミの果皮・モモが各々あげられる。

時期は，鹿田・後・4b期の末に比定される。

本遺構は形状が袋状を呈すこと，下半部の土層堆積状況・遺物の出土状態など，他の井戸に比べ異なる点が多く，井戸以外の機能を考えさせる。貯蔵穴の可能性が十分指摘される。

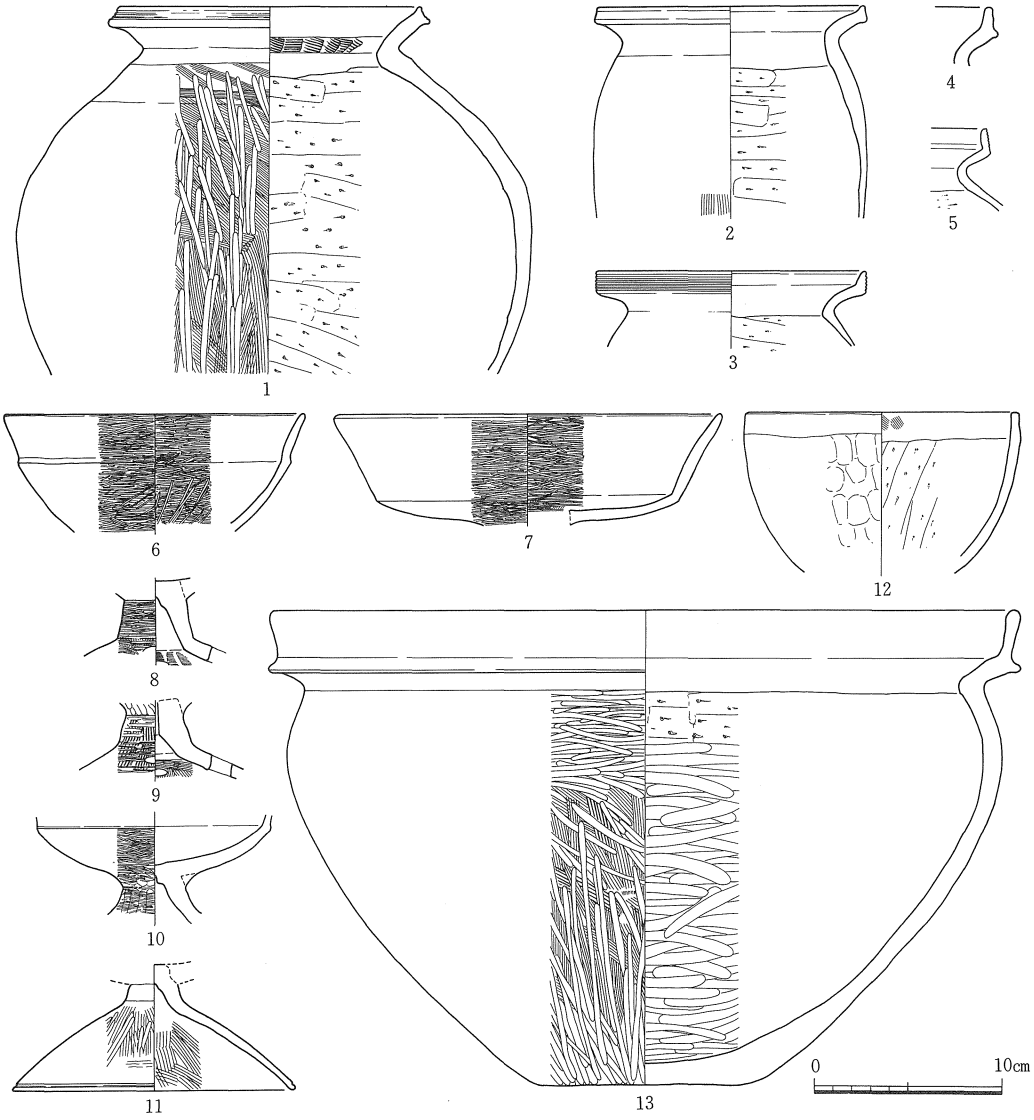
（山本）



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W12	組合部材 1	19.3	4.2	3.6	1～5 全て アラカシ	1に2が組み合わさり5によって固定される，4は2と直交する方向で同様に1に組み合わさる，柄穴を持つがこれに組みあわされる材は欠損している，1は面を取るように加工している，2は握り状の部分と扁平な板状の部分からなりその先端は斜めに削っている，2は板目材
	〃 2	15.7	6.0	1.2		
W13	組合部材	4	3.2	1.9	〃	W12と同一個体か，柄穴を持つ
W14	棒状木製品	18.2	2.8	1.8	〃	棒材を断面カマボコ型に近い紡錘型に両側縁をヒレ状に整形する

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S25	石錘	3.4	5.4	4.4	96.0	珍岩	欠損品，端部に敲打による溝

図163　井戸－13　出土遺物(1)　縮尺 1/4・1/3(S25)



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	16.0	—	—	口縁端面横ナデにより沈線消失気味，外面煤付着，外面ハケ後篦ミガキ	淡黄灰	細砂～細礫
2	〃	14.2	—	—	外面磨滅で不明瞭，内面篦ケズリ	明黄～明赤褐	細砂㉖
3	〃	14.3	—	—	口縁端面櫛描沈線5条，口縁部煤付着	淡茶褐	微砂
4	〃	—	—	—	内面横位の篦ミガキ，外面横ナデ	茶灰褐	微～細砂
5	〃	—	—	—	口縁端面櫛描沈線6条	(内)淡灰褐(外)暗茶褐	〃～〃
6	高杯形土器	16.0	—	—	全面篦ミガキ	淡赤褐	微砂㉚，水漉粘土
7	〃	20.7	—	—	〃，杯受部内面ハケ後篦ミガキ	灰褐～暗茶褐	〃，精良
8	〃	—	—	—	外面篦ミガキ，脚裾部ハケ後篦ミガキ，脚柱上半部に細い丹の線を確認	淡乳黄褐	〃，〃
9	〃	—	—	—	脚部外面ハケ後篦ミガキ，内面ナデ・幅広のハケ，杯部外面篦ミガキ	明黄褐	〃，〃
10	〃	—	—	—	外面篦ミガキ，杯部内面磨滅で不明，脚部内面ナデ	灰褐～暗灰褐	〃，〃
11	〃	—	15.1	—	杯部内面篦ミガキ，脚端部に沈線1条，円孔の有無は不明	淡赤～黄褐	〃 ㉚，水漉粘土
12	鉢形土器	14.5	—	—	口縁部横ナデ・内面には一部ハケ，外面押圧	明黄褐	微～粗砂
13	〃	39.5	11.0	25.3	内外面下半に煤多量付着，黒斑，底部外面篦ミガキ	黄褐～灰褐	〃～〃

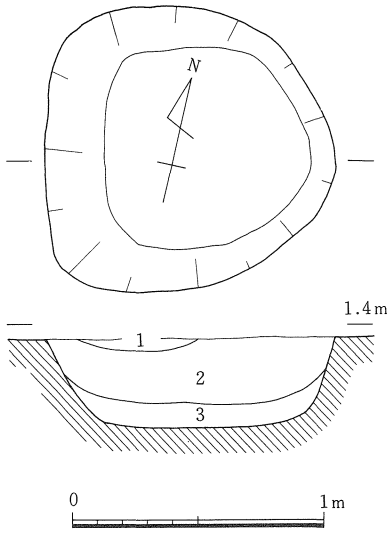
図164　井戸－13　出土遺物(2)　縮尺 1/4

c．土　　壙

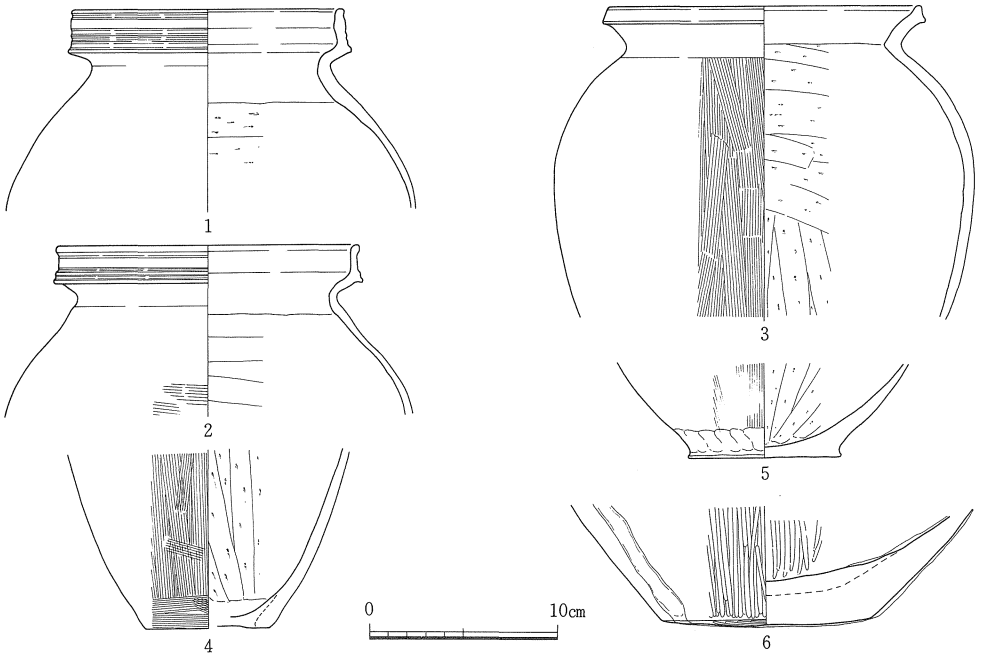
土壙－4（図165・166）

ＡＺ30区に位置する。多数の柱穴・土壙が複雑な重複関係を持つ中の土壙である。平面形は径115㎝前後の不整円形を呈す。底面は検出面下35㎝・標高100㎝を測る。掘り方は逆台形を示し，上面（１層）には炭化物が堆積する。遺物は甕（１～５），鉢（６）等が底面（13層）に集積する。時期は鹿田・後・３期に比定される。

周囲には時期・形状等において，類似した遺構が多く検出されている。本遺構は短期間に建て替えが行われた建物の柱穴の可能性が高い。

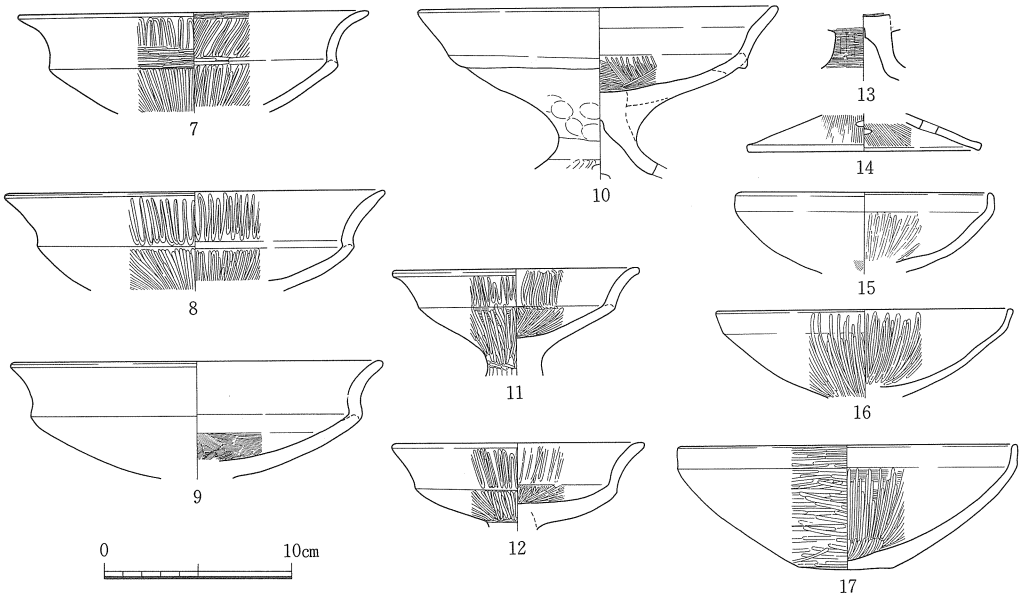


1　暗青灰色細砂粘質土（炭・焼土・土器含）
2　暗灰褐色砂質土
3　暗灰褐色土



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	14.4	－	－	口縁端面凹線４条，体部内外面磨滅で不鮮明，外面煤付着	茶褐	細砂㉟
2	〃	16.1	－	－	〃　３条，　〃　，外面黒斑	明赤褐	微～細砂㉟
3	〃	16.6	－	－	内面篦ケズリ，外面ハケ，外面煤付着	明褐～淡灰褐	〃～〃〃
4	〃	－	6.7	－	〃　，　〃　，底部外面ハケ	(内)黒褐(外)暗茶褐	〃～〃〃
5	〃	－	8.1	－	底部外面ナデ，黒斑	赤褐	微砂㉑，精良
6	壺形土器	－	11.0	－	底部外面平行篦ミガキ，黒斑，底部中央～体部に補修用の幅２㎝の粘土帯	(内)灰褐(外)明褐	微～細砂

図165　土壙－４　出土遺物　縮尺 1/30，1/4

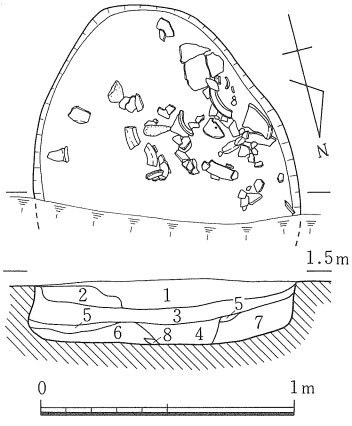


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
7	高杯形土器	18.6	—	—	内外面篦ミガキ，口縁部は波状の篦ミガキ	淡黄褐	微砂㊱，水漉粘土
8	〃	21.5	—	—	〃 ，〃 ，黒斑	内明赤褐外明黄褐	〃
9	〃	19.8	—	—	杯部内面下半ハケ，他はナデ	内淡黄灰外灰褐	〃 ㉔
10	〃	19.2	—	—	杯部内面放射状ハケ後篦ミガキ，脚裾部外面篦ミガキ，他はナデ・押圧	明褐～明黄褐	〃 〃，水漉粘土
11	〃	13.1	—	—	杯部内面ハケ後篦ミガキ，口縁部内面横ナデ後一部篦ミガキ	黄褐～黄灰	〃 〃，精良
12	〃	13.4	—	—	〃 ，黒斑	赤褐	〃 ㊱，水漉粘土
13	〃	—	—	—	脚部内面ナデ，他は篦ミガキ	〃	〃 〃，精良
14	〃	—	12.2	—	外面ハケ後篦ミガキ（磨滅で不鮮明）	淡赤褐	〃 〃，水漉粘土
15	〃	13.4	—	—	口縁部横ナデ，内面篦ミガキ（不鮮明），外面ナデ（一部ハケ残存）	淡褐	〃 〃，〃
16	〃	15.7	—	—	内外面篦ミガキ	赤褐	〃 〃，〃
17	鉢形土器	18.0	5.1	6.6	外面篦ミガキ（磨滅で不鮮明），内外面に僅かに丹塗りの痕跡あり	淡黄褐～淡黄白	〃 ㉔，精良

図166　土壙－4　出土遺物(2)　縮尺 1/4

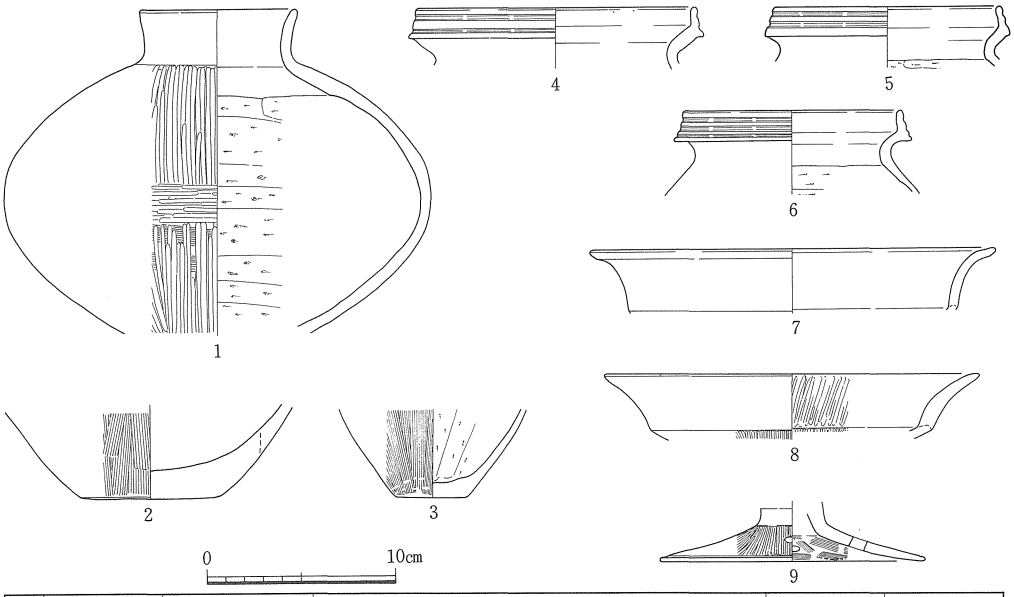
土壙－8（図167・168）

ＢＡ28・29区に位置する。北半部を調査時の側溝で削平され，平面形の復元は困難であるが，長軸100～150cmが推定される。短軸は105cmを削る。掘り方は長方形に近く，東側ではオーバーハング気味で，それ以外ではほぼ垂直に立上がる。底面は平坦で広く，検出面下25cm，標高120cmを測る。埋土中で注目されるものは，２層に見られる白色粘土である。径30cm前後の塊状をなし，数個が確認された。純度が高く土器製作用の粘土と考えられる。また，堆積状況は全体的にレンズ状ではなくブロック状堆積を示す傾向が強い。鹿田・後・３期に比定される。



1　暗褐色微砂土（土器含）　6　暗灰褐色土
2　白色粘土　（炭・土器含）
3　暗茶褐色土（炭・土器含）　7　暗茶褐色土
4　灰褐色土　（〃・〃 〃）　8　灰色粘土
5　黄灰色土

図167　土壙－8　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	8.4	—	—	体部外面下半ハケ後篦ミガキ，外面の篦ミガキは縦位後横位	内黄白外淡灰白	粗砂◎，細礫
2	〃	—	7.4	—	底部外面ナデ，内面磨滅で不明，黒斑	淡赤褐～淡灰褐	細～粗砂，細礫
3	甕形土器	—	3.9	—	〃 ，外面煤付着	明茶褐	微砂
4	〃	14.8	—	—	口縁端面凹線２条，内外面横ナデ	〃	細砂◎
5	〃	12.1	—	—	〃 ２条	淡赤褐	微～細砂
6	〃	11.6	—	—	〃 ３条	淡黄褐～明茶褐	〃～〃
7	高杯形土器	21.6	—	—	内外面強い横ナデ	暗褐	微砂◎，水漉粘土
8	〃	20.0	—	—	口縁部外面磨滅で不明，他は篦ミガキ	赤茶褐	〃 〃，精良
9	〃	—	14.1	—	脚柱部内外面ナデ，脚裾部外面篦ミガキ・内面ハケ	内茶褐外淡黄灰	〃 〃，水漉粘土

図168　土壙－８　出土遺物　縮尺 1/4

土壙－38（図169・170）

ＡＷ30区の基準杭が中心に位置する。南半部は攪乱溝により底面直上まで削平を受ける。平面形は南北方向に軸をもつ長楕円形を呈す。規模は，短軸で105cmを測り，長軸は底面の規模（長軸121cm・短軸62cm）から160cm前後と復元推定される。底面高は検出面下37cm，標高90cmを測る。埋土は青灰色砂質土で，下半に遺物を多量に含む。底面には甕（１）を中心に高杯・鉢等（２～13）が出土する。また，遺物上には炭化物層が薄く堆積する。

時期は，鹿田・後・３期に比定される。

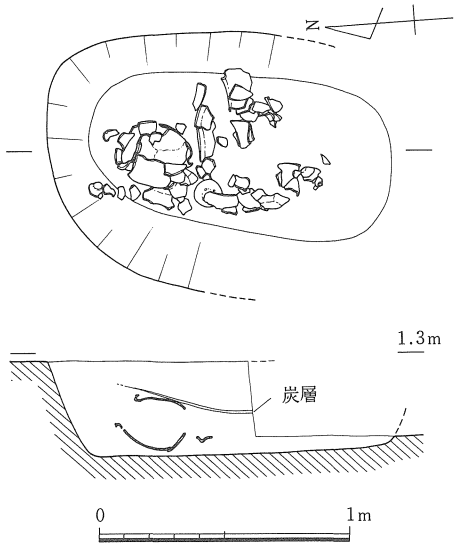
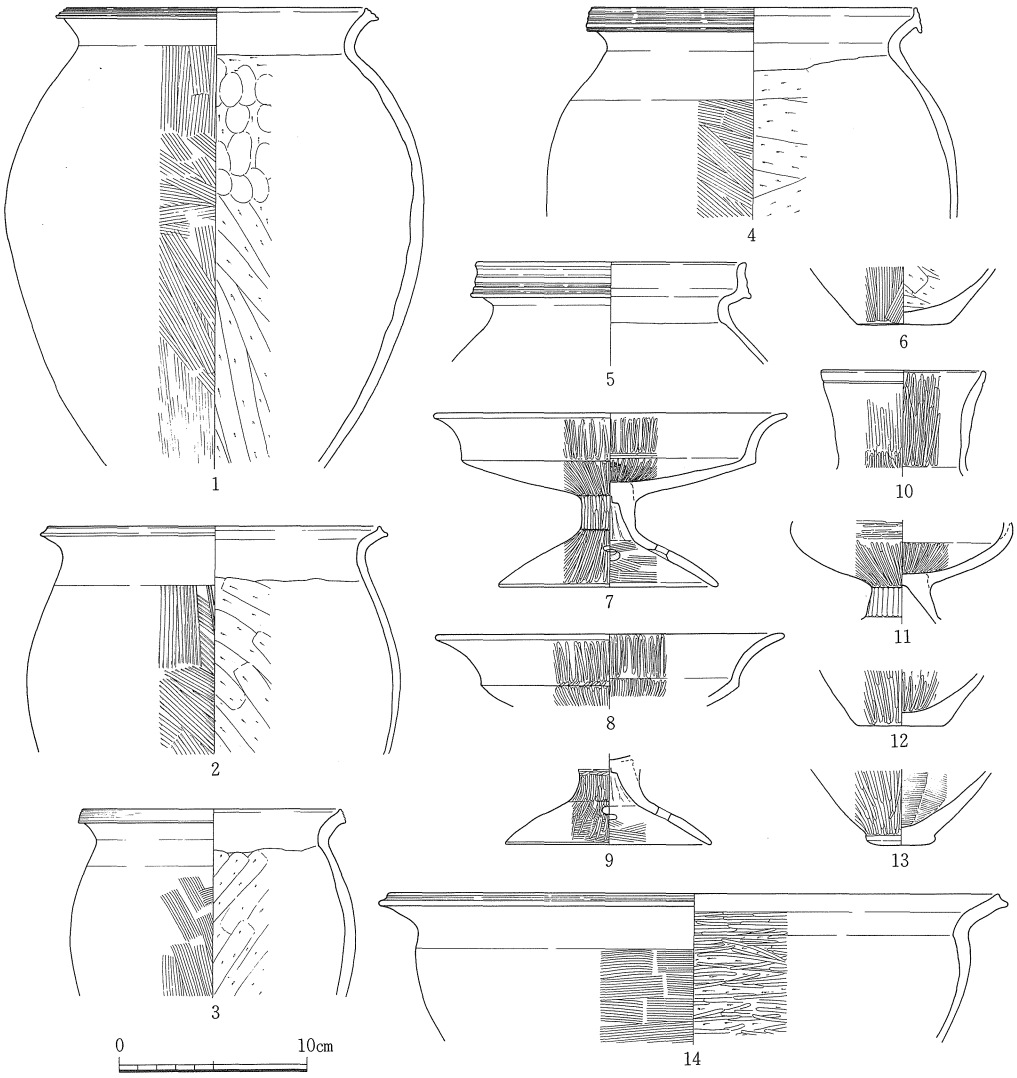


図169　土壙－38　縮尺 1/30



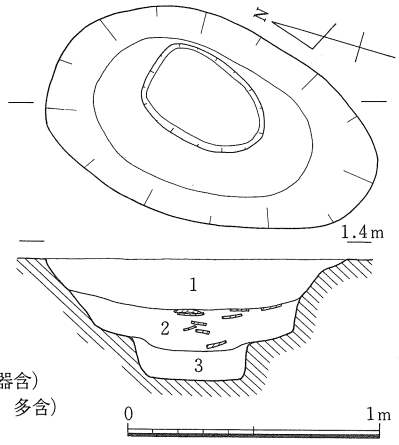
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	16.0	—	—	凹線3条，体部内面上半篦ケズリ後押圧，黒斑は対角線上に2ケ所，煤	内黄灰外淡赤褐	微砂，金雲母◎
2	〃	17.7	—	—	外面煤付着	淡黄褐	〃，〃
3	〃	13.8	—	—	口縁端面横ナデ時の工具痕による細い凹凸が廻る	明赤褐～明黄褐	微砂
4	〃	17.3	—	—	口縁端面凹線4条，黒斑	内淡乳白外黄褐	〃
5	〃	14.3	—	—	〃 〃 3条，体部内面磨滅で不明	内暗茶褐外淡灰褐	細砂
6	〃	—	5.0	—	外面浅いハケ，底部外面ナデ，外面ナデ，外面煤付着	内淡黄灰外淡灰褐	微砂
7	高杯形土器	18.7	11.7	9.2	杯部内面左上りの篦ミガキ後放射状篦ミガキ，口縁部の篦ミガキは波状	明褐	微砂◎，水漉粘土
8	〃	18.6	—	—	内外面篦ミガキ	赤褐	〃〃，〃
9	〃	—	11.0	—	脚裾部外面ハケ後篦ミガキ◎	黄褐～赤褐	〃〃，〃
10	台付直口壺形土器	8.8	—	—	内外面篦ミガキ	内明茶褐外黄褐	〃〃，〃
11	〃	—	—	—	体部内面上半・脚柱部内面ナデ，他は篦ミガキ	赤褐～暗褐	〃〃，〃
12	鉢形土器	—	4.6	—	底部外面ナデ，内面篦ケズリ後篦ミガキ，黒斑	淡黄灰	〃〃，〃
13	〃	—	3.6	—	〃 ，外面篦ミガキ，内面ハケ，〃	淡黄灰～灰褐	〃〃，〃
14	〃	32.6	—	—	体部内面篦ケズリ後篦ミガキ，外面黒斑，内面煤付着多量	淡赤褐～灰黄褐	〃〃，〃

図170　土壙－38　出土遺物　縮尺 1/4

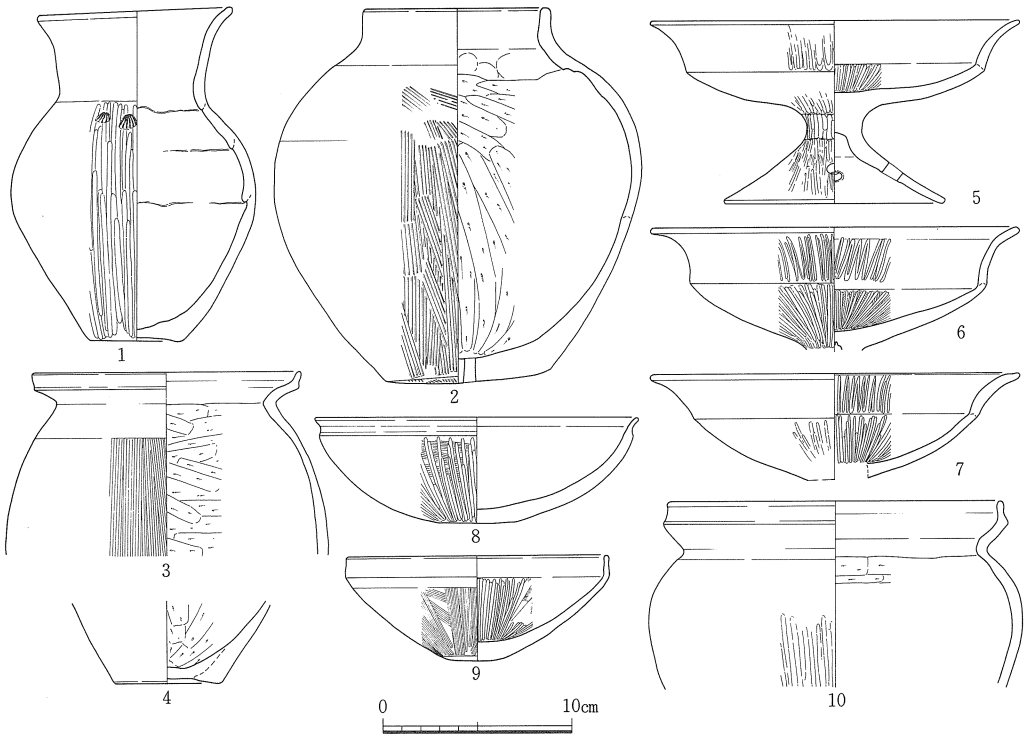
土壙－21（図171）

ＡＺ29～30区に位置する。平面形は長軸134cm，短軸81cmの長楕円形を呈し南北に軸をもつ。深さは検出面下48cm，標高85cmを測り，柱痕を持つ。２層中より壺等（１～10）が出土する。鹿田・後・３期に比定される。

土壙の性格は，時期・形状・底面高等の状態が土壙４とほぼ同じであることから，共に掘立柱建物を構成する柱穴の可能性が考えられる。



1　暗黄褐色砂質土（炭・焼土・土器含）
2　暗茶褐色　〃　（〃・〃・〃多含）
3　暗褐色粘質土

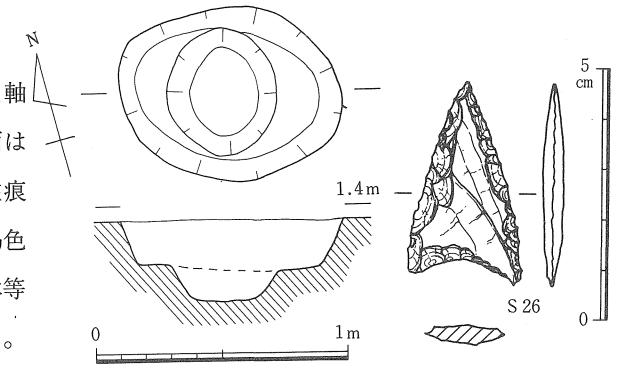


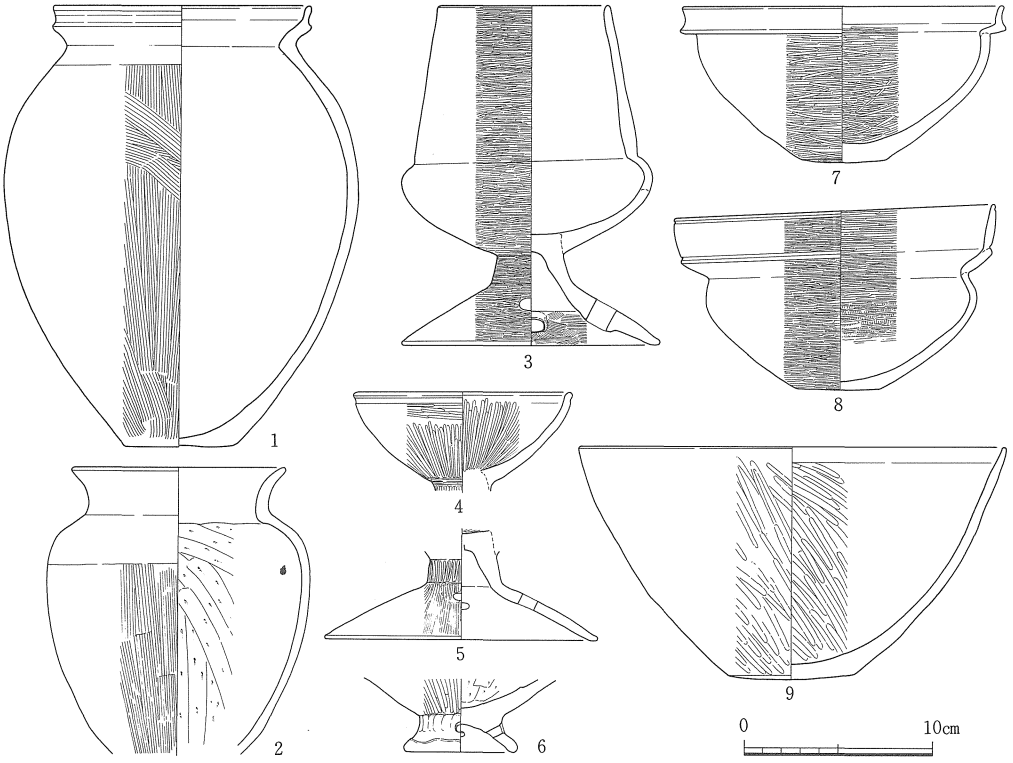
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	10.4	4.8	17.8	体部～底部外面篦ミガキ，内面押圧・ナデ，肩部に貝殻圧痕文２個	淡黄褐～淡黄灰	微～細砂
2	〃	9.9	8.6	19.9	底部ハケ・焼成前の穿孔，黒斑２ケ所，底部は8.5×7.8cmの楕円形	淡黄白～淡黄灰白	〃～〃
3	甕形土器	14.2	－	－	口縁部～肩部外面横ナデ，外面ハケ，内面篦ケズリ	明赤褐	微砂㋑
4	〃	－	5.5	－	外面磨滅で不明，底部外面篦ケズリ後ナデ，黒斑，煤付着	㈠明赤褐㈡赤褐	〃〃
5	高杯形土器	19.6	11.5	9.7	杯部外面の篦ミガキは磨滅で不鮮明，脚裾部外面ハケ後篦ミガキ	赤褐	〃
6	〃	19.4	－	－	杯部内面ハケ後篦ミガキ，口縁部は波状の篦ミガキ㋐，口縁端面横ナデ	淡黄褐	〃 ㋐，水漉粘土
7	〃	19.5	－	－	口縁端部に僅かに平坦面を有す，外面磨滅が進む，内面の篦ミガキは㋐	明褐	〃〃，〃
8	鉢形土器	17.2	4.0	5.6	内面丁寧なナデ，底部外面ナデ，外面ハケ後篦ミガキ	赤褐	〃〃，〃
9	〃	13.9	3.4	5.6	内面工具使用ナデが横位後放射状，後約⅓の部分に放射状篦ミガキ㋐	㈠明赤褐㈡淡黄灰	〃
10	〃	17.8	－	－	外面篦ミガキ，内面篦ケズリ（磨滅で不鮮明）	㈠淡赤褐㈡明赤褐	細～粗砂㋒，細礫

図171　土壙－21，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

土壙－50（図172，図版78－１）

ＡＺ30区に位置する。平面形は長軸90㎝，短軸70㎝の楕円形を呈す。底面は検出面下32㎝，標高102㎝を測り，柱痕を持つ。埋土は炭・焼土を含む暗灰褐色土で上半部に遺物が集中する。甕・鉢等（１～９），石鏃（Ｓ26）が出土する。鹿田・後・３期～４ａ期と考える。本土





遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	13.7	5.8	23.4	内面磨滅で不明，底部外面ナデ，外面煤，２次焼成痕による変色	明黄褐～淡灰白	微砂，金雲母
2	〃	11.3	－	－	底部外面肩部までナデ，以下は非常に浅いハケ・煤付着多量	淡黄褐	細砂
3	台付直口壺形土器	9.0	13.7	18.0	脚裾部内面細いハケ，その他の内面はナデ，外面篦ミガキは細密・鮮明	明褐	微砂㋑，精良
4	高杯形土器	11.6	－	－	口縁部横ナデ以外は篦ミガキ，外面煤	(内)暗灰褐(外)黄褐	〃 〃，〃
5	〃	－	14.4	－	脚部内面ナデ，脚裾部外面ハケ後篦ミガキ	黄褐	〃 ㋒，水漉粘土
6	台付鉢形土器	－	6.0	－	脚台部押圧・ナデ，円孔は対角線上に２個の可能性，台付壺の可能性あり	淡黄灰	微～細砂
7	鉢形土器	17.0	4.5	8.3	口縁部強い横ナデ，他は篦ミガキ（細密・鮮明）	黄褐～暗褐	微砂㋒，水漉粘土
8	〃	17.0	4.4	9.5	体部内面下半ハケ後篦ミガキ・底部付近は磨滅で不明，他は篦ミガキ	赤褐	〃 〃，〃
9	〃	22.6	6.6	12.4	口縁部横ナデ，底部外面丁寧なナデ，他は篦ミガキ，全体に不鮮明	淡黄褐	〃 ㋐，精良

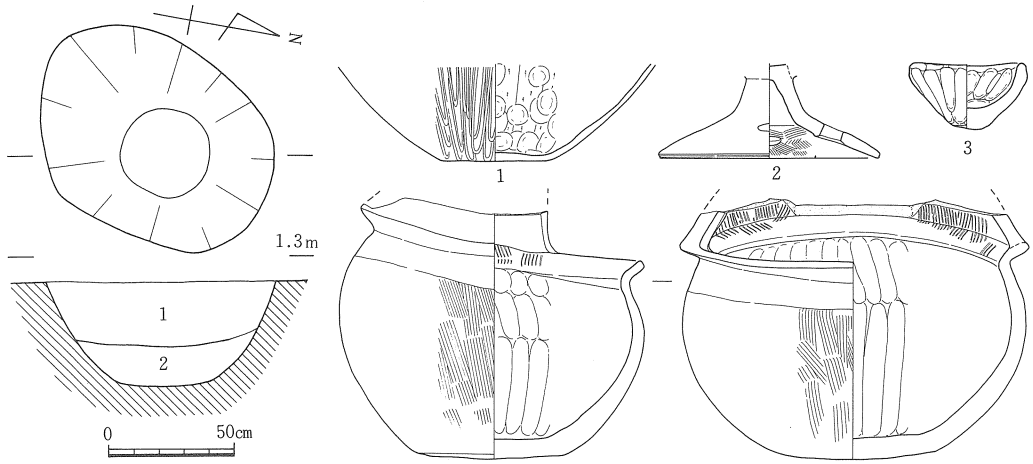
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
Ｓ26	石鏃	3.9	2.2	0.4	3.0	サヌカイト	浅い凹基，両面素材面残す

図172　土壙－50　出土遺物　縮尺 1/30，1/4・2/3（Ｓ26）

壙の性格は，前述の土壙４・21と同様に柱穴の可能性が考えられる。　（山本）

土壙－132（図173）

本土壙はＡＷ34区のほぼ中央に位置する。長径約100㎝，短径約80㎝の楕円形プランを呈し，深さは約42㎝を測る。本土壙は出土土器から鹿田・後・４ｂ期に属する。



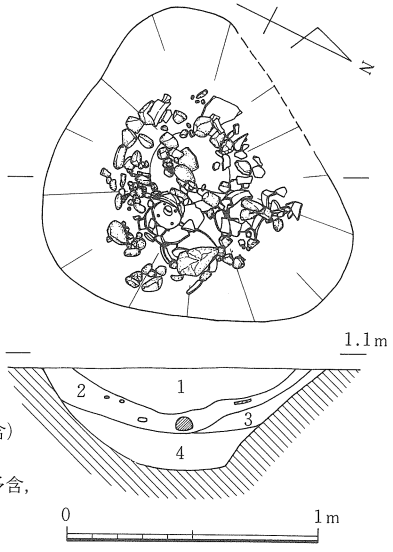
1　茶灰色土
2　暗灰褐色土

遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	－	5.4	－	体部・底部外面ナデ後篦ミガキ㊀，外面煤付着	内淡黄灰外黒褐	微～細砂
2	高杯形土器	－	11.8	－	外面磨滅で不明，脚柱部内面ナデ	赤褐	微砂㊁，水漉粘土
3	鉢形土器	5.9	1.5	3.5	手捏ね土器	淡黄褐	細砂
4	手焙り形土器	－	8.0	－	鉢部内面ナデ上げ・外面ハケ，蓋部外面ナデ・内面ハケ，黒斑２ケ所	明褐～赤褐	〃，赤色粒子

図173　土壙－132，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

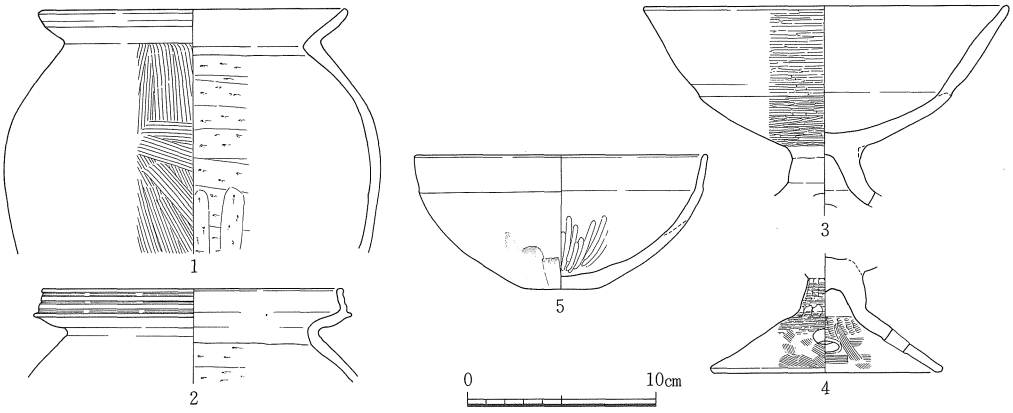
土壙－202（図174・175）

本土壙はＡＵ36区東南部から一部ＡＶ36区の北東端部にかけて位置している。平面形は南北径約120㎝，東西径約120㎝の不整形である。掘り方は摺鉢状に近く，検出面からの深さは約40㎝を測る。埋土は４層に分かれる。１・２層には焼土の量は少ないが，炭およびガラス滓がブロック状になって混在し，特に２層には炭・ガラス滓の量が多く大量の土器および角礫も含む。３層以下では土器，炭等は僅少である。また，径３㎜の淡青色を呈すガラス小玉が１点出土している。本土壙は出土土器から鹿田・後・４ａ期に属する。



1　茶褐色粘質土
（炭・ガラス滓含）
2　灰褐色粘質土
（炭・ガラス滓多含，
土器・角礫含）
3　茶灰色粘質土
4　灰茶色粘質土

図174　土壙－202　縮尺 1/30

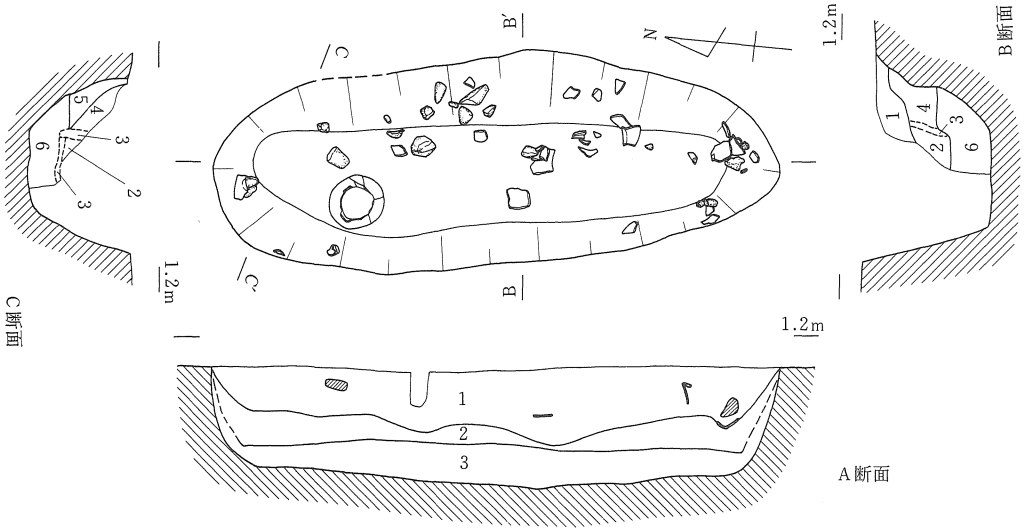


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	16.2	—	—	内面篦ケズリ，外面幅広のハケ・煤付着	明褐	微砂，金雲母
2	〃	15.9	—	—	口縁端面凹線3条，外面横ナデ，煤付着少量	明黄褐	〃，〃
3	高杯形土器	19.4	—	—	杯部内面・脚部外面磨滅で不明，脚部内面ナデ，杯部外面篦ミガキ	明茶褐	〃
4	〃	—	12.2	—	脚裾部ハケ後篦ミガキ（上半に鮮明）	明赤褐	精良，赤色粒子
5	鉢形土器	15.6	4.1	7.1	内面ナデ後篦ミガキ（不鮮明），外面非常に浅いハケ（不鮮明），黒斑	明黄褐	微砂◎，水漉粘土

図175　土壙－202　出土遺物　縮尺 1/4

土壙－230（図176・177）

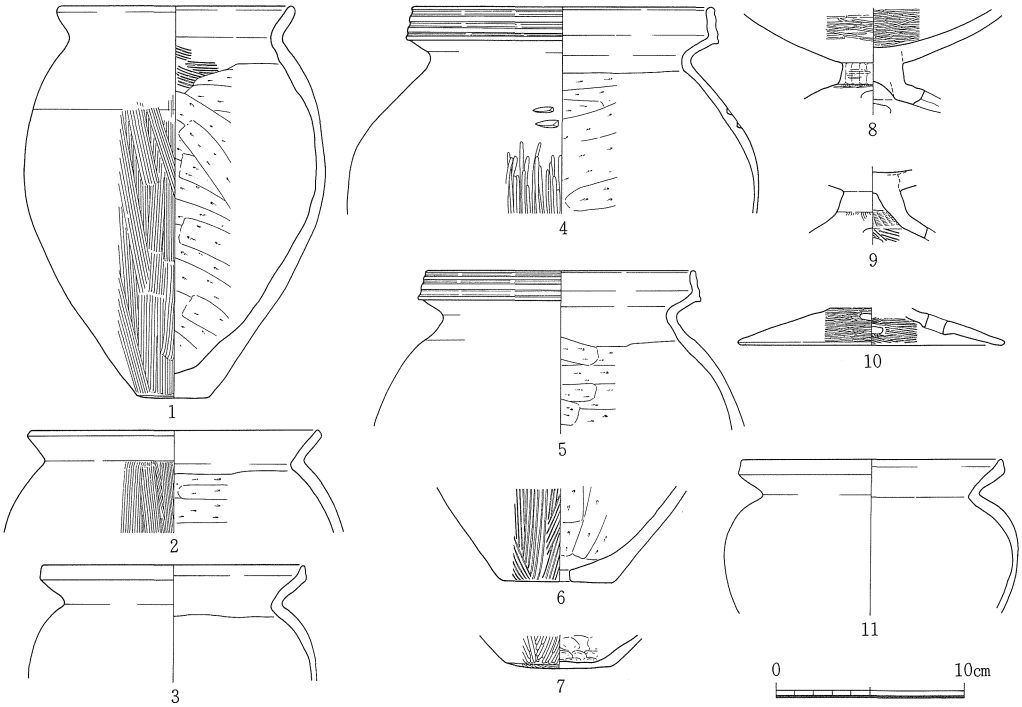
本土壙はＡＹ36区中央やや東北寄りに位置する。平面形は長径約230㎝，短径約80㎝の長方形に近い長楕円形であり，長軸はほぼ東西方向を向いている。底面は緩やかな凹凸があり，壁は比較的急に立ち上がっている。検出面からの深さは約47㎝前後である。埋土は６層に分かれ，



1　暗褐色土（礫・炭・焼土含）
2　灰褐色微砂質土
3　暗灰褐色粘土
4　淡灰褐色微砂質土（炭・焼土少含）
5　灰褐色微砂質土　（〃・　〃　）
6　明灰褐色粘質土　（〃・　〃　）

図176　土壙－230　縮尺 1/30

埋土の検討から，本土壙は木棺墓の可能性が認められる。1層は暗褐色土で若干の土器片や角礫を混在している。下面に大きな凹凸があり，木棺棺蓋崩壊後の流入土の可能性があろう。2層の灰褐色微砂土は木棺内の埋土かと推定され，下面は平坦である。土器は少ないが北側で完形に近い甕が直立して出土している。3層は面的には確認できていないが横断面では垂直および水平に認められる層厚3～5㎝前後の暗灰褐色粘土であり，木棺痕跡である可能性が考えられる。4層および5層は木棺の裏込め土と推定され，遺物は含まない。6層の明灰褐色粘質土は炭・焼土を少量混在するが，土器は含まず，土壙掘削後，木棺設置のため埋め戻されたものと思われる。本遺構は出土土器から鹿田・後・4期に属する。



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	12.7	3.8	20.8	内面篦ケズリ，外面ハケ，底部外面ナデ，外面煤付着	明灰褐～暗褐	粗砂
2	〃	15.4	—	—	内面篦ケズリ，外面ハケ，黒斑	内明黄白外淡灰褐	微～細砂
3	〃	14.0	—	—	内外面磨滅により不明	内淡灰白外灰褐	〃～〃㉔
4	〃	16.1	—	—	口縁端面凹線3条，肩部刺突文1ケ所	褐	細砂
5	〃	14.3	—	—	〃 ，〃 の有無は不明，外面煤付着	明赤褐	〃
6	〃	—	6.0	—	外面幅広のハケ，底部外面ナデ，焼成前の底部穿孔，外面煤付着	内淡灰白外淡赤褐	〃
7	〃	—	5.6	—	底部外面平行篦ミガキ，外面煤付着	黒褐	微砂
8	高杯形土器	—	—	—	外面磨滅で不鮮明	淡乳白～明赤褐	微砂㊽，水漉粘土
9	〃	—	—	—	杯部内面放射状篦ミガキ，外面磨滅で不鮮明	明赤褐	〃㉔，精良
10	〃	—	14.1	—	内面ハケ，外面篦ミガキ	〃	〃㊽，水漉粘土
11	鉢形土器	13.9	—	—	磨滅・剝離で調整不明	淡乳黄灰	細砂㉔

図177　土壙－230　出土遺物　縮尺 1/4

d．土　器　溜　り

土器溜り－1（図178～183，図版75）

図178　土器溜り－1－(1)　縮尺 1/30

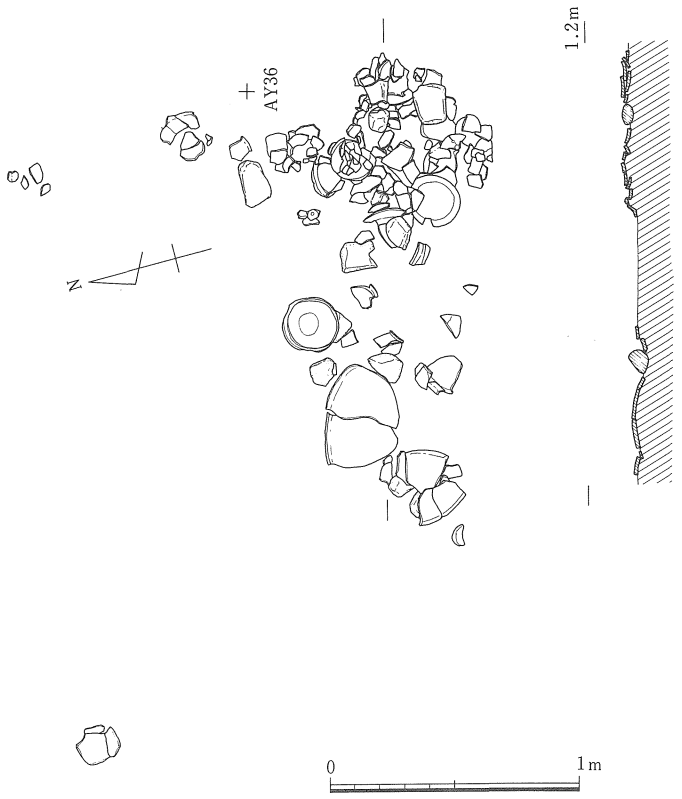
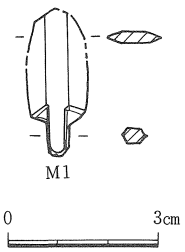


図179　土器溜り－１－(2)　縮尺 1/30

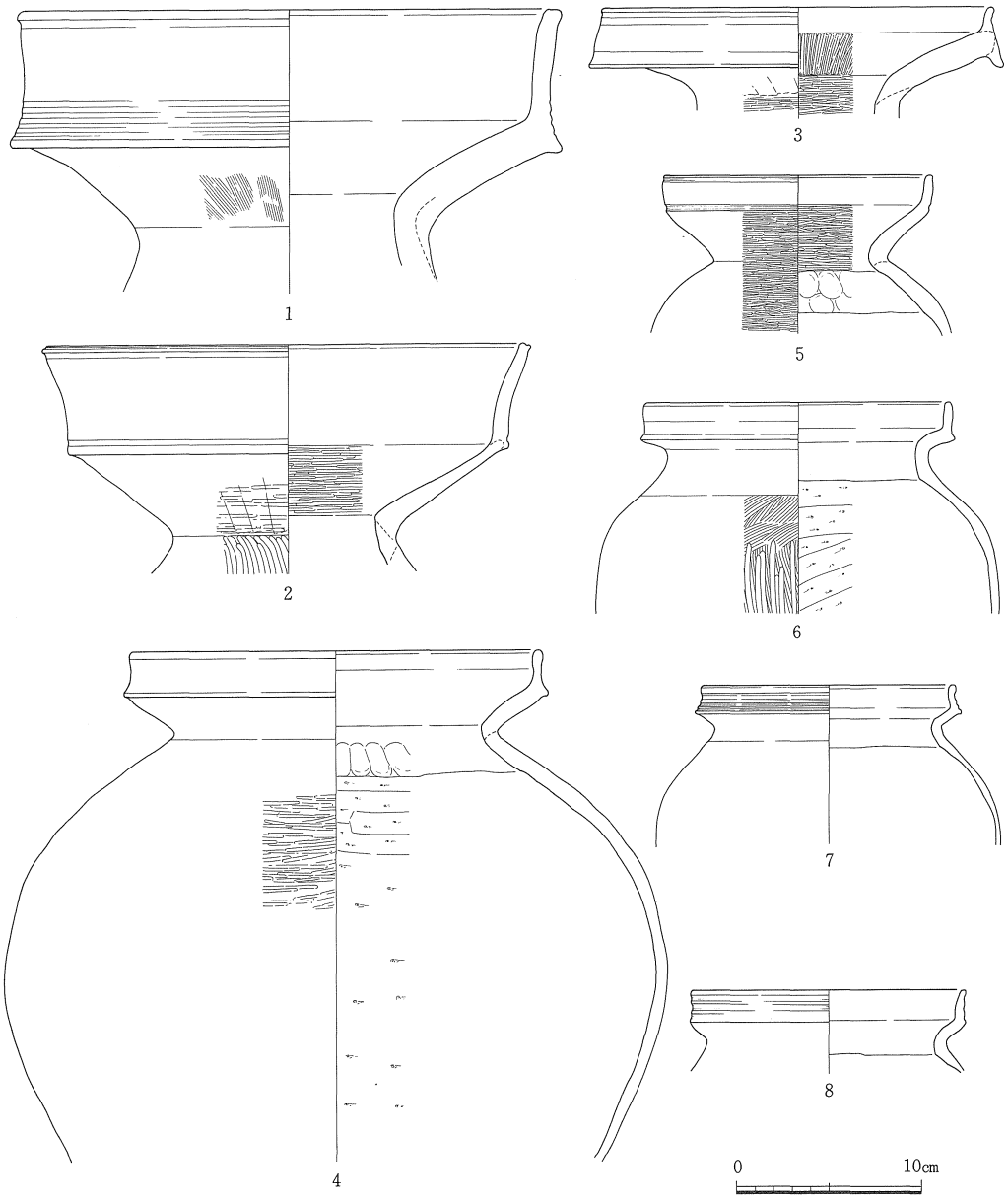
本遺構は，主としてＡＹ36区の東北部からＡＹ37区の南部にかけて検出した土器溜りである。西南端は中世の溝によって破壊されたものとみられ，一方，東北端はほぼＡＹ36区の東北端部まで断続的に多量の土器を中心とした遺物の分布が認められる。現状においては，遺物の分布は，西南から東北方向に，幅1.2ｍ～2.3ｍ前後，長さ10ｍ前後に及び，若干の部分的なまとまりが認められる。遺物の検出レベルは西南側では，標高1.4ｍ前後，東北側では1.1ｍ前後を測り，両端では30㎝前後の比高差が存在している。

以上のように遺物の分布が，帯状を呈し，その両端で比高差が存在することから，本土器溜りは，西南から東北方向に走る溝中に大量の遺物が投棄されたものである可能性が高い。しかしながら，平面および土手断面においても明瞭な溝の掘り方は確認できなかったため，ここでは，土器溜り



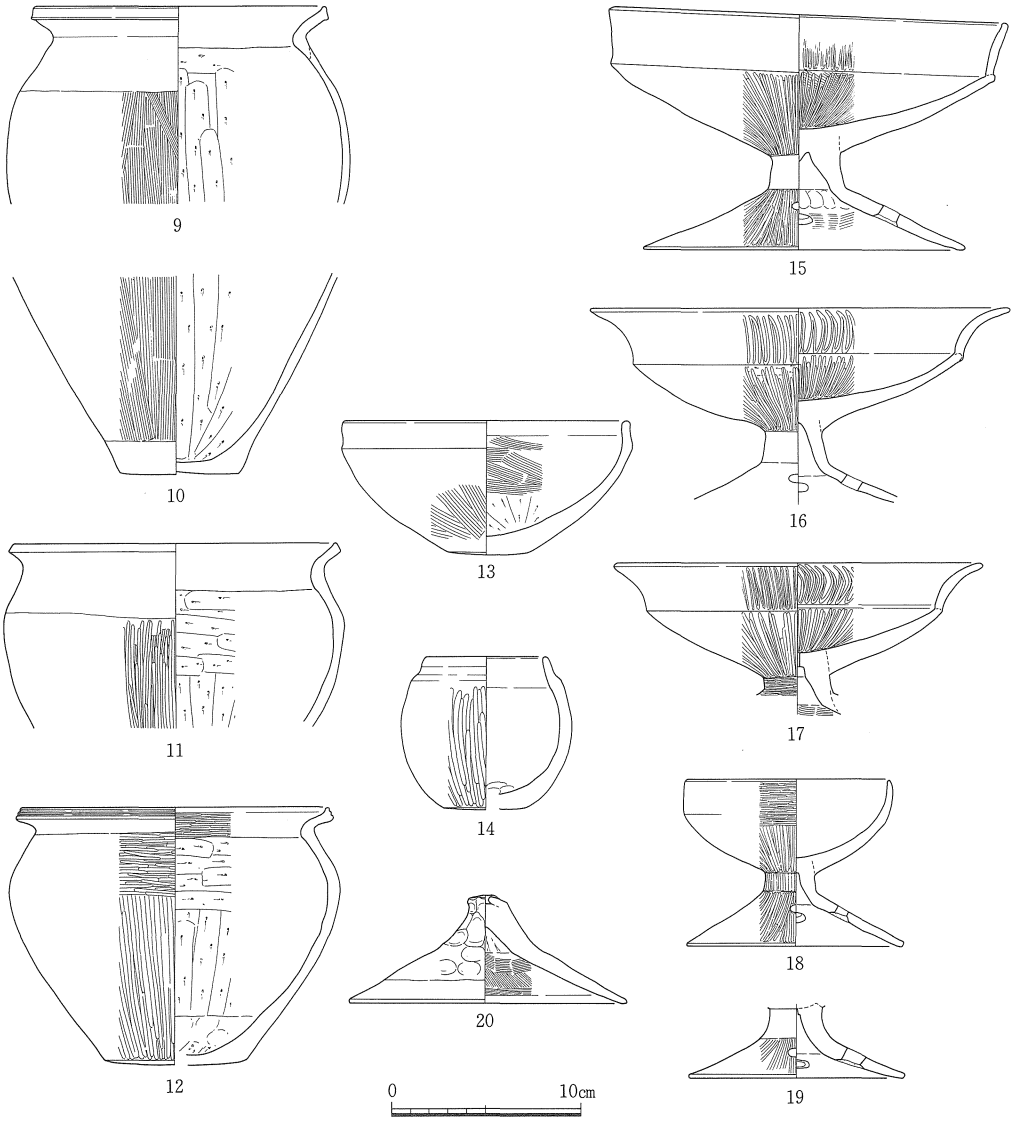
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
M1	銅鏃	2.9	1.3	0.3	1	青銅	茎部両端にバリあり

図180　土器溜り－１　出土遺物(1)　縮尺 2/3



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	29.1	—	—	全体的に磨滅で不鮮明	乳黄褐	粗砂◎
2	〃	26.0	—	—	口縁部内面一方向の篦ミガキ	〃	細砂～粗砂
3	〃	21.1	—	—	内面篦ミガキ，外面一部にハケ痕残存	淡黄白	微砂
4	〃	22.2	—	—	外面剝離で不鮮明，一部に篦ミガキ残存，黒斑	淡黄褐	細～粗砂◎
5	〃	14.6	—	—	体部内面下半篦ケズリ，外面篦ミガキ	明赤褐～黄褐	微砂◎，精良
6	甕形土器	16.5	—	—	外面煤付着，外面ハケ後篦ミガキ，内面篦ケズリ	暗赤褐	細砂
7	〃	13.8	—	—	口縁端面凹線３条，全体に磨滅で不明，外面煤付着	赤褐	微～細砂
8	〃	14.9	—	—	〃 , 〃 , 〃	明黄褐	微砂◎

図181　土器溜り－１　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
9	甕形土器	15.6	—	—	口縁部から肩部外面横ナデ，外面ハケ，内面篦ケズリ	(内)淡灰褐(外)赤褐	細砂㊂
10	〃	—	6.4	—	底部外面丁寧なナデ，外面煤付着，黒斑	(内)黒灰(外)赤褐	微砂㊂
11	鉢形土器	17.3	—	—	体部外面ハケ後篦ミガキ，黒斑	淡赤褐	微～細砂
12	〃	16.5	7.5	13.7	体部外面・口縁部内面篦ミガキ，底部外面ナデ，黒斑	明赤褐	〃～〃
13	〃	15.2	4.3	7.1	底部外面篦ケズリ後ナデ，外面ナデ	淡黄灰	〃～〃㊂
14	〃	6.5	4.5	8.1	底部外面篦ケズリ後篦ミガキ，内面ナデ	淡黄灰	細砂㊂
15	高杯形土器	21.1	17.2	12.8	脚柱部外面磨滅で不明，脚裾外面・杯受部内面ハケ後篦ミガキ	明赤褐	微砂㊀，精良
16	〃	22.4	—	—	脚部磨滅で不明，杯部篦ミガキ（口縁部は波状）	〃	〃〃，〃
17	〃	19.6	—	—	口縁部煤付着，杯部篦ミガキ（口縁部は波状）	暗赤褐	〃〃，〃
18	〃	11.0	11.6	8.9	内面ナデ，外面篦ミガキ	明赤褐	〃㊁，水漉粘土
19	〃	—	11.6	—	全体的に磨滅で不明	淡黄褐	〃㊀
20	蓋形土器	14.8	—	5.8	天井部はつまみ成形，外面押圧・ナデ，内面ハケ	(内)淡黄褐(外)淡赤褐	〃，雲母㊀

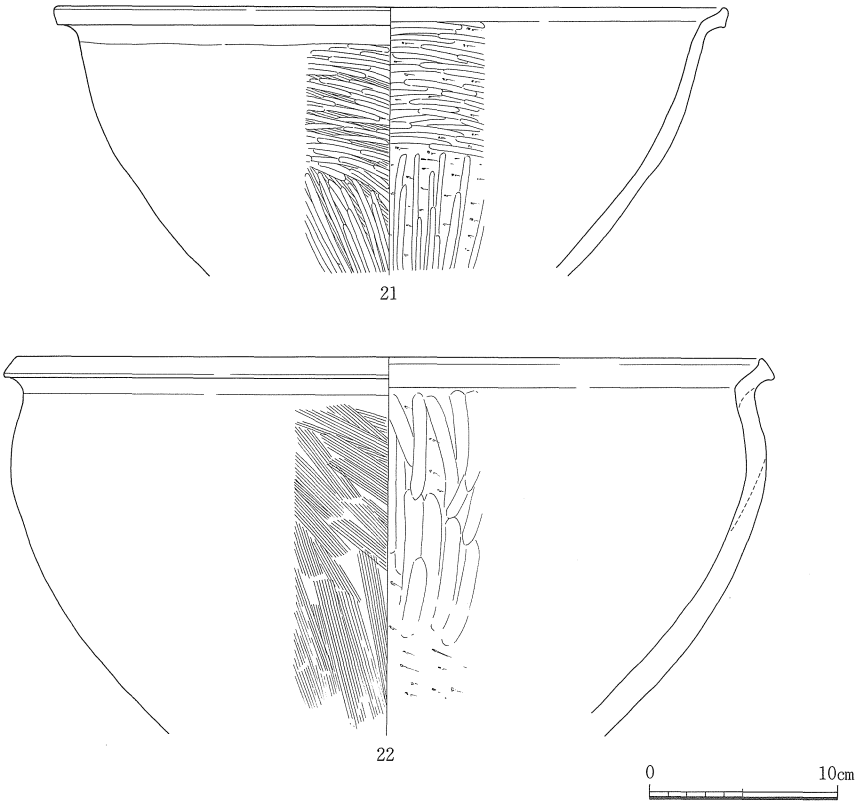
図182　土器溜り－1　出土遺物(3)　縮尺 1/4

としておく。

本土器溜りからは，１点の銅鏃（Ｍ１）が出土している。出土土器には，壺（１～５），甕（６～10），鉢（11～14・21・22），高杯（15～19），蓋（20），などがあり，質量ともに豊富である。

既述のように，土器の出土状況には，若干の部分的なまとまりがあり，また，出土土器には，多少の時期幅が存在するとみられることから，遺物の分布から存在が推定される溝は，若干の時期幅をもって存続し，土器を中心とした遺物の集中的な投棄地点は時期ごとに若干移動した可能性が推定される。

本遺構出土土器には，若干の時期幅があるが，鹿田・後・３期に属する。（栄）



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
21	鉢形土器	35.9	－	－	内面篦ケズリ後篦ミガキ，外面ハケ後篦ミガキ	明赤褐～淡灰褐	細砂◎
22	〃	39.9	－	－	〃　後幅広い篦ミガキ，黒斑	明黄褐～明赤褐	微～細砂◎

図183　土器溜り－１　出土遺物(4)　縮尺 1/4

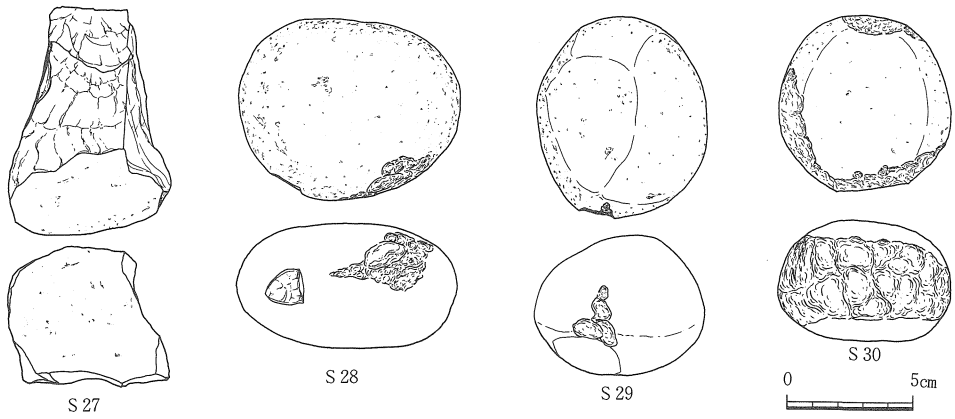
土器溜り－2（図184～190，図版22・80－2・81－1）

調査区北東隅のＡＵ・ＡＶ28・29に位置する。東半部は攪乱穴2ヶ所に大きく削平される。

本遺構は掘り方を有さないため，遺物の分布範囲によって平面形を把握した。その範囲は東西500cm，南北350cm（残存）を測り，北は調査区外に延びる。

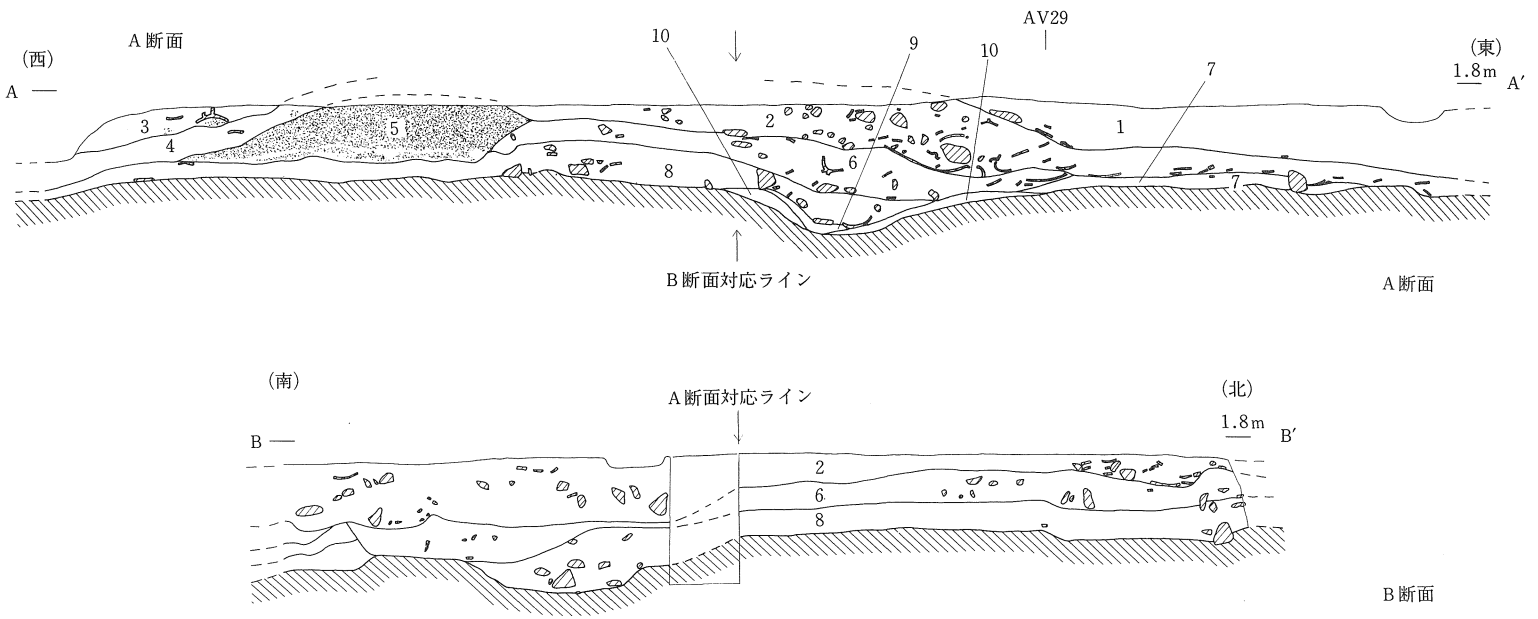
Ａ断面はＡＶ線上，Ｂ断面は29線の西1ｍにおける南北方向の堆積状態を各々示している。遺物出土の最上レベルは標高180cmである。上面の遺物分布範囲は径1ｍ前後であるが，下方に向ってその範囲を広げる（図185―Ａ断面2層）。遺物の最大集積地点（遺構の中心）は東西軸では29線から西へ1.5ｍの間，南北軸ではＡＶ線より北側の調査区端に存在する。Ａ断面では約20cm程度掘り凹められた地山上に遺物・礫等が盛上げながら廃棄された状況がみられる（2～8層）。厚さは中心部で50cm以上に達す。中心から周囲に向って遺物は急激に減少する。貝層（5層）も詳細な観察の結果，一度の堆積ではなく2～8層の各形成時に伴って随時廃棄されたものと判断された。厚さ20数cm，径0.9×1.5ｍの範囲に集積する貝は多量のハイガイのほかにヤマトシジミ，マガキ，ヘナタリが含まれる。また，炭・焼土の包含量は非常に少ない。Ｂ断面の南側では別遺構との重複関係が認められるが，非常に不明瞭である。

出土土器は膨大な量にのぼり，一部の壺・甕・高杯・鉢・小形器台・手焙り形土器等（1～48）のみをあげたが，他にも実測可能なものが多量に残されている。石器（Ｓ27～30）は上面から一括出土しており，敲石・磨石が3個づつである。壺（8）は丁寧な作りの丹塗り土器である。また，甕（18～21）はいずれも茶褐色で雲母を多く含む胎土等から，搬入品と考えられる。その他に手焙り形土器が4個体分確認される。その内1点は口縁部に線刻をもつ。



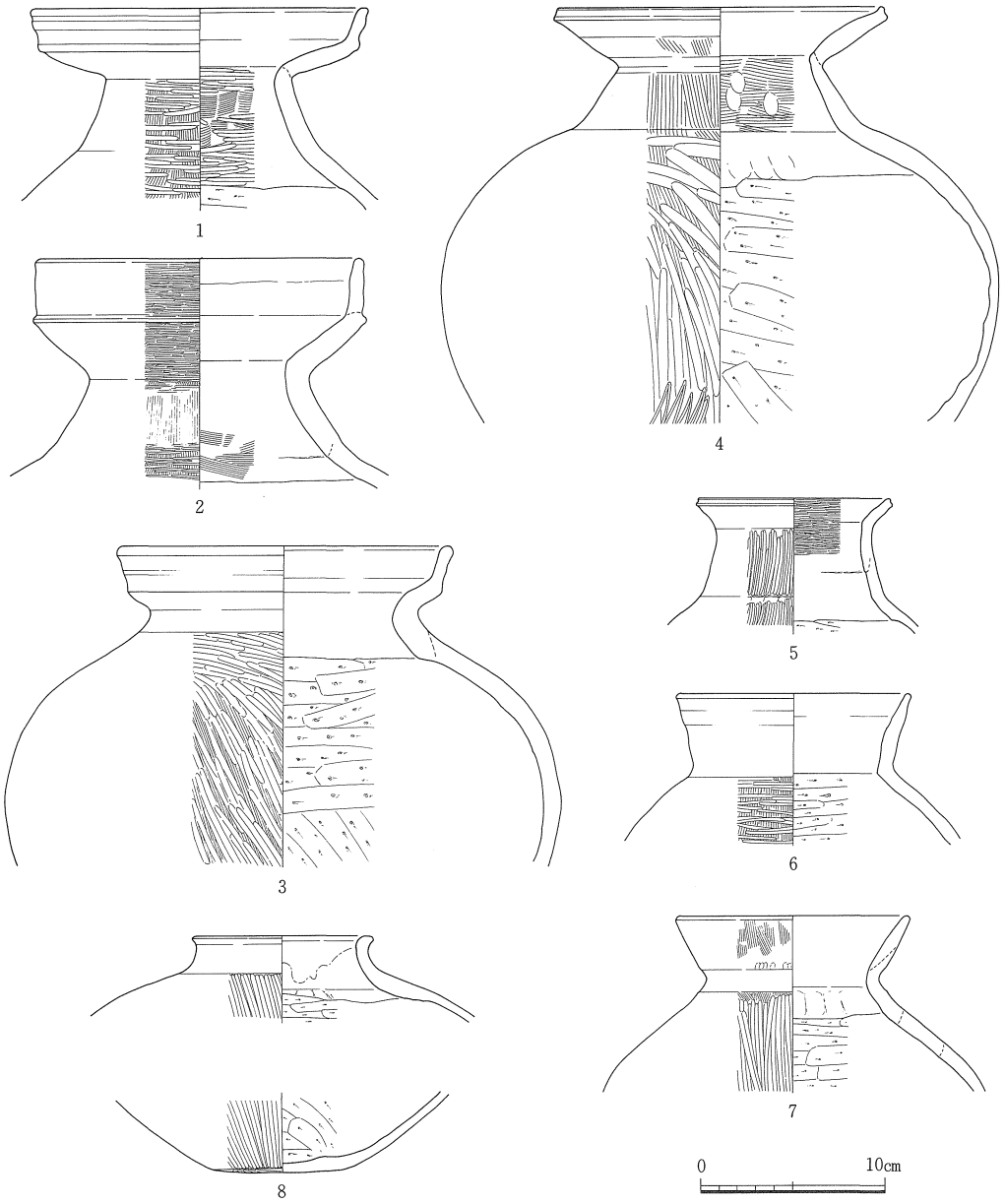
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
Ｓ27	磨石	9.4	6.4	5.3	405.0	斑糲岩	欠損品
Ｓ28	敲石	8.9	7.1	4.9	460.0	流紋岩	側面に一部敲打痕
Ｓ29	〃	8.0	6.8	5.7	405.0	〃	一端に敲打痕
Ｓ30	〃	7.1	6.8	4.8	330.0	〃	側面部に敲打痕

図184　土器溜り－2　出土遺物(1)　縮尺 1/3



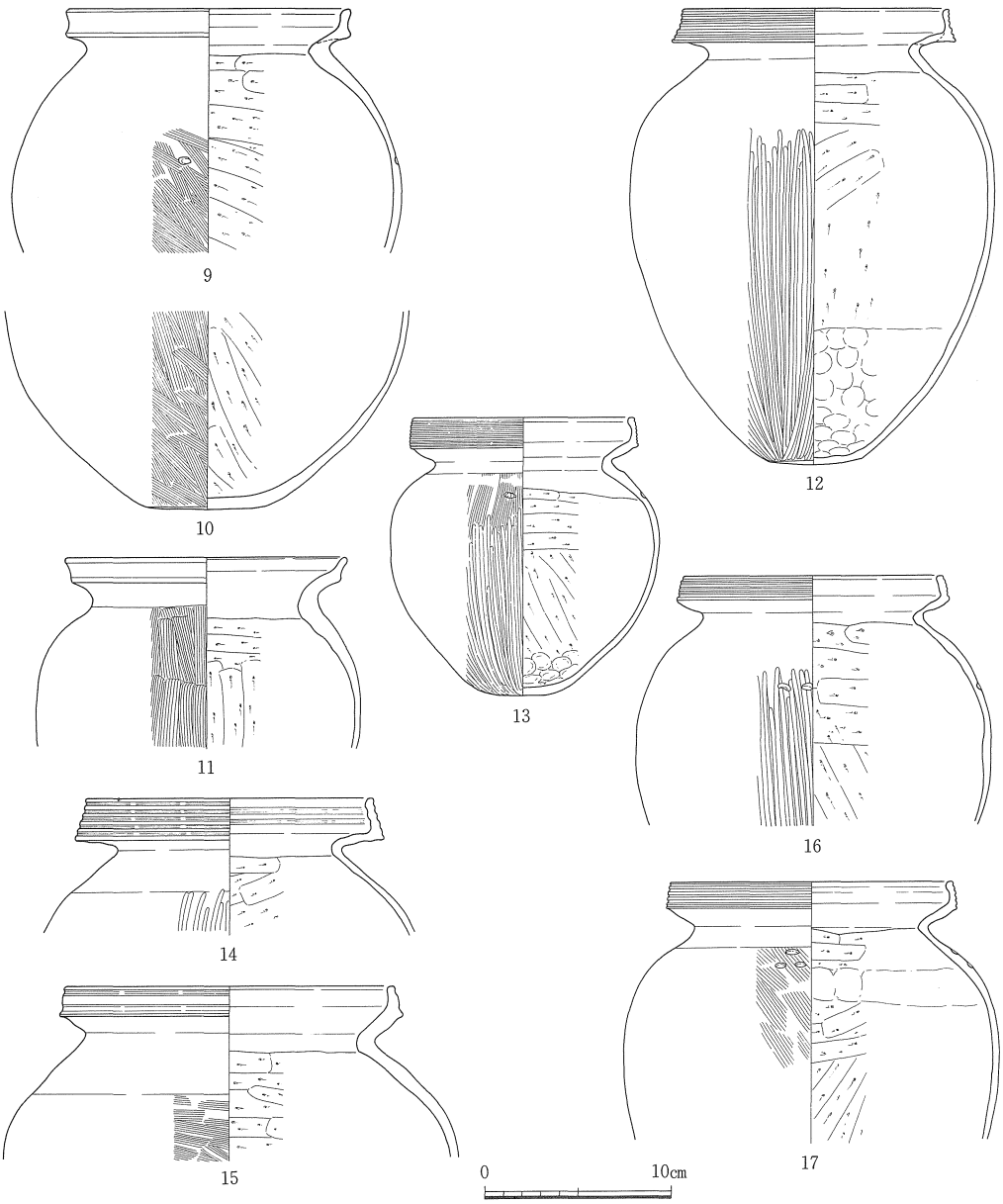
1　灰褐色粘質土　(土器含)
2　淡灰褐色粘質土(〃 多含)
3　淡褐色粘質土　(〃 含・貝少含)
4　淡灰褐色粘質土
5　貝　層
6　暗茶褐色粘質土(土器多含)
7　淡茶褐色粘質土
8　茶褐色粘質土　(土器多含)
9　暗茶褐色粘質土
10　茶褐色粘質土

図185　土器溜り－2　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	18.1	—	—	頸部内面ハケ後篦ミガキ	褐	微砂
2	〃	17.6	—	—	口縁部内面押圧・横ナデ，頸部外面縦位の調整痕あるが不鮮明	淡乳黄灰	〃
3	〃	18.1	—	—	体部外面ハケ後篦ミガキ・黒斑	淡黄灰～淡黄白	細礫
4	〃	17.7	—	—	口縁部は上方に立上る可能性あり，体部外面ハケ後篦ミガキ	淡黄褐	細砂
5	〃	10.4	—	—	頸部内面ナデ，体部外面縦位篦ケズリ後篦ミガキ	淡乳黄灰～赤褐	微～細砂
6	〃	12.6	—	—	口縁部横ナデ，外面ハケ後篦ミガキ	明茶褐	粗砂㊎
7	〃	12.6	—	—	口縁部外面ハケ後横ナデ，体部外面ハケ後篦ミガキ	明黄褐	微～細砂
8	〃	9.7	7.7	—	底部以外の外面から頸部内面まで丹が厚く塗られる，底部外面篦ミガキ	茶褐，丹は赤褐	細砂，赤色粒㊎

図186　土器溜り－2　出土遺物(2)　縮尺 1/4

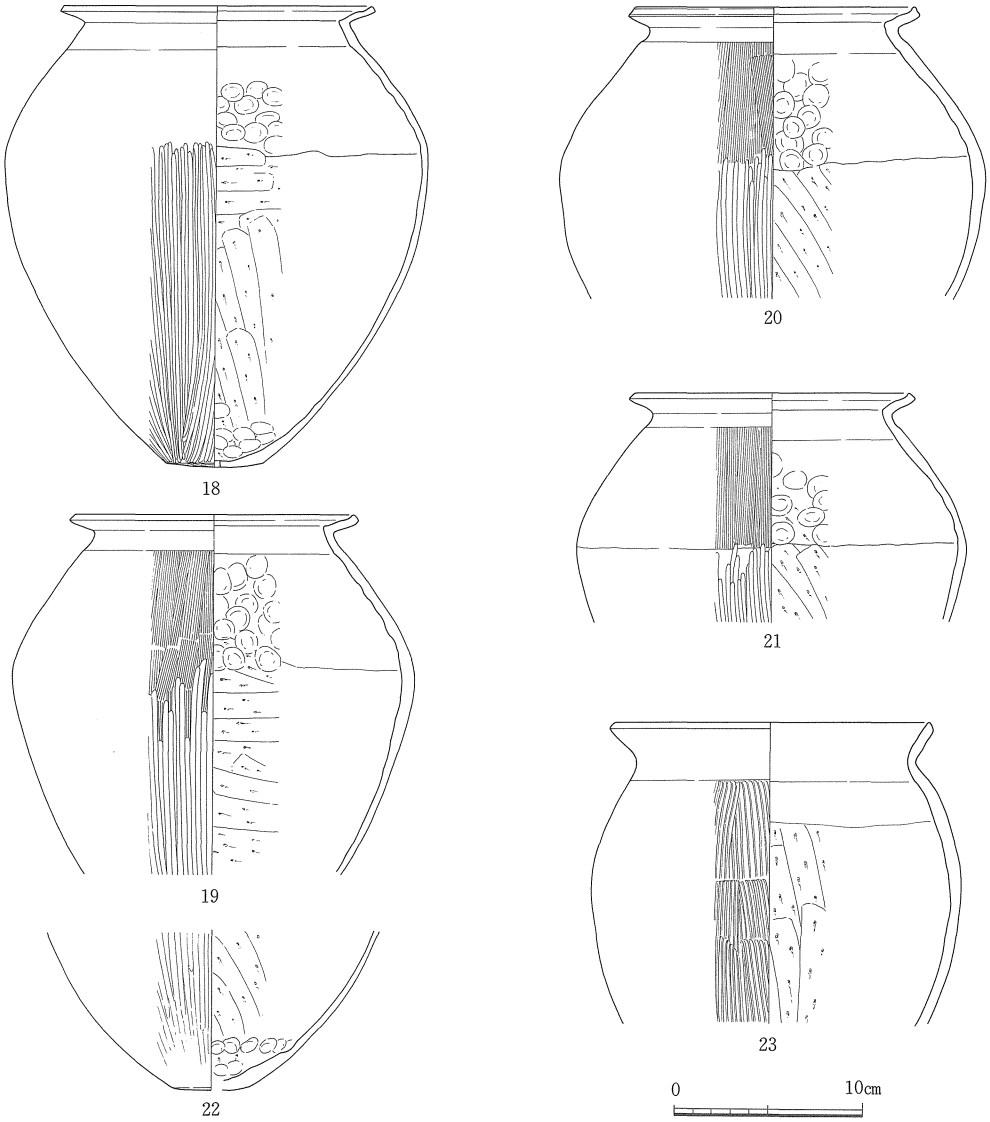


遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
9	甕形土器	15.3	—	—	肩部外面磨滅で不明，No10と同一個体の可能性あり，刺突文1ケ所	淡乳黄灰	細砂
10	〃	—	6.4	—	底部外面ナデ，No 9と同一個体の可能性あり	〃	〃
11	〃	15.2	—	—	外面煤付着・剝落あり	暗赤褐	細～粗砂
12	〃	14.3	5.0	24.6	底部外面ナデ，肩部の刺突文なし，外面・内面体部下半煤付着	淡黄灰～淡灰褐	微～細砂
13	〃	11.8	2.5	14.9	〃　箆ミガキ，櫛描沈線8条，外面煤付着，肩部の刺突文1ケ所	淡黄褐～淡灰褐	〃～〃
14	〃	15.5	—	—	口縁端面凹線5条，口縁部内面凹線2条	淡黄褐	微砂
15	〃	17.8	—	—	口縁端面凹線2条，壺形土器の可能性あり	黄褐	微～細砂，赤色粒
16	〃	14.0	—	—	櫛描沈線5条，体部外面ナデ後箆ミガキ，外面煤付着，刺突文有り	淡灰褐	〃～〃
17	〃	15.3	—	—	〃　，体部外面煤等で不鮮明，3個の刺突文1ケ所	淡黄褐	〃～〃

図187　土器溜り－2　出土遺物(3)　縮尺 1/4

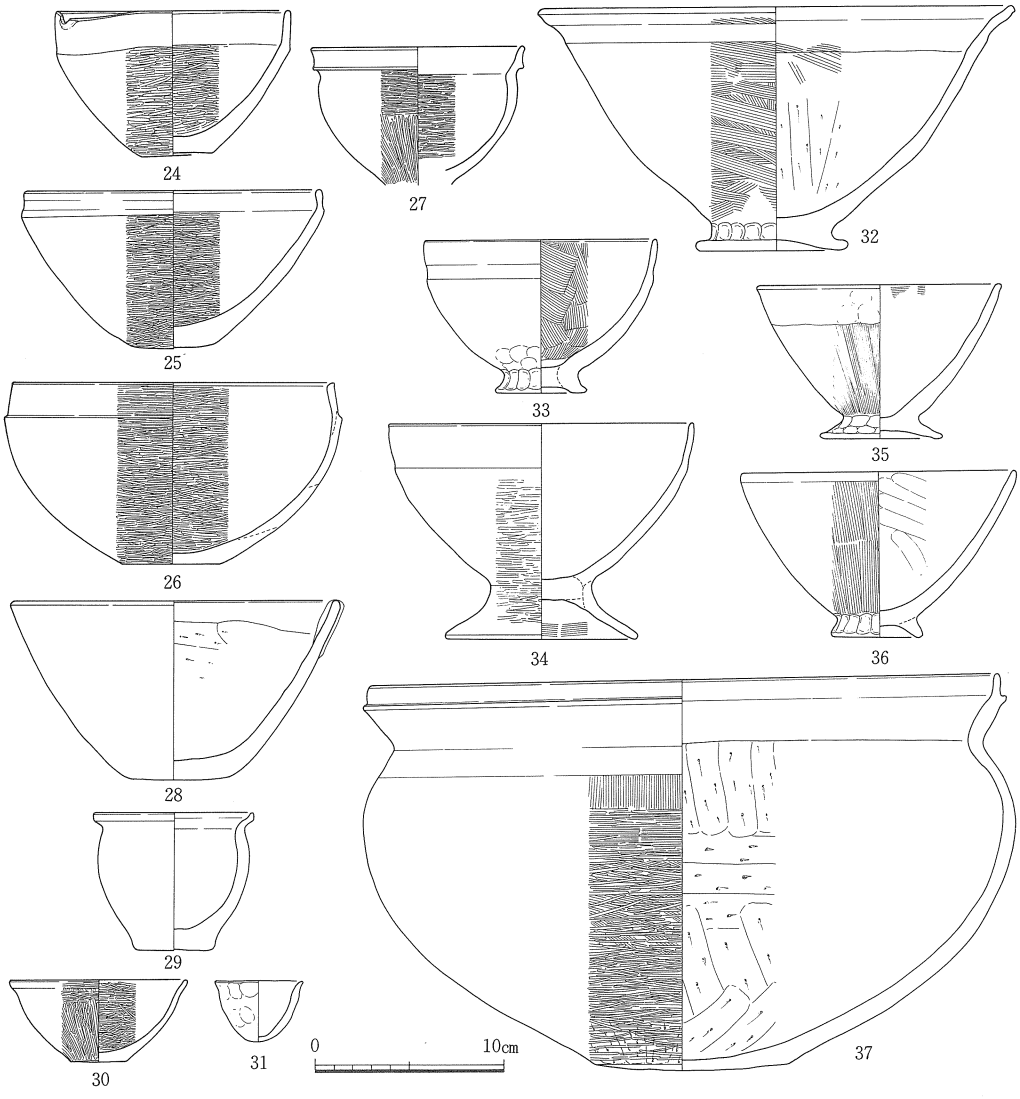
時期は，鹿田・後・４期～古・１期である。

本遺構は微高地中心部に位置する点，遺物の量の多さと特異性（高杯・鉢類・搬入品の多さ，手焙り形土器・丹塗り土器の存在等），長期間に及ぶ使用等から、他の土器溜りに比べ集落内で際立つ存在が想定される。（山本）



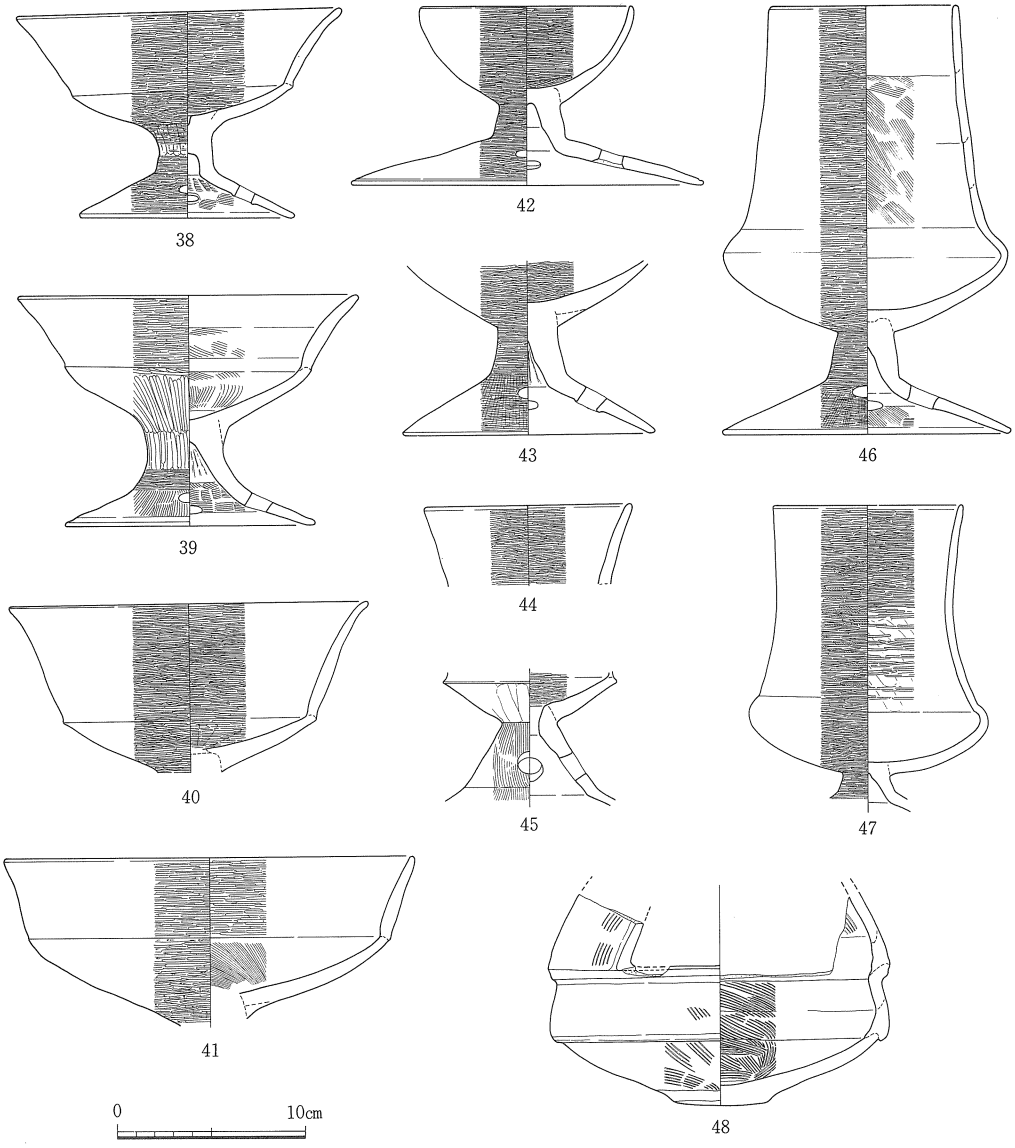
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
18	甕形土器	16.4	5.0	24.5	肩部外面丁寧なナデ，底部外面篦ミガキ，焼成前の底部穿孔，外面煤付着	茶褐	微砂，金雲母
19	〃	14.8	—	—	外面ハケ後篦ミガキ，肩部内面押圧，外面・内面下半煤付着・外面剝落	暗赤褐～茶褐	〃，〃 ◎
20	〃	14.8	—	—	体部外面下半丁寧なナデ後篦ミガキ（疎密あり）・煤付着	茶褐	〃，〃 〃
21	〃	14.7	—	—	〃 ，外面煤付着，底部外面押圧	明茶褐	〃，〃 〃
22	〃	—	4.0	—	外面煤付着・剝落のため調整不鮮明	茶褐	〃，〃 〃
23	〃	16.6	—	—	体部外面幅広のハケ・煤付着，口縁部横ナデ，内面篦ケズリ	淡黄灰	細礫，赤色粒

図188　土器溜り－２　出土遺物(4)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
24	鉢形土器	12.6	3.9	7.7	体部内面・底部外面篦ケズリ後篦ミガキ，黒斑，打欠きによる片口部有り	淡赤褐～黄褐	微砂㊇，水漉粘土
25	〃	15.9	4.4	8.4	体部内面篦ミガキ	淡乳黄褐	微～細砂
26	〃	17.3	5.2	9.6	内外面篦ミガキ	明黄～明赤褐	微砂㊇，水漉粘土
27	〃	11.2	—	—	体部内面篦ケズリ後篦ミガキ	淡黄灰	細砂㉖，精良
28	〃	17.5	5.5	9.6	内面篦ケズリ後ナデ，黒斑，口縁部に補修用粘土の張付け１ケ所	赤褐～明褐	微砂，赤色粒㉙
29	〃	8.5	4.2	7.2	内外面ナデ	赤褐	〃 ㉙
30	〃	9.5	3.1	4.4	内外面篦ミガキ	暗茶褐	〃 ㊇，水漉粘土
31	〃	4.6	0.9	3.3	手捏ね土器，黒斑	明茶褐	細砂
32	台付鉢形土器	25.1	7.9	13.0	体部内面篦ケズリ後ナデ，底部外面ハケ	淡乳赤褐～淡黄褐	微砂㊇，水漉粘土
33	〃	12.4	4.9	8.1	外面ナデ・押圧	黒褐	〃 ㉖，〃
34	〃	16.3	10.3	11.1	内面丁寧なナデ，全体的に磨滅で不鮮明	明赤褐	〃 ㊇，〃
35	〃	13.0	6.5	8.2	内面工具使用ナデ，底部外面ハケ，口縁部煤付着	褐	細砂
36	〃	14.6	4.9	8.8	台部ナデ，体部内面幅広い篦ミガキあるいは丁寧なナデ	淡乳黄褐～淡黄灰	微砂
37	鉢形土器	33.6	10.6	21.0	体部外面ハケ後篦ミガキ，底部外面篦ケズリ，黒斑	淡赤褐	細砂

図189　土器溜り－２　出土遺物(5)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
38	高杯形土器	17.2	11.4	11.0	杯受部外面篦ケズリ後篦ミガキ	(内)淡黄褐(外)赤	微砂㋑, 精良
39	〃	18.1	13.4	12.3	杯部内面ハケ後部分的に横ナデ	明黄褐	微～粗砂
40	〃	18.9	—	—	杯受部内面ハケ後篦ミガキ, 脚部との接合部に刻み目残存	明赤褐	微砂㋺, 水漉粘土
41	〃	21.7	—	—	杯受部外面篦ケズリ後篦ミガキ, 内面ハケ	〃	〃 〃, 〃
42	〃	11.3	18.7	9.5	脚部内面ナデ, 篦ミガキは細密・丁寧, 内外面丹塗りの可能性あり	赤褐	〃 〃, 〃
43	〃	—	13.4	—	脚部外面ハケ後篦ミガキ・内面ナデ	明赤褐	〃 〃, 〃
44	直口壺形土器	11.1	—	—	内外面篦ミガキ	〃	〃 〃, 〃
45	小形器台形土器	—	—	—	受部外面ナデ, 脚部内面ナデ	(内)茶褐(外)明赤褐	〃 〃, 〃
46	台付直口壺形土器	10.0	15.3	22.8	脚部外面ハケ後篦ミガキ, 体部外面下半丁寧なナデ	淡黄灰～明赤褐	細砂㋺, 〃
47	〃	10.2	—	—	内面上半工具使用ナデ後篦ミガキ・下半工具使用ナデ, 外面ハケ後ミガキ	明赤褐	〃 〃, 〃
48	手焙り形土器	—	5.1	—	底部外面ナデ, 外面ハケ後ナデ, 内面ハケ	淡乳褐～淡乳灰	〃

図190　土器溜り－2　出土遺物(6)　縮尺 1/4

(4) 古墳時代初頭の遺構・遺物

当時期に属する遺構は竪穴住居９棟・井戸６基・土壙14基・土器溜り３ヶ所である。遺構の分布状況は北半部に竪穴住居が，中央～南半部に井戸が集中する。竪穴住居の北への片寄りは前段階において既に認められていたが，当時期に新たに建て替えられ，より北への片寄りを強める。以前に比べると全体的に小形化・平均化する。平面形は隅丸方形と方形に二分される。前者には竪穴住居19・20等が含まれ，微高地中心に近い東半部に多い傾向を示す。いずれも数回の建て替えや柱穴が確認され，全体的にしっかりした構築が想定される。存続時期は鹿田・古・１ｂ期までである。一方，後者には竪穴住居22・23等が含まれ，調査西半部に位置する。遺物が皆無であるため時期は不明であるが，前者よりも新しい時期が推定される。

井戸では，短甲状木製品出土の井戸15，ガラス滓を含む炉の附属施設に再利用された井戸19が注目される。土壙の減少傾向も一段と進み，製塩土器を多く含む土壙が注目されるのみである。

以上のように，当時期には，北側にやや小形化・平均化した竪穴住居群・南側に井戸群が各々位置し，その周辺部から土壙が姿を消していく状況が想定される。　　(山本)

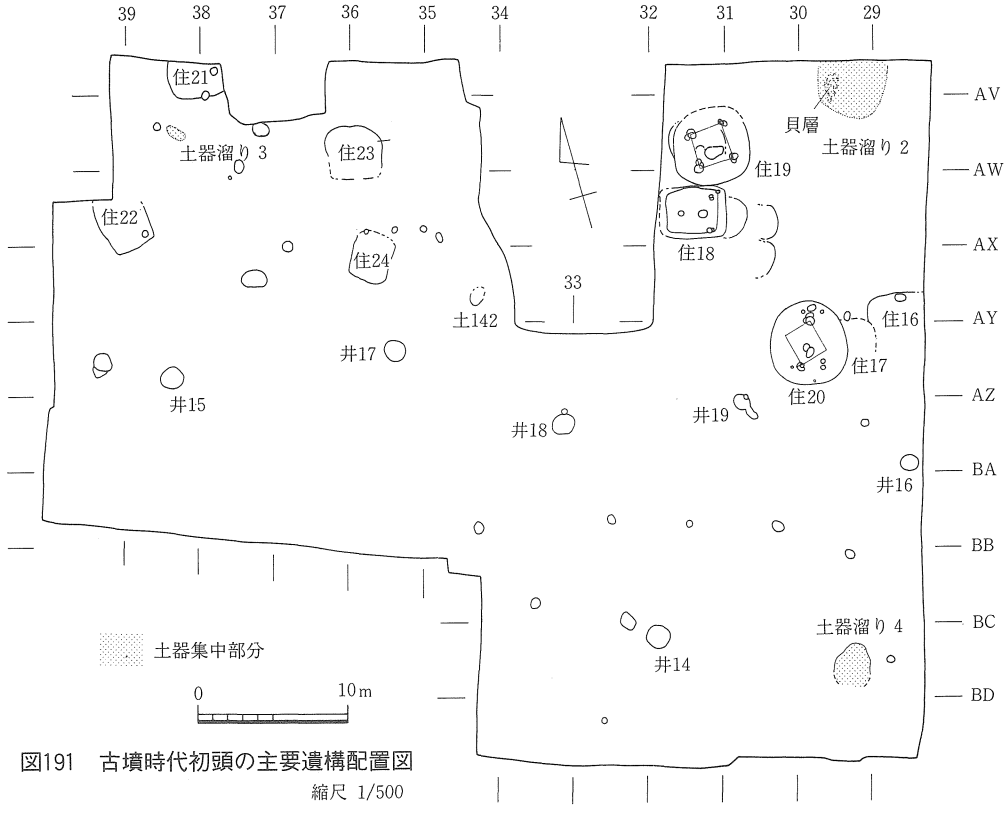


図191　古墳時代初頭の主要遺構配置図
縮尺 1/500

a．竪　穴　住　居

竪穴住居－18（図192・193，図版23-１・76・79－１）

ＡＷ31区に位置し，西端部を側溝に削平される。北側では竪穴住居19と重複関係を持ち，上層部を切られる。２枚の床面と壁体溝が検出され，１度の建て替えが想定される。

１次住居は，東西342㎝・南北300㎝の東西に長い長方形プランを有す。床面高は標高90㎝前後を測り，南東部分以外には貼り床が認められ，全体的に南方向に緩く傾斜する。床面上には炭化物が薄層状に堆積する。柱穴は柱間160㎝を測る２本柱が想定される。床面積は10.14㎡である。

２次住居は東西420㎝以上，南北340㎝の長方形プランを有す。拡張は均一ではなく，東西方向への広がりが強い。床面高は標高110㎝前後で全面に２～３㎝の貼り床がなされる。柱穴は１次住居の２本を踏襲し，主軸の中軸線上に並ぶ。径40～50㎝，柱間160㎝を測る。東北・南東両隅にやや細めの柱穴が検出されるが，本住居に伴う確証はない。また，柱穴間には東西120㎝・南北80㎝の範囲で多量の炭化物が，貼り床上面に堆積する。貼り床は炭化物分布範囲では周囲の床面よりも約５㎝落ち込み，凹部を形成する。その状況はＡ断面の柱穴間において明瞭に認められる。また，幅10㎝・深さ約10㎝の溝（図192　Ｂ断面７層）が貼り床後掘り込まれ，凹部の肩部を形成する。肩部外縁にのみ貼り床は２回なされる（８ａ・ｂ層）。肩部の

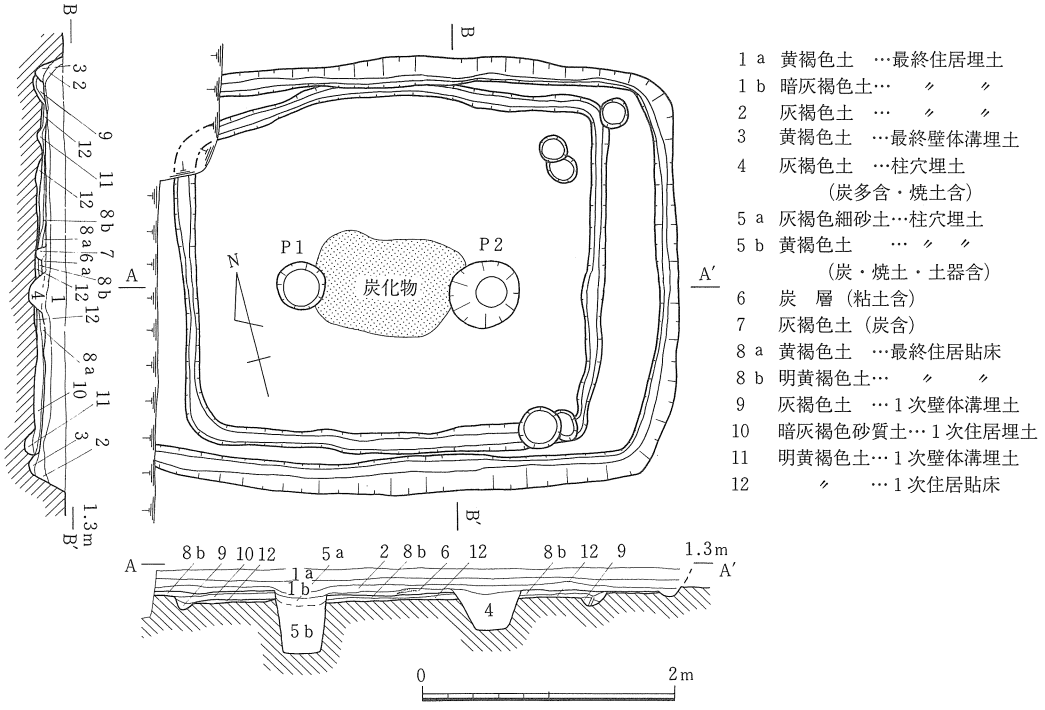
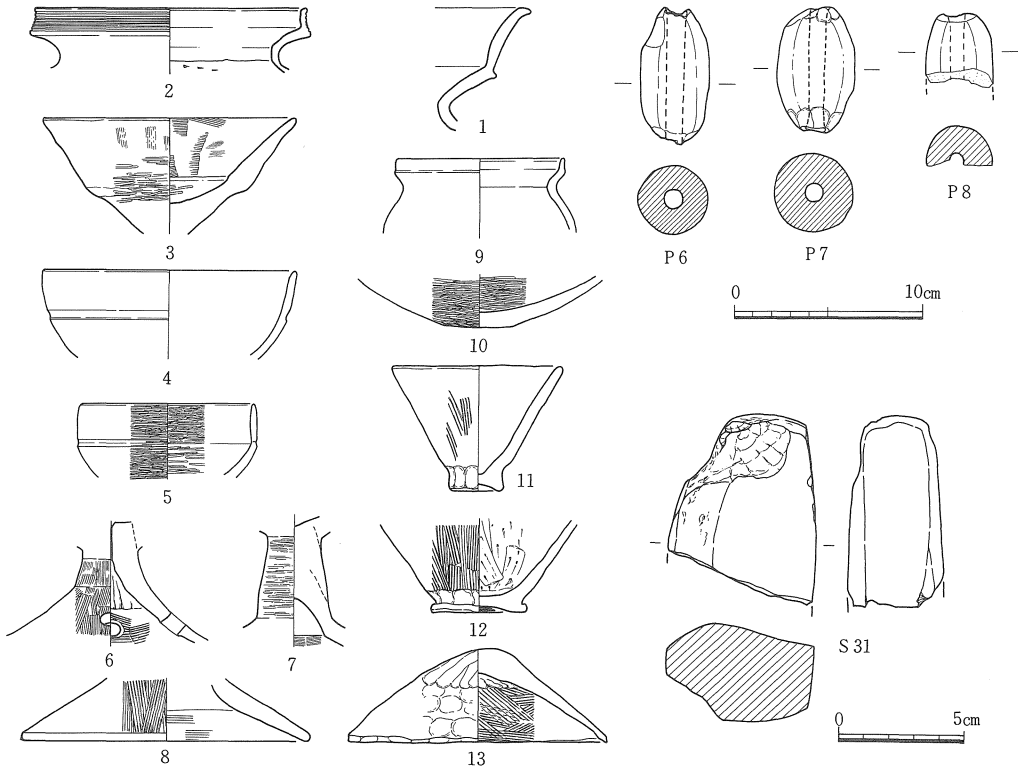


図192　竪穴住居－18　縮尺 1/60

状況は一部断面にのみ検出されたため，その範囲など詳細な点は不明である。

遺物は土器のほか土錘（Ｐ６～８）・砥石（Ｓ31）が出土し，いずれも最終住居に伴う。蓋(13) はその特徴から搬入品の可能性が高い。時期は鹿田・古・１ａ期に比定される。



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	－	－	－	横ナデ	淡黄褐～明褐	細砂㊍
2	甕形土器	14.5	－	－	口縁端面櫛描沈線６条	淡黄灰	微～細砂
3	高杯形土器	13.5	－	－	内面ハケ後ナデ，外面ハケ後篦ミガキ，磨滅で不鮮明	淡黄褐	微砂㊎，水漉粘土
4	〃	13.6	－	－	全面磨滅で不明	(内)暗赤褐(外)赤褐	〃〃，〃
5	〃	9.3	－	－	内外面細密な篦ミガキ	(内)暗赤褐(外)明褐	〃〃，〃
6	〃	－	－	－	外面ハケ，内面上半しぼり目・下半ハケメ	淡黄褐	〃〃，〃
7	〃	－	－	－	外面篦ミガキ	〃	〃㋑，精良
8	〃	－	15.5	－	透し孔は円形４ケ所の可能性が高い	黄褐	〃〃，〃
9	小形壺形土器	8.9	－	－	全面磨滅で不明	明赤褐	〃㊍
10	鉢形土器	－	3.5	－	内外面細密な篦ミガキ	淡黄褐	〃㋑，精良
11	〃	9.1	2.8	6.6	鉢部外面ハケ・内面ナデ，底部外面押圧・ナデ	明赤褐～黄褐	〃㊍
12	〃	－	5.0	－	底部外面ハケを囲形に施す，黒斑	(内)灰黒(外)暗褐	粗砂
13	蓋形土器	13.9	－	5.0	外面天井ナデあげ・他は押圧，内面天井部押圧，口縁部つま出し気味	茶褐色	微砂，金雲母

遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
Ｐ６	土錘	7.2	3.7	3.7	78.0	押圧・ナデ，黒斑が縦ⅰを占める	淡黄褐	微砂㋑，精良
Ｐ７	〃	6.7	4.2	4.1	97.0	〃・〃，両端つまみ出しの状況，黒斑	〃	〃〃，〃
Ｐ８	〃	－	3.5	－	24.0	〃・〃，黒斑が縦ⅰを占める	〃	〃〃，〃

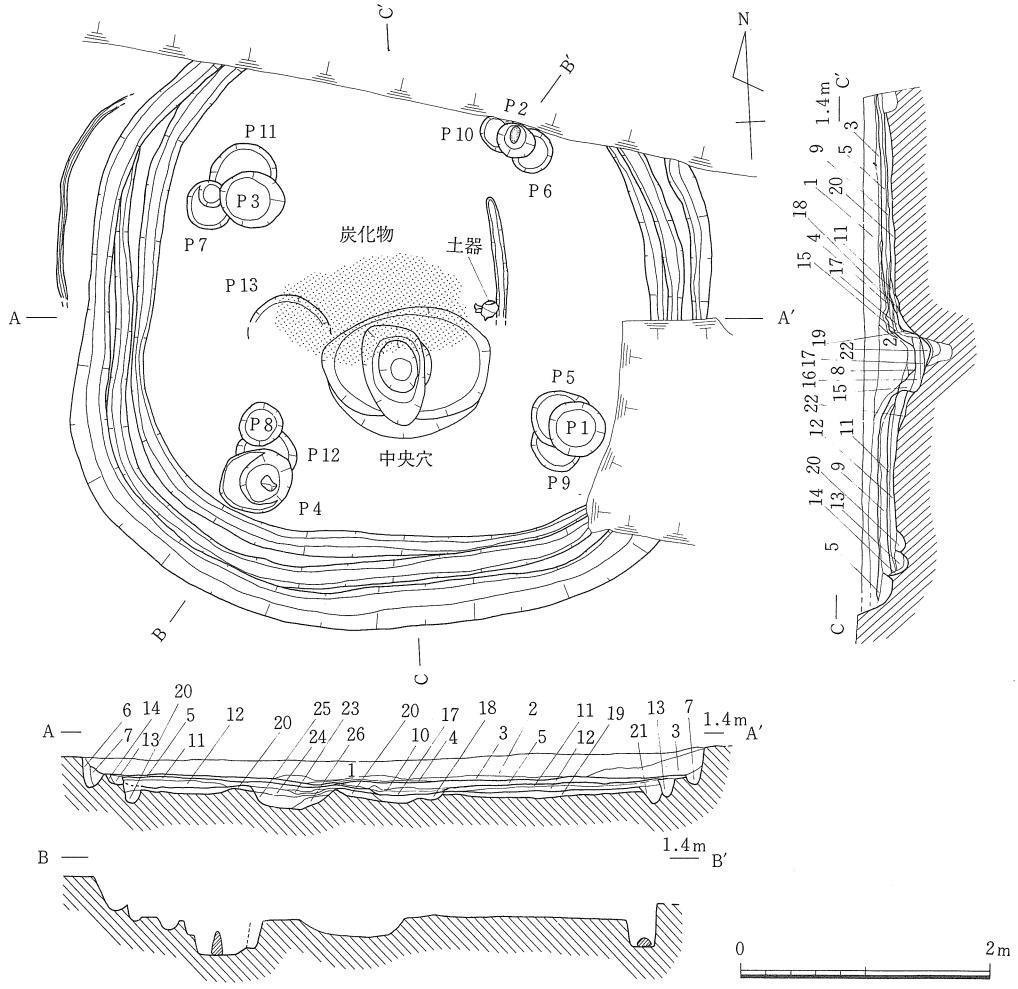
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
Ｓ31	砥石	7.3	5.9	3.7	210.0	流紋岩質凝灰岩	欠損品，四角柱状を呈し，四面研磨面

図193　竪穴住居－18　出土遺物　縮尺 1/4・1/3(Ｓ31)

竪穴住居－19（図194～196，図版23-２・66・80－２）

ＡＶ・ＡＷ30・31区の調査区北端部分に位置する。側溝により北部を削平される。また，南側では竪穴住居18と重複関係をもち，上層部を切る。

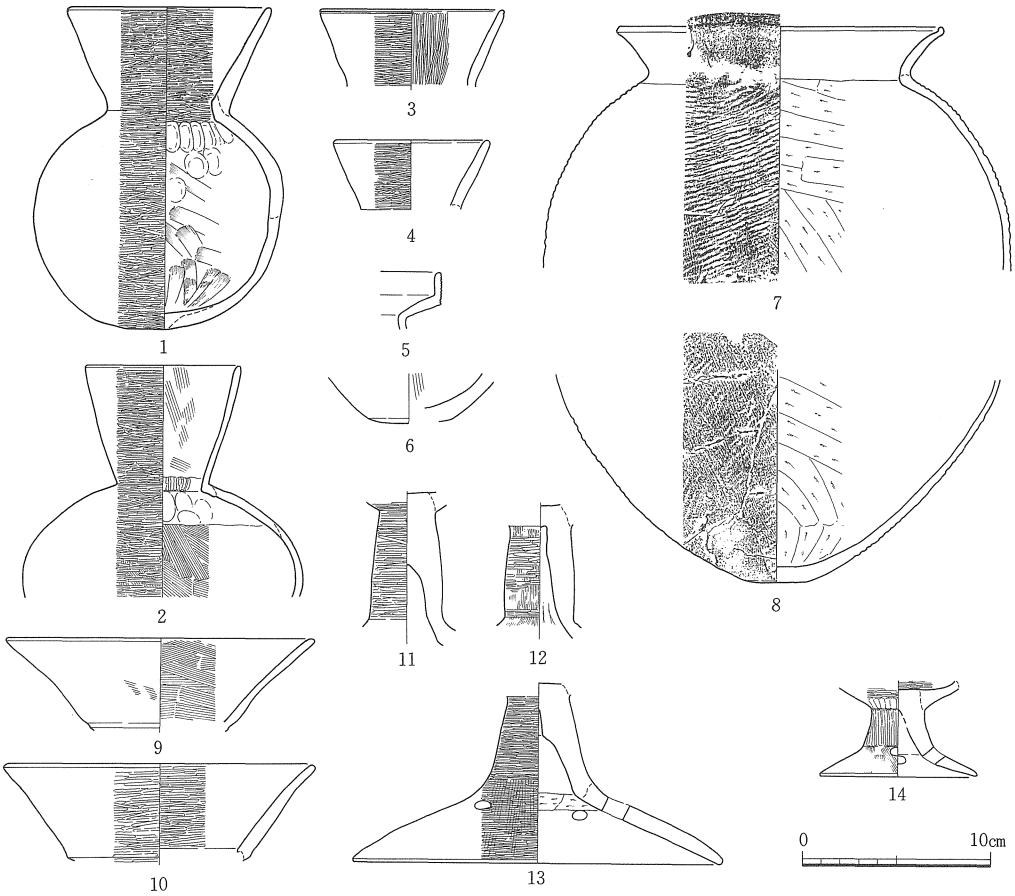
床面・壁体溝・柱穴の状況から２度の建て替えが行われ，順次拡張されたことが認められる。平面形は東西方向で１次住居が424cm，２次住居が455cm，最終住居が498cmの規模をもつ隅丸方形を各々呈す。床面レベルは１次住居が標高95～100cm，２次住居が標高95～105cm，最終住



1　灰褐色土……埋土
2　暗黄色土…… 〃
3　暗灰褐色土…… 〃
4　炭　層……最終床上
5　淡黄白色粘質土…最終貼床
6　茶褐色砂質土……壁体痕跡
7　黄褐色　〃　……最終壁溝埋土
8　青褐色土…… 〃 炉埋土
9　青黄褐色土……２次埋土
10　炭　層……２次床上
11　黄褐色粘質土…… 〃 貼床
12　黄褐色土…… 〃 貼床下
13　暗黄褐色土…… 〃 壁溝埋土
14　暗青灰色土……壁体痕跡
15　暗青灰色粘質土…２次中央穴埋土
16　炭　層…… 〃 〃
17　黄褐色粘質土…… 〃 壁土
18　青灰色土……２次中央穴壁土
19　炭　層……１次床上
20　黄白色粘質土……１次貼床
21　〃　砂質土…… 〃 壁溝
22　暗灰色粘土(炭含)……１次中央穴埋土
23　青灰色砂質土…… 〃 〃 〃
24　暗灰色　〃 …… 〃 〃 〃
25　暗青灰色砂質土…… 〃 〃 〃
26　〃　〃　(炭含)… 〃 〃 〃

図194　竪穴住居－19　縮尺 1/60

居で標高105～110cmを測る。２次住居の北半部の一部の床は１次床面を踏襲する。それ以外では，貼り床はいずれも２～５cmの厚さで認められる。柱穴は中央穴の他に各々４本づつが検出されており，１次住居がＰ９～12，２次住居がＰ５～８，最終住居がＰ１～４を伴う。各住居間でいずれも切合い関係を持って，ほぼ同位置に建てられる。中央穴についても同様である。



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	直口壺形土器	10.8	－	17.1	体部内面工具使用ナデ，外面篦ミガキ，黒斑，丸底	明赤褐～明黄褐	微砂㊎，水漉粘土
2	〃	8.2	－	－	内面口縁部と体部の境に篦ミガキ，口縁部内面ハケ後ナデ	(内)黒灰(外)淡黄褐	〃 〃，〃
3	〃	9.8	－	－	口縁端面沈線１条，内外面篦ミガキで丹塗り	明赤褐	〃 〃，〃
4	〃	8.3	－	－	内面磨滅で不明，外面篦ミガキ	〃	微～細砂
5	甕形土器	－	－	－	口縁端面櫛描沈線11条	黒灰褐	細砂
6	〃	－	4.5	－	内面荒いハケ後ナデ，外面ナデ	灰黒	微砂
7	〃	17.2	－	－	体部外面平行タタキ後下半はハケが下から上る，No８と同一個体	淡灰	細砂
8	〃	－	3.1	－	体部外面平行タタキ後ハケ，底部外面ハケ，No７と同一個体	(内)淡灰(外)灰黒	〃
9	高杯形土器	16.35	－	－	外面磨滅で不鮮明，内面ハケ	赤褐	微砂㊎，水漉粘土
10	〃	16.45	－	－	内外面篦ミガキ	(内)暗赤褐(外)淡黄褐	〃 〃，〃
11	〃	－	－	－	杯部内面篦ミガキ，脚柱部内面ナデ	赤褐	〃 〃，精良
12	〃	－	－	－	杯部内面磨滅で不明，外面ハケ外篦ミガキ	暗赤褐	〃 〃，〃
13	〃	－	19.5	－	脚柱部内面篦ケズリ後ナデ，杯部内面篦ミガキ，円孔は等間隔で６個	淡赤褐	〃 〃，〃
14	〃	－	8.4	－	脚部内面ナデ，杯部内外面篦ミガキ	赤褐	〃 〃，水漉粘土

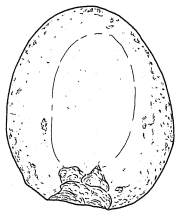
図195　竪穴住居－19　出土遺物(1)　縮尺 1/4

１次住居ではＰ13が，当初中央穴の機能を果していた可能性がある。その後，中央部に移動し，新しく構築されている。２次住居では周囲に67×52cmの浅い落ちこみを伴い，オーバーハング気味に掘り込む状況が明瞭に認められる。１次住居の中央穴を再利用し，底面を17層でそして肩部を18層によって成形している。底面には炭化物が厚く堆積しており，藁状の植物の炭化物と考えられる。最終住居ではやや小形化し，断面は逆台形を呈す。各住居を通じて，いずれも炭化物は中央穴から北側に向って厚く堆積する。

遺物は１次住居から甕・小形器台（６・24），２次住居から鉢（19），最終住居埋土および床面から壺・高杯・鉢・蓋等（１・３・９～11・13～16・18・20～23），敲石（Ｓ32），中央穴から甕等（２・４・７・８・12），Ｐ４から鉢（17），Ｐ12から甕（５）が各々出土している。

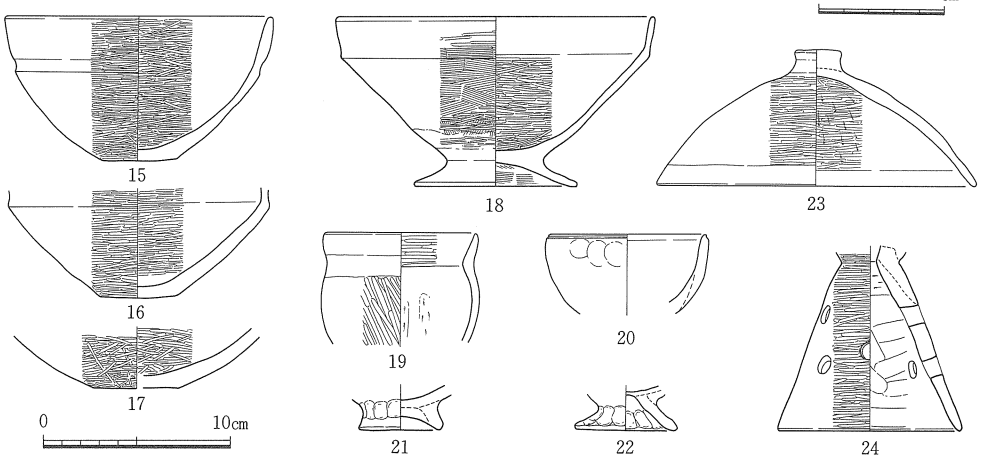
時期は鹿田・古・１期が考えられる。

また，中央穴北東部と住居西側に壁体溝状の細い溝が検出され，本住居構築以前に小形の方形に近い住居が存在した可能性が考えられる。



Ｓ32

0　5cm



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
15	鉢形土器	14.3	4.1	7.7	内外面篦ミガキ，底部外面ナデ	赤褐	微砂㊀，水漉粘土
16	〃	－	4.2	－	〃　，　〃　，黒斑	淡明褐～淡黄褐	〃　〃，　〃
17	〃	－	4.5	－	〃　，	明赤褐	〃　㋑，細砂㊂
18	台付鉢形土器	16.9	8.6	9.0	口縁部横ナデ・一部篦ミガキ，体部外面ハケ・一部篦ミガキ	黄褐	〃　〃，精良
19	鉢形土器	8.0	－	－	体部内面篦ケズリ後ナデ	㈦明褐㈧淡黄褐	微～細砂㊂
20	〃	8.2	－	－	口縁端部沈線１条，全体ナデ・押圧	灰褐	細砂
21	台付鉢形土器	－	4.4	－	全体ナデ・押圧	明赤褐	微～細砂㋑
22	製塩土器	－	5.5	－	全面押圧・ナデ，２次焼成痕	赤褐	粗砂～細礫㊂
23	蓋形土器	17.0	－	7.2	内面篦ケズリ後篦ミガキ	明赤褐	微～細砂㊂
24	器台形土器	－	9.8	－	脚部内面下半ナデ，円孔は４個づつ３段あり交互に配置	淡明褐	微砂㊀，水漉粘土

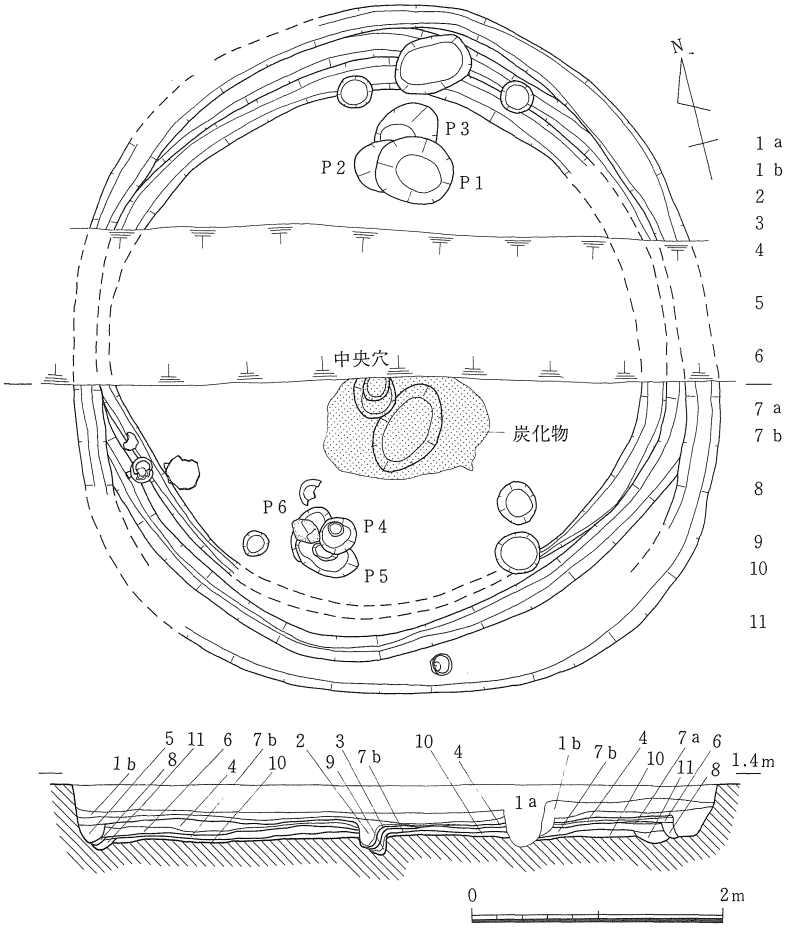
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
Ｓ32	敲石	8.1	6.6	5.0	300.0	安山岩	一部欠損，一端に敲打痕

図196　竪穴住居－19　出土遺物(2)　縮尺1/4・1/3（Ｓ32）

竪穴住居－20（図197～200，図版66・75・80）

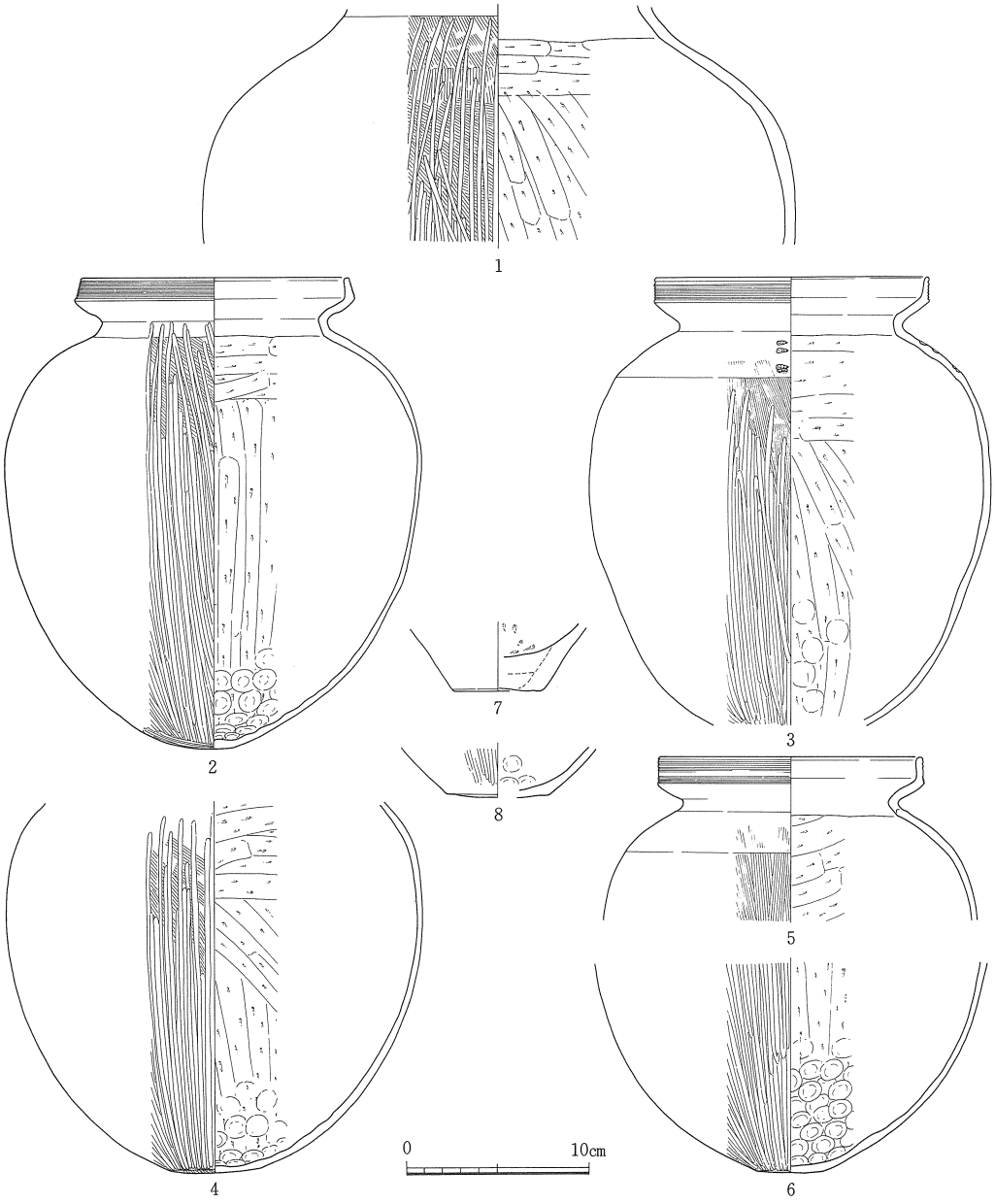
ＡＸ・ＡＹ29・30区に位置する。住居のほぼ中央部を後世の深い攪乱溝が走る。

土層観察等により２度の建て替えが確認された。住居の平面形は，１次住居が一辺435㎝前後の規模をもつ隅丸正方形，２次住居が短軸480㎝・長軸484㎝の規模をもつ隅丸正方形，最終住居が長軸548㎝・短軸512㎝の規模をもつ不整円形を各々呈す。１次と２次の間の拡張には平面形・規模等に大きな変化は認められない。　床面レベルは１次住居で標高110～115㎝，２次住居で標高110～120㎝，最終住居で120㎝～125㎝を測る。いずれも西方向に向ってやや傾斜する傾向をもつ。貼り床は各住居とも全面になされ，その厚さは１次住居では２～５㎝，２次および最終住居では平均２～３㎝であるが，厚い部分では８㎝前後におよぶ。また，２次住居では東南部分に２枚の貼り床が（７ａ・ｂ層）認められる。



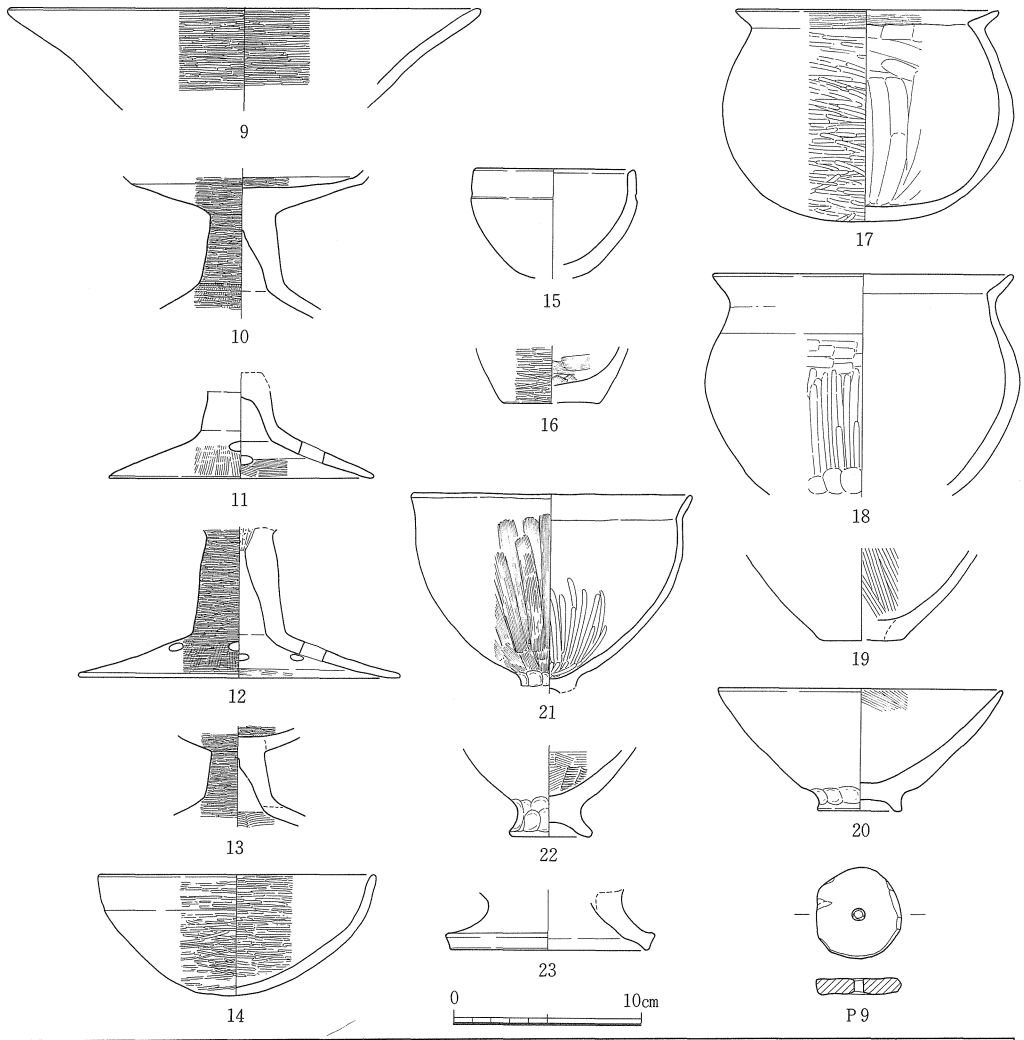
1ａ 淡茶灰色土 } （炭・焼土・土器含）
1ｂ 茶灰色土 } …最終住居埋土
2　灰黄褐色土 …　〃　〃
3　炭　層　…　〃　床上
4　黄褐色土　…　〃　貼床
（土器含）
5　灰黄褐色土 …　〃　壁体溝埋土
（炭・土器含）
6　灰褐色土…２次住居埋土
（炭・焼土・土器含）
7ａ 黄褐色土…２次住居貼床
7ｂ 灰褐色土…　〃　〃
（炭・焼土・土器含）
8　暗灰褐色土…２次住居壁体溝埋土
（炭・焼土・土器含）
9　炭　層
10　灰褐色土…２次住居貼床
（炭・土器含）
11　灰褐色土…２次住居壁体溝埋土
（炭・土器含）

図197　竪穴住居－20　縮尺 1/60



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	—	—	—	頸部内外面横ナデ，体部外面ハケ後篦ミガキ	(内)灰褐(外)明黄褐	細～粗砂
2	甕形土器	14.7	2.4	25.8	櫛描沈線7条，肩部の刺突文㊟，外面煤・内面下半炭化物付着	淡黄褐	微～細砂
3	〃	14.9	—	—	〃 6条，内面下半の押圧浅い刺突文4個1ケ所，外面煤・黒斑	(内)暗灰褐(外)淡茶褐	〃～〃
4	〃	—	5.1	—	底部外面平行篦ミガキ，黒斑	(内)暗灰褐(外)明灰褐	粗砂
5	〃	14.5	—	—	口縁端面櫛描沈線5条以上，肩部の刺突文の有無は不明	明黄褐	細砂
6	〃	—	3.6	—	底部外面ナデ，外面煤付着	黄褐～灰褐	微～細砂，粗砂㊦
7	〃	—	4.8	—	外面ナデ・煤付着	(内)淡黄白(外)褐～黒	粗砂㊥
8	〃	—	5.7	—	内面押圧，外面篦ミガキ・煤付着	暗褐	微～細砂，粗砂㊦

図198　竪穴住居ー20　出土遺物(1)　縮尺 1/4



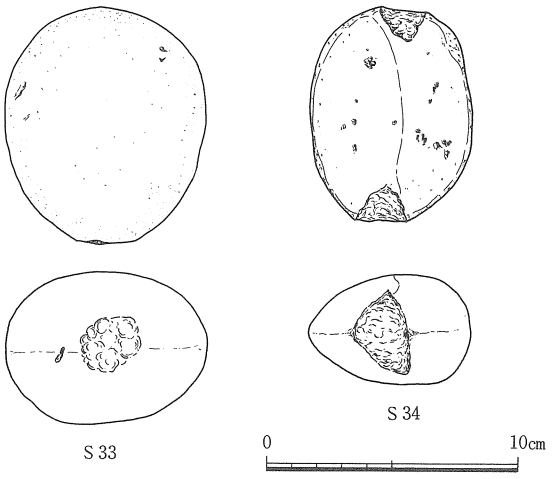
遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
9	高杯形土器	25.2	—	—	内外面篦ミガキ・黒斑	明赤褐	微～細砂㉗
10	〃	—	—	—	脚部内面ナデ，脚裾部外面ハケ後篦ミガキ，その他は篦ミガキ	〃	微砂㉗，精良
11	〃	—	14.1	—	外面磨滅で不鮮明，脚裾部内外面にハケ残存	〃	〃 〃，〃
12	〃	—	17.1	—	脚裾部外面ハケ後篦ミガキ・内面端部ハケ後ナデ，円孔等間隔に7個	赤褐	〃 〃，〃
13	〃	—	—	—	杯部内面ハケ後篦ミガキ，外面篦ミガキ	(内)淡黄褐(外)赤褐	〃 ㊱，水漉粘土
14	鉢形土器	14.8	—	6.4	内外面篦ミガキ，磨滅で不鮮明，底部は丸底	淡赤褐	〃，精良
15	〃	8.6	2.0	5.8	内外面ナデ	明茶褐	〃，〃，雲母
16	〃	—	5.2	—	内面工具使用ナデ，底部外面ナデ，外面押圧後篦ミガキ	淡灰褐	〃 ㊱
17	〃	14.0	—	11.2	外面篦ミガキ・黒斑，内面篦ケズリ（砂粒の動き㊱），丸底	明赤褐～暗褐	〃 〃，精良
18	〃	15.9	—	—	体部外面篦ミガキ（幅の狭い板状工具），底部外面押圧，外面黒斑	茶褐	〃 〃，〃
19	〃	—	4.5	—	外面磨滅で不明，内面ハケ	黄褐	微～細砂㉗
20	台付鉢形土器	15.2	4.5	6.5	口縁部内面ハケ，他はナデ	明赤褐	微砂㉗，精良
21	〃	14.9	—	—	体部外面細い浅いハケ・黒斑，内面篦ミガキ	淡黄褐	微～細砂，粗砂㉗
22	〃	—	4.2	—	外面ナデ・押圧・黒斑，内面ハケ	淡黄灰	微砂㉕
23	〃	—	10.6	—	内外面ナデ	(内)灰(外)淡黄白	〃

遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P 9	紡錘車	4.9	4.6	0.8	21.0	ナデ，壺の口縁部付近の破片の再利用	明黄褐	細砂，金雲母

図199　竪穴住居－20　出土遺物(2)　縮尺 1/4

柱穴は中央穴の他にＰ１～３とＰ４～６とが２ヶ所で３本づつ重複関係を有して検出された。それらは中央穴をはさんで対角線上にのる。住居のほぼ中央を走る攪乱溝中に２ヶ所の柱穴の位置を想定することは可能であり，各住居を通じて柱穴は４本であったことが想定される。１次住居にＰ３・６，２次住居にＰ２・５，最終住居にＰ１・４が各々伴う。中央穴は東西方向では中央になるが南北方向ではやや南に片寄って位置する。３ヶ所ともほぼ同位置にあるが，順次，西方向に移動する傾向をもつ。周辺部には炭化物が広く分布しており，特に１次・最終住居では東半部に厚く堆積し，東部床面に向って広がる。

最終住居に伴う遺物は南西部の床面直上から出土した甕（３・４・６），鉢（15～17），Ｐ４出土の高杯（10），そして埋土中からは甕（１・５・８），高杯（９・11～13），鉢（18～21・23），土製紡錘車（Ｐ９），敲石（Ｓ33），石錘（Ｓ34）等が，２次住居には甕（２・７），鉢（14），１次住居には鉢（22）が各々伴う。一部古い時期の遺物もあるが，全体として，鹿田・古・１ｂ期に比定される。　　（山本）



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S33	敲石	9.3	7.8	6.2	650.0	流紋岩	長軸一端に敲打痕
S34	石錘	8.6	6.5	4.4	360.0	〃	長軸両端敲打による溝

図200　竪穴住居ー20　出土遺物(3)　縮尺 1/3

竪穴住居ー21（図201～204・200，図版24-１・79－１・80－１）

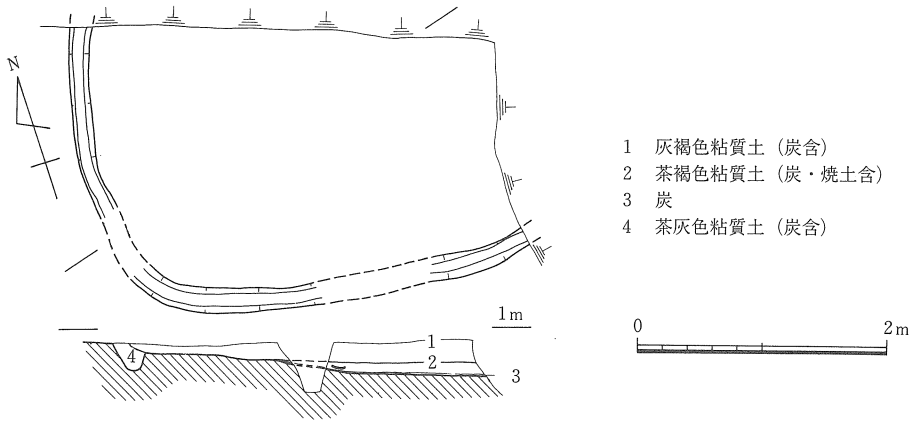
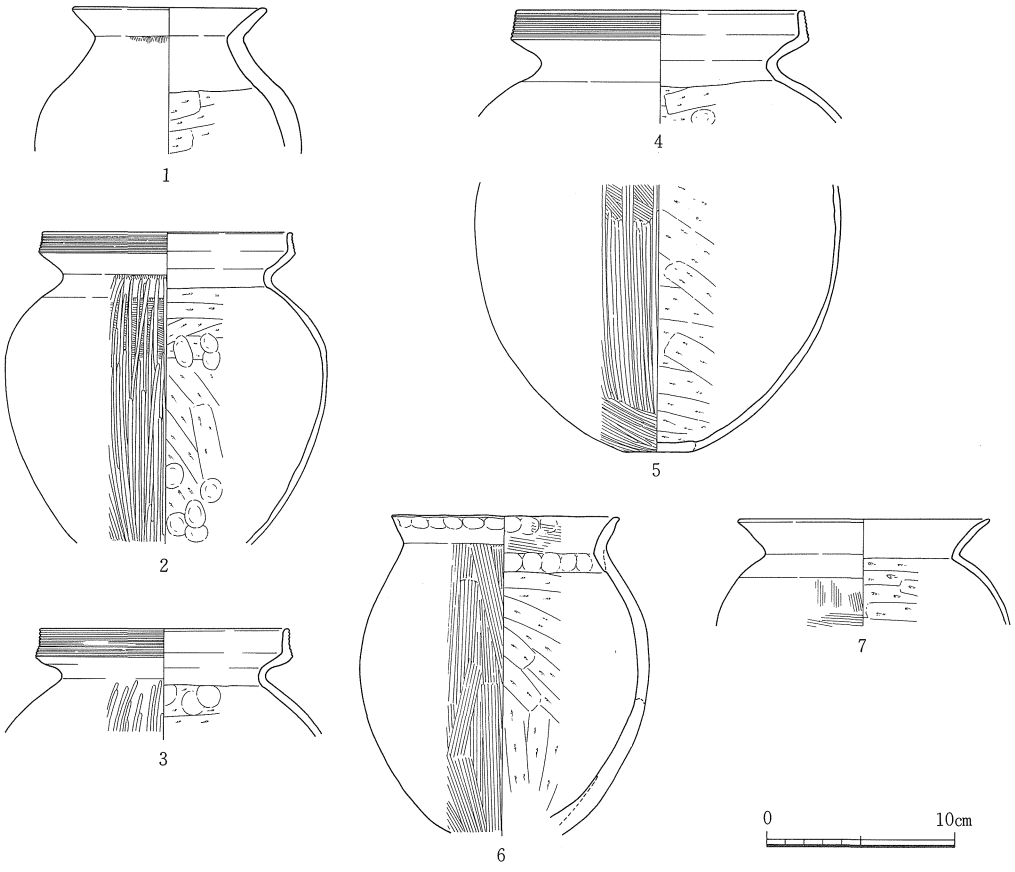


図201　竪穴住居ー21　縮尺 1/60

本竪穴住居は主にＡＵ37・38区から一部ＡＶ37・38区にかけて位置する。北端側は調査区外にのびるため未調査であり，東端側は攪乱によって破壊されていることから，全体の約⅔～½前後を検出したものと推定される。西側では竪穴住居25を切っている。現状からは一辺が360㎝前後の隅丸方形の平面形をなすかと考えられる。壁体溝は１本検出しているが，土手断面の観察から２枚の床面が確認される。

１次住居は周辺部の床面の標高が約80㎝で，中央部に向かって浅く摺り鉢状に落ち込んでおり，最下部の標高は約62㎝である。床面中央部には層厚１㎝前後の炭の薄層が堆積している。

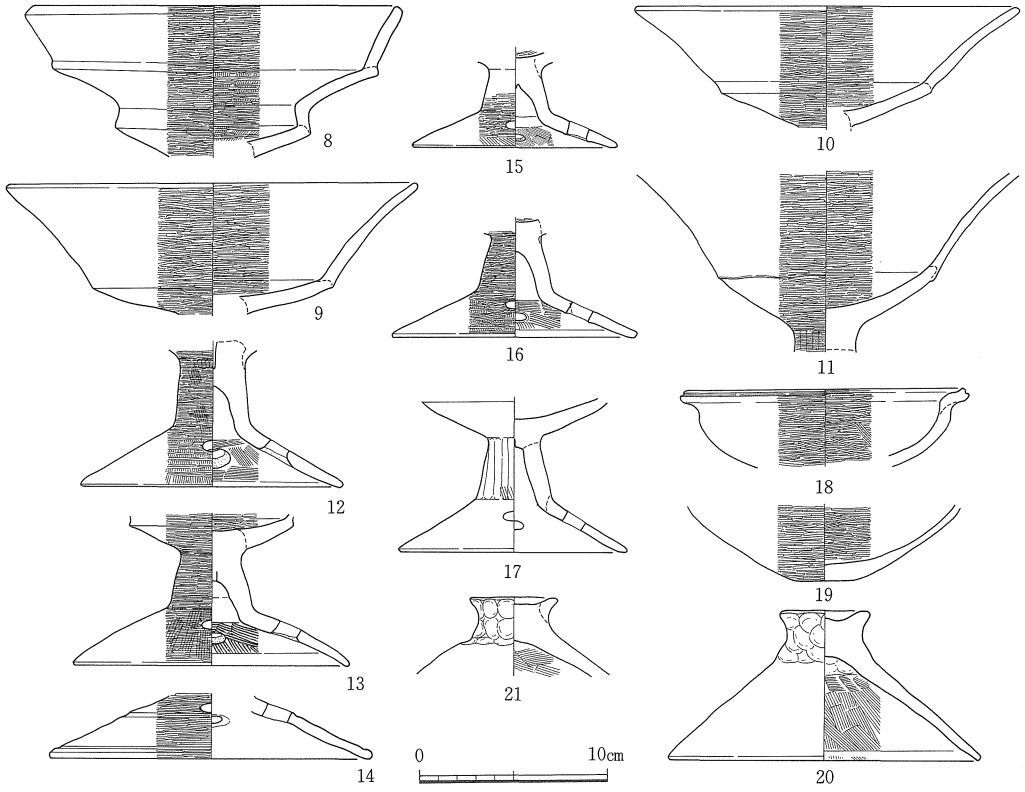


遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	10.3	—	—	頸部外面ハケ若干残存，体部外面磨滅で不明	(内)明赤褐(外)淡灰褐	粗砂◎
2	甕形土器	13.3	—	—	口縁端面櫛描沈線６条，肩部刺突文の有無は不明，外面煤付着	暗褐	細砂
3	〃	13.3	—	—	〃　７条，外面篦ミガキ◎，外面煤付着	(内)暗褐(外)黒褐	〃
4	〃	15.3	—	—	〃　〃，外面煤付着	暗褐	〃 ◎
5	〃	—	3.7	—	外面ハケ後篦ミガキ（下半は密），煤付着	黒褐	微～細砂
6	〃	12.1	—	—	口縁部内面ハケ後押圧，外面煤，剝落	灰褐	粗砂，細礫◎
7	〃	13.4	—	—	外面非常に浅いハケ，内面篦ケズリ	淡黄褐	〃

図202　竪穴住居ー21　出土遺物(1)　縮尺 1/4

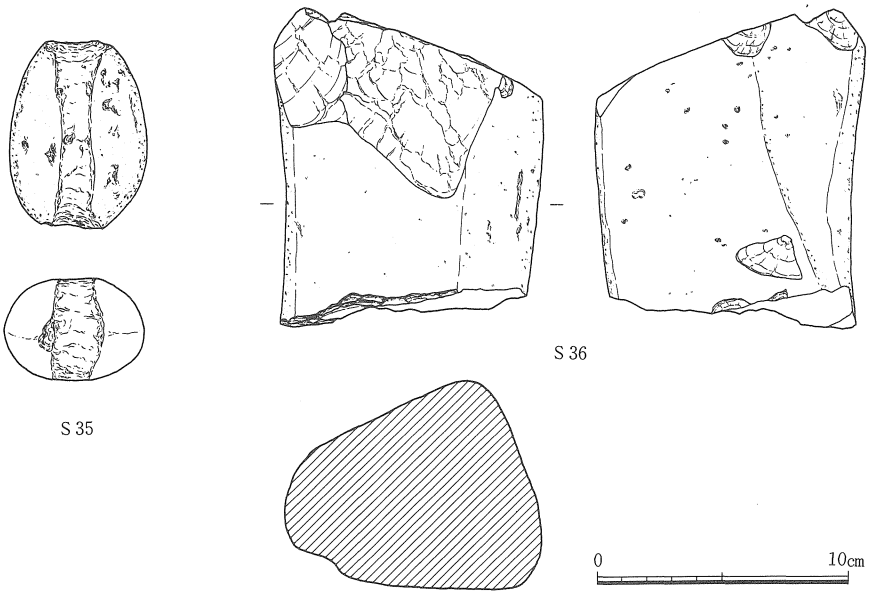
本住居に伴う柱穴は確認できなかった。２次住居は壁体溝および周辺部の床面は１次住居と共通している。中央部の炭層が分布する範囲に茶褐色粘質土を埋め，新たな床面としている。床面中央部の標高は約72cmを測り，床面はほぼ水平である。本住居に伴う柱穴も確認できなかった。

遺物は主として２次住居に伴って比較的多量の土器と石器が出土している。出土土器は鹿田・古・１期に属し，２次住居の廃絶時期も該期に対比される。１次住居も壁体溝と床面の一部を２次住居と共有することから，鹿田・古・１期を大きくは遡らないと推定される。



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
8	高杯形土器	19.4	－	－	内面ハケ後細密な篦ミガキ，外面細密な篦ミガキ	淡黄褐～淡赤褐	微砂㊅，水漉粘土
9	〃	21.5	－	－	内外面横位の細密な篦ミガキ，外面煤少量	赤褐	〃 ㉖，精良
10	〃	20.2	－	－	〃 ，〃	明褐～淡黄褐	〃
11	〃	－	－	－	〃 ，〃	明赤褐	〃 ㊅，水漉粘土
12	〃	－	13.9	－	外面ハケ後細密な篦ミガキ，柱部ナデ，杯部接合面放射状刻み目，黒斑	内淡乳褐外赤褐	〃 〃，〃
13	〃	－	14.6	－	裾部外面ハケ後篦ミガキ・内面下端ハケ後横ナデ，脚柱部内面ナデ	明赤褐	〃 〃，〃
14	〃	－	17.1	－	内面ナデ，脚端部に凹線１条，裾部中間に凹線上の段あり	内赤褐外暗赤褐	〃 〃，精良
15	〃	－	10.8	－	外面上半磨滅で不明，杯部内面篦ミガキ	褐	〃 ㉖
16	〃	－	12.8	－	内面下端ハケ後横ナデ，杯部内面篦ミガキ，脚裾部外面ハケ後篦ミガキ	明赤褐	〃 〃，精良
17	〃	－	12.1	－	全体に磨滅で不明	赤褐	〃 ㊅，水漉粘土
18	鉢形土器	14.7	－	－	内外面篦ミガキ，外面煤付着	〃	〃 ㉖
19	〃	－	3.2	－	〃 ，内外面煤付着少量	明赤褐～淡黄褐	〃 ㊅，水漉粘土
20	蓋形土器	16.6	－	8.0	外面ナデ，つまみ部押圧，口縁端部内面ハケ後横ナデ，黒斑	内明赤褐外淡乳褐	〃 ㉖
21	〃	－	－	－	〃 ，〃 黒斑	赤褐～暗褐	〃 〃

図203　竪穴住居－21　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S 35	石錘	7.4	5.5	4.2	260.0	細粒花崗岩	長軸方向敲打による溝
S 36	砥石	12.6	9.7	8.3	1610.0	泥岩	両端部欠損，大形四角柱状を呈し，四面研磨面

図204　竪穴住居－21　出土遺物(3)　縮尺 1/3

竪穴住居－22（図205，図版24-２）

本竪穴式住居は主にＡＷ38区の西南部からＡＷ39区の東南部にかけてで壁体溝を検出した。北東端部は後世の攪乱溝より破壊されているが，その平面形は東西辺長約324cm，南北辺長350cm以上のほぼ南北方向に長軸をもつ方形を呈すると推定される。本竪穴住居に伴う柱穴は壁体溝に近接した位置に３基検出した。その配置から，本来柱穴は方形に４基存在していたものと推定される。

本住居は埋土の大半はすでに削平されていたため，共伴する遺物は存在しないが，そのプランから鹿田・古・１期に属するものと推定される。

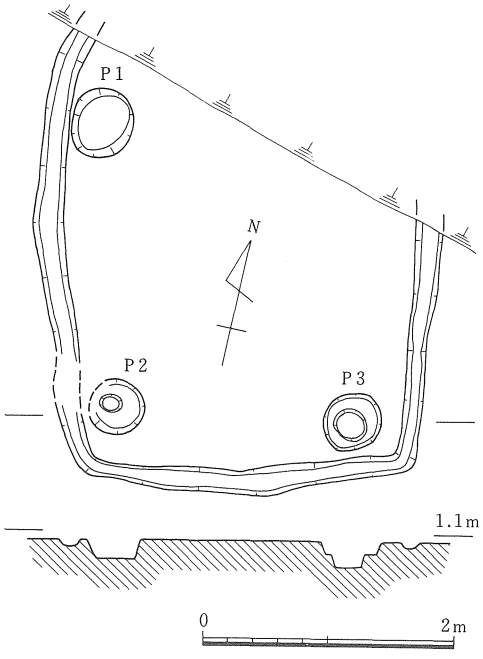


図205　竪穴住居－22　縮尺 1/60

竪穴住居－23（図206）

本竪穴住居はＡＶ35・36区からＡＷ35・36区にかけて壁体溝のみを検出した。壁体溝は一部未検出であるが，現状では一辺350～380㎝前後の隅丸正方形のプランをとるとみられるが，本住居に伴う柱穴は確認できなかった。検出面の標高は110㎝前後，壁体溝底の標高は100㎝前後である。本住居からは土器等の遺物の出土はないが，隅丸正方形のプランをとることから，鹿田・古・１期に属するものと推定される。

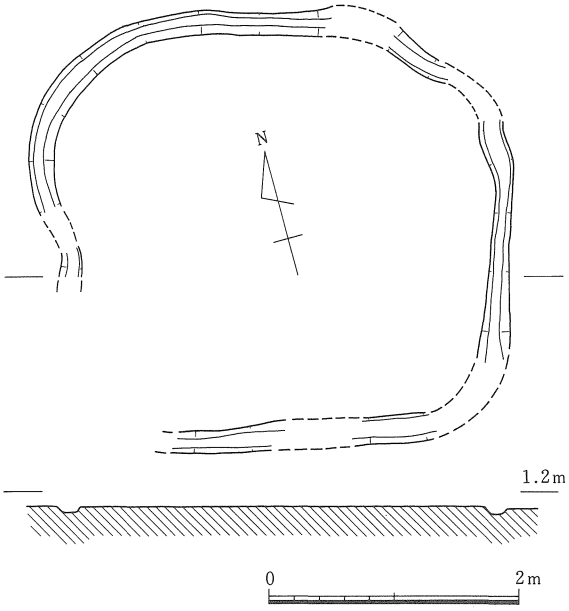


図206　竪穴住居－23　縮尺 1/60

竪穴住居－24（図207，図版25-１）

本竪穴住居はＡＸ35区を中心に，一部ＡＷ35・ＡＸ36区にかけて位置している。壁体溝のみの検出であり，北側部分については一部未確認である。現状では長辺が約330㎝，短辺が約260㎝の隅丸方形プランを呈するとみられるが，本住居に伴う柱穴は確認できなかった。プランの長軸方向はおよそＮ―35°―Ｅである。検出面の標高は130㎝前後，壁体溝底は125㎝前後である。本竪穴住居からは出土遺物がなく，その確実な所属期は不明瞭であるが，隅丸方形プランをとることから，鹿田・古・１期に属すると推定される。（栄）

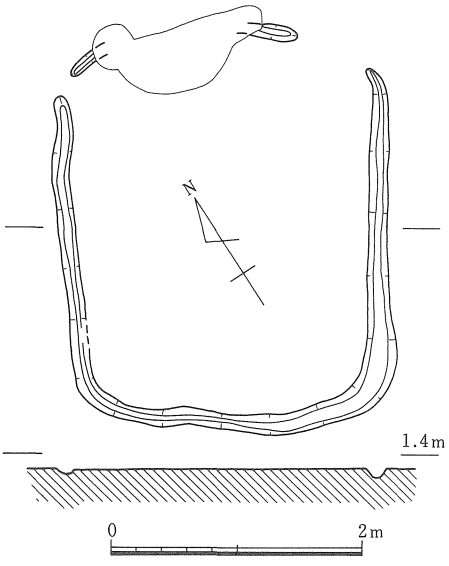
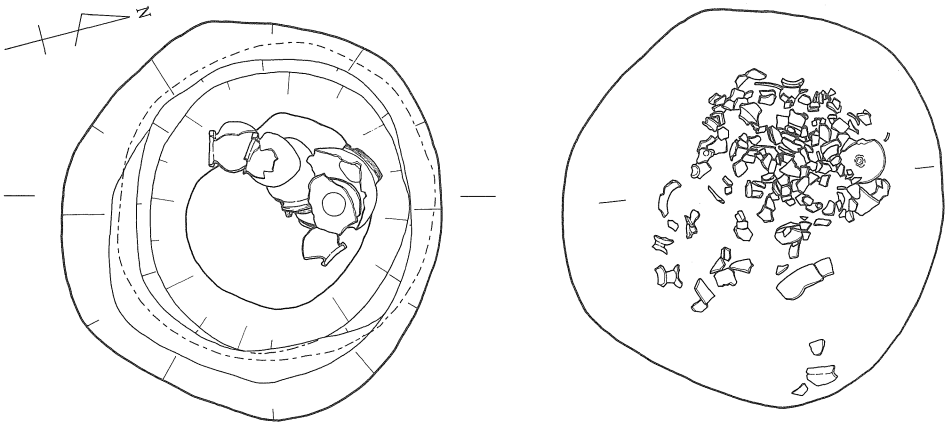


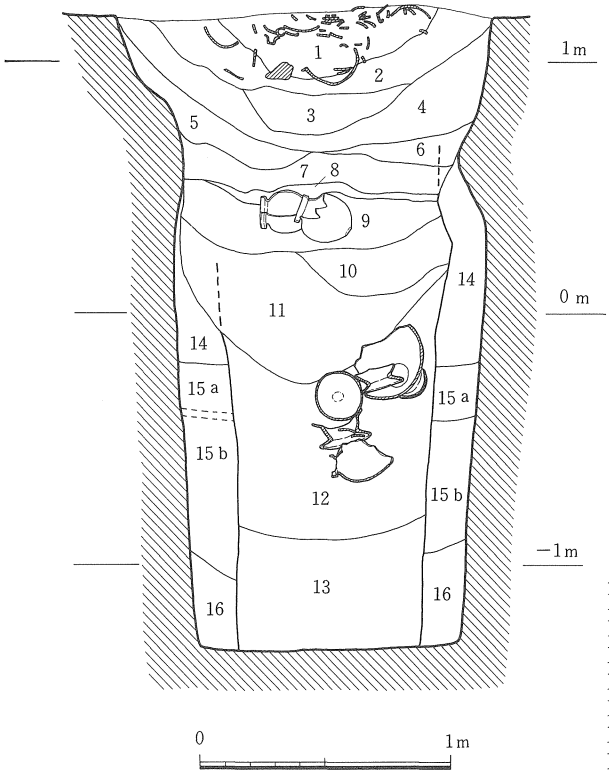
図207　竪穴住居－24　縮尺 1/60

b．井　　戸

井戸－14（図208～212，図版26・63・65）



1・2層における遺物出土状況



1　灰褐色砂質土　（土器多含）
2　〃　〃　（土器少含）
3　灰褐色土　（土器・礫含）
4　黄灰褐色粘質土（炭・焼土・粘土粒・土器含）
5　灰褐色　〃　（〃・焼土含，粘土粒多含）
6　灰色　〃　（炭多含）
7　暗灰色粘土　（炭・焼土・土器含）
8　炭　層
9　暗灰色粘土　（炭・焼土・土器含，植物質少含）
10　〃　〃　（植物質多含）
11　〃　〃　（炭多含，植物質多含）
12　〃　〃　（炭含，土器多含）
13　暗灰色細～粗砂混粘土（貝・植物質含）
14　青灰色細～粗砂　（炭・植物質含）
15 a 暗灰色粘土　（炭含，砂含）
15 b 青灰色粘土　（植物質含）
16　灰色細～粗砂粘質土　（粘土粒・円礫含）

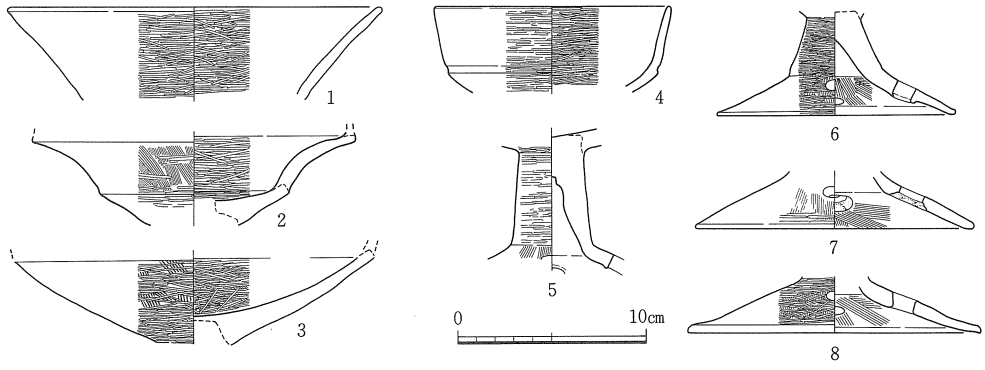
図208　井戸－14　縮尺 1/30

ＢＣ31・32区に位置する。竪穴住居４の北端部を深く削平する

検出レベルは標高約120cmで，平面形は径157×151cmの円形を呈す。掘り方は検出面下約70cm，標高50cm前後まで若干摺り鉢状を呈し，以下は垂直に近い角度で掘り込まれ，検出面下254cm，標高－135cmに位置する底面に至る。底面形は径105cmの広くて平坦な円形を呈す。

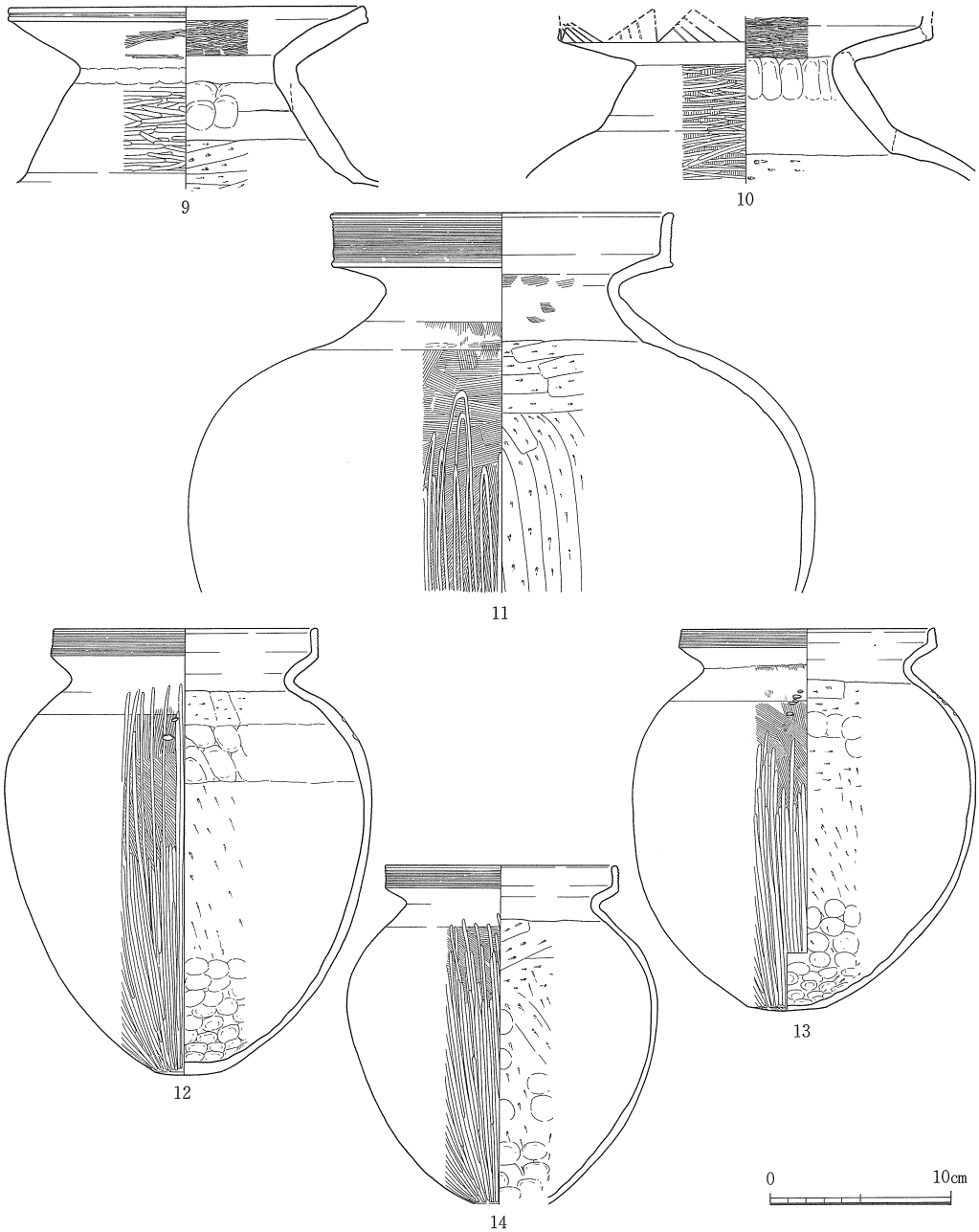
埋土下半部の状況をみると12・13層と14～16層の間に明瞭な縦方向のラインが認められる。上半部分では崩れて確認できないが，径73cmを測り，井筒痕跡と考えられる。井筒内12層中には壺（９～11），甕（12・15・18・21）が組合されて埋められる。壺（９・10）は頸部以上，壺（11）は体部上半以上のみで下半の破片は認められない。甕（12・15・18）は完形品である。９～11層は植物質を非常に多量に含み，９層上半部には甕（13・14・17）が包含される。３個体とも完形に近く，その中の２個体は組合わさった状態で出土している。土器の上面には炭化物層（８層）が厚く堆積する。７層以下は水平堆積傾向をもつ粘土層であり，レンズ状堆積の上層との間に差をみせる。また，上層部（１・２層）には井戸埋没後の凹みに一括廃棄されたと考えられる土器が多量に集積する。遺物は小破片の割合が高く，器種も下層の遺物が壺・甕に限定されるのに対して，高杯・鉢が目立つなど対照的である。

本遺構は下層出土遺物から鹿田・古・１ａ期に比定される。上層出土遺物についても甕等に若干新傾向が認められ，井戸17に対応する時期が想定されるが，ここでは大きく古・１ａ期に把えたい。　（山本）



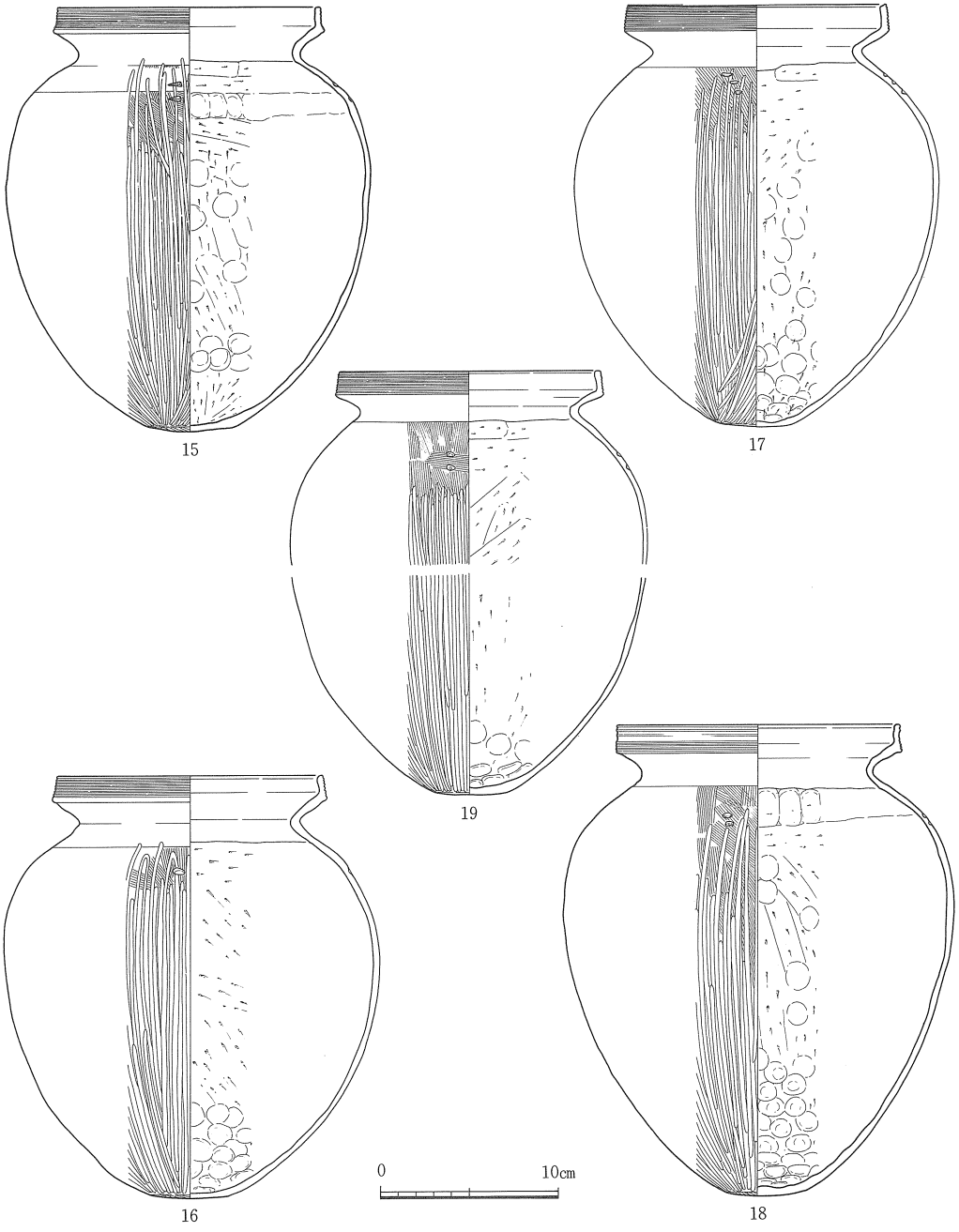
遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	高杯形土器	20.0	－	－	内外面細密な篦ミガキ	明赤褐～淡乳褐	微砂㋐，水漉粘土
2	〃	－	－	－	外面ハケ後篦ミガキ少量，下半は不鮮明	赤褐	〃　〃，　〃
3	〃	－	－	－	外面押圧ハケ後篦ミガキ，内面ハケ後篦ミガキ，黒斑	淡灰褐	〃　〃，精良
4	〃	12.6	－	－	内外面細密な篦ミガキ	赤褐	〃　〃，水漉粘土
5	〃	－	－	－	杯部内面篦ミガキ，脚裾部内部磨滅で不明	明赤褐	〃　〃，精良
6	〃	－	12.7	－	脚裾部内面ハケ・下半は横ナデがおよぶ	淡赤褐	〃　〃，　〃
7	〃	－	14.8	－	外面ハケ後篦ミガキ，磨滅で不鮮明	赤褐	細砂，精良
8	－	－	15.6	－	脚裾部内面幅広のハケ，端部横ナデ	明赤褐	微砂㋒，水漉粘土

図209　井戸－14　出土遺物(1)　縮尺 1/4



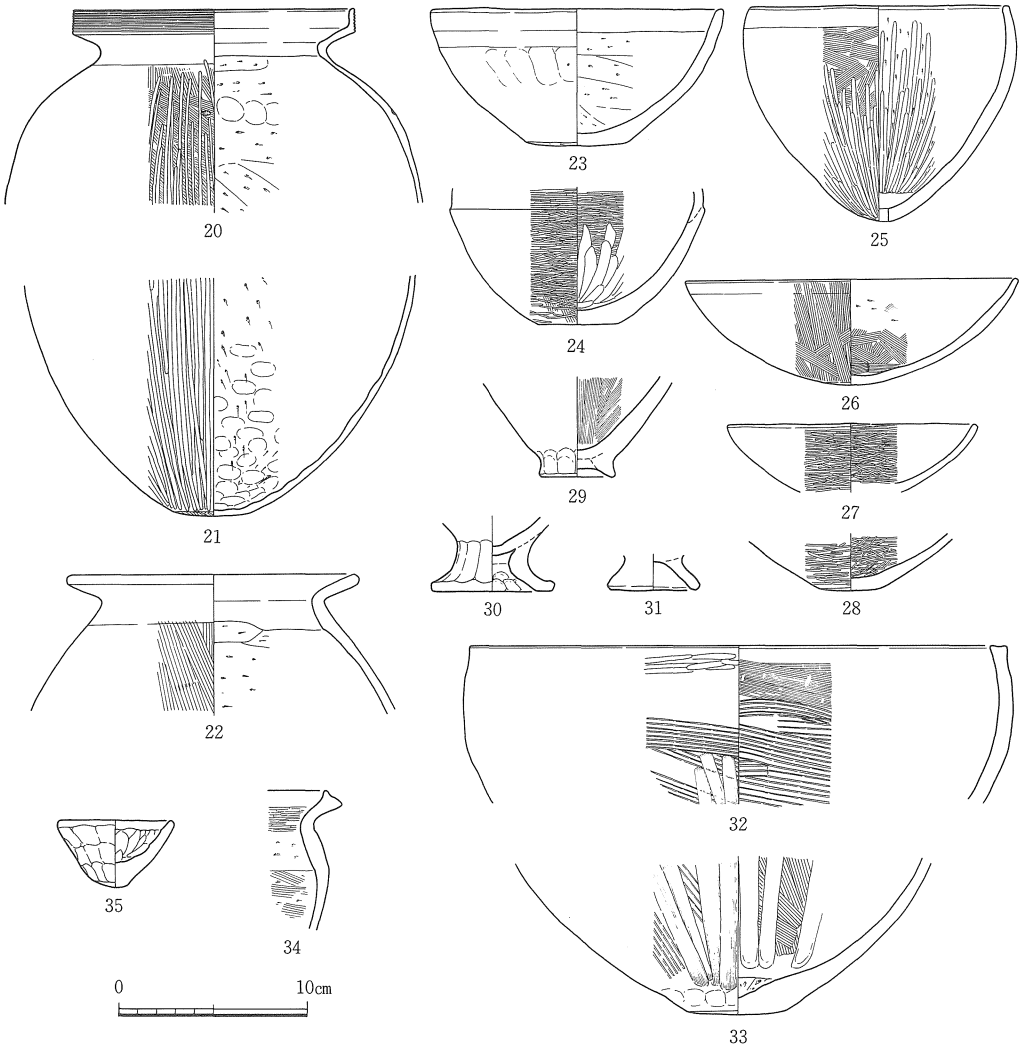
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
9	壺形土器	19.9	—	—	口縁部内面下半ハケ，口縁部外面丁寧な横ナデ後一部篦ミガキ	淡灰褐	細砂，細礫②
10	〃	—	—	—	口縁部内面細密な篦ミガキ	灰白～暗灰～灰黄白	〃，〃
11	〃	19.0	—	—	櫛描沈線約16条，頸部端部外面一部篦ミガキの可能性あり	淡灰褐	微～細砂
12	甕形土器	14.8	3.5	24.8	〃 9条，底部外面ナデ，外面煤付着，肩部刺突は2個で1ケ所	灰褐	微砂
13	〃	14.0	4.3	21.2	〃 6条，肩部の刺突は5個で1ケ所，外面煤付着，剝落・黒斑	淡灰褐	細砂，赤色粒⑧
14	〃	12.9	4.0	—	〃 8条，肩部の刺突の有無は不明，外面煤付着	〃	〃，〃

図210　井戸ー14　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
15	甕形土器	14.9	4.7	24.0	櫛描沈線8条，底部外面篦ミガキ，外面煤付着，刺突文2個で1ケ所	内暗灰外灰褐	細砂
16	〃	14.9	4.4	24.0	〃 7～8条，底部外面篦ミガキ，外面煤付着，刺突文1ケ所，黒斑	黄褐	粗砂
17	〃	14.6	4.0	23.8	〃 8条，底部外面篦ミガキ，外面煤多量，体部内面下半炭化物付着	淡灰褐	微～細砂
18	〃	16.1	4.5	26.7	〃 7～8条，底部外面篦ミガキ，外面煤多量，刺突文2個で1ケ所	内黒灰褐外黒褐	〃～〃
19	〃	14.8	4.0	—	〃 8条，底部外面篦ミガキ，外面煤付着少量，刺突文2個で1ケ所	茶褐	〃～〃

図211　井戸ー14　出土遺物(3)　縮尺 1/4



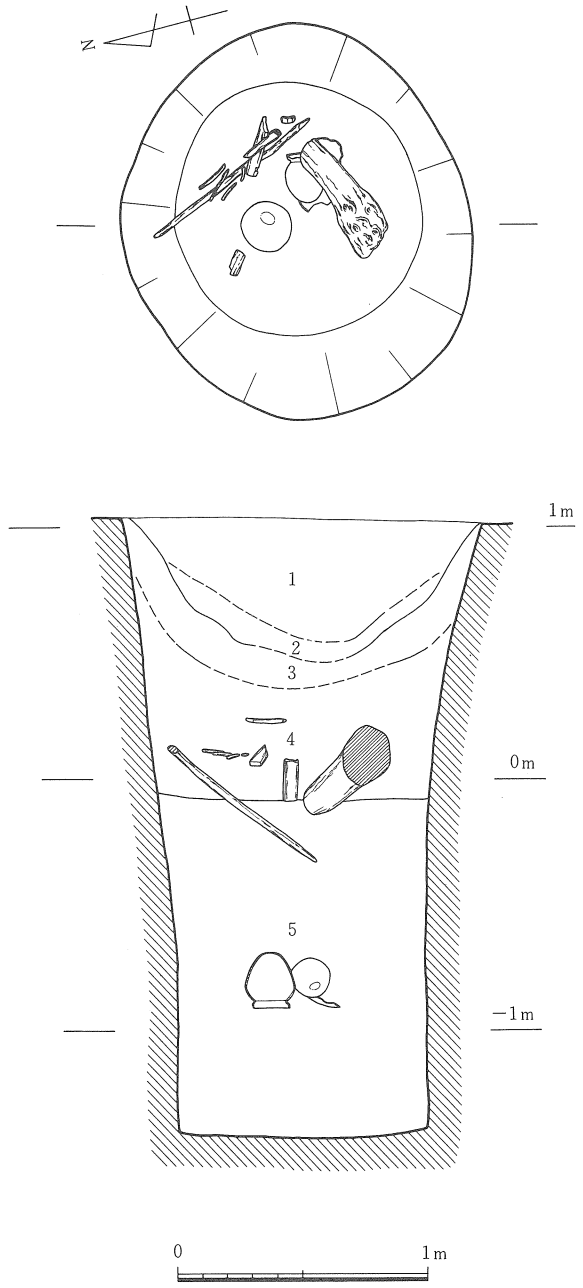
遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
20	甕形土器	15.0	—	—	口縁端面櫛描沈線8条，肩部の刺突文は1ケ所	淡黄褐	粗砂㉓，赤色粒㉗
21	〃	—	4.0	—	底部外面平行篦ミガキ，外面煤付着	茶褐	細～粗砂
22	〃	15.5	—	—	口縁部横ナデ，外面ハケ，内面篦ケズリ	灰褐	〃～〃
23	鉢形土器	15.5	5.2	7.2	底部外面一方向の篦ケズリ，外面押圧・ナデ	淡灰褐	微砂，雲母
24	〃	—	4.2	—	内面細密な篦ミガキ後幅広い放射状篦ミガキ，底部外面ナデ	明赤褐	微砂㊽，水漉粘土
25	〃	13.8	—	11.4	底部は丸底に近い・焼成前の穿孔あり，内面ナデ，黒斑	茶褐	微～細砂
26	〃	17.7	2.9	5.6	底部外面ハケ後ナデ，内面上半篦ケズリ後ナデ・下半篦ケズリ後ハケメ	淡灰褐～赤褐	細砂
27	〃	13.3	—	—	内外面細密な篦ミガキ	淡乳灰褐	微砂㊽，水漉粘土
28	〃	—	3.3	—	底部外面篦ケズリ後ナデ，内外面篦ミガキ	赤褐	細砂㉕，精良
29	〃	—	4.0	—	外面ナデ	淡茶褐	微砂㊾，精良
30	台付鉢形土器	—	6.4	—	鉢部内外面ナデ，台部内外面押圧	暗灰褐	粗砂
31	製塩土器	—	4.6	—	内外面ナデ	淡赤白～灰	粗砂～細礫㉝
32	鉢形土器	28.6	—	—	体部外面幅広いハケ後工具使用ナデ，黒斑，No33と同一個体	明灰褐	〃，〃〃
33	〃	—	5.4	—	底部内面篦ケズリ・外面ナデ，黒斑，No32と同一個体の可能性	灰褐	〃，〃〃
34	〃	—	—	—	凹線1条，体部内面上半篦ケズリ後横位ナデ・外面横位ハケ，黒斑	淡赤褐	細砂
35	〃	6.2	2.0	3.6	手捏ね土器，全体押圧・ナデ	暗灰褐	微砂㊾，精良

図212　井戸－14　出土遺物(4)　縮尺 1/4

井戸－15（図213～218，図版27-１・65・66・80－２・82）

本遺構はＡＹ38区東南部に位置する素掘り井戸である。平面形は長径155cm，短径135cmの正円に近い楕円形を呈している。本井戸は湧水層であるシルト層までほぼ垂直の筒状に掘り込まれている。検出面から底までの深さ約250cmであり，底面の標高は約－145cmを測る。

埋土は５層に分かれる。１～４層は中央部に旧建物の基礎杭が残存しているため中央部周辺がグライ化し，層序が不明瞭ではあるが，１～３層は中央部へ向って強く傾斜しているものとみられる。１層は中央部で層厚30cm前後を測る灰褐色粘質土であり，多量の土器片が集中している。２層は層厚17cm前後の暗黒灰色粘質土であり，炭・焼土を大量に含んでいる。３層は粘性の強い灰褐色粘質土で，層厚は18cm前後である。上層に比べ、炭・焼土の量は減少している。４層は暗灰色粘土である。上面は中央部に向って凹み，下面はほぼ平坦で，層厚は中央部で約45cm，周辺部で約60cmを測る。本層中からは比較的豊富な木製品および材が出土しており，未分解の有機物も顕著である。５層は灰色粘土である。層厚は約135cmを測る。上



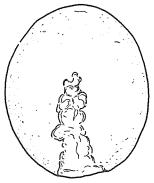
1　灰褐色粘質土　（炭・焼土含）
2　暗黒灰色粘質土（〃・〃 多含）
3　灰褐色粘質土　（炭含）
4　暗灰色粘土　　（未分解有機物含）
5　灰色粘土

図213　井戸－15　縮尺 1/30

面はほぼ平坦であり，上位の層とは異なった要因で堆積したものとみられる。本層中には有機物などの混入物は少ないが，ほぼ完形の甕２個体を始めとして，比較的大形の土器片が出土している。

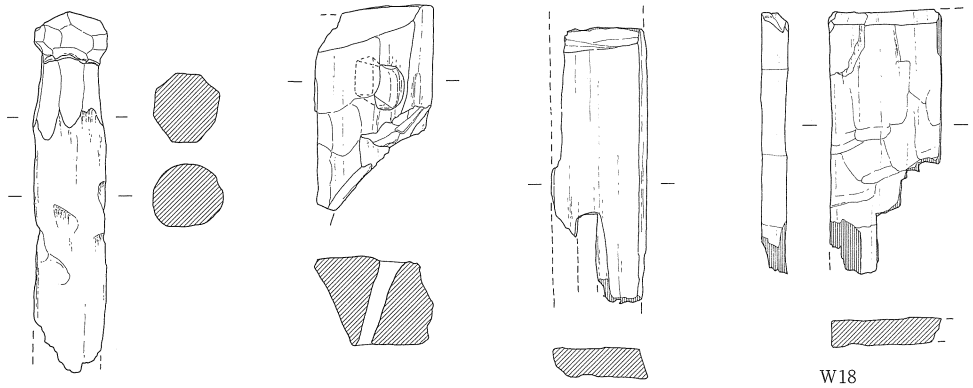
出土遺物のうち，土器には甕（１～15），高杯（16～24），鉢（25～37）などがある。これらは１層出土のものと最下層の５層出土のものとに分かれる。５層出土土器は鉢（29）を除き，ほとんどが甕（１～３・６・７・10・11・14）であり，中でも甕（１）と甕（２）は５層中位からほぼ完形で出土している。他の土器はいずれも１層からの出土であり，５層に比べると器種が豊富である。しかし壺が顕著でなく，高杯，鉢類が比較的多く出土している点が器種構成上の特色である。土器以外の遺物には敲石（Ｓ37），木製品（W15～19）がある。敲石は１層からの出土であり、木製品はいずれも４層からの出土である。中でも表面に線刻を施し，黒漆を塗った装飾付木製品（W19－１・２・３）は類例をみないものとして注目される。

本井戸から出土した土器には層位による時期差が認められず，本井戸は出土土器から鹿田・古・１ａ期に属している。（栄）



S 37

0　5cm



W15　W16　W17　W18

0　10cm

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
Ｓ37	敲石	6.9	5.6	5.4	280.0	細粒花崗岩	一端溝状敲打痕，石錘の可能性あり

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W15	有頭木製品	19.2	3.7	3.8	－	芯持材の一端を削りコブ状の頭部をつくり出す，未加工の部分に樹皮残存，折損部炭化
W16	組合部材	10.8	－	5.0	－	角材に傾斜した柄穴を穿つ
W17	〃	14.8	5.1	1.6	－	板材に長方形の柄穴を穿つ，板目材
W18	加工木	14.0	－	1.5	－	ノミ状工具の加工痕残る，柾目材
W19	短甲状木製品	－	－	－	ホウノキもしくはキトチノキ	輪郭に沿って２本１単位の沈線が５重に巡りその中に同心円状の線刻が入る，斜方向の帯を境に沈線は側面へと流れる，表面は削った後磨きをかけ黒漆を塗る，短甲の肩から腕ぐりにかけての部位に相当か，２・３は１と同一個体と考えられるが部位は不明

図214　井戸－15　出土遺物(1)　縮尺 1/3（Ｓ37）・1/4

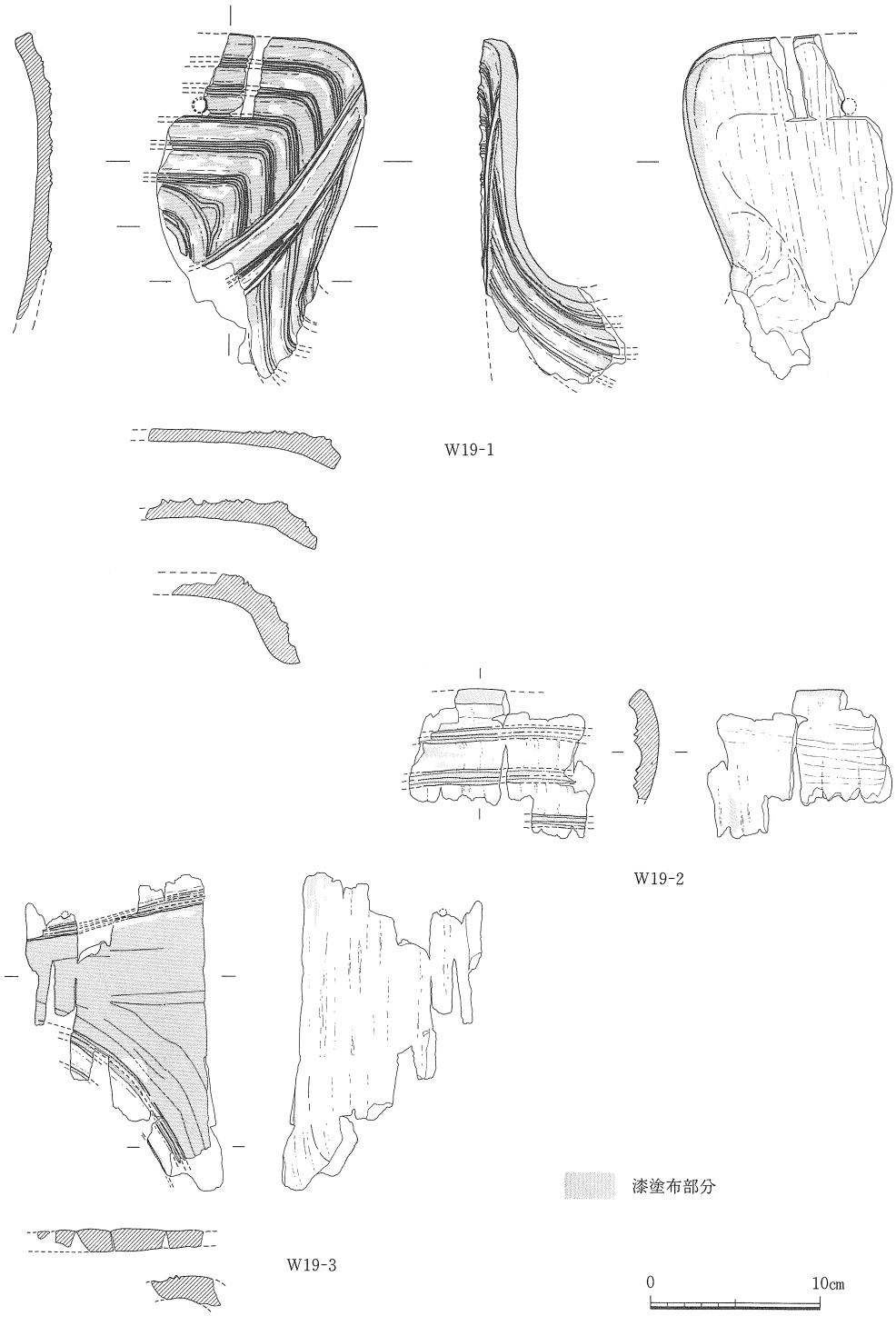
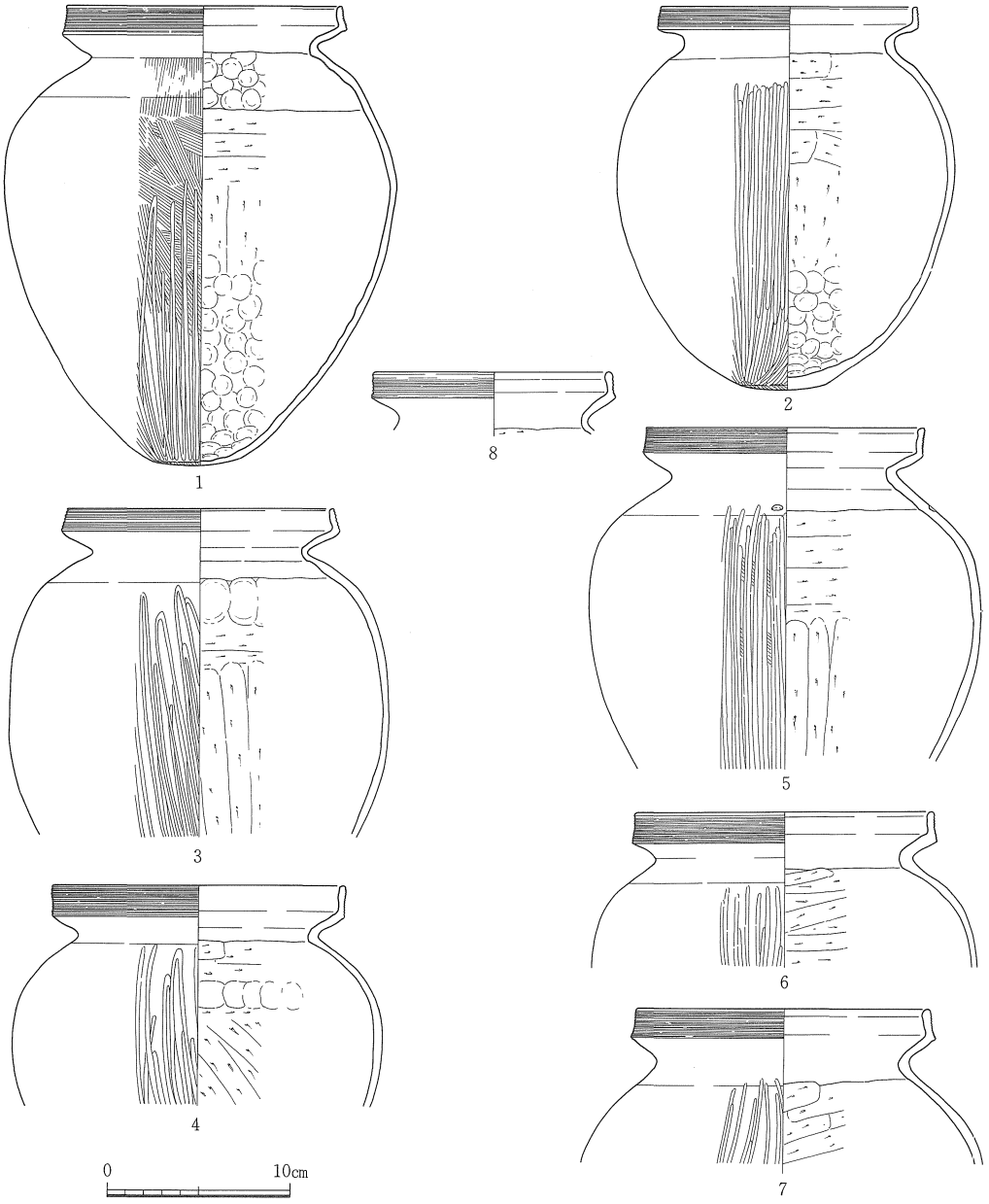


図215　井戸ー15　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	15.1	4.8	25.1	櫛描沈線9条，外面体部下半ナデ後箆ミガキ㊀・底部箆ミガキ・煤多量	暗灰褐	微～細砂
2	〃	14.0	4.6	20.9	〃 7条，体部外面下半箆ミガキは5分割される・底部箆ミガキ・煤	灰褐	微砂
3	〃	14.5	—	—	〃 〃，体部外面ナデ後箆ミガキ㊀，外面煤付着多量	暗灰褐	粗砂～細礫②
4	〃	16.1	—	—	〃 12条， 〃 ， 〃	灰褐	微～細砂
5	〃	15.2	—	—	〃 〃，肩部に刺突文1ケ所，外面煤付着	明赤褐	微砂
6	〃	16.3	—	—	〃 〃，外面煤付着多量	㈣淡灰褐㈨黒	細砂～粗砂
7	〃	16.0	—	—	〃 〃， 〃	黄褐～赤褐	粗砂
8	〃	13.0	—	—	〃 8条以上（横ナデで一部消失）	明茶褐	微～細砂

図216 井戸－15 出土遺物(3) 縮尺 1/4

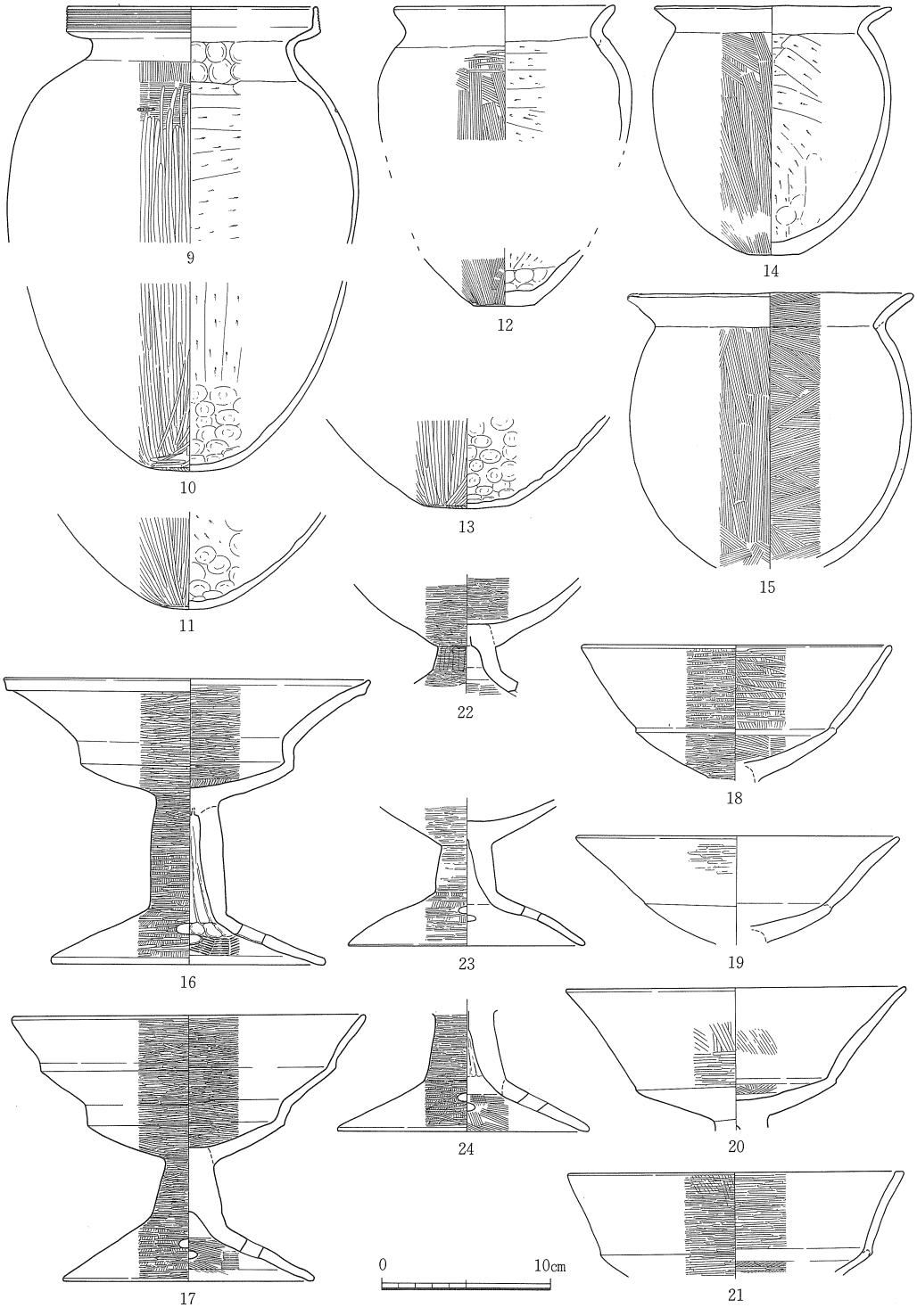
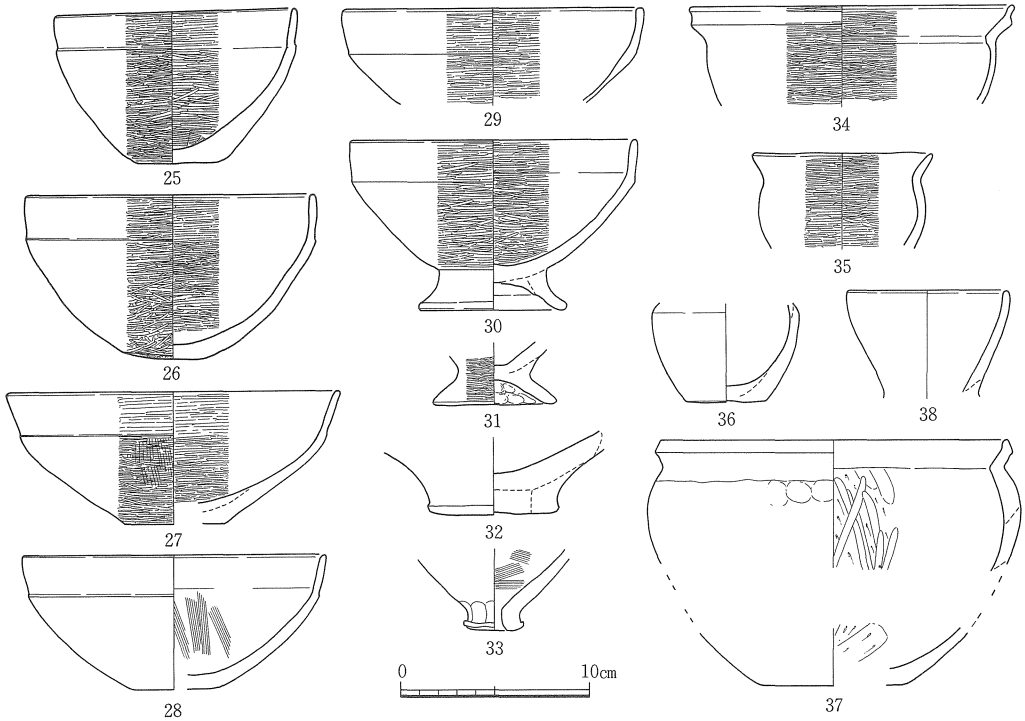


図217　井戸－15　出土遺物(4)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
9	甕形土器	14.9	—	—	櫛描沈線7～8条，肩部刺突文1個，外面煤，篦ミガキは左上り気味	(内)明赤褐(外)淡灰褐	細砂～粗砂
10	〃	—	4.9	—	底部外面平行篦ミガキ，外面・底部内面煤付着多量，黒斑	暗灰褐	〃 ～ 〃
11	〃	—	2.8	—	〃 〃 ，外面煤付着多量	暗褐	微～細砂
12	〃	13.1	3.5	—	底部外面ナデ，外面ハケ，内面篦ケズリ，黒斑	(内)暗灰褐(外)淡褐	〃～ 〃
13	〃	—	5.0	—	〃 平行篦ミガキ内面押圧，外面篦ミガキ・煤付着少量	(内)赤褐(外)暗～黒褐	細砂，白色粒
14	〃	14.0	3.0	14.7	内面篦ケズリ後軽いナデ，底部外面・口縁部ナデ・押圧，外面煤付着多量	(内)灰褐(外)黒褐	微砂
15	〃	16.6	—	—	内面細く浅いハケ，外面ハケ・煤付着	淡赤褐～黄褐	微～細砂
16	高杯形土器	21.8	16.2	17.0	杯部内面底部中央平行篦ミガキ，脚部外面ハケ後篦ミガキ	赤褐	細～粗砂㉕
17	〃	21.0	15.0	15.9	杯部篦ミガキ，脚裾部外面ハケ後篦ミガキ，裾部内面ハケ	〃	微砂，精良
18	〃	18.4	—	—	杯受部内面ハケ，口縁部ハケ後篦ミガキ	明赤褐	微砂⑯，水漉粘土
19	〃	19.2	—	—	全面磨滅で不明確，篦ミガキの可能性高い	〃	〃 ㉓，精良
20	〃	20.2	—	—	杯部内面ハケ後横ナデ，外面ハケ後篦ミガキの可能性高い，黒斑	〃	〃 〃，〃
21	〃	20.0	—	—	杯受部内面・口縁部外面ハケ後篦ミガキ，他は篦ミガキ⑯	淡赤褐	〃 ⑯，水漉粘土
22	〃	—	—	—	杯部外面下半放射状篦ケズリ痕残存，脚内面以外は篦ミガキ	赤褐	〃 〃，〃
23	〃	—	14.0	—	内面磨滅で不鮮明，脚部内面から杯底部への刺突穴3ケ所	明赤褐	〃 〃，〃
24	〃	—	14.9	—	内面しぼり目，裾部外面ハケ後篦ミガキ・内面ハケ	(内)淡黄褐(外)明褐	〃 ㉓，精良

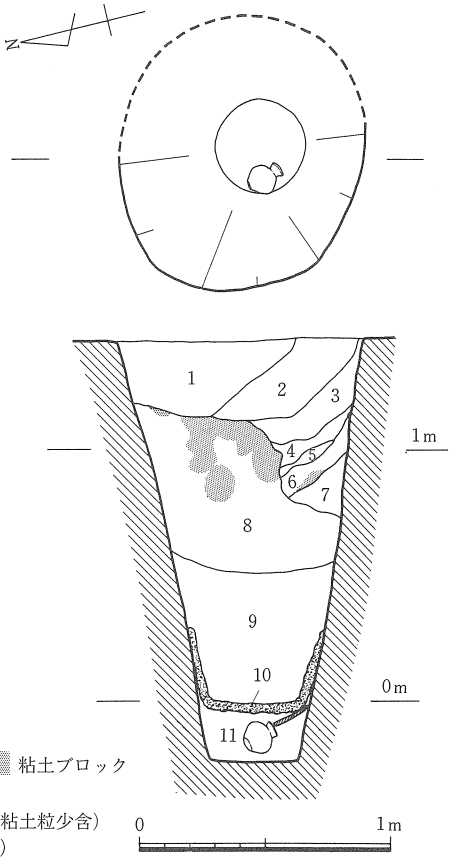
遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
25	鉢形土器	12.8	4.1	8.1	底部内面ハケ・外面ナデ，他は篦ミガキ，黒斑	淡赤褐	微砂⑯，水漉粘土
26	〃	15.4	4.4	8.7	内部外面篦ミガキ，黒斑	明褐～淡黄褐	〃 〃，〃
27	〃	17.7	5.2	7.0	口縁部内外面は強い横ナデの可能性もあり	明赤褐	〃 ㉓，精良
28	〃	16.2	4.0	7.1	磨滅で不鮮明だが体部内面以外はナデの可能性あり	赤褐	〃 〃，〃
29	〃	16.0	—	—	篦ミガキ	淡乳赤褐～淡黄褐	〃 ⑯，水漉粘土
30	台付鉢形土器	15.2	7.8	9.0	鉢部篦ミガキ，台部横ナデ，鉢部と台部とは別々の粘土使用	(鉢)赤褐(台)暗黄灰	(鉢)水漉，(台)細砂㉕
31	〃	—	6.5	—	内面ナデ・押圧，外面篦ミガキ	暗灰褐	微砂㉓，雲母
32	〃	—	6.8	—	全面ナデ，底部外面に木葉痕あり	(内)暗灰(外)黄褐	細砂
33	〃	—	3.2	—	外面磨滅で不明	淡赤褐	微砂⑯，水漉粘土
34	鉢形土器	17.2	—	—	体部内面篦ケズリ後篦ミガキ	暗赤褐	〃 ㉓，〃
35	〃	9.4	—	—	内外面篦ミガキ，黒斑	淡黄褐～淡灰褐	微～細砂㉕
36	〃	—	4.2	—	内外面ナデ，黒斑	(内)淡褐(外)淡黄白	微砂㉓，精良
37	〃	18.4	7.4	—	外面ナデ，内面篦ケズリ後上半一部篦ミガキ	黒褐～明赤褐	〃 ⑯，水漉粘土
38	直口壺形土器	8.5	—	—	全面横ナデ	明赤褐	〃 〃，〃

図218　井戸－15　出土遺物(5)　縮尺 1/4

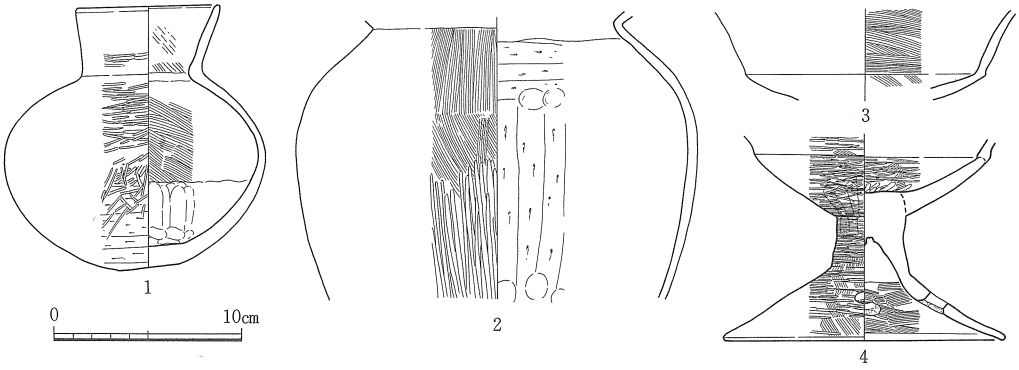
井戸ー16（図219）

ＡＺ28区に位置する。調査区東端部にあるため，調査時の側溝によって遺構東半部上半を削平される。

検出レベルは標高145cmで，平面形は110cm前後（復元推定）の円形を呈す。掘り方は逆長台形で立上りは直線的である。底面高は，検出面下167cm・標高－24cmを測り，平面形は不正円である。上部３～８層には白色粘土粒～粘土塊がブロック状に混在し，短時間のうちに投げ込まれたような状況を呈す。分層はしたが，一連の埋土と考えられる。10層は炭化物層であるが，木質ではなく繊維質状のものが確認されている。詳細は不明である。遺物は最下層において出土しており，完形品の小形壺（１）・甕（２）・高杯（３・４）・加工痕のある木材がある。全体的に遺物は少ない。時期は鹿田・古・１期に比定される。（山本）



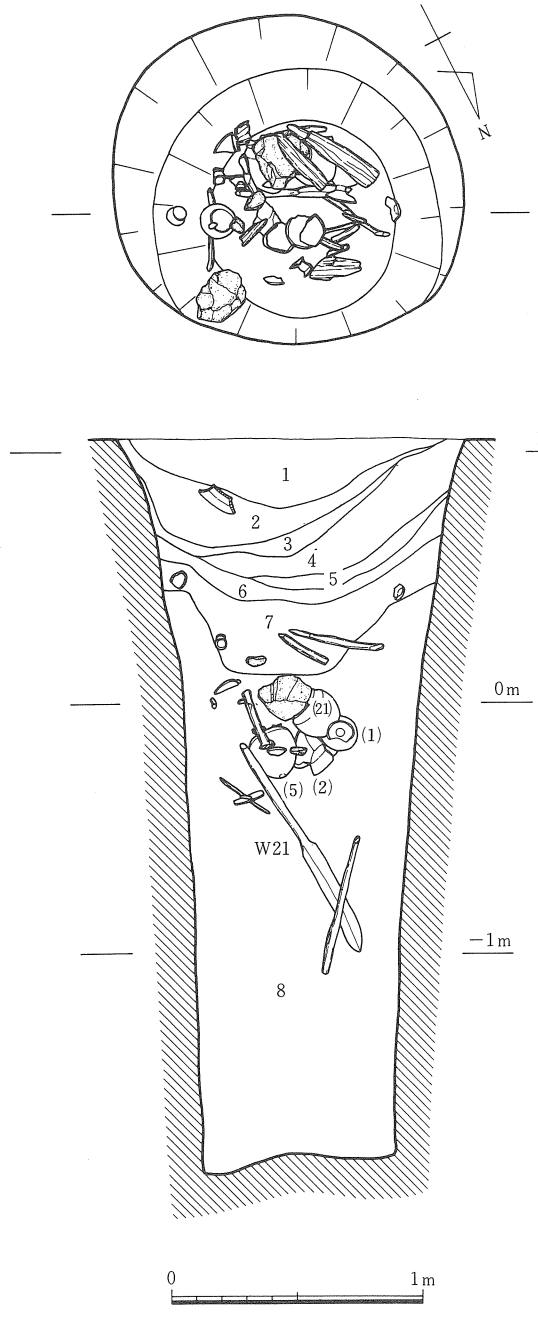
1　黄灰褐色砂質土
2　灰褐色細砂質土(炭・焼土含)
3　黄灰褐色土
　(粘土粒～塊多含，土器含)
4　茶灰褐色土
5　黄灰色細砂
6　暗茶灰褐色土　(粘土塊含)
7　茶灰褐色細砂質土(炭・焼土・粘土粒少含)
8　暗茶灰褐色土　(粘土塊多含)
9　青灰色砂混粘土　(炭・焼土含)
10　炭化物層　(繊維質)
11　青灰色粘土　(土器・木器含)



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	7.7	3.2	14.0	外面篦ミガキ・下半篦ケズリ残存，口縁部内面ハケ後横ナデ，黒斑	(内)茶褐(外)黄褐	微砂
2	甕形土器	－	－	－	内面篦ケズリ，口縁部横ナデ，外面ハケ後篦ミガキ，内外面煤付着	暗褐	微～粗砂◎
3	高杯形土器	－	－	－	外面ナデ，内面ハケ	明赤褐	微砂◎，水漉粘土
4	〃	－	15.0	－	内面細い篦ミガキ後中心部のみやや幅広の放射状篦ミガキ	淡乳灰褐	〃 〃，〃

図219　井戸ー16　出土遺物　縮尺 1/30，1/4

井戸－17（図220～224，図版27-２・65・66・80－１・82）

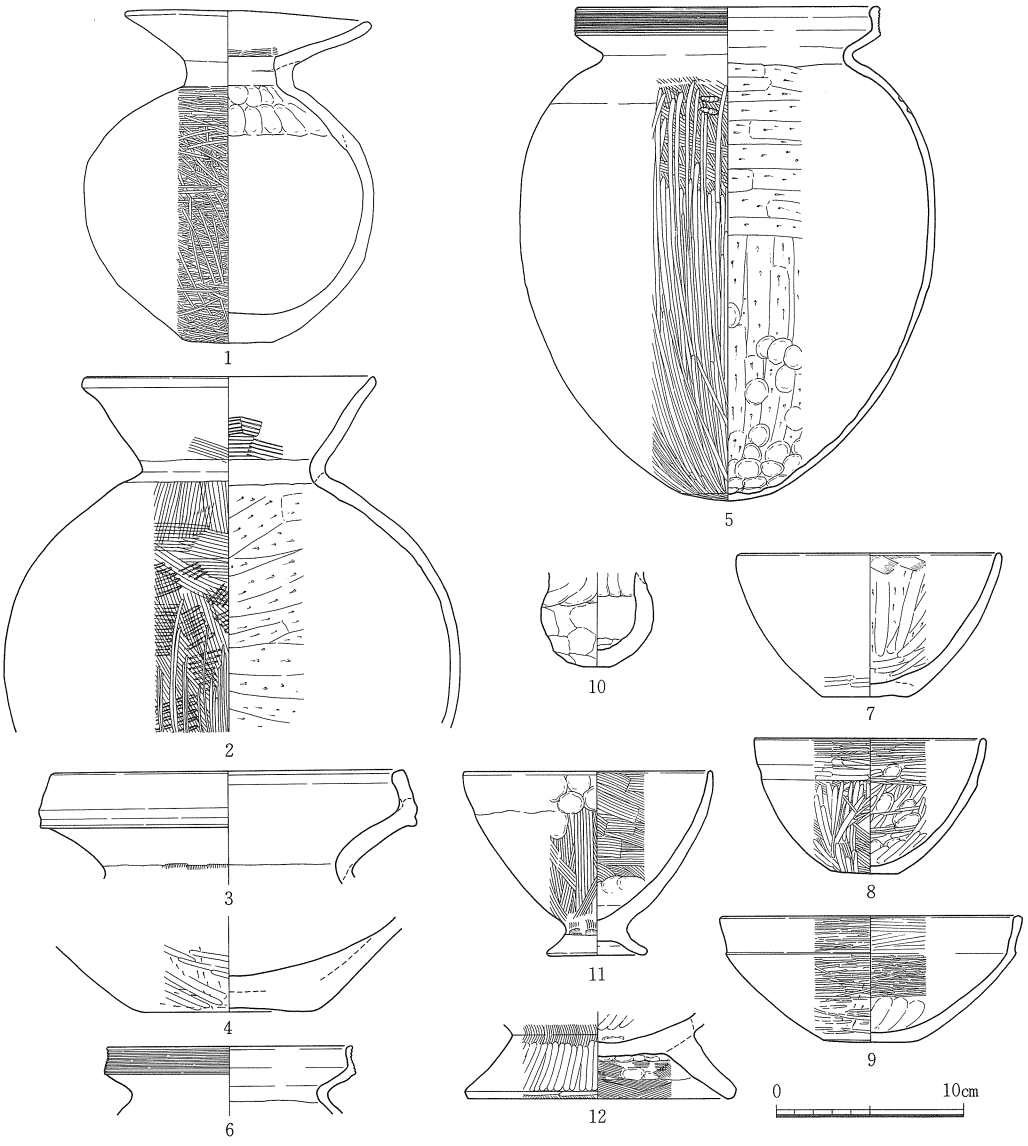


本遺構はＡＹ35区の中央付近に位置する素掘り井戸である。北側上端が一部削平されているが，現状で東西径約140㎝，南北径約130㎝を測る円形プランを呈している。掘り方は，上位部がかすかに開き気味であるが，基本的に壁がほぼまっすぐに立ち上がる円筒形である。検出面が底までの深さ295㎝前後を測り，最下面の標高約－190㎝である。

埋土は８層に分かれる。１層は暗灰褐色土，２層は茶褐色土で，いずれも層厚が最大で25㎝前後と比較的厚い層であるが，，炭・焼土などは少量含む程度で，特徴的な堆積状況を示さず，基本的に周囲からの流入土とみられる。これに対し，３層の暗茶褐色土には薄層状の炭が含まれ，特徴的な堆積状況を示している。４層の黄灰褐色土，５層の灰褐色粘質土，６層の淡灰色粘質土はいずれも特徴的な堆積状況は示さない。７層は炭の薄層を多量に含む灰

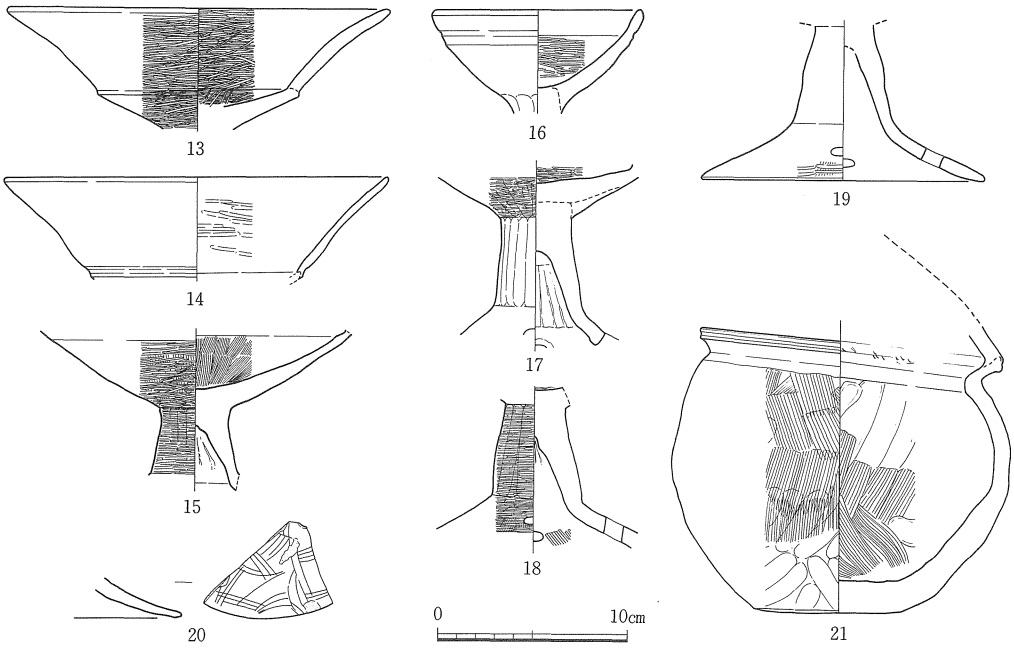
1　暗灰褐色土　（炭・焼土少含）
2　茶褐色土　（炭・焼土少含）
3　暗茶褐色土　（炭多含）
4　黄灰褐色土　（炭含）
5　灰褐色粘質土（焼土含）
6　淡灰色粘質土
7　灰色粘質土　（炭・未分解有機物多含）
8　灰色粘土

図220　井戸－17　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	13.1	4.8	17.6	体部外面横位篦ケズリ（面取り的）後ハケ後篦ミガキ，黒斑	淡赤褐～淡乳灰褐	微砂㉓，精良
2	〃	15.3	—	—	体部外面タタキ後幅広いハケ，下半はその後篦ミガキ，黒斑	(内)灰褐(外)暗灰褐	細砂，細礫㉓
3	〃	18.6	—	—	全面剝落で不鮮明だが体部内面横位篦ケズリ，端面凹線3条の可能性	淡黄褐	〃～〃㉓
4	〃	—	9.0	—	底部外面篦ケズリ，黒斑	淡灰褐	微砂
5	甕形土器	16.0	4.8	26.2	櫛描沈線8条，肩～底部外面篦ミガキ，刺突文2個1ケ所，内外面媒多量	黒褐色	〃
6	〃	13.1	—	—	〃 〃，内外面媒多量	黒～明褐	微～細砂
7	鉢形土器	14.0	4.5	7.6	内面篦ケズリ後篦ミガキ，底部外面篦ケズリ後ナデ，黒斑，媒付着	暗灰褐	細砂㉓
8	〃	12.4	3.5	7.2	体部内面押圧後篦ミガキ・外面ハケ後篦ミガキ	淡赤灰白	微砂㊱，水漉粘土
9	〃	16.0	5.0	6.7	底部内面ナデ，他は篦ミガキ	明赤灰	〃
10	〃	—	1.4	—	手捏ね土器，体部外面面取りあり，黒斑	淡黄褐～淡乳褐	〃 ㊱，水漉粘土
11	台付鉢形土器	13.2	5.1	9.8	外面ハケ後押圧，口縁部は径12～16cmの楕円形，黒斑，媒	黄褐	微～細砂
12	〃	—	14.1	—	底部内外面押圧，台部外面篦ミガキ・内面ハケ，黒斑	淡黄褐	微砂㉓

図221　井戸－17　出土遺物(1)　縮尺 1/4

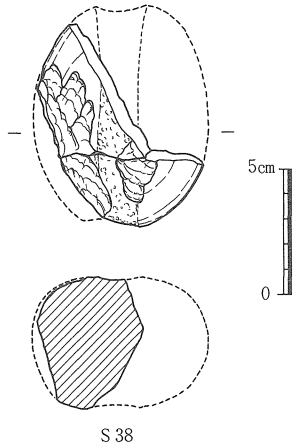


遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
13	高杯形土器	20.3	—	—	内外面篦ミガキ	明赤褐	微砂㊽，水漉粘土
14	〃	20.3	—	—	内外面磨滅で不鮮明，篦ミガキか	淡赤褐～淡黄褐	〃 ㉗，精良
15	〃	—	—	—	杯部外面ハケ後篦ミガキ	淡乳黄灰	〃 〃，〃
16	〃	10.9	—	—	外面ナデ，杯部内面篦ミガキ	黄褐	〃
17	〃	—	—	—	杯部外面篦ケズリ後篦ミガキ，脚裾部外面小片で不明	〃	〃 ㉗，精良
18	〃	—	—	—	杯部内面篦ミガキ，脚裾部外面ハケ後篦ミガキ	明赤褐～淡黄褐	〃 ㊽，水漉粘土
19	〃	—	15.0	—	内外面磨滅でほとんど不明	淡黄褐	〃 〃，〃
20	〃	—	—	—	外面横位篦ミガキ，内面ナデ，外面線刻文	淡赤褐	〃 〃，〃
21	手焙り形土器	—	8.0	—	外面押圧後ハケ・黒斑・煤付着，内面押圧後ハケ，口縁部内外面ナデ	灰褐～淡赤褐	微～細砂，粗砂㉙

図222　井戸－17　出土遺物(2)　縮尺 1/4

色粘質土で，若干の木製品，木片を含んでいる。本層の下面は中央部で大きく落ち込んでおり，８層堆積後に人為的に掘り込まれた状況が推定される。この７層下面には未分解の有機物が一部薄く層をなして堆積している。８層は灰色粘土であり，炭・焼土等の混入物は乏しい。本層は層厚約190～230cmの極めて厚い均質な堆積であるが，中位から上位にかけて，完形に近い土器，木製品，大形の礫などがまとまって出土している。

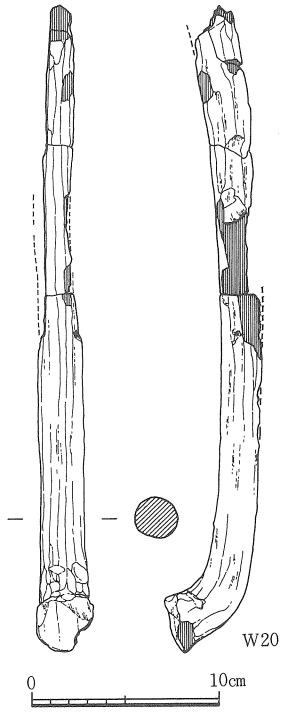
本井戸からの出土土器には，壺（１～４），甕（５・６），鉢（７～10），台付鉢（11・12），高杯（13～20），手焙り形土器

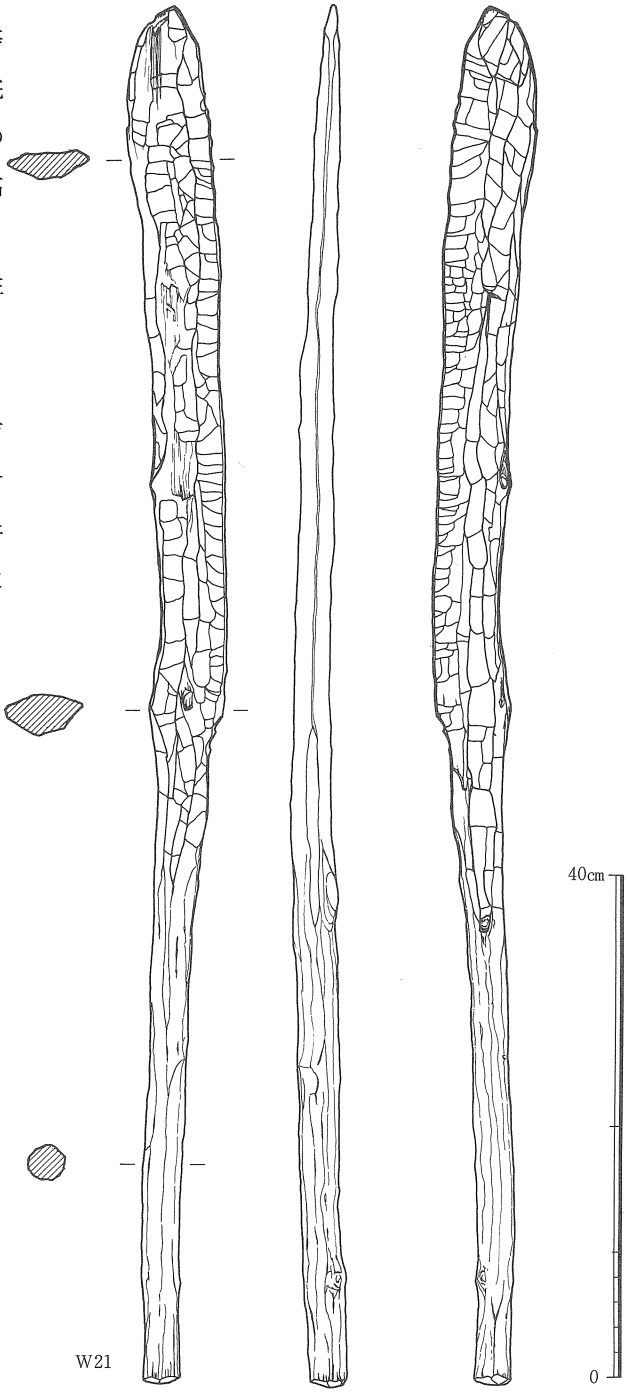


遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S 38	石錘	8.4	4.9	5.2	240.0	斑糲岩	欠損品，一端敲打による溝

図223　井戸－17　出土遺物(3)　縮尺 1/3

(21) などがある。このうち壺・甕等（1・2・5・21）は7層上位から完形もしくは大形破片で検出されたものである。また上位の層から出土した高杯脚部片（20）の表面には線刻が施されており，類例の少ないものとして注目される。このほかに，石錘（S38），木製品（W20・21）が出土している。特に中でも櫂状木製品（W21）は井戸の使用もしくは廃絶時の祭祀と関連するものともみられ，注意される。本井戸は出土土器から鹿田・古・1a期に属する。（栄）





遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W20	棒状木製品	34.4	2.3	2.1	—	基部端面径約3.0cm，枝を根本から切断し切断面を平坦に削り他は面を取る，芯持材
W21	櫂状木製品	110.4	2.9 6.6	3.0 2.3	アラカシ	保存は極めて良好で加工痕は明瞭，柄は面を取り断面円形に仕上げる，先端はノミ状工具の加工痕が残る，片面に稜を持ち断面台形となり鋭利な側縁を持つ，芯持材

図224　井戸－17　出土遺物(4)　縮尺 1/4(W20)・1/6(W21)

井戸－18（図225・226，図版28・65・76）

ＡＺ33区に位置する。西半部の上層を後世の攪乱溝により削平される。

標高120㎝の高さで，径140㎝の円形プランが検出された。掘り方は，上面から標高60㎝付近まで摺り鉢状に掘り込まれ，そこから標高50㎝まで，ごく緩やかな傾斜をとり，テラス状部分を形成する。その後垂直に近い急角度で直線的に落ち込み，検出面下294㎝，標高－170㎝の底面に至る。底面は径30～40㎝の円形プランを呈し，中心はやや北寄りに位置する。ただし掘り方下半部は非常に径が細く，13層についてはボーリング調査によってのみ確認された。このため底面高については不明瞭な点が残る。12・13層の包含物が僅少であることもから，11層下面に底を求めることも不可能ではない。

主要遺物は11層上部から出土する，甕（1～4），高杯（5・6），鉢（7）がある。甕（1・2）は完形品である。その他の層からは小破片の遺物が多く，土錘３点（Ｐ10～12）のみが図化できた。時期は鹿田・古・1ｂ期に比定される。

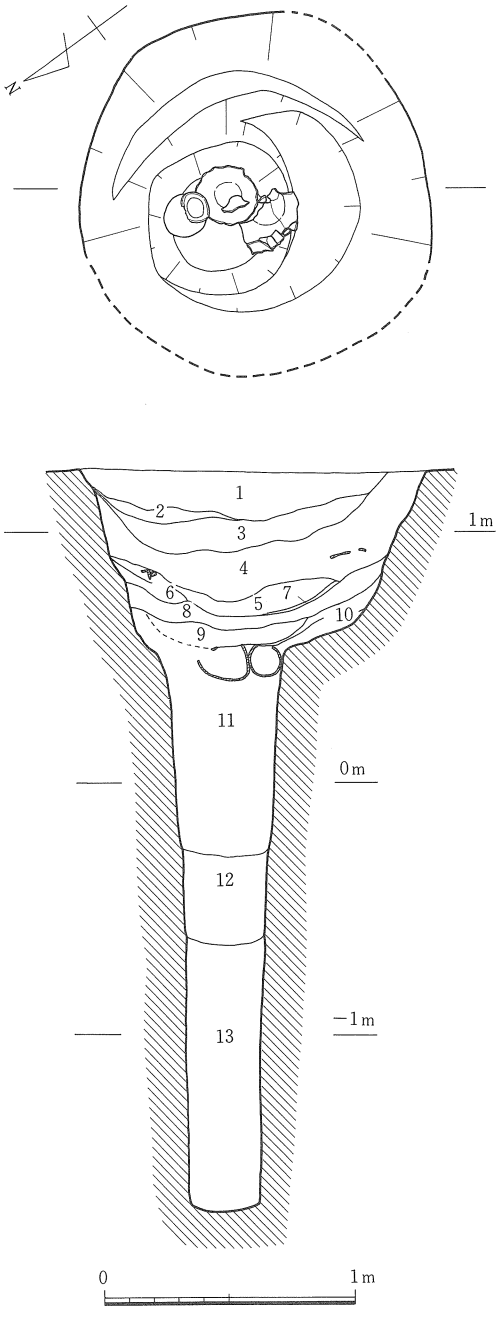
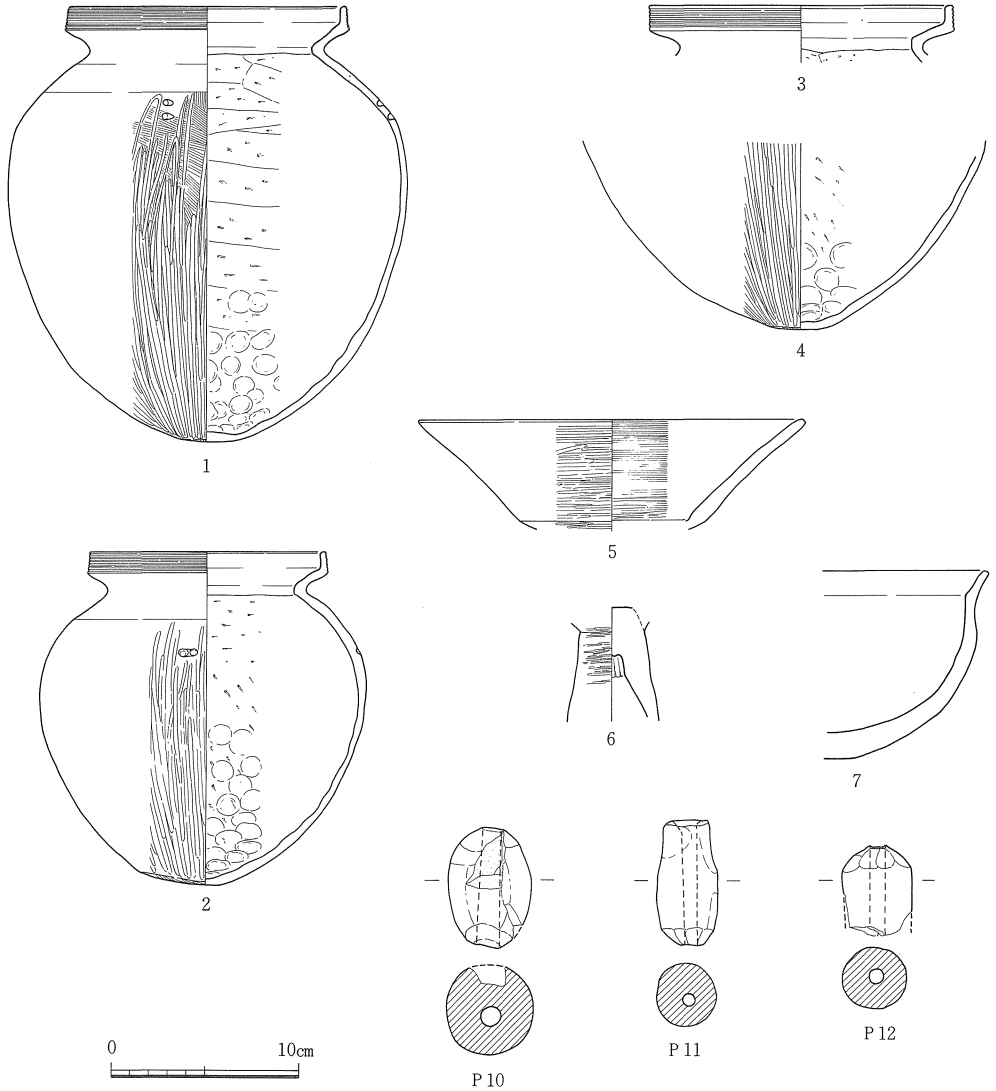


図225　井戸－18　縮尺 1/30

1　灰褐色土　（炭・焼土・土器含）
2　暗灰色土
3　灰褐～茶灰色土　（炭・焼土・土器含，地山粒少含）
4　暗灰褐～暗灰色土（炭・焼土・土器含，地山粒多含）
5　暗灰褐色細砂土　（炭多含，土器含）
6　黄褐色粘質土
7　淡灰色粘土
8　暗茶灰色土　（炭・焼土・土器・地山粒含）
9　暗灰色粘土　（〃・〃・〃含）
10　黄褐色土
11　暗灰色粘土　（炭・焼土・土器含）
12　暗灰色粗砂　（炭含）
13　〃　〃混粘土（炭・植物質含）



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	14.8	2.7	23.1	櫛描沈線7条，底部外面篦ミガキ，内面下半・外面に炭化物・煤付着多量	(内)暗黄灰(外)黒褐	細砂，長石㊎
2	〃	12.6	4.3	17.8	〃 6条，〃，〃・〃・〃	淡(黄)褐	〃 ㊎，雲母
3	〃	16.1	—	—	〃 5条	明茶褐	〃 〃，〃
4	〃	—	2.7	—	外面篦ミガキ，内外面煤多量に付着	黒褐	〃 〃，〃 ㊎
5	高杯形土器	20.4	—	—	内外面横位ハケ後篦ミガキ，全体に不鮮明，内外丹塗りで赤色化	淡黄白～淡黄褐	微砂㊅，水漉粘土
6	〃	—	—	—	杯部内面不明，脚内面ナデ	明赤褐	〃 〃，〃
7	鉢形土器	—	—	—	口縁部横位篦ミガキ，体部内外面ナデ	暗灰褐	〃 〃，〃

遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P10	土錘	6.5	4.5	4.8	98.0	押圧・ナデ	灰褐	微砂㉒，精良
P11	〃	6.6	3.4	3.2	72.0	一方の端部は押圧で面をなす，他はナデ	暗灰～灰褐	〃 〃
P12	〃	—	3.4	3.3	41.0	端部は押圧で面をなす，他はナデ，黒斑	(内)黒灰(外)明茶褐	〃 〃

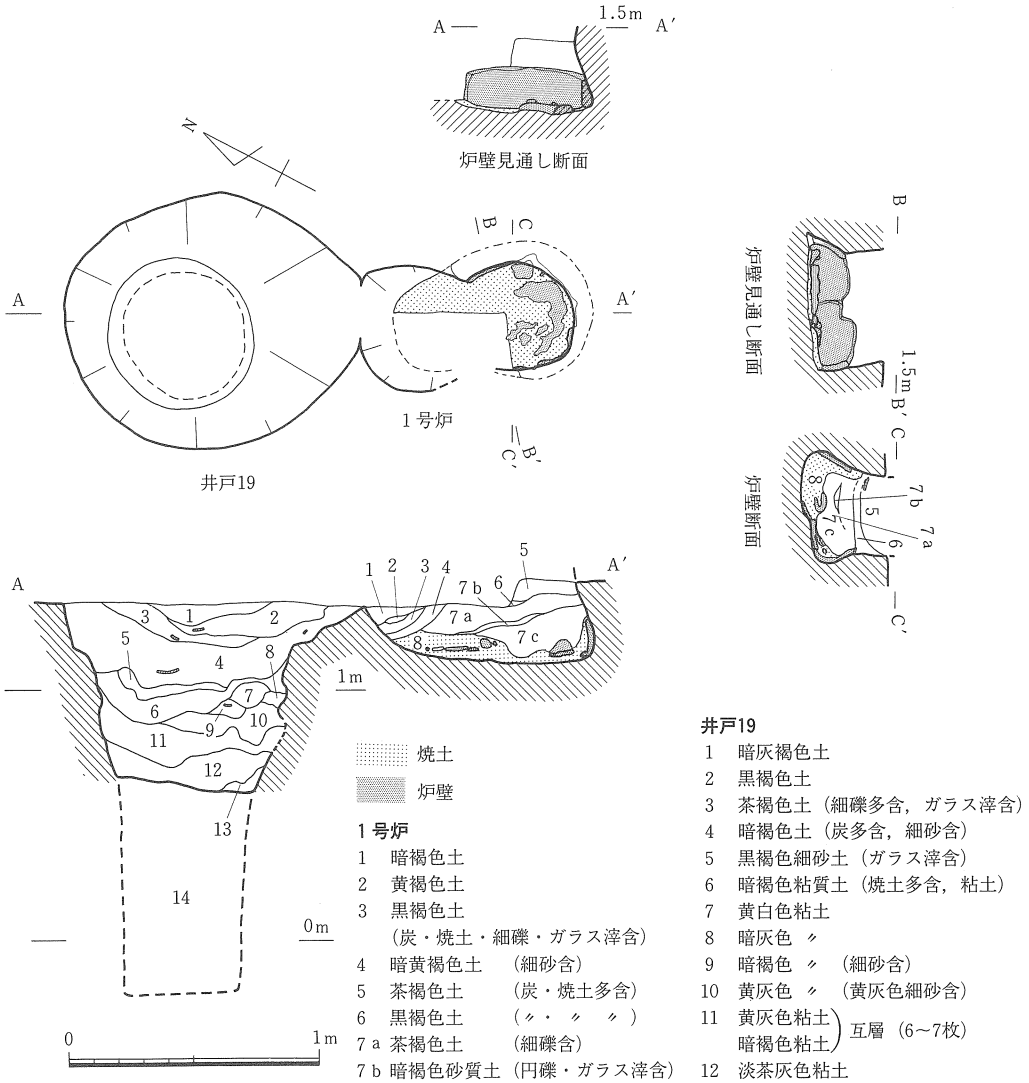
図226　井戸－18　出土遺物　縮尺 1/4

井戸ー19・1号炉（図227～229，図版29-1・76・78－1）

ＡＺ30区に位置する。竪穴住居10を切って構築される。

本遺構は，当初，井戸として機能した後に，その上半部分を1号炉の付属施設として再利用された可能性が高い。よって1～13層は井戸廃棄時の堆積状況ではなく，1号炉に関わる堆積を示すと考える。

まず，当初の井戸の状態を次に述べる。平面形は径100㎝前後のほぼ円形を呈す。掘り方は上面から標高110㎝付近までやや緩やかで，そこから角度を急峻に変えて壁際に凹凸を持ちな



1号炉
1　暗褐色土
2　黄褐色土
3　黒褐色土（炭・焼土・細礫・ガラス滓含）
4　暗黄褐色土（細砂含）
5　茶褐色土（炭・焼土多含）
6　黒褐色土（〃・〃　〃）
7a 茶褐色土（細礫含）
7b 暗褐色砂質土（円礫・ガラス滓含）
7c 茶褐色土（炭・焼土多含）
8　焼土混黄褐色土…炉壁

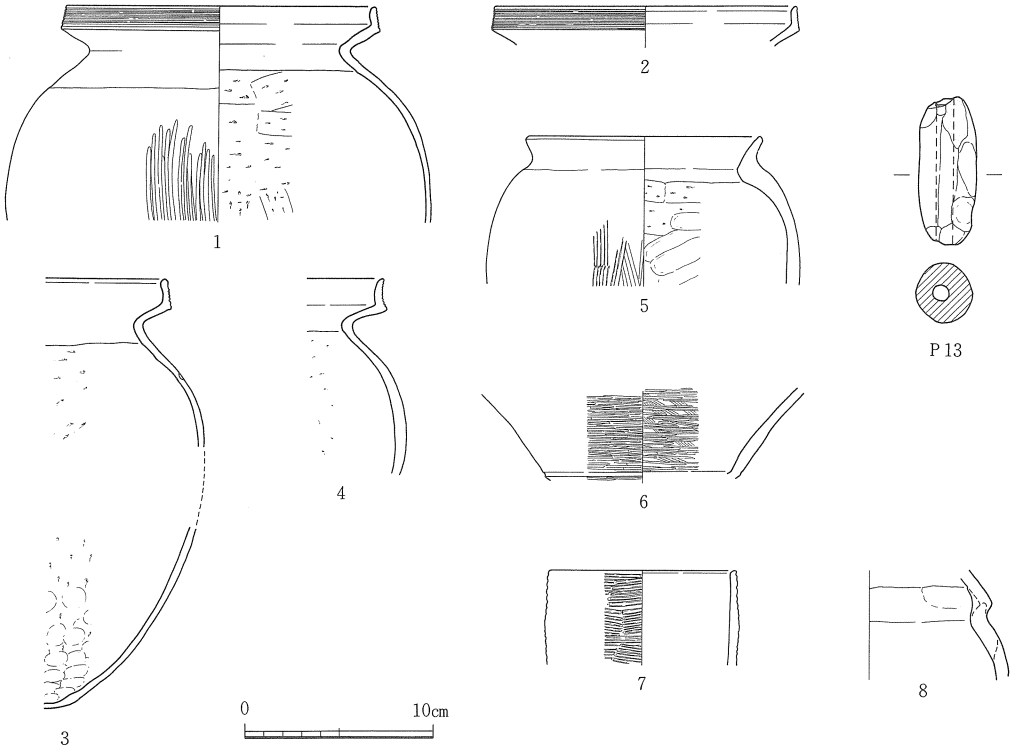
井戸19
1　暗灰褐色土
2　黒褐色土
3　茶褐色土（細礫多含，ガラス滓含）
4　暗褐色土（炭多含，細砂含）
5　黒褐色細砂土（ガラス滓含）
6　暗褐色粘質土（焼土多含，粘土）
7　黄白色粘土
8　暗灰色　〃
9　暗褐色　〃（細砂含）
10　黄灰色　〃（黄灰色細砂含）
11　黄灰色粘土／暗褐色粘土　互層（6～7枚）
12　淡茶灰色粘土
13　暗褐色粘土（炭・焼土含）
14　青灰色粘土

図227　井戸ー19・1号炉　縮尺 1/30

がら標高約60cmに至り，その後直線的に底に達す。底面はボーリング調査による確認であるが，検出面下155cm，標高約－20cm前後に求められる。

時期は，この段階の出土遺物が無く，不明確であるが，切合い関係から鹿田・後・４ｂ期～鹿田・古・１期の範囲に把えられる。

一方，炉は底面径55cmの円形プランを呈す。北に煮き口を持ち，全体として長軸90cmの瓢形をなす。炉本体部分の掘り方はオーバーハングして，検出面下33cm，標高113cmの平坦な底面に至る。下半部の壁には厚さ２～４cmの炉壁が残存する。天井部は消失しているが，底面の半



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	16.4	－	－	口縁端面櫛描沈線６～７条	内)淡灰褐外)淡褐	細砂◎，赤色粒子
2	〃	16.0	－	－	〃　〃　９条	淡灰褐	微～細砂
3	〃	－	－	－	〃　〃　５条以上，肩部の刺突文は楕円形で左上りに４個並ぶ	黄褐	〃～〃
4	〃	－	－	－	〃　〃　10条，体部内面篦ケズリ，外面ハケ後篦ミガキ	〃	〃～〃
5	〃	12.3	－	－	体部内面篦ケズリ後下半にはナデ，外面ナデ後下半に幅広いハケ，黒斑	内)暗灰外)淡黄灰	〃～〃◎
6	高杯形土器	－	－	－	内面斜位ハケメ後篦ミガキ	明赤褐	微砂◎，水漉粘土
7	製塩土器	9.8	－	－	外面平行タタキ，内面剝離で不明，２次的焼成	内)淡黄褐外)黒褐	粗砂◎
8	手焙形土器	－	－	－	内面ナデ，外面ハケメ後ナデ	淡赤褐(一部)黒色	微砂◎，水漉粘土

遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P13	土錘	7.9	3.0	3.2	78.0	ナデ・押圧	茶褐・黒	微砂

図228　井戸－19　出土遺物(1)　縮尺 1/4

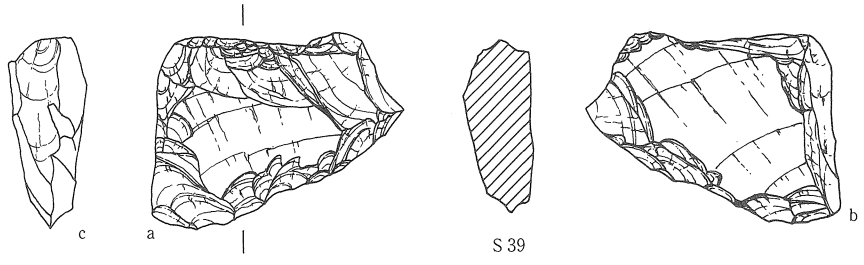
分以上に天井部の炉壁の落下が認められること，壁が上方に向って緩くカーブを描くことから，ドーム状に覆われていた可能性が考えられる。地上に天井が出ていたかどうかは不明である。炉内部の煮き口の底面および壁際には焼土が厚く堆積する。底面から２～３㎝上部に炉壁が水平に並んでおり，床面をなす可能性がある。炉内の埋土は炭・焼土を多く含む。遺物は高杯（６）があるほか，注目されるものとしてガラス滓が挙げられる。

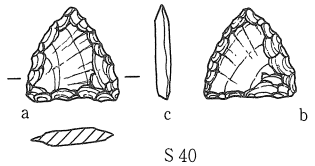
再利用時の井戸19は構築時の上半部を使用しており，その規模・形状等に旧形と変化はないが，下半を埋めて適当な深さにしているため，底面は検出面下70～75㎝，標高60～65㎝を測る位置に上がっている。底面は硬くしめられた黄色砂によって床面をなす。出土遺物は甕（１～５），高杯（６），製塩土器（７），手焙り形土器（８），土錘（P13），楔形石器（S39），石鏃（S40）があげられる。他に，上部埋土からガラス滓が出土する。

時期は，鹿田・古・１期に比定される。

本遺構においては，炉の性格・井戸19との構造上の関係・ガラス滓との関係等様々な問題が挙げられるが，いずれの点についても解明への積極的要素に乏しく，今後の課題としたい。

（山本）





S40

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S39	楔形石器	3.8	4.9	1.6	32.0	サヌカイト	C面截断面，両面素材面を残す
S40	石鏃	1.9	1.8	0.3	2.0	〃	正三角形，両面素材面残す

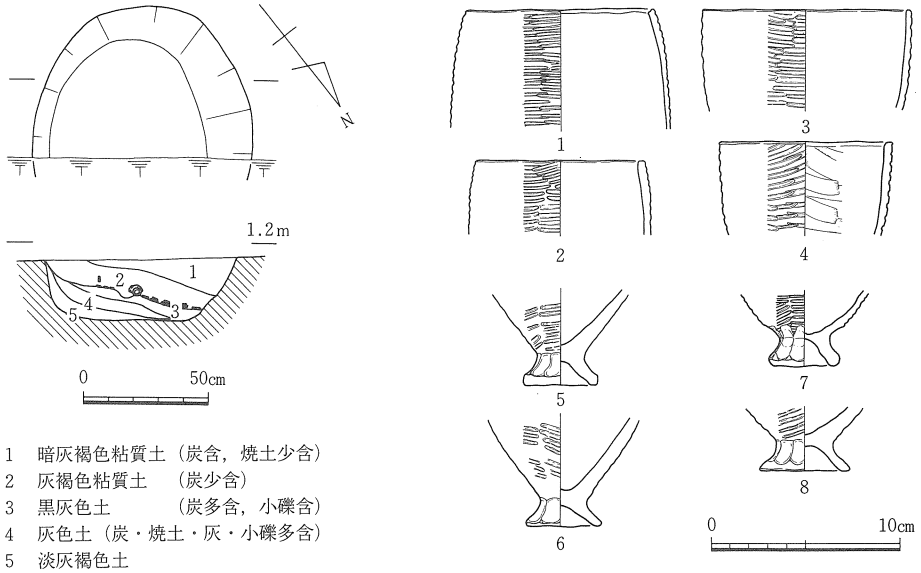
図229　井戸－19　出土遺物(2)　縮尺 2/3

c．土　　壙

土壙－142（図230，図版74）

ＡＸ34区の東南部に位置している。北東半部は古代の井戸によって破壊されているが，現状からは，本来北東―南西方向に長軸をもつ楕円形の平面をなすものと推定される。現状で幅約90cmである。底はほぼ平坦であり，壁は東南側ではやや急に，西北側では緩やかに立ち上がっている。検出面から最下底までの深さは約23cmを測る。埋土は５層に分かれ，１～４層はいずれも東南側から西北側に向って傾斜しており，東南側から流入したものと推定される。１層は，暗灰褐色粘質土で，若干の土器片，炭の他，少量の焼土などを含む。２層は灰褐色粘質土である。炭は１層に比べ少ないが，本層中には製塩土器の破片がまとまって出土しており，特に下位に密集している。３層は炭を大量に含む黒灰色土で，小礫も含んでいる。４層は灰色土で，製塩土器片・炭・灰・焼土，小礫などを大量に含んでおり，下底は炭の薄層が堆積している。５層は淡灰褐色土で，混入物は少ない。本土壙からの大量の製塩土器片，炭等は近辺での製塩活動で生じた廃棄物として一括投棄されたものと考えられる。

本土壙は鹿田・古・１期に属する。



1　暗灰褐色粘質土（炭含，焼土少含）
2　灰褐色粘質土　（炭少含）
3　黒灰色土　　（炭多含，小礫含）
4　灰色土（炭・焼土・灰・小礫多含）
5　淡灰褐色土

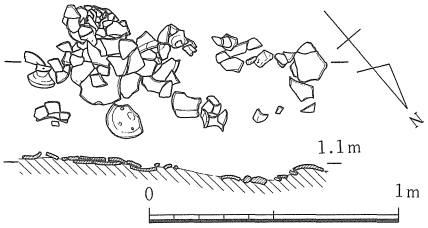
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	製塩土器	10.0	－	－	体部外面平行タタキ，内面丁寧なナデ，口縁端面未調整，外面煤付着	(内)明黄褐(外)黒灰褐	粗砂◎
2	〃	9.0	－	－	〃　〃，〃　，外面煤付着	(内)暗黄褐(外)淡黄褐	〃 〃
3	〃	11.0	－	－	〃　〃，〃　，〃	(内)明茶褐(外)黒赤褐	〃 〃
4	〃	9.1	－	－	〃　〃　(深め)，内面工具使用ナデ	(内)暗黄褐(外)黒灰褐	〃 〃
5	〃	－	4.0	－	〃　〃，脚部押圧とナデ，２次焼成痕，脚台の裏は黒色	(内)暗赤褐(外)暗黄褐	〃 〃
6	〃	－	4.1	－	〃　〃，〃　，〃　，〃	(内)暗灰褐(外)暗赤褐	粗砂～細礫◎
7	〃	－	3.8	－	〃　〃，内面剝落，脚部押圧とナデ，２次焼成痕	(内)暗紫褐(外)黒赤褐	粗砂◎
8	〃	－	4.8	－	〃　〃，脚部押圧とナデ，２次焼成痕，脚台の裏は黒色	(内)暗灰褐(外)暗赤褐	〃 〃

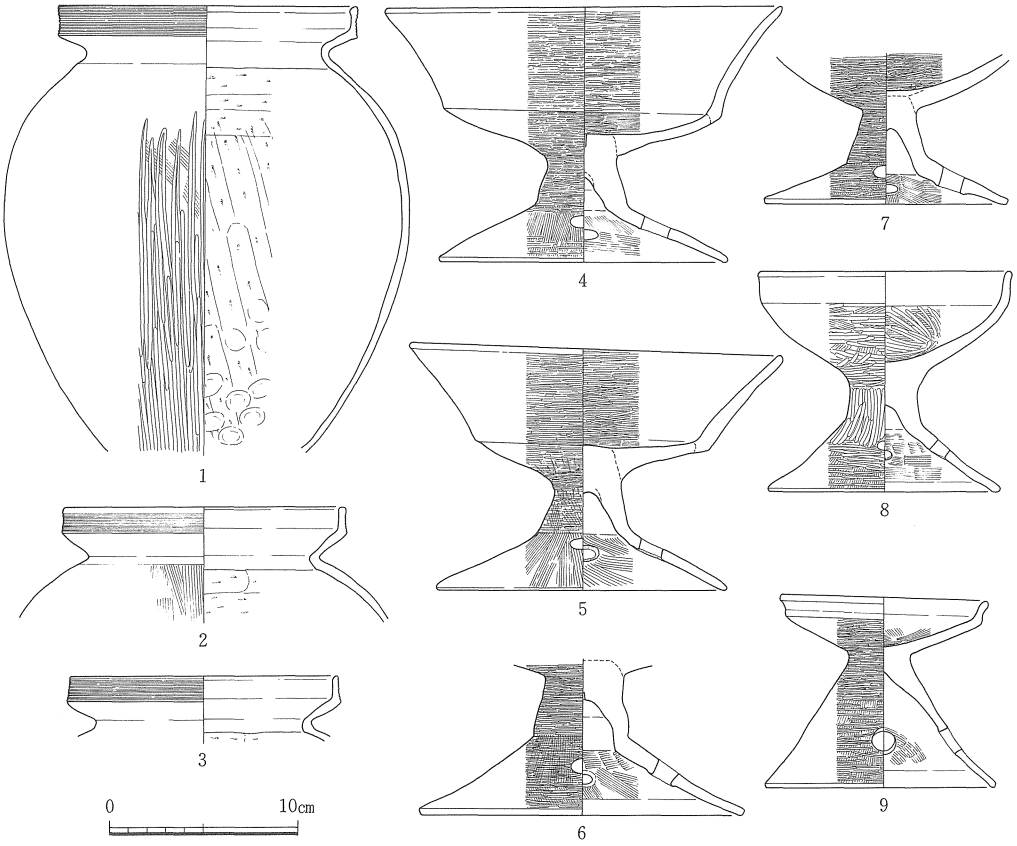
図230　土壙－142，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

d．土　器　溜　り

土器溜り－3（図231，図版66）

本遺構は，ＡＶ38区の中央付近で検出した土器溜りである。遺物は南北約1.3m，東西約0.6mの範囲にわたって分布しているが，明確な掘り方は確認できなかった。出土土器には，甕（1～3），高杯（4～8）などがあり，鹿田・古・1期に属する。　（栄）





遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	16.0	－	－	口縁端面櫛描沈線８～９条，肩部刺突文の有無は不明，煤付着	茶褐	細砂，赤色粒子
2	〃	15.0	－	－	〃　〃　〃，　〃　〃	淡黄白	〃
3	〃	14.3	－	－	〃　〃　〃	〃	〃
4	高杯形土器	21.0	15.2	13.5	杯部内面・脚裾部外面ハケ後篦ミガキ（磨滅で不鮮明）	明赤褐～明黄褐	微砂㉖
5	〃	19.7	15.4	13.1	杯部下半～脚部上半外面篦ケズリ痕がミガキの下に残存	赤褐	〃　〃
6	〃	－	17.0	－	脚裾部外面ハケ後篦ミガキ，脚部と杯部の接合面に波状の凹凸あり	〃	〃 ⑩，水漉粘土
7	〃	－	12.8	－	〃　〃	淡黄褐～明赤褐	〃　〃，　〃
8	〃	13.4	12.2	11.7	口縁部内面強い横ナデ，杯部の篦ミガキはやや乱れる	淡黄灰	〃 ㉖，精良
9	小形器台形土器	11.1	12.1	10.3	脚部内面上半ナデ・下半ハケ（不鮮明）・下端横ナデ	淡黄褐	微～細砂

図231　土器溜り－3，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

土器溜り－4（図232～236，図版64）

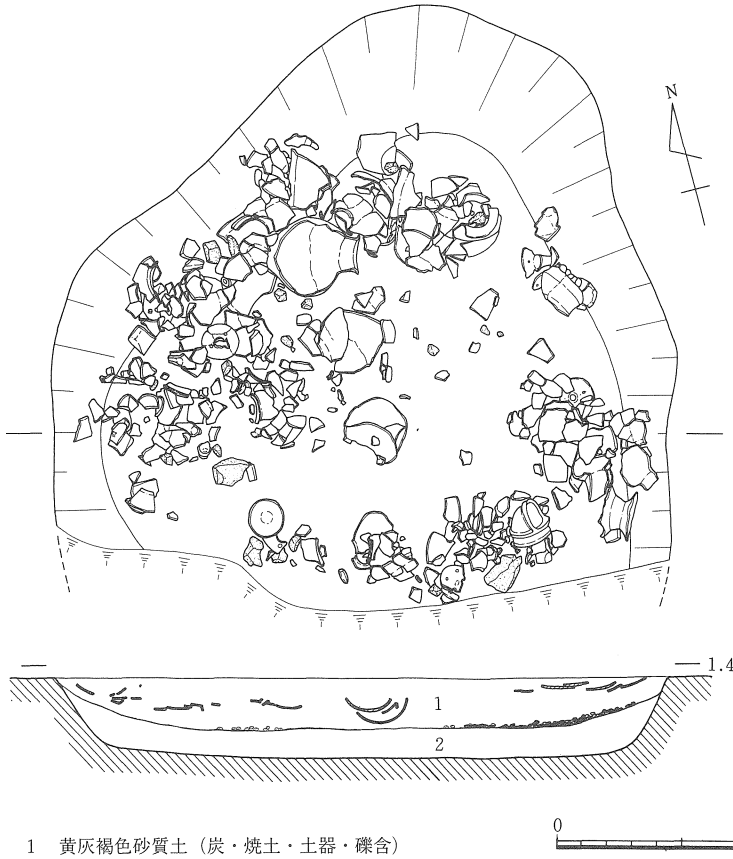
ＢＣ29区に位置する。南端部分を後世の大きな攪乱穴によって削平される。

平面形は東西245cm，南北237cm（残存部分）を測る不整楕円形を呈す。南北方向に軸をもつ。底面は検出面下32cm，標高93cmに位置し，広く平坦な面をもち上面に向って緩く立上がる。

埋土は上下に分層される。下半部には明黄灰色粘質土が堆積し，炭化物・焼土の他に黄白色粘土塊を多く含む。その上面には１～２cmの円礫が東半部から流入した状況が見られる。上半部には炭化物・焼土を含む黄灰褐色砂質土が堆積する。また，多量の遺物が包含されており，周囲から中心に向って埋積した状況が認められる。

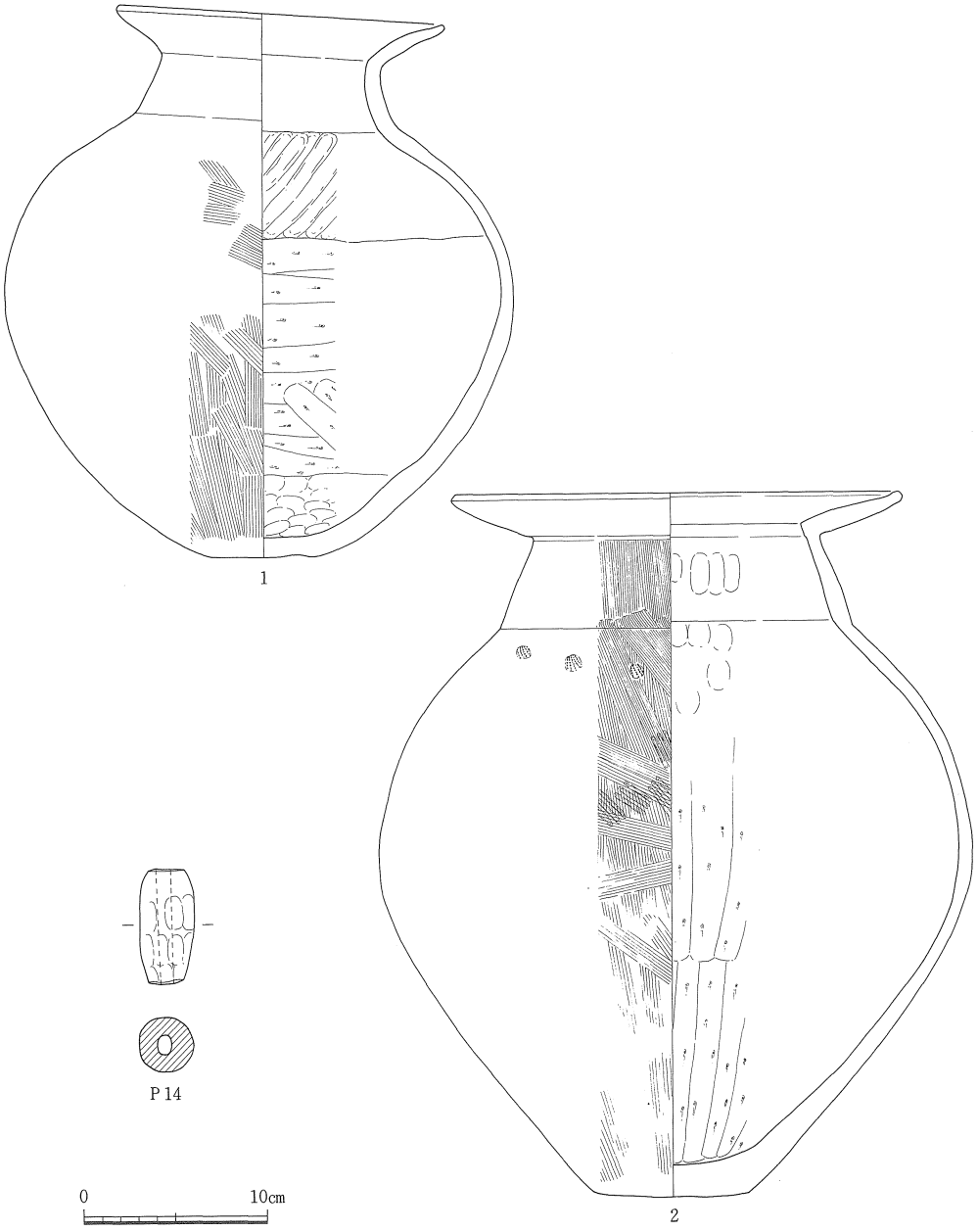
遺物は壺・甕・高杯・鉢（１～19），小形器台（20），手焙り形土器（21），製塩土器（22～26），土錘（Ｐ14）がある。甕（９～13）は外面にタタキを施すものが目立ち，胎土・手法等に在地の甕とは異なる点が多い。搬入品の可能性が高い。時期は鹿田・古・１期に属す。

（山本）



1　黄灰褐色砂質土（炭・焼土・土器・礫含）
2　明黄灰色粘質土（炭・焼土・粘土塊含）

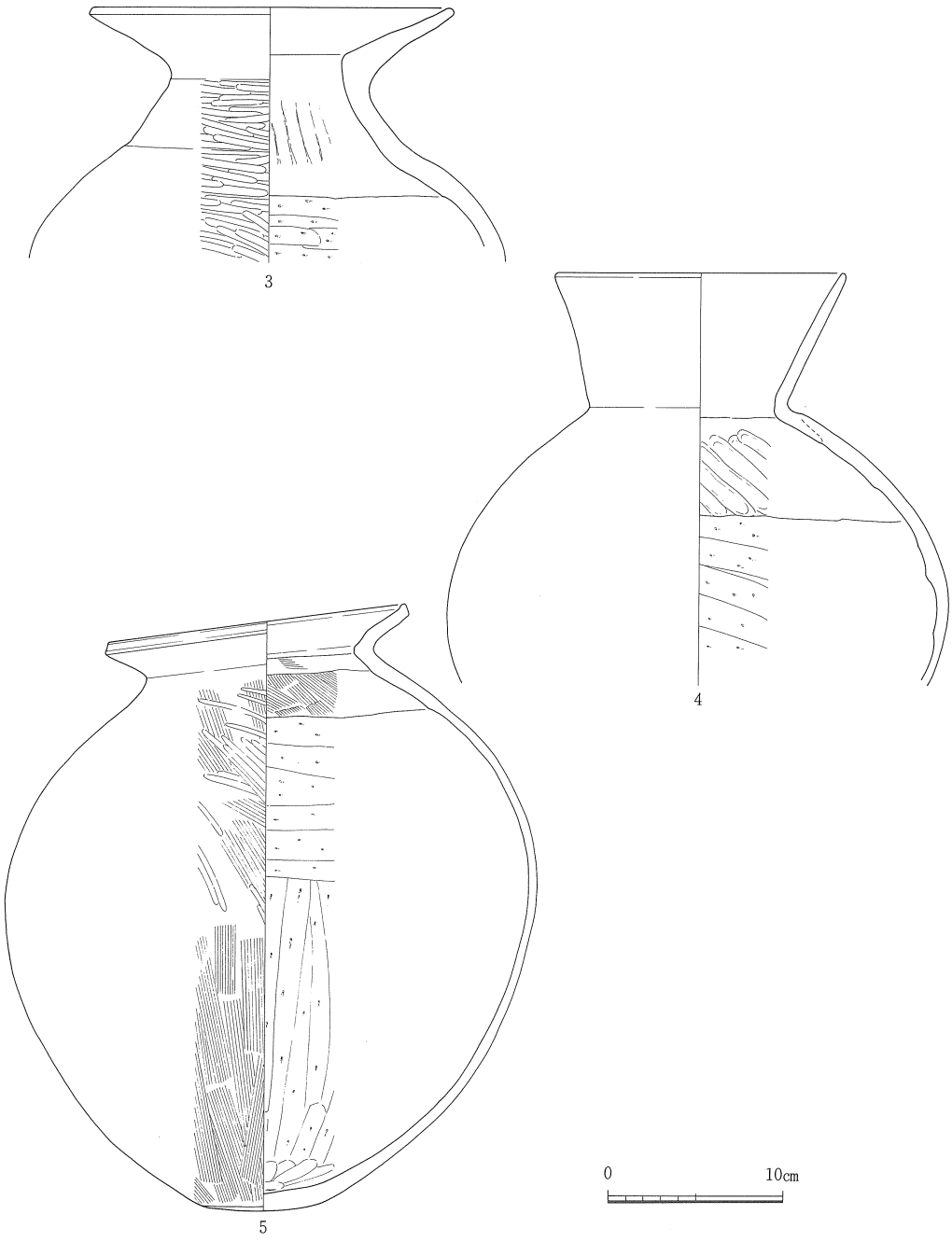
図232　土器溜り－4　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	17.7	6.0	34.0	肩部内面ナデあげ，底部外面ナデ，黒斑２ケ所	淡黄灰白	微～細砂
2	〃	24.3	8.4	38.4	体部外面下半磨滅，体部外面タタキ残存，肩部に貝殻圧痕文３個，黒斑	(内)灰白(外)赤褐	粗砂㊎

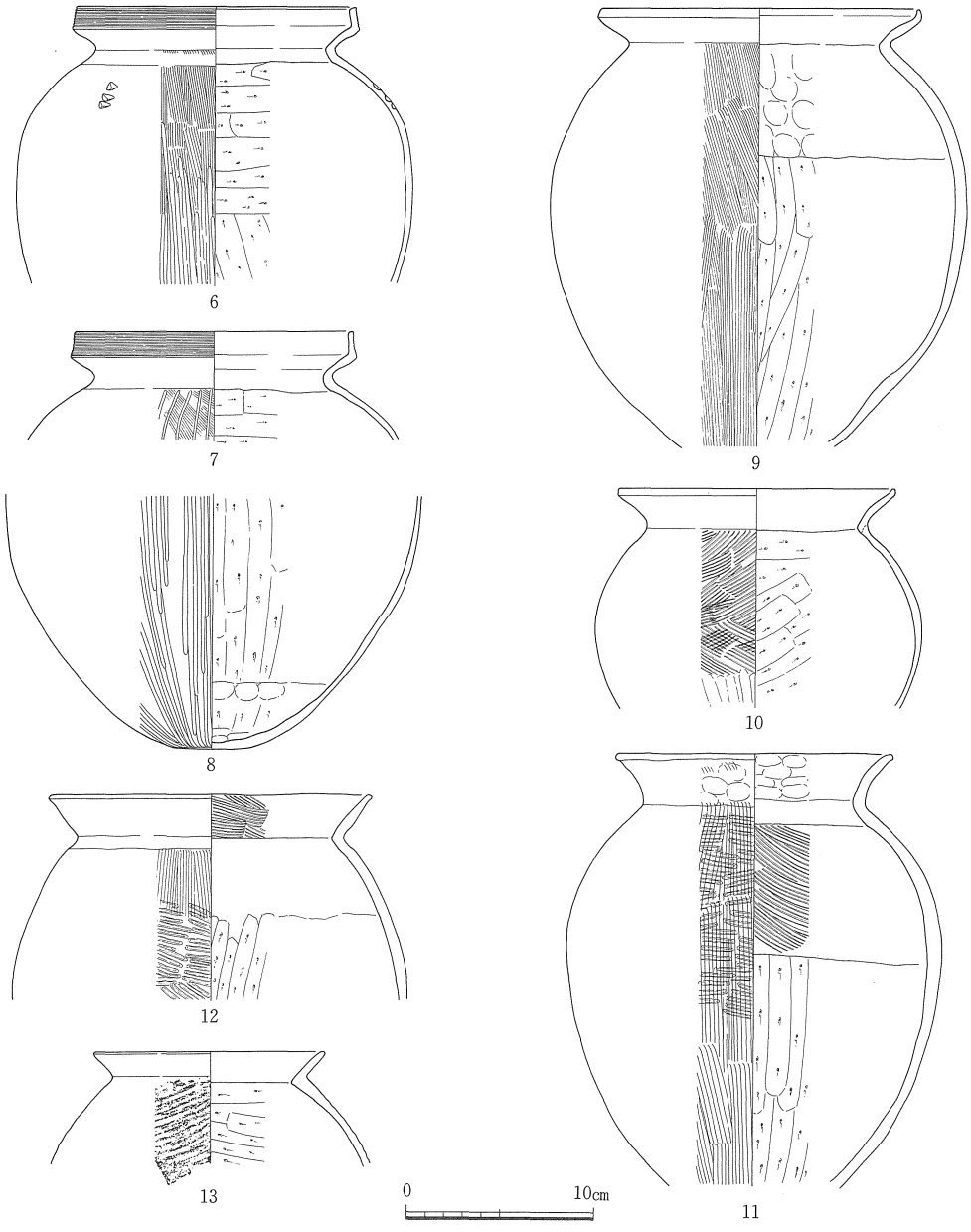
遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P14	土錘	6.3	3.0	3.0	6.0	押圧，穿孔は0.8×１cmの楕円形	淡乳褐～淡乳黄白	微砂㊍，水漉粘土

図233　土器溜り－４　出土遺物(1)　縮尺 1/4



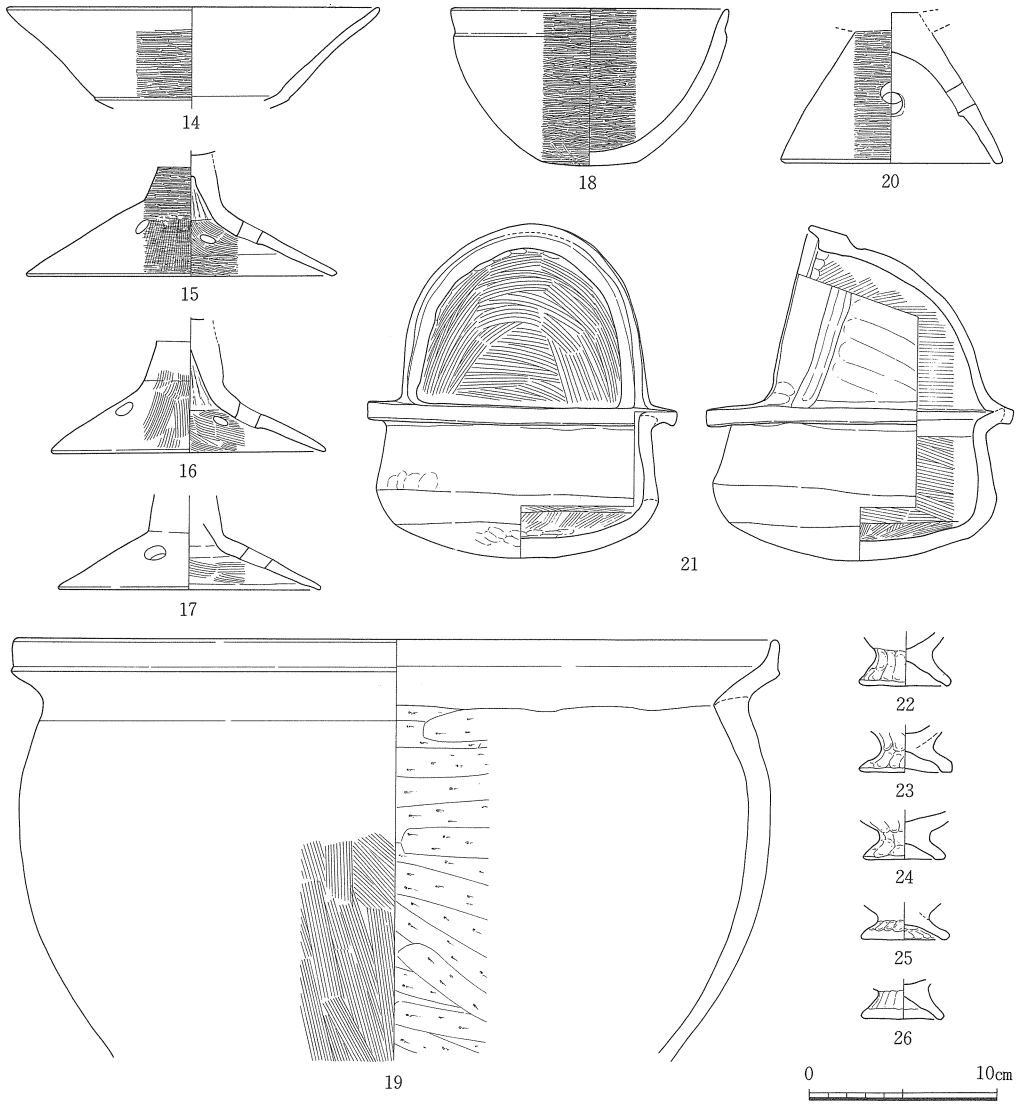
遺物番号	器種	法量 (cm)			形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
		口径	底径	器高			
3	壺形土器	20.5	—	—	頸部内面しぼり目残存，外面篦ミガキ	淡黄白	粗砂㊎
4	〃	16.6	—	—	外面磨滅で不明，肩部内面ナデ上げ	茶褐	細～粗砂㊎
5	〃	16.9	6.8	34.4	底部外面ハケ，体部外面ハケ後一部に篦ミガキ，黒斑２ケ所	淡黄～赤褐	微砂㊎

図234　土器溜り－４　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
6	甕形土器	14.8	—	—	櫛描沈線8条，肩部外面タタキ痕残存，刺突文3個1ケ所，外面煤付着	(内)淡黄褐(外)黄褐	細砂
7	〃	14.8	—	—	〃　11条，肩部内面一部ナデ，外面煤付着	(内)淡灰褐(外)明褐	〃
8	〃	—	4.1	—	外面篦ミガキは6回前後分割施文（疎密あり），煤付着	(内)暗灰褐(外)暗赤褐	微砂
9	〃	17.2	—	—	肩部内面浅い押圧，外面ハケ・煤付着少量	(内)淡黄褐(外)黄褐	微～細砂
10	〃	14.9	—	—	体部外面下半縦位の工具使用ナデ・上半ハケ，外面煤付着	淡灰白～淡灰褐	微砂，金雲母◎
11	〃	14.8	—	—	体部外面・内面上半幅広のハケ，外面上半にタタキ，煤付着，剝落あり	(内)暗灰(外)茶褐	粗砂～細礫◎
12	〃	17.3	—	—	口縁部外面押圧・内面ハケ，体部外面下半タタキ，肩部外面ハケ	淡茶褐	〃～〃〃
13	〃	12.4	—	—	口縁部横ナデ，外面タタキ	淡黄褐	微～細砂

図235　土器溜り－4　出土遺物(3)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
14	高杯形土器	19.8	—	—	内面磨滅で不明，外面篦ミガキ	明赤褐	微砂㋑，精良
15	〃	—	16.5	—	裾部内面下半篦ケズリ後篦ミガキ，円孔6ケ所	赤褐	〃 ㋒，水漉粘土
16	〃	—	14.6	—	円孔は5ケ所，内外面に篦ミガキは未確認	〃	〃 〃，〃
17	〃	—	14.1	—	外面磨滅で不明，円孔3ケ所	明赤褐	〃 ㋓
18	鉢形土器	14.8	5.0	8.4	内外面篦ミガキ，黒斑，内外面丹塗りの可能性あり	茶褐，丹は赤褐	〃
19	〃	40.6	—	—	肩部外面磨滅で不明	淡黄褐	細砂㋔
20	小形器台	—	11.8	—	内面丁寧なナデ，外面篦ミガキ	赤褐	微砂㋐，水漉粘土
21	手焙り形土器	16.4	13.3	17.7	内面幅広いハケ，体部外面上半工具使用ナデ・下半ナデ	黄褐～淡黄灰	細～粗砂㋔
22	製塩土器	—	4.9	—	ナデ・押圧	(内)黒褐(外)暗赤褐	粗砂
23	〃	—	5.0	—	〃・〃	赤褐～暗灰	〃 ～細礫㋔
24	〃	—	4.4	—	〃・〃	淡赤褐～暗赤褐	細礫
25	〃	—	4.7	—	〃・〃	暗赤褐	〃
26	〃	—	4.4	—	〃・〃	〃	粗砂～細礫

図236　土器溜り－4　出土遺物(4)　縮尺 1/4

(5) 弥生～古墳時代初頭のその他の主要遺構

ここでは，弥生～古墳初頭のその他の主要遺構として竪穴住居１棟・土壙１基を取り上げる。その他に今回は取り上げないが，人間の大臼歯・肩胛骨（？）などが出土したＢＣ32Ｐ34のような注目すべき遺構も存在している。

a．竪　穴　住　居

竪穴住居－25（図237）

本竪穴住居はＡＵ38区に位置しており，壁体溝のみを検出した。北半は調査範囲外で未調査であるが，現状からは径約250cmの小形の円形プランを呈するとみられ，東端部では鹿田・古・１期の竪穴住居21に切られている。本竪穴住居に伴う柱穴は確認できていない。壁体溝の検出面の標高は80cm前後であり，壁体溝の検出面からの深さは20cm前後を測り，溝底の標高は約60cmである。

本竪穴住居の壁体溝からは，鹿田・後・３期に属するかとみられる土器片が出土しているが，少量で残存状態が悪く明確ではない。既述のように，本住居は鹿田・古・１期の竪穴住居21に切られることから，その下限は鹿田・古・１期であり，さらに壁体溝からの出土土器から鹿田・後・３期に属する可能性が認められるが，現状では断定することはできない。

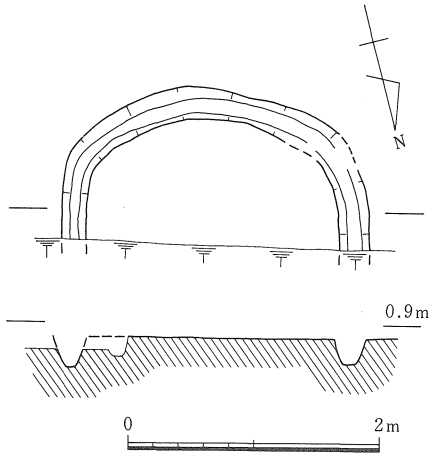


図237　竪穴住居－25　縮尺 1/60

b．土　　壙

土壙－368（図238・239，図版30-１・80・81－１）

本土壙はＡＸ39区西南端からＡＹ39区の西北端にかけて位置している。西半分は側溝によって破壊されているが，現状から本土壙は長軸をほぼ東西方向にとる短径が約42cmの楕円形プランをなすものと推定される。底はほぼ平坦であり，壁は摺り鉢状に開き気味に立ち上がっている。検出面からの深さは約11cmである。

本土壙からは磨石３点（Ｓ41～43），敲石２点（Ｓ44・45），石錘１点（Ｓ46）および未加工の自然礫１点（Ｓ47）が底からやや浮いた位

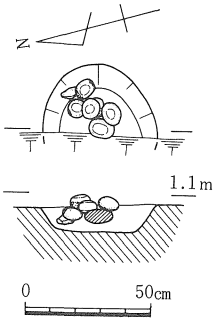
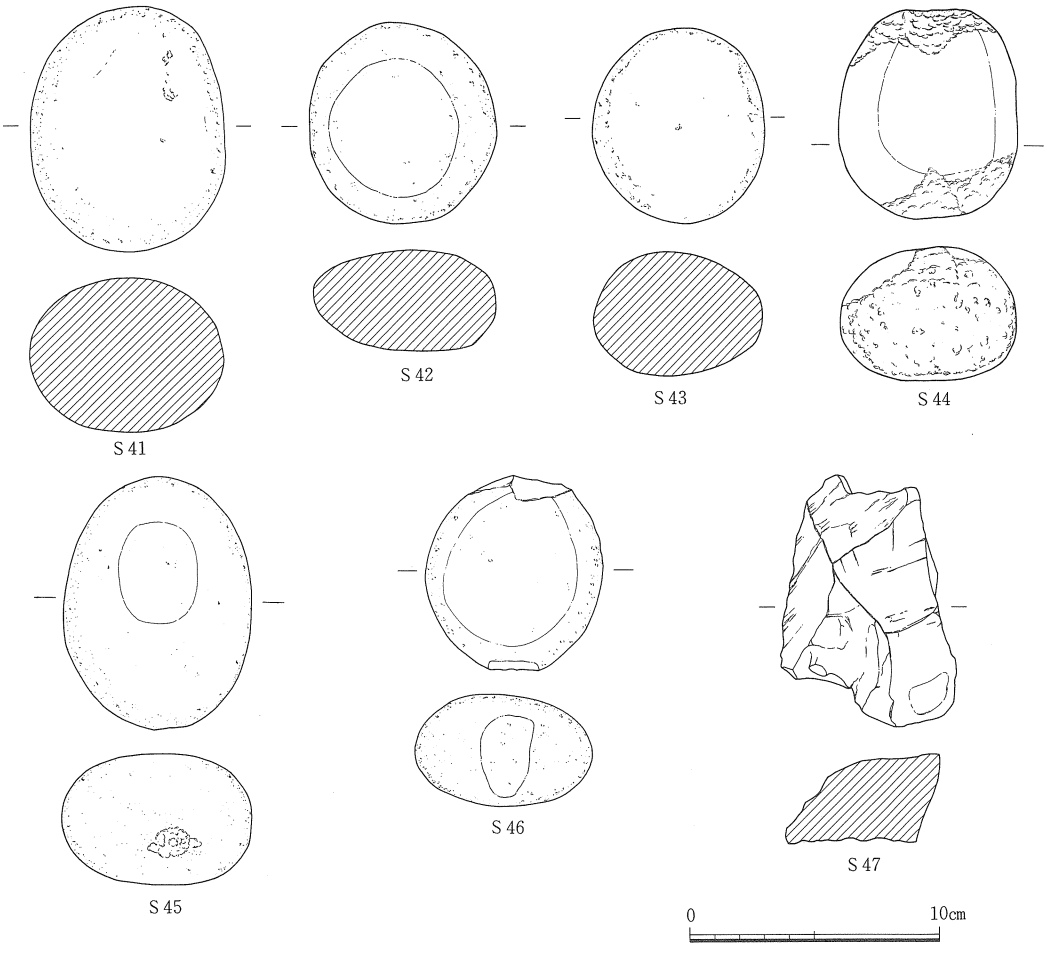


図238　土壙－368　縮尺 1/30

置で積み重なって出土している。本土壙内の埋土は灰褐色粘質土である。上述の石器類以外には本土壙からは出土遺物はなく，その詳細な所属時期は不明である。本土壙の検出面の標高は105㎝前後で，その本来の掘り込み面は第Ⅴ層上位に存在したとみられ，弥生時代後期後半から古墳時代初頭に属する可能性も考えられるが，断定することはできない。

本土壙は西半部を欠いているが，その規模は比較的小さいものであり，磨石を始めとする石器類を一括して，埋納したものと推定される。



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S 41	磨石	9.7	7.7	6.2	665.0	花崗閃緑岩	全面磨面
S 42	〃	7.9	7.5	4.1	360.0	流紋岩	全面磨面
S 43	〃	7.5	6.8	4.9	340.0	花崗岩	全面磨面
S 44	敲石	8.4	7.3	5.4	495.0	流紋岩	長軸両端に敲打痕
S 45	〃	10.2	7.7	5.2	635.0	花崗斑岩	長軸両端に敲打痕
S 46	石錘	7.9	7.0	4.5	347.0	花崗岩	長軸両端に敲打による溝
S 47	搬入礫	10.3	7.4	3.8	290.0	砂岩	長軸両端に抉り状の凹み，石錘の可能性

図239　土壙－368　出土遺物　縮尺 1/3

(6) 古墳時代後期の遺構と遺物

当時期の遺構としては，竪穴住居１棟，土壙11基，焼土分布遺構１基，土器溜り１ヶ所が挙げられる。検出レベルは高い所で標高165㎝前後，低い所で140㎝前後である。全体的に後世の削平を受けた可能性はあるが，それを考慮に入れても遺構数は極端に少ない。また，当時期の遺物も調査区全体としても量は少ない。確実な竪穴住居は１棟のみである。その他に，土器溜り状の遺物集中箇所が２ヶ所，焼土が方形に近い範囲に分布する状況が一部で認められた遺構が１ヶ所あるが，いずれも掘り込み状のものは確認できず，竪穴住居と断定はしがたい。また，土壙のうち，３基（410・422・423）には多量の遺物が包含されていた。土壙422と423は，その間を調査時の側溝で切断されて分離しているが，出土遺物も同時期のものであり，位置的にも，同一土壙の可能性が考えられる。

以上のように，当時期の調査区内には簡単な竪穴住居と多量の遺物を含む長楕円形土壙が僅かに認められるのみで，集落規模の縮少あるいは移動が行われたことが予想される。時期的には，土壙410と422との間にわずかの時期差が認められるが，７世紀初頭と考える。　（山本）

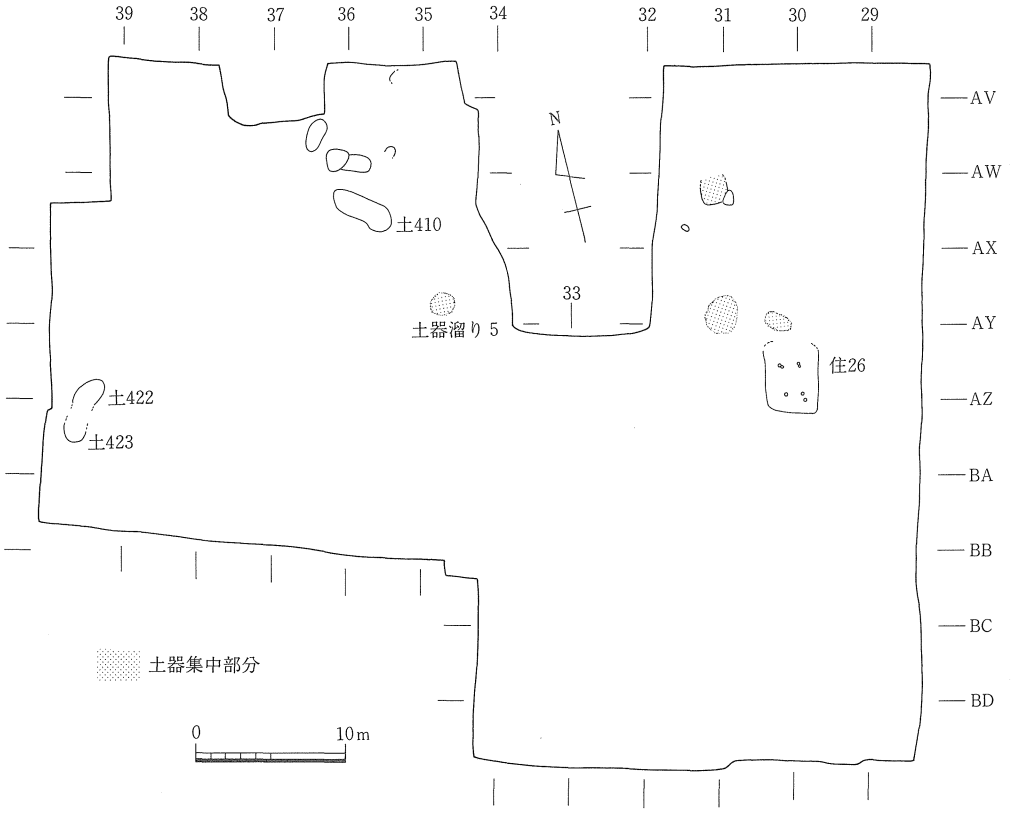


図240　古墳時代後期の主要遺構配置図　縮尺 1/500

a．竪　穴　住　居

竪穴住居－26（図241・242）

ＡＹ・ＡＺ29・30区に位置する。北側を深い攪乱溝によって破壊され，その旧状を失う。また，全体的に後世の水田耕地の造成により，上層部を削平される。

平面形は東西350cm，南北は残存長で450cmを測る長方形を呈す。検出面から床面までは深さ15cm程度でごく浅く，壁体溝は西側で一部確認したが，非常に不明瞭である。床面レベルは標高165cm前後を測る。柱穴は６本検出された。いずれも径20cm前後，深さは床面下25～30cmを測る。その配置から，本来，本住居は４本柱であり，１度の建て替えが行われたと考えられる。住居中央部分には，東西110cm，南北120cm，深さ床面下15cmの浅い土壙が認められる。土壙中には下半に粘土が厚く敷きつめられ，上半部には固く焼きしまった焼土が堆積する。上部により強い火を受けた状況を呈し，床面より４cm程度盛り上る。上面での焼土の範囲は60×45cmである。遺物は埋土中および床面から多く出土する。須恵器（１～７），土師器（８～18）等がある。時期は７世紀初頭と考えられる。（山本）

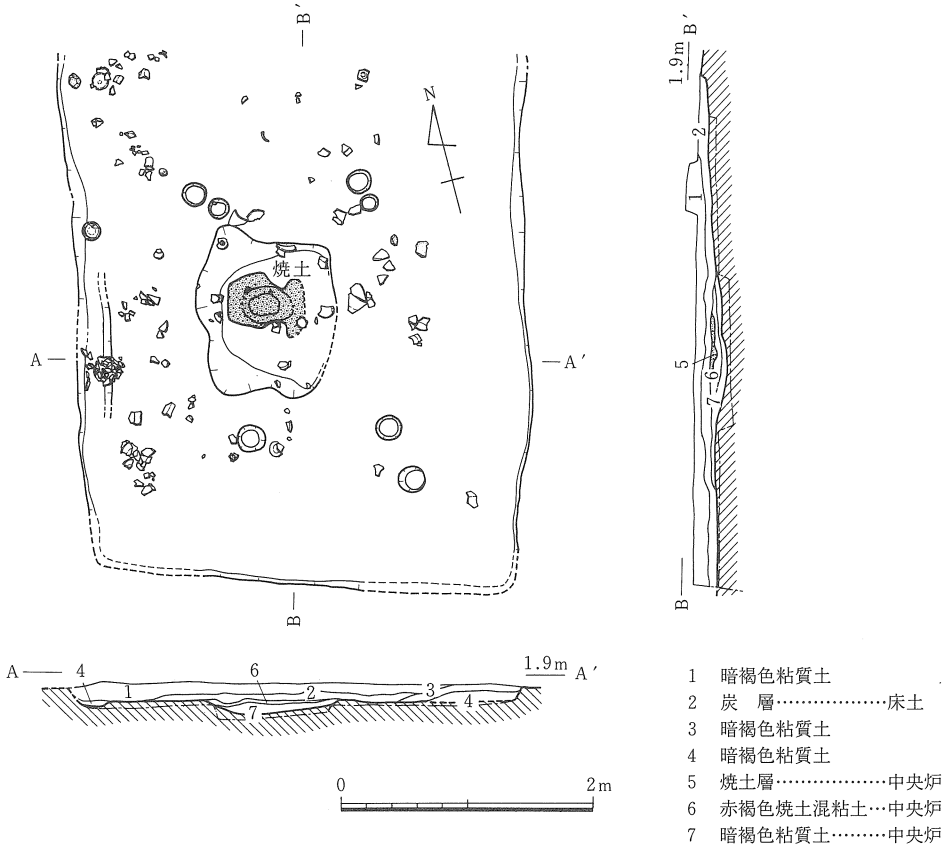
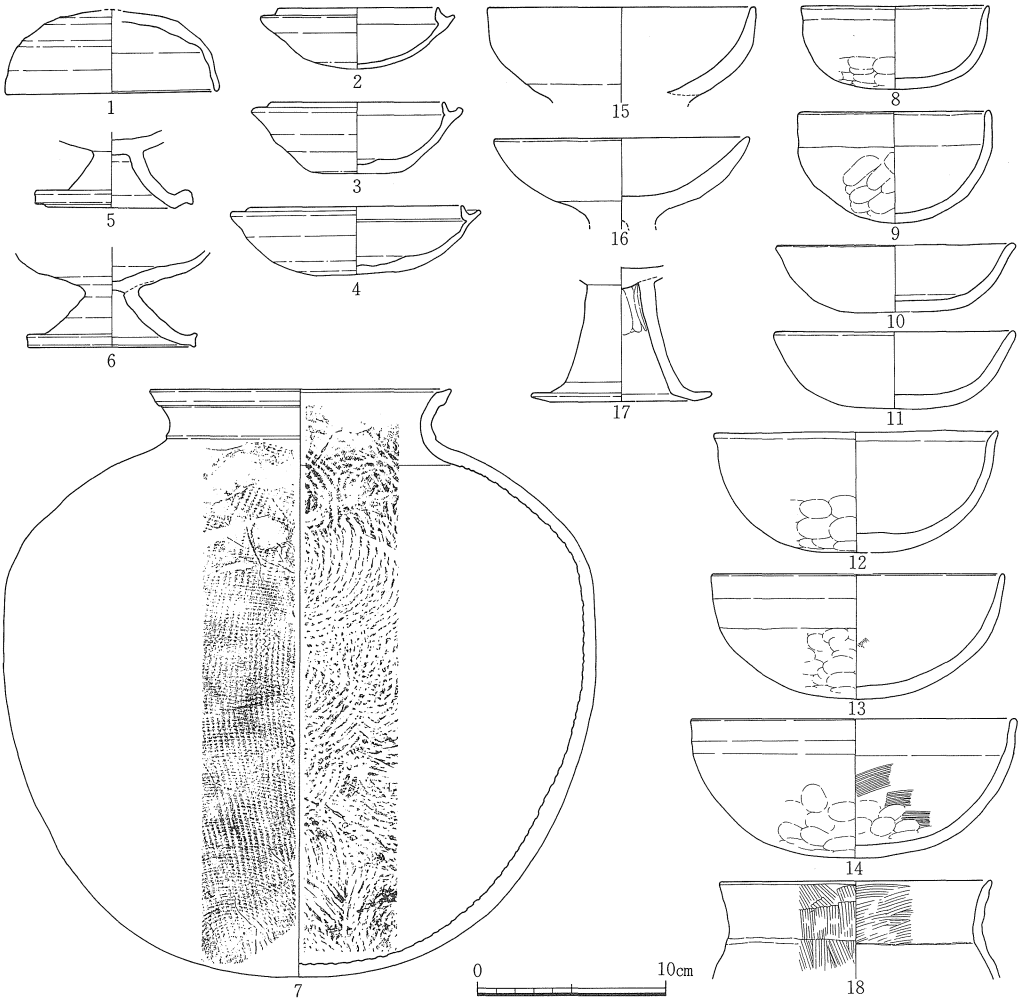


図241　竪穴住居－26　縮尺 1/60

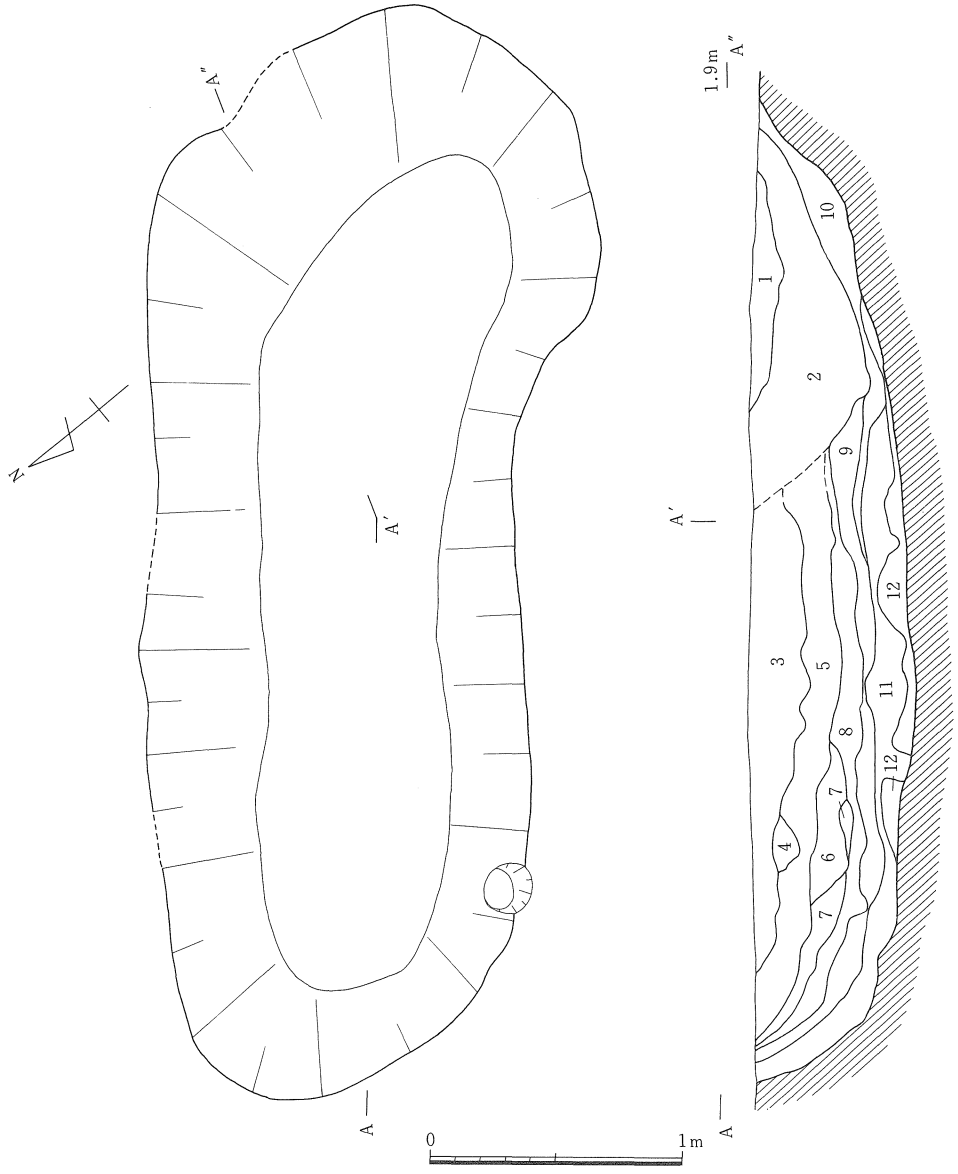


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	須恵器杯蓋	11.4	—	—	天井部外面回転篦ケズリ，ロクロ回転㊨	暗灰	細砂⑯
2	〃 杯身	8.5	4.6	3.3	底部外面篦オコシ，内面仕上げナデ，他は横ナデ，外面自然釉	淡灰	細砂，黒色粒
3	〃 〃	9.2	4.8	3.8	底部外面篦オコシ後ナデ，他は横ナデ	〃	微砂，黒色粒㉟
4	〃 〃	11.2	5.0	3.7	外面下半回転篦ケズリ，底部内面仕上げナデ，他は横ナデ，２次焼成痕	灰白	微～細砂
5	〃 高杯	—	8.4	—	全面横ナデ	〃	〃～〃
6	〃 〃	—	8.9	—	横ナデ	淡灰	微砂㉟
7	〃 甕	16.0	—	31.2	口縁部横ナデ，体部外面平行タタキ後カキ目，内面青海波タタキ	青灰	〃 ㉑
8	土師器 杯	9.9	—	4.4	外面下半押圧，他はナデ	明赤褐	〃
9	〃 〃	10.1	—	5.9	〃 ， 〃	〃	〃
10	〃 〃	12.6	6.6	3.9	全面ナデ	〃	〃 ㉟，金雲母㉟
11	〃 〃	12.8	6.0	4.1	〃 ，底部外面押圧	〃	〃
12	〃 〃	15.0	—	6.4	外面下半押圧・上半はナデ，内面磨滅で不明	〃	〃 ，赤色粒
13	〃 〃	15.5	—	6.6	〃 ，内面ハケ後ナデ，口縁部横ナデ	〃	微～細砂，赤色粒
14	〃 〃	17.3	—	7.4	〃 ， 〃 ・押圧，口縁部横ナデ，黒斑２ケ所	〃	微砂㉑
15	土師器高杯	14.3	—	—	全面ナデ，口縁部煤付着	〃	〃
16	〃 〃	13.6	—	—	〃 ，黒斑	〃	〃 ㉟，金雲母
17	〃 〃	—	9.6	—	外面磨滅で不明，他はナデ・押圧，黒斑	〃	〃
18	〃 甕	14.5	—	—	体部内面不明，２次焼成痕あり	赤褐～灰白～黒褐	細～粗砂㉟

図242　竪穴住居－26　出土遺物　縮尺 1/4

b．土　　壙

土壙－410（図243～247，図版67・74・75）



1　灰褐色微砂粘質土　（炭含，焼土多含）
2　暗灰褐色微砂粘質土（炭・焼土含）
3　灰褐色微砂粘質土　（炭含，焼土多含）
4　灰褐色粗砂　　（炭・焼土含）
5　黄褐色微砂粘質土　（炭・焼土多含）
6　暗灰色微砂粘質土　（〃・〃　〃）
7　淡黄褐色微砂粘質土（炭・焼土含）
8　暗灰褐色微砂粘質土（炭含，焼土少含）
9　灰黄色微砂粘質土　（炭含，焼土少含）
10　淡灰黄色微砂粘質土（炭少含）
11　黄褐色微砂土
12　茶褐色砂質土

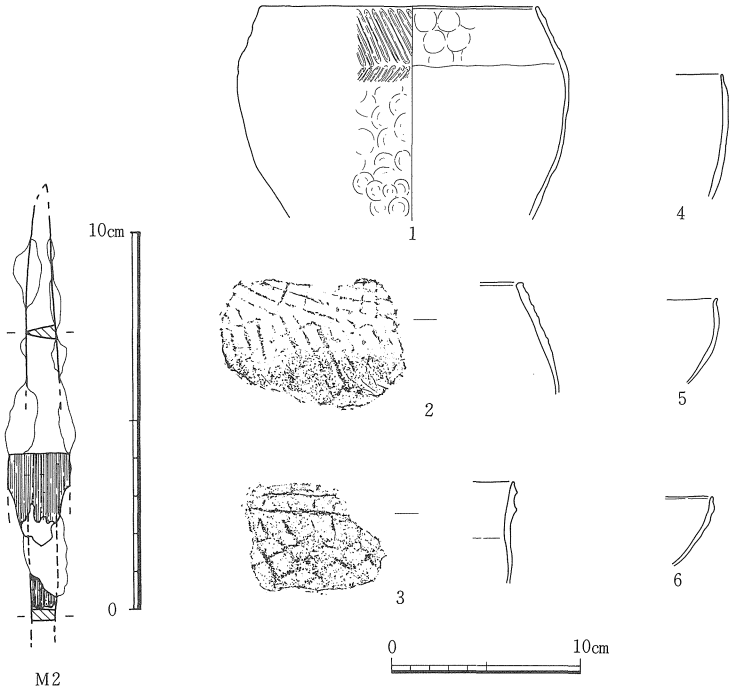
図243　土壙－410　縮尺 1/30

本土壙はＡＷ35～36区にかけて位置する。その平面形は長径約440㎝，短径140～180㎝の大規模な不整の長楕円形を呈している。掘り方断面形をみると，底は凹凸は比較的少ないが，全体に浅く凹んでいる。また壁は比較的緩やかに立ち上がっている。検出面の標高は約180㎝前後，検出面から底面までの深さは70㎝前後である。

土壙内の埋土は12層に分かれ，大きくは，第１群（１～２層），第２群（３～９層），第３群（10～12層）にまとめることができる。

第１群は土壙の東南半部に堆積する微砂粘質土であり，いずれも炭化物や焼土塊を混在している。この第１群は本土壙の埋没後の二次的な掘り方に堆積したものと推定される。第２群は第３群とともに土壙埋没当初の堆積とみられるもので，粘質土もしくは粗砂から成る。ほとんどの層が，炭化物・焼土塊のほか淡黄褐色微砂土の小ブロックを多く含み，全体に汚れが目立つ層群である。第３群は第２群とは対照的に炭化物や焼土・淡黄褐色微砂土のブロックはほとんど含まず，全体に均質な砂質土層である。

本土壙からは主に第１群および第２群の各層中から製塩土器を含む大量の土器や鉄製の刀子などが出土している。本土壙は出土土器から７世紀に属するものとみられる。



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	製塩土器	14.8	－	－	口縁部外面平行タタキ，胴部外面押圧，胴部内面工具使用ナデ，２次焼成	明赤褐	細砂
2	〃	－	－	－	〃　格子目タタキ，胴部外面ナデ・押圧，内面ナデ	淡灰～暗灰	細～粗砂㊟
3	〃	－	－	－	外面格子目タタキ，内面ナデ	(内)灰(外)淡灰白	〃～〃〃
4	〃	－	－	－	内面丁寧なナデ，外面ナデ・押圧	褐	細砂
5	〃	－	－	－	〃　，〃　・〃	〃	〃
6	〃	－	－	－	〃　，〃　・〃	〃	〃

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(mm)	重量(g)	材質	特徴
M2	刀子	11.9	1.7	刃部3.5 茎部3.0	18	鉄	茎部に木質残存

図244　土壙－410　出土遺物(1)　縮尺 1/4・1/2（M2）

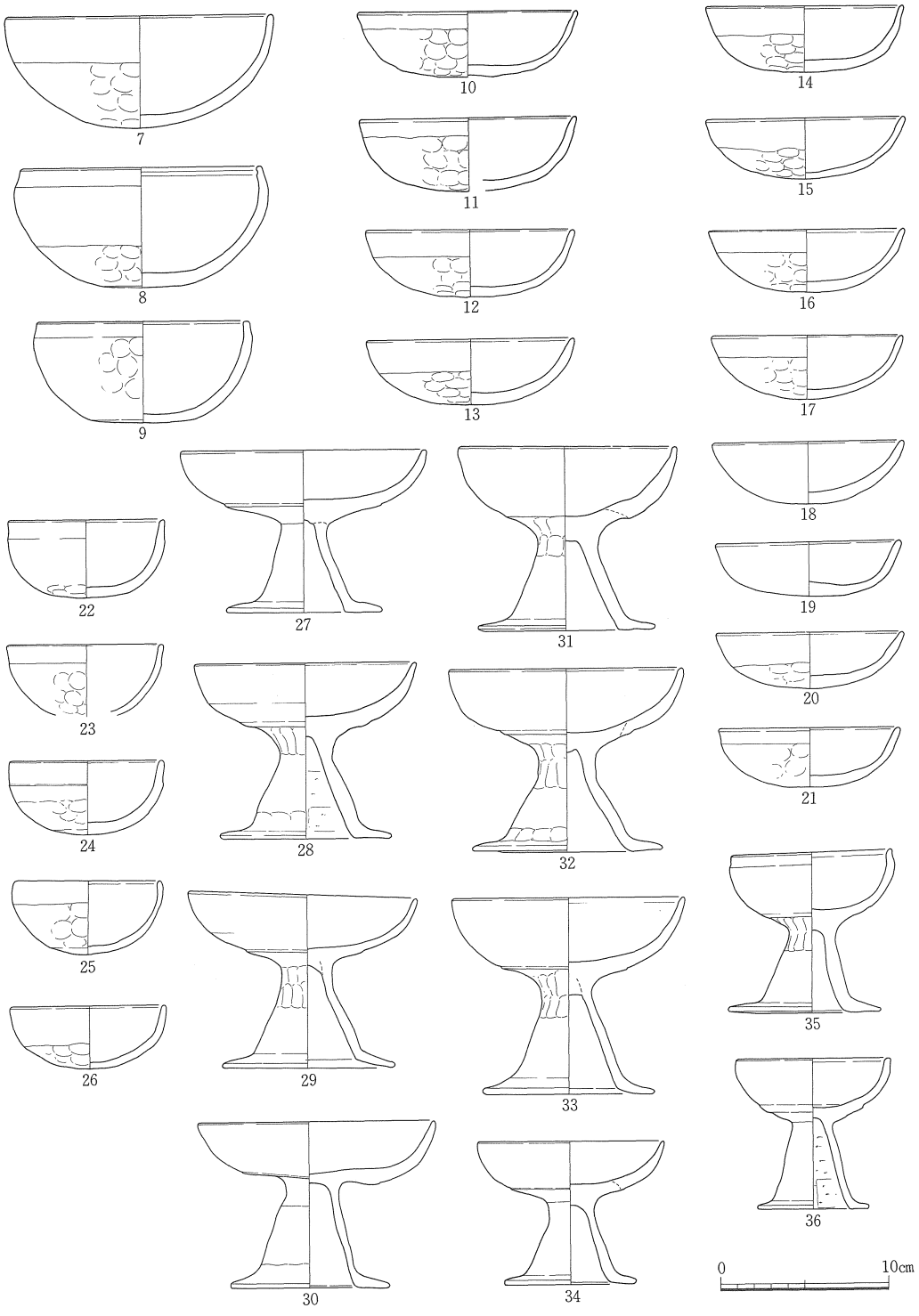
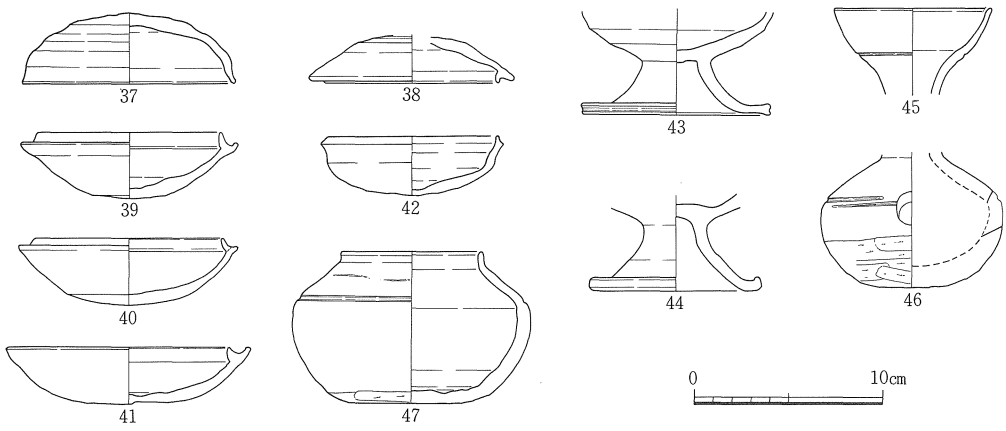


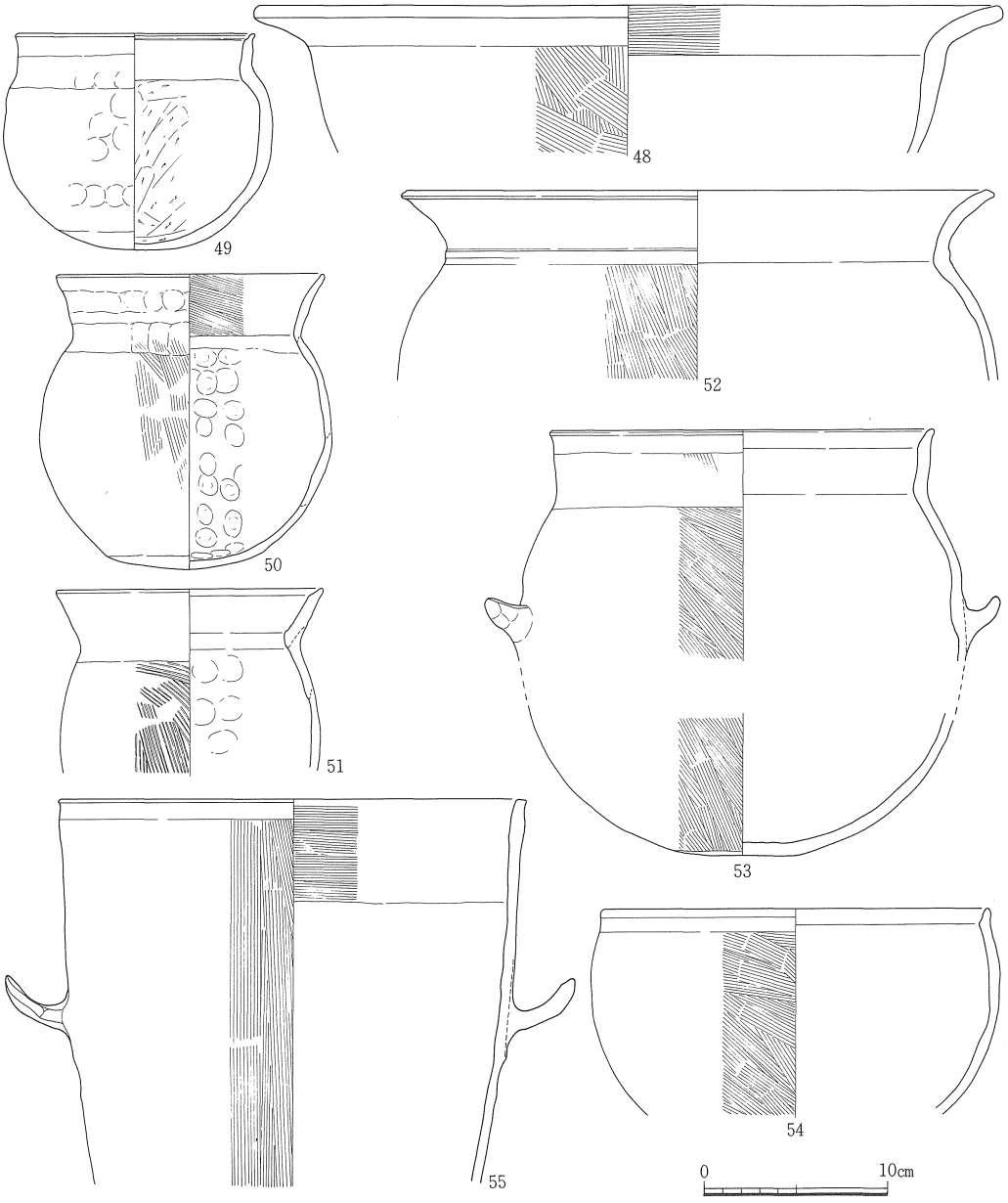
図245　土壙－410　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
7	土師器 杯	16.0	—	6.6	丸底に近い，外面下半浅い押圧，他はナデ	(内)赤褐(外)黄褐	微砂，赤色粒
8	〃 〃	14.3	4.5	7.2	外面下半浅い押圧，他はナデ	赤褐	〃 ， 〃
9	〃 〃	12.7	6.2	6.0	口縁部横ナデ，内面ナデ，外面浅い押圧	〃	〃 ， 〃
10	〃 〃	13.1	—	3.9	口縁部～内面ナデ，外面押圧	明赤褐	微砂㉗
11	〃 〃	13.0	—	4.3	〃 ～ 〃 ， 〃	〃	〃 〃
12	〃 〃	12.4	—	4.0	〃 ～ 〃 ， 〃	〃	〃 〃
13	〃 〃	12.4	—	3.9	外面上半～内面ナデ，外面下半押圧	(内)明褐(外)淡乳褐	〃 ，赤色粒
14	〃 〃	11.7	—	3.9	〃 ～ 〃 ， 〃	淡乳白～淡黄褐	〃 ㉗
15	〃 〃	11.8	—	3.6	〃 ～ 〃 ， 〃	明赤褐	〃 ，赤色粒㉗
16	〃 〃	11.6	—	3.7	口縁部～内面ナデ，外面押圧	〃	〃 ㉗，赤色粒
17	〃 〃	11.4	—	3.8	〃 ～ 〃 ， 〃 ，黒斑	淡黄白	微～細砂㉙
18	〃 〃	11.4	—	3.7	内外面ナデ	明赤褐	微砂
19	〃 〃	11.1	—	3.3	〃	(内)明赤褐(外)淡乳黄	〃 ，赤色粒㉗
20	〃 〃	11.2	—	3.3	底部内外面浅い押圧，他はナデ	明赤褐	細砂，〃 〃
21	〃 〃	10.8	—	3.5	口縁部～内面ナデ，外面浅い押圧	〃	微砂，雲母㉗
22	〃 〃	9.3	—	4.7	〃 ～ 〃 ， 〃	淡黄褐	〃 ，〃 〃
23	〃 〃	9.3	—	—	〃 ～ 〃 ， 〃	明赤褐	〃 ，赤色粒㉗
24	〃 〃	9.2	—	4.4	〃 ～ 〃 ， 〃	〃	〃 ㉗，赤色粒㉗
25	〃 〃	8.8	—	4.4	〃 ～ 〃 ， 〃 ，内面黒変	(内)黒(外)淡赤～黄褐	〃 〃，〃 〃
26	〃 〃	9.3	—	3.7	〃 ～ 〃 ， 〃	(内)黄褐(外)明赤褐	〃 〃，〃 〃
27	〃 高杯	14.6	9.2	9.7	内外面ナデ，杯部に黒斑	明赤褐	〃 〃
28	〃 〃	13.2	9.9	10.5	杯部と脚部境・脚柱部と裾部境は押圧，脚柱部内面篦ケズリ後軽いナデ	〃	〃 ㉘，赤色粒
29	〃 〃	13.9	10.0	11.8	〃 押圧，脚裾部内面篦ケズリ後ナデ，他はナデ	〃	細砂㉘，〃
30	〃 〃	14.6	9.4	9.9	脚部外面軽い押圧，内面篦ケズリ後ナデ，他はナデ	〃	微砂㉚
31	〃 〃	13.0	10.5	11.1	杯部と脚部の境押圧，脚柱部内面篦ケズリ後ナデ，他はナデ，黒斑	〃	〃 ，赤色粒
32	〃 〃	13.9	11.2	10.9	〃 ・脚柱部と裾部の境軽い押圧，他はナデ	明茶褐	細砂㉘，赤色粒
33	〃 〃	13.6	10.1	11.6	杯部と脚部の境軽い押圧，他はナデ	明赤褐	微砂，赤色粒
34	〃 〃	11.1	7.7	8.5	脚柱部内面篦ケズリ後ナデ，他はナデ	〃	〃 ， 〃
35	〃 〃	9.6	9.0	9.6	〃 ， 〃	〃	〃 ， 〃
36	〃 〃	9.2	6.6	9.0	〃 ， 〃	〃	〃 ， 〃

遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
37	須恵器 杯蓋	11.3	—	3.8	天井部外面篦オコシ，他は横ナデ	灰白	微～細砂，黒色粒
38	〃 〃	9.2	—	—	〃 篦ケズリ，内面仕上げナデ，他は横ナデ，ロクロ回転㊧	(内)黒青灰(外)暗青灰	〃～ 〃
39	〃 杯身	9.8	3.9	3.5	底部外面篦オコシ，他は横ナデ	暗青灰	細砂
40	〃 〃	10.1	6.2	3.6	〃 ， 〃	灰白	〃
41	〃 〃	10.8	4.3	3.0	内外面横ナデ	暗青灰	〃
42	〃 〃	9.1	—	3.2	〃	淡灰	〃 ，黒色粒子
43	〃 高杯	—	10.0	—	杯部外面篦ケズリ後ナデ，他は横ナデ	暗灰	〃 ㉗
44	〃 〃	—	9.1	—	内外面横ナデ	灰白	微砂
45	〃 蓋	8.4	—	—	〃	暗青灰	細砂
46	〃 〃	—	3.2	—	胴部下半静止篦ケズリ，他は横ナデ	淡灰	〃 ，黒色粒子
47	〃 壺	7.5	6.0	8.0	底部外面 〃 〃	〃	微砂，〃

図246 土壙－410 出土遺物(3) 縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
48	土師器 鍋	40.6	—	—	口縁部内面・体部外面ハケ，他は横ナデ，外面煤付着	明黄褐	細～粗砂
49	〃 甕	12.8	4.5	11.7	口縁部横ナデ，内面篦ケズリ後軽いナデ，外面ナデ・押圧・煤付着	暗茶褐	〃～〃 ◎
50	〃 〃	14.5	8.4	16.0	口縁部内面ハケ，外面ハケ後下半はナデ，外面・内面上半煤付着	暗褐～明黄褐	〃～〃〃
51	〃 〃	14.5	—	—	内面ナデ，押圧，外面ハケ・煤付着	内茶褐外暗赤褐	〃～〃〃
52	〃 〃	31.6	—	—	外面ハケ，他はナデ	明褐	〃～〃〃
53	〃 〃	20.7	6.8	—	把手部はナデ・押圧，底部外面ナデ，外面ハケ，内面ナデ	茶褐	微～細砂◎，雲母
54	〃 鉢	21.0	—	—	外面ハケ，内面ナデ	赤褐	細～粗砂◎
55	〃 甑	25.4	—	—	把手部はナデ・押圧	内黄白外淡黄褐	〃～〃

図247　土壙－410　出土遺物(4)　縮尺 1/4

土壙－422（図248～251）

本土壙はＡＹ39からＡＺ39区にかけて位置する。南西端部は後世の井戸および攪乱溝によって破壊されている。現状からは推定長径230㎝前後，短径160㎝前後の不整の楕円形を呈すものと推定されるが，攪乱溝をはさんで南側に位置する土壙423と一連のものである可能性も考えられる。土壙断面をみると，底面は若干の凹凸があるが，ほぼ平らであり，壁はやや急に立ち上がっている。検出面からの深さは26㎝を測る。

本土壙の埋土は４層に分かれる。１・２層は炭化物・焼土塊を多量に含み，特に２層では，ブロック状に炭化物が混在しており，土器片も多い。これに対し，３層は混入物の少ない均質な層である。一方，４層は主に西半部に堆積する微砂粘土で，炭化物や土器片を多量に含んでいる。

本土壙からは，大量の土器片や獣骨が出土している。出土土器には土師器杯（１～12），同高杯（13～21），須恵器杯（22～27），同高杯（28・29），同提瓶（30・31），同壺（32・33），土師器鉢（34），同甕（35・36），同鍋（37）などがある。本土壙は出土土器から，古墳時代後期に属する。（栄）

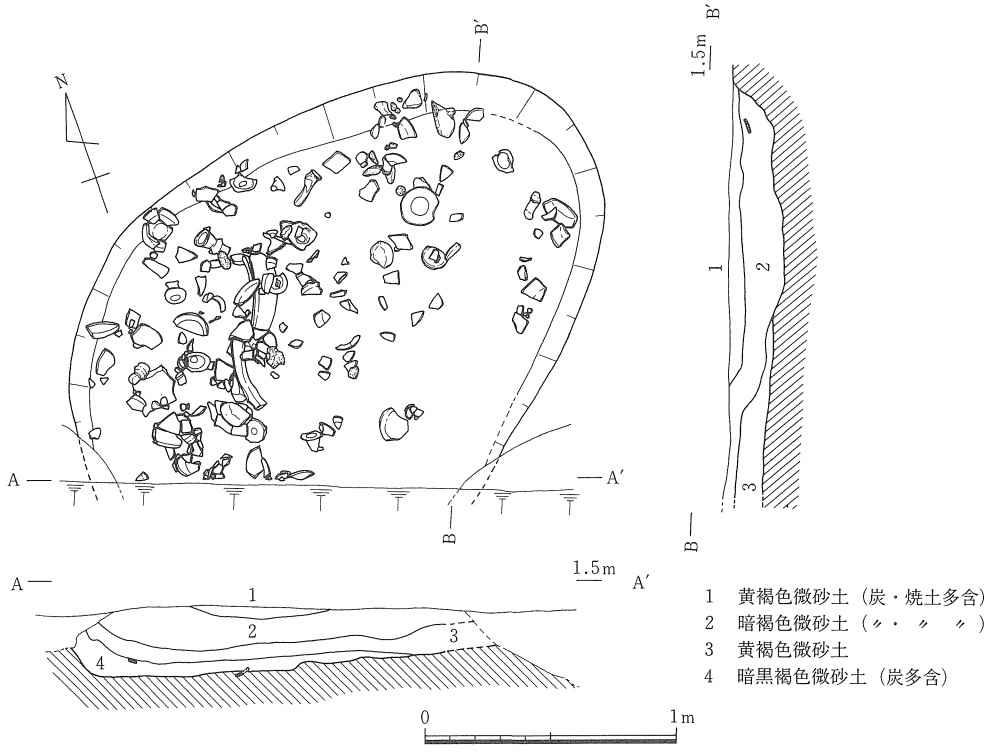
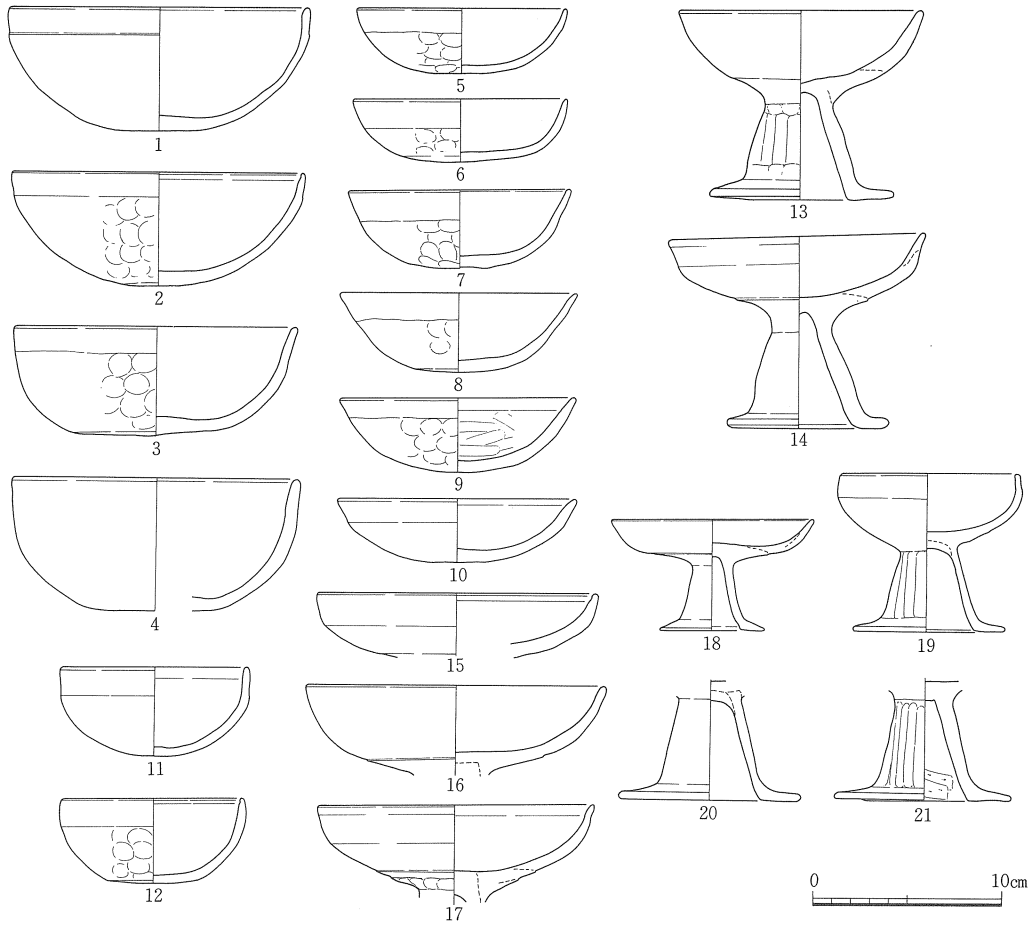
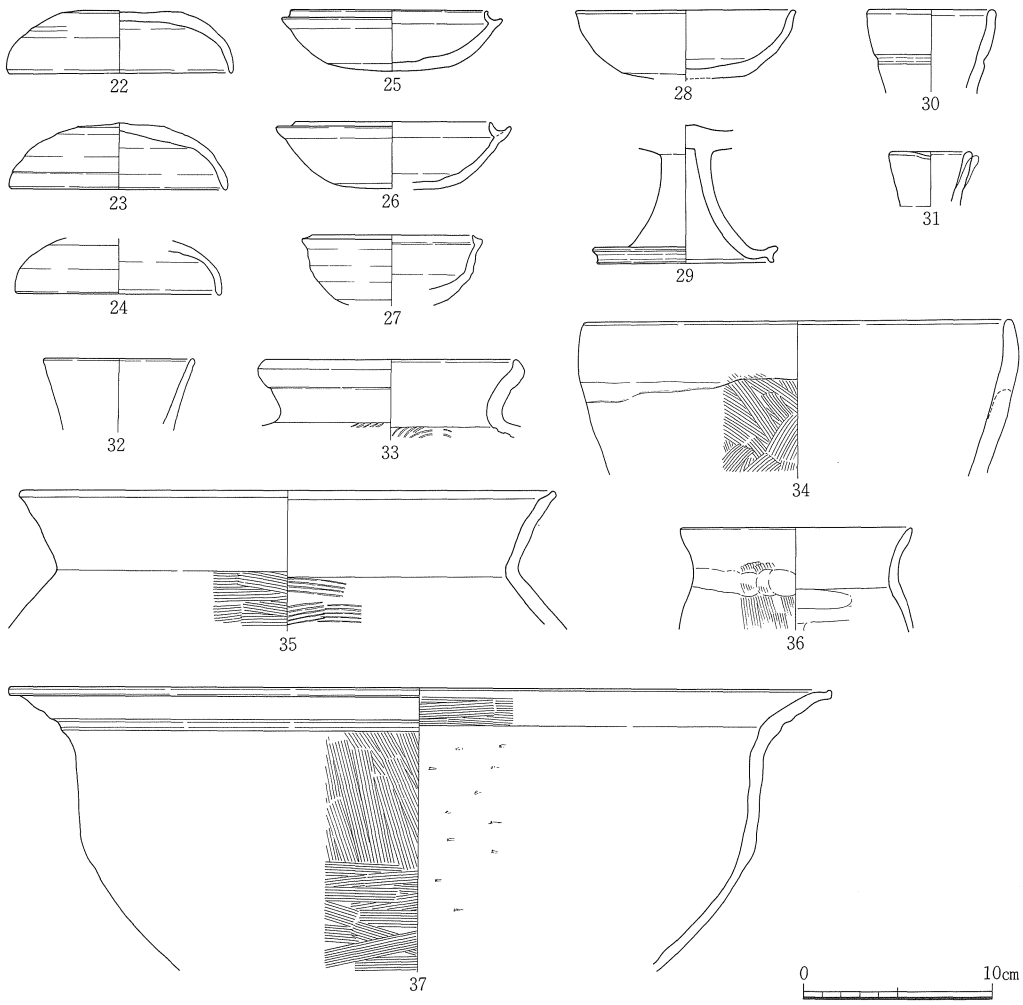


図248　土壙－422　縮尺 1/30



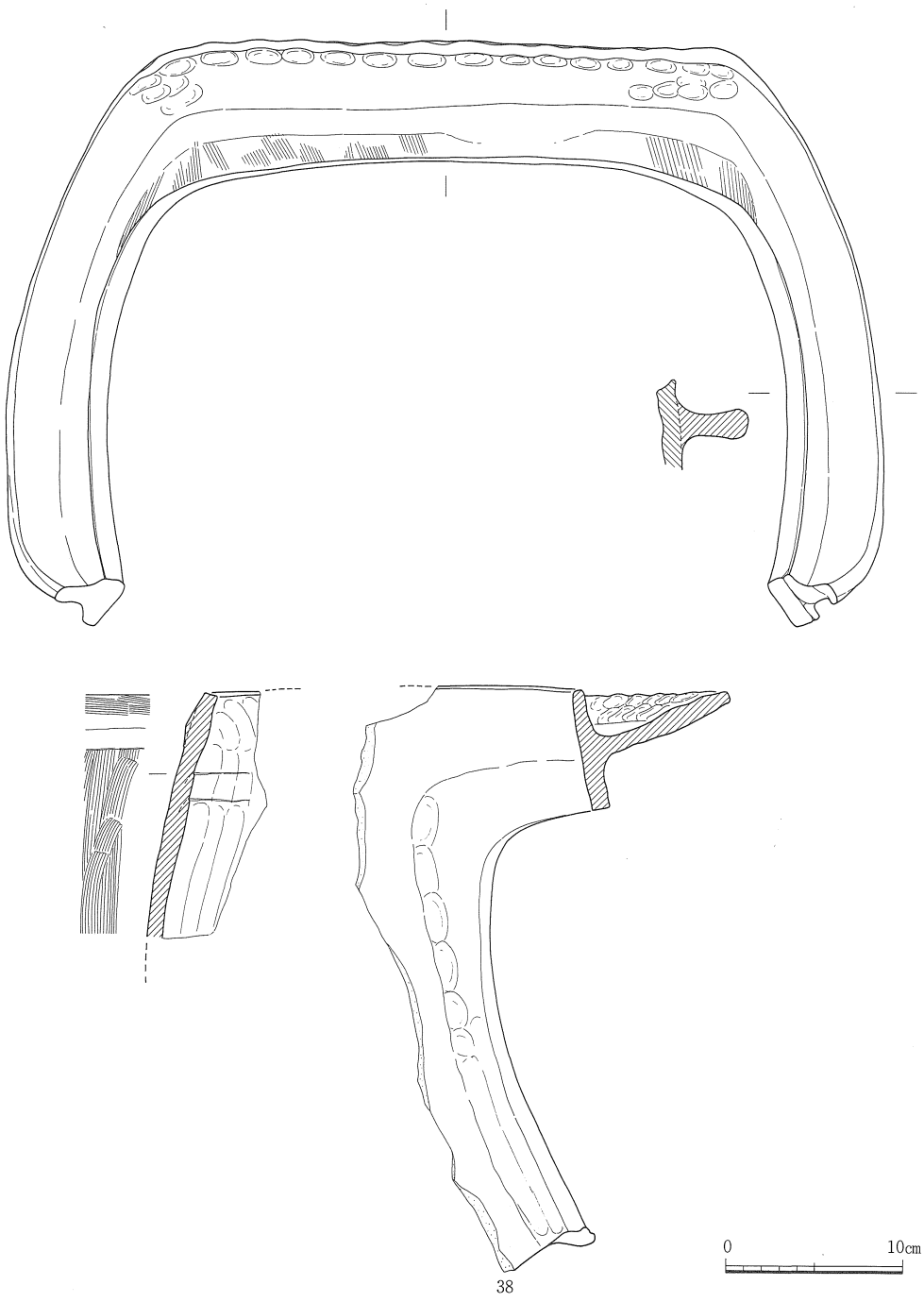
遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師器 杯	15.9	4.0	6.5	ナデ	明赤褐	微砂㋑，赤色粒子
2	〃 〃	15.6	3.5	6.0	外面押圧，他はナデ，口縁端部内面に沈線	〃	〃 ㋒
3	〃 〃	15.0	7.6	5.8	〃 ， 〃	㈠淡乳白㈡赤褐	〃
4	〃 〃	15.3	5.8	7.0	ナデ	明赤褐	微～細砂㋒赤色粒
5	〃 〃	11.1	2.7	3.4	押圧・ナデ	〃	微砂㋑，赤色粒子
6	〃 〃	11.3	6.6	3.3	〃 ・ 〃	〃	〃 ， 〃
7	〃 〃	11.8	3.5	4.2	〃 ・ 〃	〃	〃 ， 〃
8	〃 〃	12.6	4.8	4.2	〃 ・ 〃	〃	〃 ， 〃
9	〃 〃	12.4	—	3.9	〃 ・ 〃 ，内面工具使用ナデ	〃	〃
10	〃 〃	12.6	3.2	3.4	ナデ	〃	〃 ， 赤色粒子
11	〃 〃	10.0	—	4.7	押圧・ナデ，ほとんど丸底	〃	〃 ㋒， 〃
12	〃 〃	9.8	4.8	4.5	〃 ・ 〃	暗褐	〃 ㋐， 〃
13	〃 高杯	13.0	9.7	10.0	〃 ・ 〃 ，脚柱部外面面取り的調整残存	明赤褐	〃 ㋑
14	〃 〃	13.7	8.5	10.3	ナデ	〃	細砂㋒，赤色粒子
15	〃 〃	14.8	—	—	〃 ，口縁端部内面沈線	㈠赤褐㈡暗褐	〃 〃， 〃
16	〃 〃	15.9	—	—	〃	明赤褐	微砂
17	〃 〃	14.6	—	—	〃 ，押圧	〃	細砂㋒，赤色粒子
18	〃 〃	10.8	5.6	5.9	〃	〃	微砂，赤色粒子
19	〃 〃	9.5	8.0	8.4	〃 ，脚柱部外面面取り的調整痕残存	〃	〃
20	〃 〃	—	9.6	—	〃	黄褐	〃 ㋑
21	〃 〃	—	9.3	—	〃 ，脚柱部外面面取り的調整痕残存，脚部内面下半篦ケズリ	明赤褐	〃 〃

図249　土壙－422　出土遺物(1)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
22	須恵器杯蓋	12.0	—	3.4	天井部外面篦キリ後ナデ，天井径6.5cm	淡青灰	微砂，白色粒子
23	〃　〃	11.6	—	3.5	〃　，〃 4.6cm	(内)淡青灰(外)暗青灰	〃，黒色粒子㊱
24	〃　〃	10.9	—	—	天井部外面篦ケズリ，ロクロ回転㊶	淡灰	〃，〃　〃
25	〃　杯身	10.6	6.1	3.2	外面に自然釉，横ナデ	〃	〃，〃　〃
26	〃　〃	10.5	6.7	3.6	底部外面篦キリ後ナデ	灰	〃，粗砂㉙
27	〃　〃	8.7	—	—	横ナデ	(内)淡灰白(外)灰	〃 ㉙，黒色粒㊱
28	〃　高杯	11.7	—	—	内面底部仕上げナデ	淡灰白	粗砂㊱
29	〃　〃	—	9.5	—	横ナデ	淡青灰	〃
30	〃　提瓶	6.7	—	—	〃	灰	細砂㉙
31	〃　〃	4.4	—	—	片口部あり	黒灰	微砂
32	〃　壺	8.0	—	—	内外面に自然釉	灰	細～粗砂㉙
33	〃　〃	13.5	—	—	口縁部横ナデ，体部内面タタキ・外面タタキ後横ナデ	(内)青灰(外)黒青灰	微～細砂㉙
34	土師器　鉢	22.7	—	—	体部外面ハケ，他は横ナデ	赤褐	微砂㊲，赤色粒子
35	〃　甕	28.4	—	—	体部内面幅広いハケ後ナデ	明黄褐	細～粗砂㊱
36	〃　〃	12.4	—	—	〃　強いナデ，２次焼成痕あり	(内)明黄褐(外)暗褐	粗砂～細礫
37	〃　鍋	43.7	—	—	〃　篦ケズリ後ナデ，外面煤付着・剝落（２次焼成痕）	(内)明～黒褐(外)褐	細砂㊱

図250　土壙－422　出土遺物(2)　縮尺 1/4



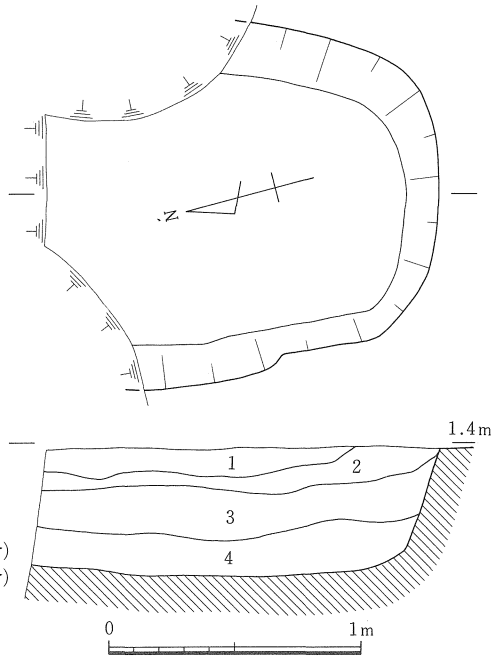
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
38	土師器 竈	－	－	－	焚口押圧・ナデ・一部にハケ，2次焼成痕無し	明赤褐	細砂◎，細礫

図251　土壙－422　出土遺物(3)　縮尺 1/4

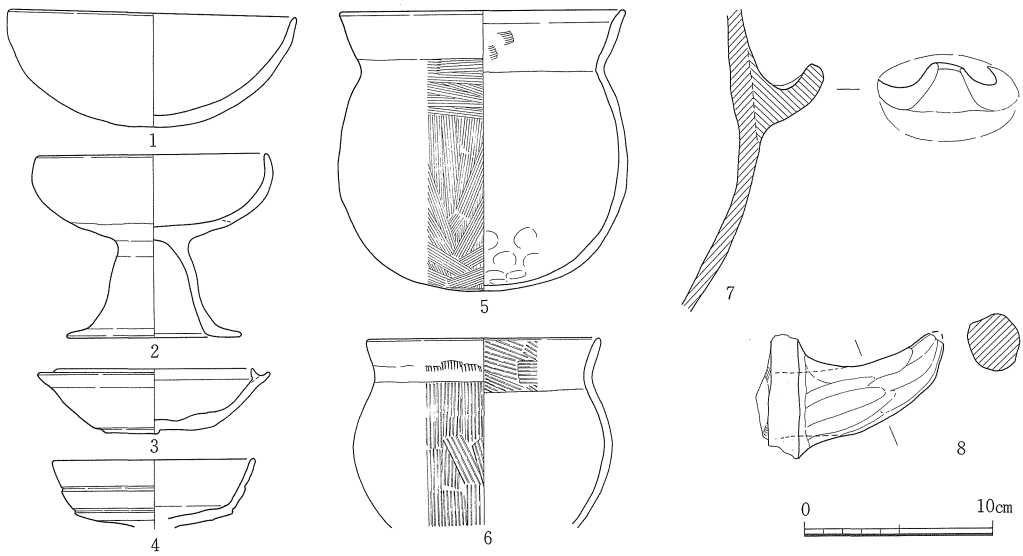
土壙－423（図252）

ＡＺ39区中央やや西北寄りに位置する。北側を中世の井戸２基および攪乱によって破壊されている。掘り方平面形はほぼ南北方向に長軸を有する隅丸方形を呈すると推定されるが，北東に隣接する土壙422と同一遺構である可能性が考えられる。底はほぼ平坦で，壁はやや急に立ち上がる。検出面からの深さは50cm前後である。埋土は４層に分かれ，主に１～３層から，須恵器および土師器が多量に出土している。

本土壙は，出土土器から７世紀初頭に属するものと推定される。



1　灰褐色粘質土（炭・焼土含）
2　淡黄灰色粘質土（焼土少含）
3　黄灰色粘質土
4　茶褐色粘質土（焼土少含）



遺物番号	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師器　杯	15.3	－	6.3	全面磨滅で不明	淡赤褐～黄褐	微砂㋑
2	〃　高杯	12.2	9.3	9.7	ナデ	明茶褐	〃　〃，赤色粒子
3	須恵器杯身	10.4	6.4	3.5	底部外面回転篦キリ，外面自然釉	(内)青灰(外)淡灰	〃　，黒色粒㋒
4	〃　高杯	10.7	－	－	外面下半篦ケズリ後ナデ，内面自然釉	(内)灰(外)青灰	〃　㋑
5	土師器　甕	15.1	－	14.9	口縁部内面ハケ後横ナデ，内面ナデ・下半押圧，外面煤多量	(内)明褐(外)黒褐色	細砂
6	〃　〃	12.4	－	－	体部内面ナデ，外面煤付着	暗褐	微砂，赤色粒子
7	〃　〃	－	－	－	内外面ナデ，把手付き	明褐	微～細砂
8	〃　甑	－	－	－	体部内面ハケ，他はナデ・押圧，把手部が体部にさし込み	淡黄褐	細～粗砂㋒

図252　土壙－423，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

(7) 古代の遺構と遺物

当時期は後世の造成により，調査区西側と南側を削平されている。遺構検出レベルは高い所で標高170cm，低い所で標高150cmである。遺構は掘立柱建物９棟・井戸１基・溝４条・柱穴列３列・土壙11基・柱穴が検出された。時期は８世紀後半から９世紀前半と考えられる。

９棟の掘立柱建物は主軸方向・柱穴の掘り方の形状・遺構の切合い関係から，少なくとも２群に大別可能である。Ａ群：主軸方向Ｎ－48～52°－Ｅ（建物６・８），Ｂ群：主軸方向Ｎ－10～14°－Ｅ（建物２・５・７）である。Ａ群はＢ群より古段階のものである。また，唯一検出された大形の井戸20においても１度の改修が認められ，各々が建物のＡ・Ｂ両群に対応する可能性が考えられる。ＢＣ30～32区に位置する溝68は両端は未確認であるが，深さは30cmを測り，断面形は皿状を呈す。一方，ＢＣ・ＢＤ・31・32区では，包含層中から当時期と一致する遺物が多量に出土しており，(図305・306)，溝68との関連が想定される。

大形の井戸20を中心に大小の掘立柱建物群が建ち並ぶ状況が想定可能であるが，ほぼ中央部が調査区外であること，後世の削平が大きいことから，全体像を把握するには至らなかった。

(山本)

図253　古代の主要遺構配置図　縮尺 1/500

a．掘立柱建物

検出された9棟の掘立柱建物は主軸方向から次の4群に区別される。A群：N―48～52°―E（建物6・8），B群：N―10～14°―E（建物2・5・7），C群：N―17・18°―E（建物1・3），D群：N―67°―W（建物9），不明：N―16°―W（建物4）。各群の詳細な時期については遺物が微量のため不明確であるが，A・B群に関しては建物7と8の切合いからAからB群への構築順序が想定される。

A群に属す建物2棟は各々端部が未確認ではあるが，いずれも3×2間以上の規模を有す。柱穴形態は，いずれも柱痕を持たない点で共通するが，掘り方については，建物8が通例の方形プランを示すのに対して，建物6はいわゆる「布掘り」形態をとる。建物8は桁行の柱間が平均225cm，梁間の柱間の平均188cmを測る。柱穴形態の規模・形状はやや不揃いである。

B群に属す3棟の建物は規模等に各々差が認められる。建物2・7は後述するので詳細な点は略す。建物2は4×2間（桁行840cm，梁間638cm）を測り廂を東側に有す。建物7は3×2間（桁行638cm，梁間411cm）を測る。いずれも柱穴形態は方形で柱痕が確認された。建物5は3×2間（桁行415cm，梁間330cm）を測る。柱穴形態は円から楕円形を呈し，柱痕は一部で確認されたが他の2棟に比べると全体的に不明瞭である。また，規模は最小の建物である。A群の建物がほぼ同規模，同形態をとるのに対して，B群の建物は，3棟が規模・形態においてそれぞれ特徴を有している。主軸方向は一致しており，同時併存が認められることから，各々が別々の機能を果した建物であった可能性が推定される。

C群に属す建物1・3については主軸方向・柱穴形態等にB群と類似した状況が確認されるが，いずれも遺構の大半が攪乱部または調査区外に想定され，詳細は不明である。

D群の建物9は主軸方向をN―67°―Wと他の建物と大きく異なった値を示す。柱穴形態は方形で，一部で柱痕が確認されている。他の建物との関係は不明である。

その他の建物4は，主軸方向が他と大きな差を見せることや柱穴形態が非常に不揃いであること，残存状態が悪いこと等から建物に決定するには疑問点も残る。

次に以上の建物の中でA・B両群の代表的建物を取り上げて詳細な説明を加えたい。（山本）

掘立柱建物―2（図254，図版31-1）

調査区東端のAX～AZ-29～30区に位置する。4×3間でその東側に廂を持つ掘立柱建物である。棟軸方向はN―10°―Eにとることから，古代B群に属するものである。

桁行は840cm，梁間は北側で440cm，南側で480cmを計る。棟廂間は160～200cmで，建物幅は計680cmとなる。柱間寸法は桁行で210cm，梁間で220～240cmである。柱穴はいずれも灰褐色微砂土が充満しており，明瞭に検出された。掘り方は50～70cmの方形を基本としているが，一辺1mの大きなものも存する。また，掘り方軸方向を一にし整然と並んだものでなく，無秩序な

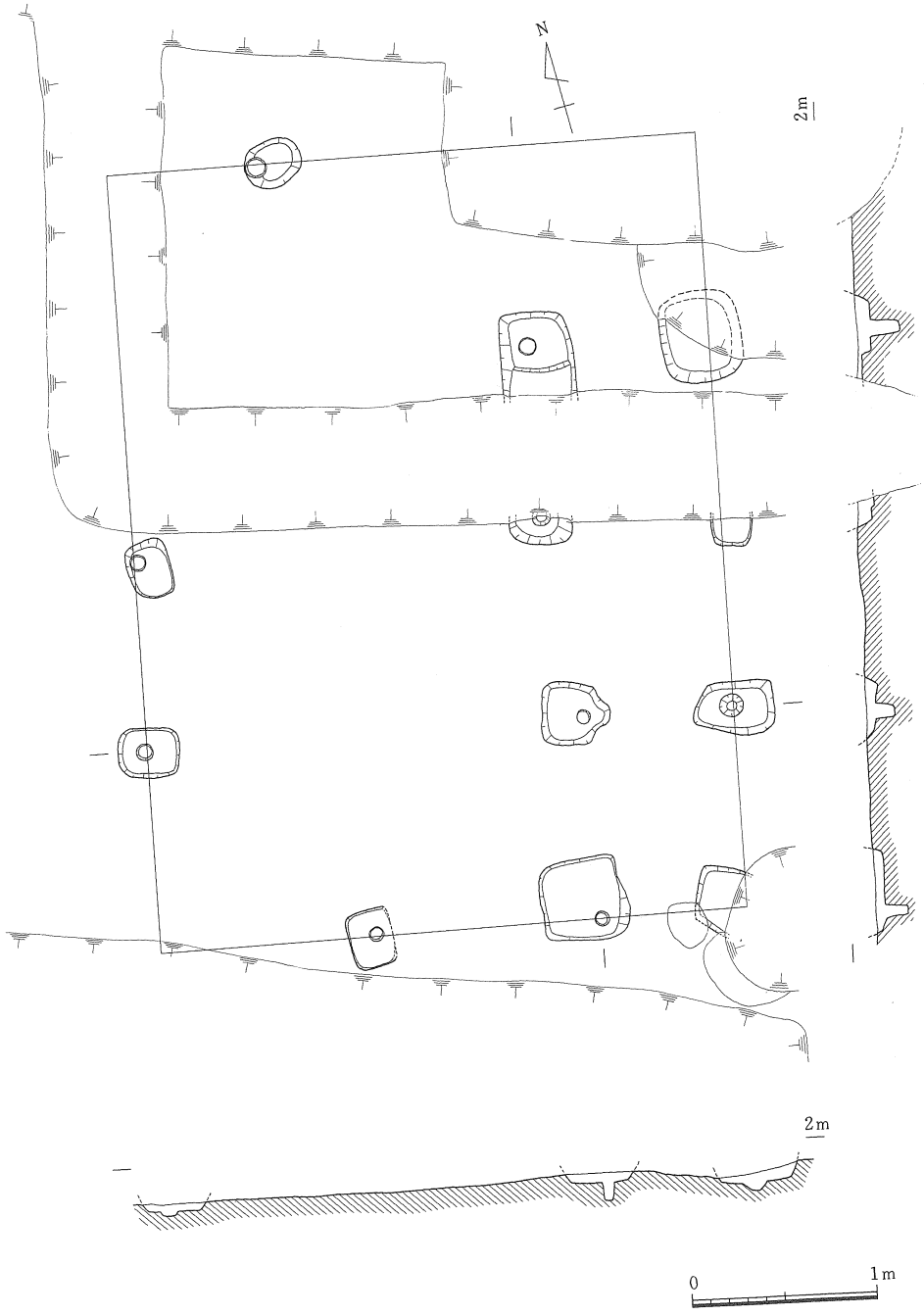


図254　掘立柱建物－2　縮尺 1/40

感を得る。いずれにも柱痕を有しており，その下底のレベルはやや不揃いである。廂の掘り方は他の柱穴に比べやや浅く掘られており，その意味合いの相異が看守される。

掘立柱建物－6（図255）

調査区北端のＡＶ・ＡＷ―34・35区から北に向って位置し，Ｎ―52°―Ｅに棟軸方向をとる，古代Ａ群の掘立柱建物である。北東部の梁については調査区外と考えられ，未確認である。

梁間425㎝，桁行503㎝以上を計り，梁間柱間寸法は213㎝となる。同一基準で梁が築かれたならば梁間は２間，桁行は３間以上の建物となる。柱穴は幅56～80㎝，深さ約30㎝の３条の溝状掘り方で構成され，柱痕は検出出来なかった。所謂「布掘り」の建物であるが，今回の調査範囲内ではこの一例のみで，岡山県内の報告においても他にその類例を知らない。

掘立柱建物－7（図256，図版31-２）

調査区中央やや西寄りのＡＷ～ＡＹ-35～36区において検出された。棟軸方向をＮ―11°―Ｅ

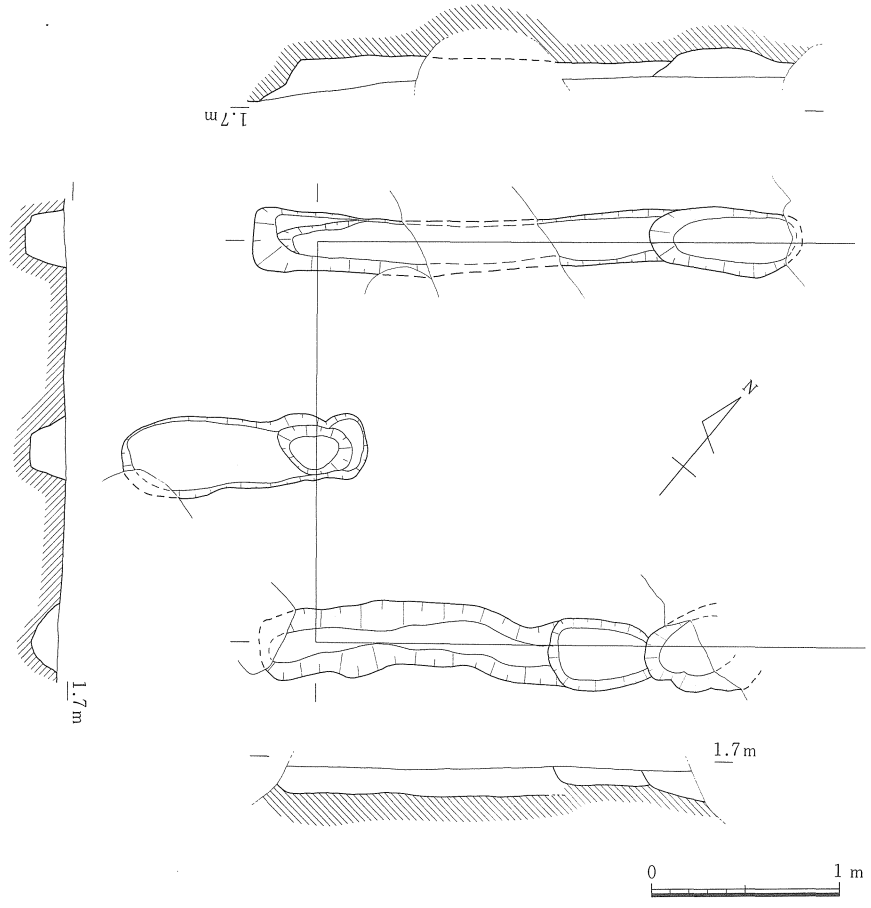
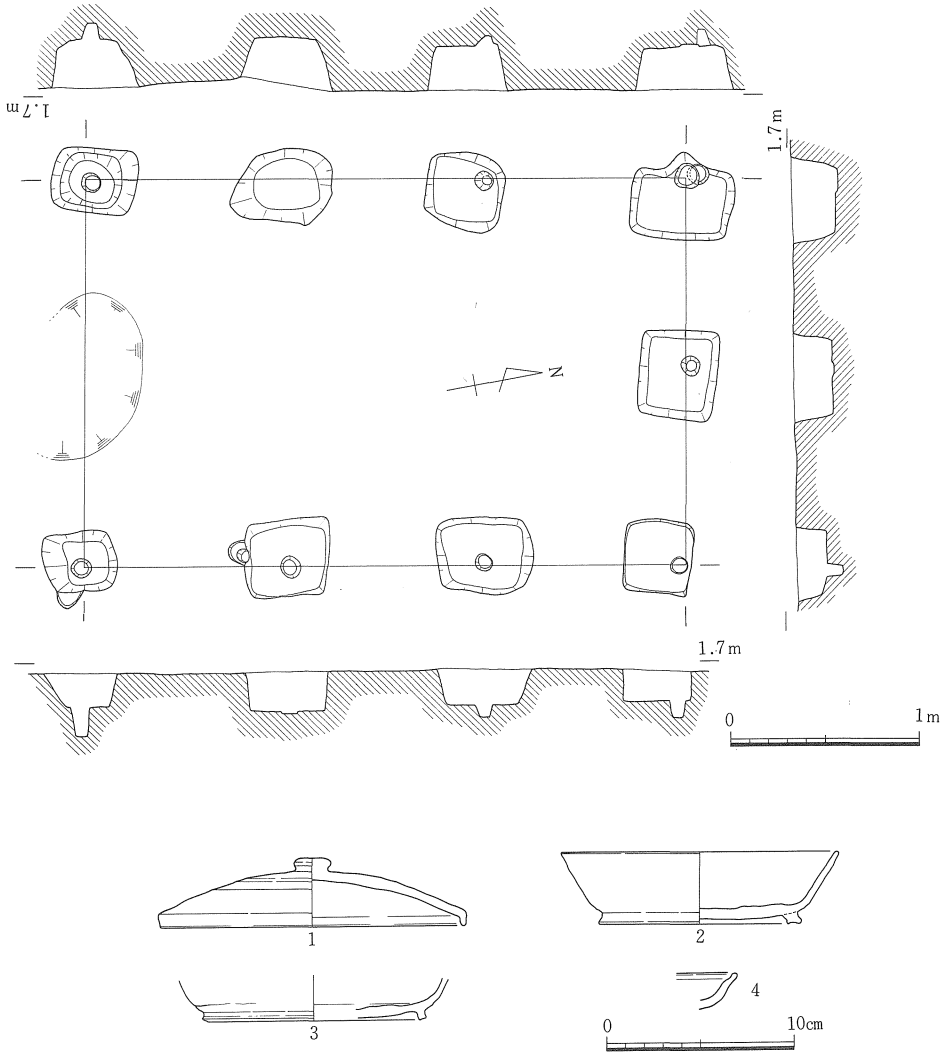


図255　掘立柱建物－６，　縮尺 1/40

にとる古代Ｂ群の掘立柱建物である。桁行３間（638㎝）・梁間２間（416㎝）であり，各々の柱間は平均210㎝を計る。柱穴掘り方は一辺70～90㎝の方形・隅丸方形を呈し，径20㎝前後の柱痕が確認出来た。柱穴は40～50㎝の深さをもち，底は標高120㎝にほぼ統一されている。柱穴から出土した遺物から８～９世紀の年代が想定される。また，建物８（Ａ群）との切合い関係から，建物８から建物７への建築順序を把えることが出来る。（保田）



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	須恵器杯蓋	16.3	－	3.6	横ナデ，天井部内面仕上げナデ・外面篦ケズリ	淡灰	微砂㋑
2	〃　杯身	14.8	10.8	3.9	〃，高台内の外面篦ケズリ中心に×字の刻印あり	青灰	〃〃
3	〃　〃	－	12.0	－	高台内の外面篦ケズリ後ナデ，内面底部仕上げナデ，ロクロ回転㋐	内淡灰白外灰	細砂
4	土師器　皿	－	－	－	内面横ナデ後下半篦ミガキ，外面横ナデ後篦ミガキ	赤褐	微砂㋑，赤色粒子

図256　掘立柱建物－７，出土遺物　縮尺 1/40，1/4

b．井　　戸

井戸－20（図257～261，図版32・33・68）

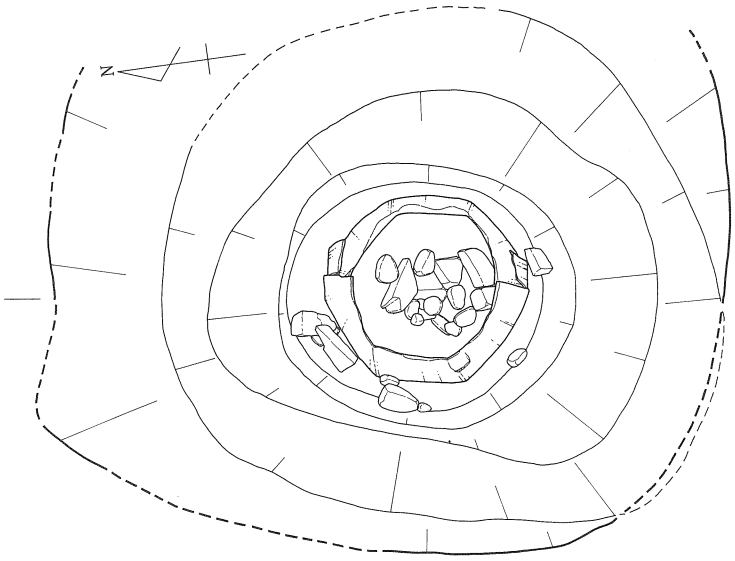
調査区のほぼ中央にあたるＡＸ33・34区に位置する。調査範囲の端部のため，側溝で東側を削平される。

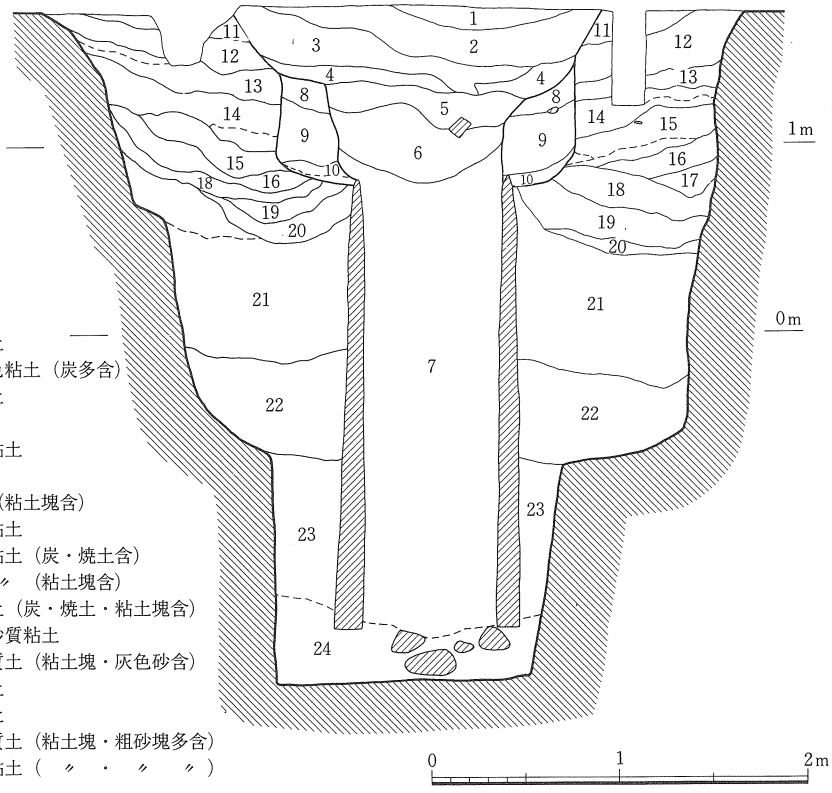
平面形は南北に軸をもち，長軸360cm，短軸は復元推定300cmを測る隅丸方形を呈す。底面は検出面下約360cm，標高－185cmに位置し，径約130cmの円形をなす。掘り方は段掘り状を呈し，上面から深さ235cm，標高－60cmの位置まで80°前後の急角度で掘り込まれ，テラス状の平坦面を形成後，平面形を径150cmまで狭めてから，垂直に近い角度で底面に向って深さ120cmの深掘りがなされる。その中央に底部外径100cm，残存長250cmを測る大形の井筒（W39）が据えられる。井戸底面には礫が敷かれているため井筒の底部は井戸底より30cm近く上部に位置する。その他に井筒外には裏ごめの石も認められ，底面の礫の存在・掘り方の径を狭めて井筒径に合わせたことなどとあわせて，大形井筒を設置する上での構築の工夫が随所にみうけられる。井筒は上面観が六角形をなすように面取りされた割竹状の刳り貫き材が用いられ，厚さは12cmを測る。ほぞ穴が数ヶ所認められる。材質はスギの可能性が高い。

埋土は，堆積状況から，粘土ブロック・粗砂ブロック等を多量に包含する11～23層と，それらをほとんど含まない１～10層との間に，明瞭な差が認められる。後者が前者を切り込んだ２度目の掘り方と考えられ，後代に井筒上部（標高80cm以上）にのみ改修が行われたことが窺われる。改修後の井戸は径200cmの円形プランを呈す。井筒は少なくとも標高30cmまでは存在しており，木組方形隅柱型の井側の痕跡が認められる。また，井戸廃棄後最初の堆積層（４層）にのみ炭化物が多量に包含されていることから，そこに祭祀的要素が考えられる。

遺物は井筒内底部から様々なものが多量に出土する。他の埋土中にも多くは細片であるが，かなりの量が含まれる。１次埋土中から，土師器（３），須恵器（20・21・26・27・32），２次埋土中から土師器（６・10・11），須恵器（23），井筒内底部から土師器（１・２・７・８・13・16～18）・須恵器（22・29～31・33）・櫛・曲物・斎串・刀子状木製品等多量の木器（W22～38）が各々出土した。鉄器も数点が埋土中に認められるが，いずれも図化するのは不可能であった。釘の可能性をもつ小片および器種不明の細片などである。また，井筒内部からは多量のハイガイを中心に，ハマグリ・ヤマトシジミ・オオタニシ・サザエ・ムラサキガイ・ヘナタリ等の貝，モモ・ヒョウタン・ドングリ・マクワウリ等の多くの種子も検出されている。注目される遺物としては，墨書土器が３点（14・15・34），精良な胎土・丁寧な調整・炭化吸着等に黒色土器を思わす杯・皿（１・２・13），八角形に面取りされた丹塗り高杯（16～18）等がある。墨書土器の内１点は「田」と判読される。

遺物の他に，本遺構の持つ規模の大きさ，大形井筒の存在等に加え，周囲に構築されている





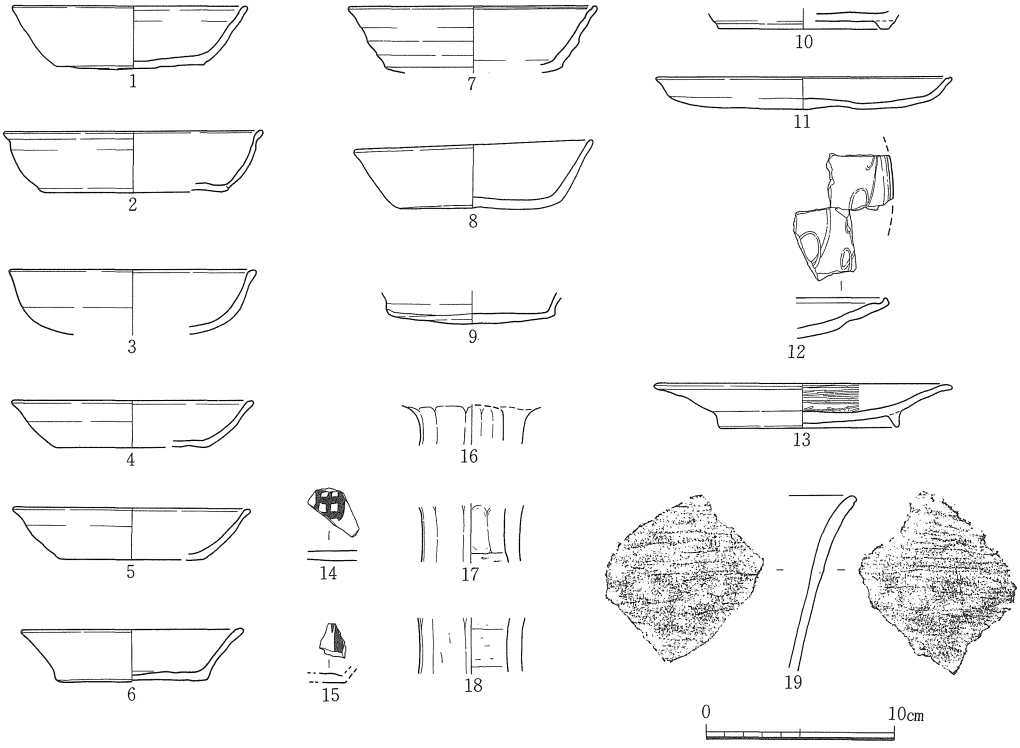
1　暗褐色土
2　〃
3　暗褐色粘土
4　暗～黒褐色粘土（炭多含）
5　暗褐色粘土
6　〃　〃
7　暗青灰色粘土
8　暗褐色土
9　〃　（粘土塊含）
10　暗青褐色粘土
11　暗灰褐色粘土（炭・焼土含）
12　〃　〃　（粘土塊含）
13　灰褐色粘土（炭・焼土・粘土塊含）
14　暗灰褐色砂質粘土
15　灰褐色粘質土（粘土塊・灰色砂含）
16　黄褐色粘土
17　灰褐色粘土
18　灰褐色粘質土（粘土塊・粗砂塊多含）
19　暗灰褐色粘土（〃・〃　〃）
20　灰色粘土
21　暗灰色粘土
22　灰色粘土（粗砂含）
23　暗灰黒色粘土
24　黒褐色粘土

図257　井戸－20　縮尺 1/40

同時期の掘立柱建物と軸を同じくしていること等からも，本遺構が集落の中で重要な位置を占める井戸であったことが想定される。

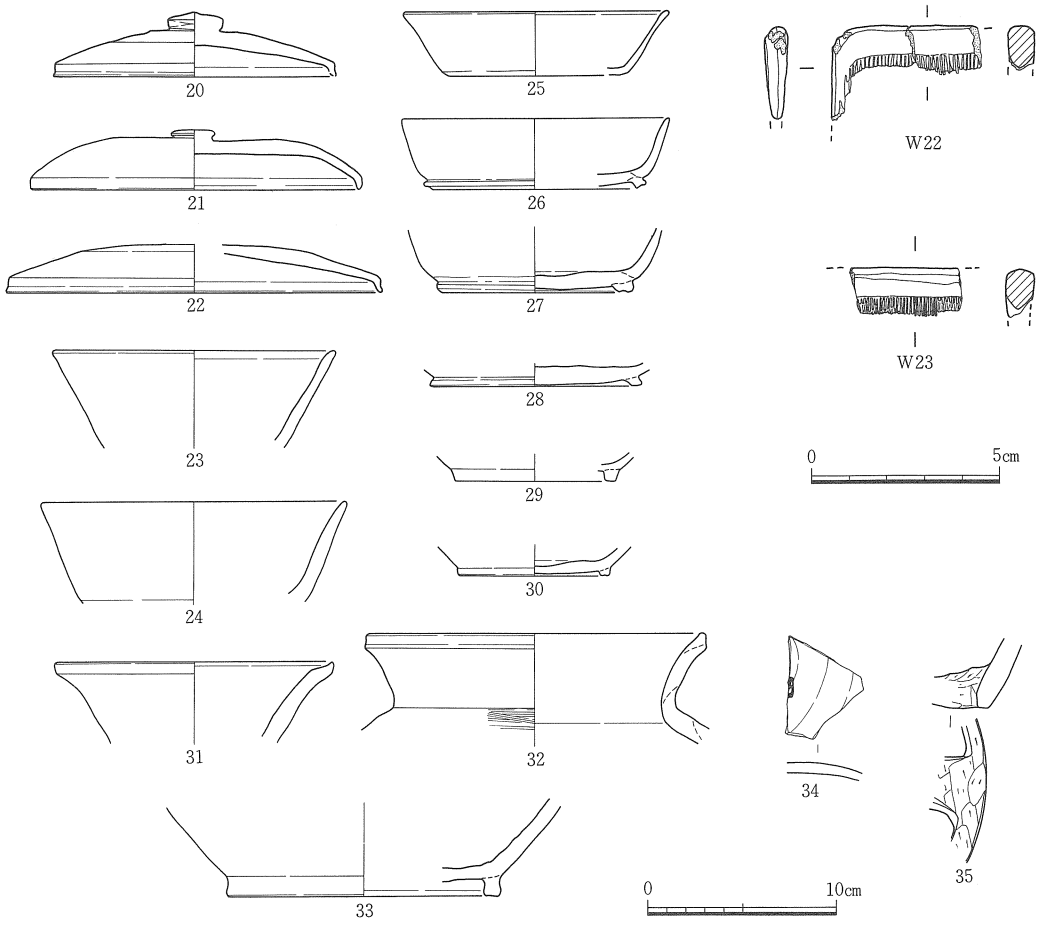
時期は改修前が8世紀後半に改修後が9世紀初頭に比定される。

他に，時期は大きく異なるが縄文晩期の土器片（19）が井筒内底面から出土した。（山本）



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師器 杯	12.5	7.9	3.6	底部外面篦キリ，他は横ナデ，ロクロ回転㊨	明赤褐	微砂㋑
2	〃 〃	13.8	10.0	3.2	底部外面篦キリ後軽いナデ，外面横ナデ後横位篦ミガキ	明茶褐～明赤褐	〃
3	〃 〃	13.1	—	—	外面下半篦ケズリ後横ナデ，他は横ナデ，内外面丹塗り	茶褐～赤褐	〃 ㋷
4	〃 〃	12.8	8.6	2.5	横ナデ	淡赤灰	細砂㋷，赤色粒
5	〃 〃	12.6	7.6	2.8	〃	明赤褐	〃
6	〃 〃	11.8	8.0	2.8	〃 ，底部内面押圧後ナデ，丹残存少量	黄灰	〃 ㋷
7	〃 〃	13.2	9.4	—	〃 ，内外面炭素吸着	黒	微砂，粗砂㋑
8	〃 〃	12.7	8.5	3.7	〃 ，底部外面篦キリ後押圧，内外面炭素吸着	(内)黒褐(外)黒	〃
9	〃 〃	—	8.8	—	〃 ，底部外面篦キリ後ナデ	(内)赤褐(外)淡褐	微～細砂㋷
10	〃 〃	—	9.0	—	〃 ， 〃 押圧後ナデ，全面丹塗り，高台付	淡黄褐	細砂㋷
11	〃 皿	15.7	14.2	1.7	〃 ， 〃 静止篦ケズリ後押圧，全面丹塗り（内面上半横位）	淡乳褐	微砂，細礫㋑
12	〃 〃	—	—	—	内面横ナデ後螺旋状暗文・口縁部に段，外面横ナデ後横位篦ミガキ	(内)明赤褐(外)褐	微～細砂㋑
13	〃 〃	15.8	9.5	2.4	内面篦ミガキ，外面横ナデ・底部押圧，全面炭素吸着	暗褐～黒	微砂
14	〃 杯	—	—	—	内面横ナデ，外面篦キリ後ナデ，墨書「田」，杯底部破片	赤褐	〃 ㋑
15	〃 〃	—	—	—	横ナデ，墨書有り，杯底部破片	淡黄褐	〃
16	〃 高杯	—	—	—	脚部内面押圧・外面面取り10角形，杯部内面ナデ，脚部内面以外丹塗り	(内)黄灰(外)赤褐	細砂㋷
17	〃 〃	—	—	—	内面上半押圧・下半篦ケズリ，外面面取り10角形・外面丹塗り	(内)灰白(外)赤褐	微砂
18	〃 〃	—	—	—	外面面取り10角形・外面丹塗り，No16と同一個体の可能性あり	(内)黄灰(外)赤褐	〃
19	深鉢	—	—	—	横位篦ミガキ，縄文晩期土器	黒灰	細～粗砂㋷

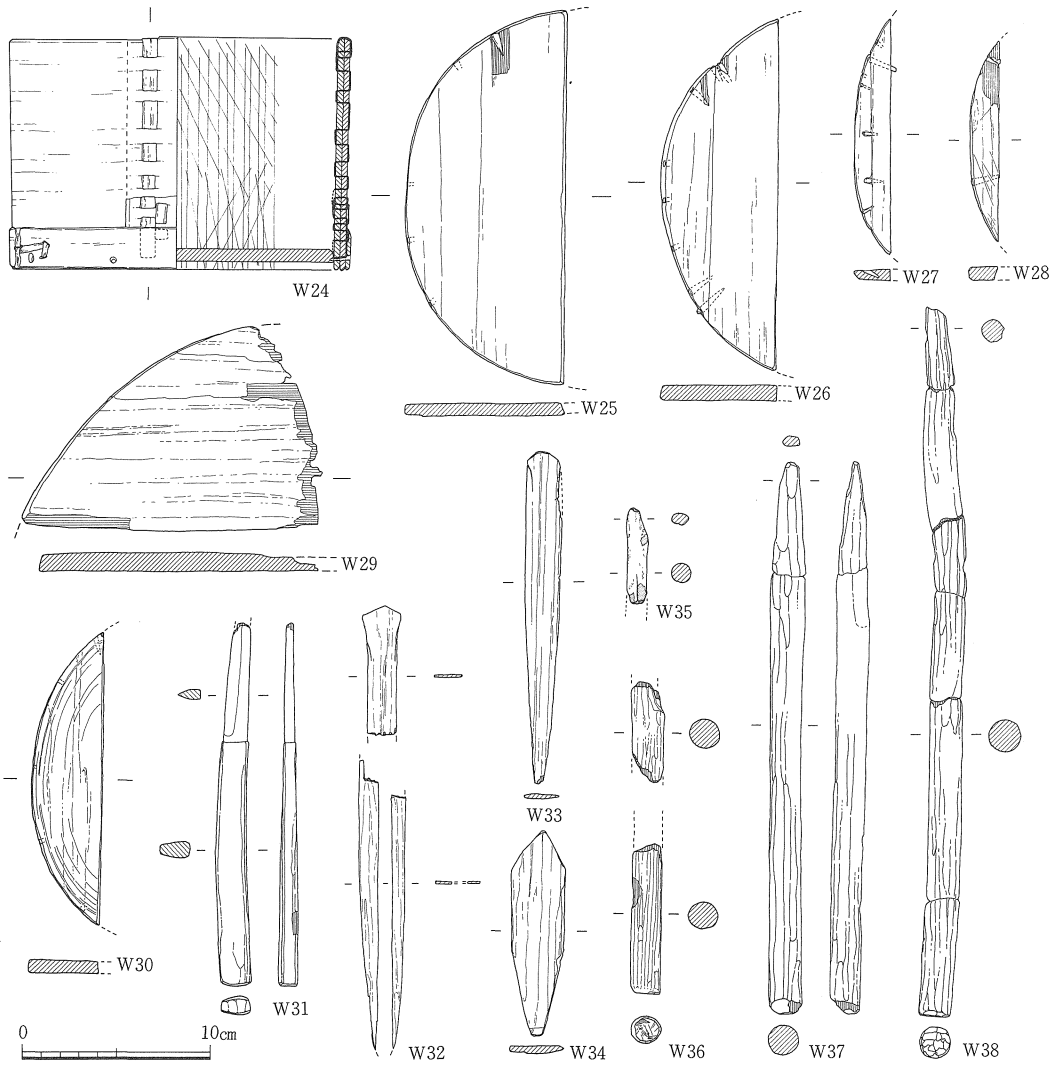
図258　井戸－20　出土遺物(1)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
20	須恵器杯蓋	14.9	—	3.4	内面中央仕上げナデ，外面上半篦ケズリ	暗灰～青灰	細砂㉓
21	〃　〃	17.5	—	3.2	横ナデ	青灰	〃
22	〃　〃	20.0	—	—	〃，外面上半篦ケズリ後ナデ	〃	微～細砂
23	〃　杯身	15.0	—	—	〃	内)灰褐外)暗灰	細砂㉓
24	〃　〃	16.2	—	—	〃	青灰	微砂㉗
25	〃　〃	14.0	9.8	3.4	〃，重ね焼き痕	灰白	〃 〃
26	〃　〃	14.2	11.7	3.8	〃，底部外面篦ケズリ後ナデ，ロクロ回転㊧	淡灰白	〃
27	〃　〃	—	10.2	—	〃，〃，〃 〃	淡青灰	粗砂㉓
28	〃　〃	—	11.2	—	〃，〃，〃 ㊧	青灰	微～細砂
29	〃　〃	—	8.5	—	〃	淡青灰	微砂㉓
30	〃　〃	—	8.0	—	〃	淡灰白	細砂㉗
31	〃　壺	14.8	—	—	〃	内)淡灰外)紫灰	細砂
32	〃　〃	17.8	—	—	〃，体部外面ハケ	内) 〃 外)暗灰	〃
33	〃　〃	—	14.4	—	〃，底部外面篦ケズリ	内) 〃 外)紫灰	粗砂
34	〃　杯蓋	—	—	—	内面横ナデ，外面篦ケズリ，墨書一部残存	内)灰白外)青灰	細～粗砂
35	〃　鉢	—	—	—	内外面横位篦ケズリ後横ナデ，底部荒い篦ケズリ	青灰	〃～〃 ㉓

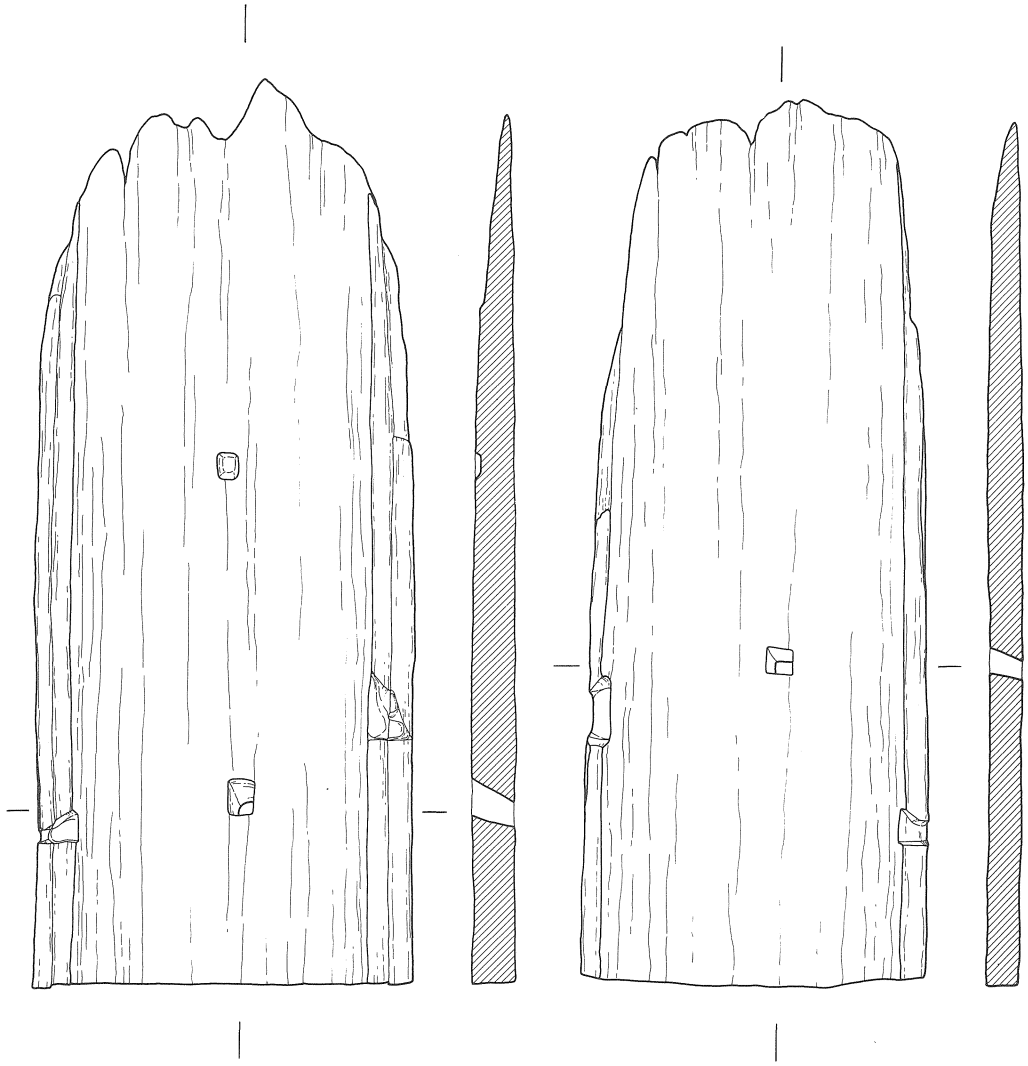
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W22	横櫛	4.0	—	0.7	ツゲ	棟部は削った後磨き直線的でやや弧を描く，歯は両側から鋸でひき出す
W23	〃	3.0	—	0.8	〃	棟部は削った後磨き，歯は両側から鋸でひき出す，W22に比べやや部厚い

図259　井戸ー20　出土遺物(2)　縮尺 1/4・1/2（W22・23）



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W24	曲物	12.2	17.0	底板0.7 側板0.3	ヒノキ	片面のみ黒漆塗，底板に漆塗りの際の同心円状の刷毛目，側板内面に刻み目，釘穴は底板に19ケ所，側板に17ケ所で不整合部あり，間隔は不等，一部竹釘残存，側板・底板は柾目板，綴皮は桜皮
W25	曲物底板	20.0	—	0.7	〃	片面に黒漆塗，柾目材，復元径20.2cm
W26	〃　〃	18.8	—	0.8	〃	釘穴に竹釘残存，板目材，復元径20.8cm
W27	〃　〃	12.5	—	0.6	スギ	〃　，表面に残る釘穴は補修のためか，黒漆塗，板目材，復元径22.0cm
W28	〃　〃	10.6	—	0.7	ヒノキ	〃　，板目材，復元径19.6cm
W29	〃　〃	15.6	—	0.9	コウヤマキ	大形の曲物底板か，柾目材，復元径38.4cm
W30	〃　〃	〃	—	0.7	スギ	片面に漆塗り時の同心円状の刷毛目が残る，板目材，復元径21.6cm
W31	刀子状木製品	20.3	1.6	1.0	ヒノキ	全体的に外反，刃部は明確な鏑を持ち鋭利な刃先を作る，柄は面を取り丁寧に削る
W32	斎串	—	2.0	0.1	〃	薄板の先端を尖らせ頭部を圭頭状に削り出す，両側縁に切込みが入る，柾目材
W33	〃	17.4	1.9	0.3	〃	〃　，〃　，〃　，〃
W34	斎串？	10.9	2.8	0.4	〃	薄板の両端を尖らせる，板目材
W35	尖棒状製品	5.2	1.0	1.0	—	先端部片，一部炭化
W36	〃	—	1.6	1.4	—	入念な面取りを施し断面円形をなす，先端部および中位部欠損，基端面に擦痕残る
W37	〃	29.4	1.6	1.6	針葉樹	細枝に入念な面取りを施し断面は円形，先端部は扁平で先細りとなり腐食が激しい
W38	〃	37.8	1.7	1.6	キリ	〃　，〃　，先端へしだいに細くなる

図260　井戸ー20　出土遺物(3)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W39-1	井戸枠	240.0	100.5	11.0	スギ	径1m以上の大木を刳り貫いた組合せの井戸枠，1の側縁に段を作り出し2をはめ込む，1・2の両側縁は対応位置に切込みを持ち各々中央に方形の孔，1にはその上方に未貫通の方形凹みがある
〃 -2	〃	235.0	91.5	9.5		

図261　井戸－20　出土遺物(4)　縮尺 1/20

(8) 中世の遺構と遺物

11世紀後半～14世紀初頭の掘立柱建物推定6棟，井戸13基，溝3条，柱穴列1列，土壙6基，柱穴が検出された。遺構検出高は高い所で標高180cm前後・低い所で標高150cm前後を測る。

掘立柱建物は古代以上に後世の水田化による削平の影響を大きく受け，ＡＶ～ＡＸ34～36区のみに残存している。小形のものと大形で総柱のものに二分される上，切合い関係も認められるが，出土遺物が少なく，詳細は不明である。井戸は調査区西側に多く分布する。底面形が方形の井戸は21・24で，他は円形に近い。現状での規模は一辺80～300cmの幅を示す。井戸側を有す井戸は木枠と曲物使用の2基（21・25）が認められる。存続時期は，出土遺物から，11世紀初頭に入る井戸までであるが，その中でも12世紀代と考えられる井戸が多い（合計5基）。溝は東西方向（溝71）と南北方向（溝70）に検出された。ごく近い時期とみられる。両者の交点が調査区外であるため不明確であるが，同一溝の可能性もある。（山本）

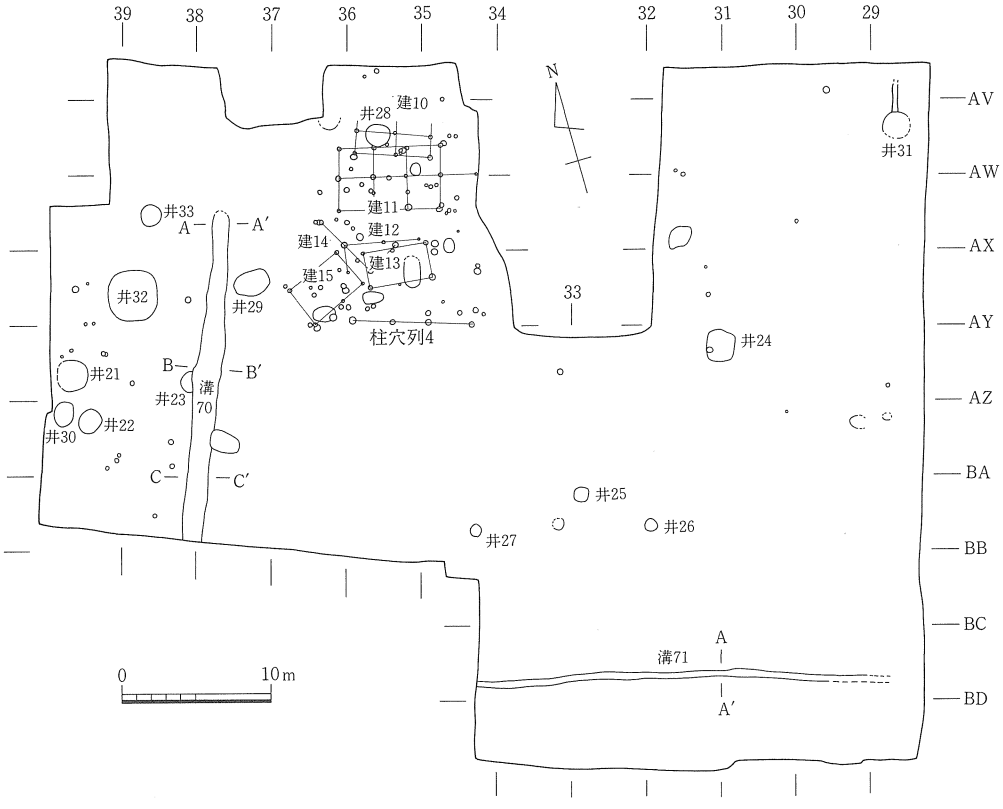


図262　中世の主要遺構配置図　縮尺 1/500

a．掘立柱建物

掘立柱建物は後世の削平の影響が比較的少ないＡＶライン～ＡＹライン・34ライン～37ラインの範囲内において検出された６棟の存在が考えられる。いずれも古代に比べると小形の柱穴を有し，平面形は円形を呈す。後世の削平により，上部掘り方を消失した可能性もあるが，古代の柱穴形態とは異なっていたと判断される。建物はその規模から次の２群に大別される。①総柱で大形（３間×２間あるいはそれ以上）の建物２棟：建物10・11，②小形（2間×１間）の建物４棟：建物12～15である。主軸方向は①ではＮ―70°―Ｗ（建物10）とＮ―77°―Ｗ（建物11）の方向を有し，互いに近い値を示す。一方，②ではＮ―80°―Ｗ（建物12），Ｎ―85°―Ｗ（建物13），Ｎ―30°―Ｗ（建物14），Ｎ―64°―Ｅ（建物15）を測り近似値を示すものは少ない。また，同時併存の可能性としては大形建物１棟につき小形建物１棟を想定することは可能であるが，いずれも不明瞭である。

次に，個別に概略を説明したい。

建物10は北部を攪乱で消失しているが，２間以上に柱穴が確認されていないことから２間×２間の総柱建物と考えられる。桁行815㎝，梁間390㎝を測る。柱穴は径30㎝前後の円形を呈し，柱間は均一ではなくやや不揃いである。

建物11は３間×２間の総柱で桁行909㎝，梁間408㎝を測る。建物10と切合い関係を有す。

建物12は２間×１間（桁行500㎝・梁間152㎝）を測る可能性が強い。主軸方向が建物11と近い数値を示し，また切合い関係が考えられる建物13とも比較的近い。

建物13は２間×１間（桁行420㎝・梁間220㎝）を測る。

建物14・15は上述の建物10～13とは主軸方向を大きく異にしている。いずれと２間×１間を想定しているが，不明瞭な部分が多い。

次に，中世の掘立柱建物の代表例として建物11をあげて詳細な説明を加えたい。　（山本）

掘立柱建物―11（図263，図版34-１）

調査区北寄りのＡＶ・ＡＷ―34～36区において検出された，棟軸をＮ―77°―Ｗにとる総柱掘立柱建物である。規模は桁行２間・408㎝，梁間３間もしくは４間・602～909㎝で，平均柱間寸法は梁間方向で227㎝，桁行方向で204㎝を計る。

柱穴掘り方は径約30㎝の円形を呈し，深さはまちまちであるが，その底レベルは標高50㎝前後に揃う傾向が認められる。柱痕は，基本的には有していたものと思われる。

建物中軸の東に柱穴１基が確認され，この建物の規模が梁間４間になる可能性も考えられるが，その南北に位置するはずの桁行は検出できなかった。また建物中軸と南梁の間に２基の柱穴が検出されたが，その深さが他より浅いため，本来この建物に伴うものであるが不明である。伴出遺物は無く詳細な時期決定は不能であるが，検出状況から中世の建物であろう。（保田）

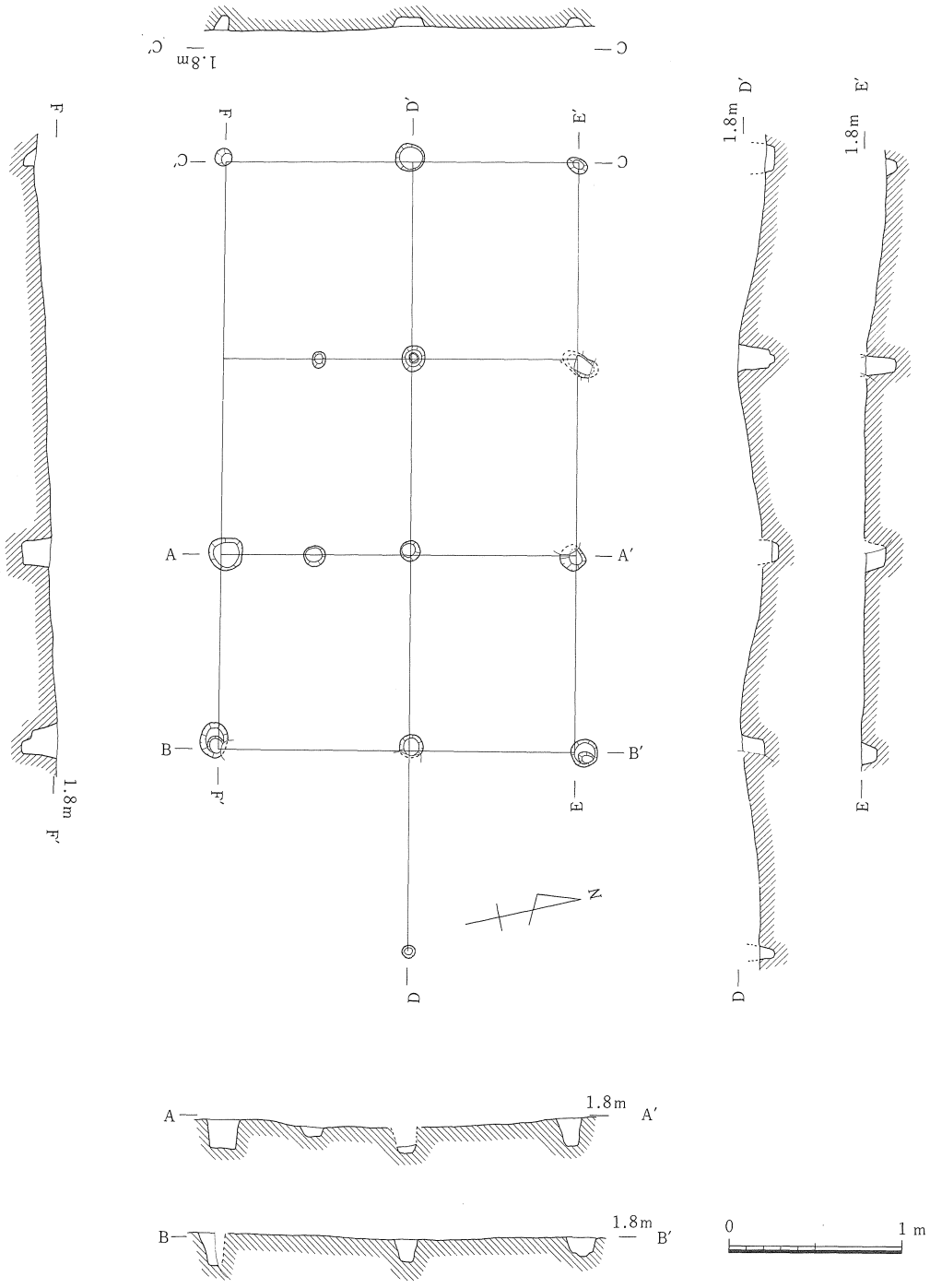
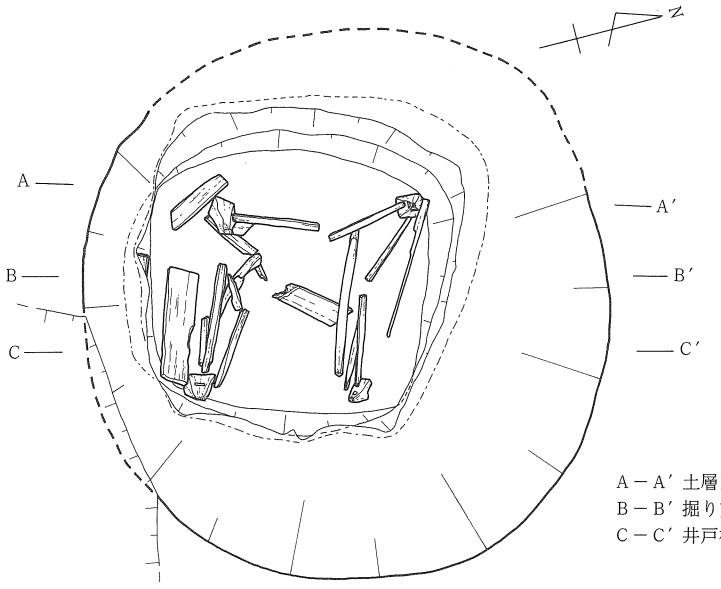


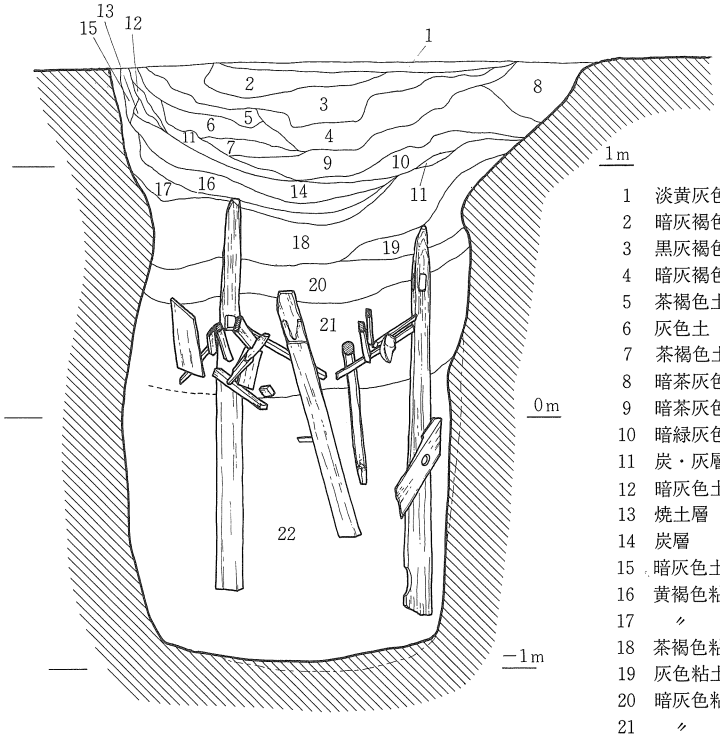
図263　掘立柱建物－11　縮尺 1/40

b．井　　戸

井戸－21（図264～268，図版35・69・71～73）



A－A′ 土層断面ライン
B－B′ 掘り方断面および遺物見透しライン
C－C′ 井戸枠断面見透しライン



1　淡黄灰色土
2　暗灰褐色土
3　黒灰褐色粘質土（炭・焼土・土器多含）
4　暗灰褐色　〃
5　茶褐色土
6　灰色土
7　茶褐色土　（粘土塊多含）
8　暗茶灰色土
9　暗茶灰色粘質土（炭・焼土・土器多含）
10　暗緑灰色　〃　（土器含）
11　炭・灰層
12　暗灰色土　（炭多含）
13　焼土層
14　炭層
15　暗灰色土　（炭多含）
16　黄褐色粘質土　（土器含）
17　〃　〃　（炭・焼土多含・土器含）
18　茶褐色粘土　（〃・〃　〃・〃　〃）
19　灰色粘土
20　暗灰色粘土（炭・焼土多含）
21　〃　〃　（白色粘土塊・有機物・土器含）
22　黒灰色粘土（有機物含）

0　1m

図264　井戸－21　縮尺 1/30

ＡＹ39区に位置する。調査範囲の西端にあたり，遺構の西側上部を側溝に削平される。

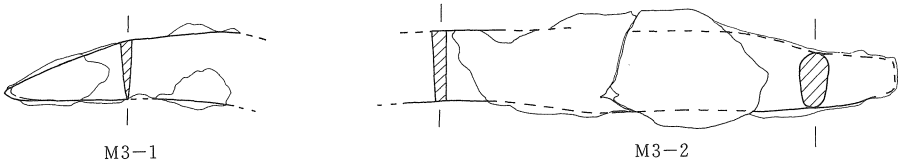
検出レベルは標高140cmで，平面形は一辺212cmの隅丸方形を呈す。掘り方は検出面下60cm，標高80cmの高さまで摺り鉢状をなし，そこから角度を変えて，検出面下240cm，標高－97cmの底面まで垂直からややオーバーハング気味に掘り込まれる。底面は平坦で一辺約110cmの方形プランを有す。上部掘り方が北側に緩く開くため，底面は南側に片寄って位置する。

底面には一辺80cmの木組方形隅柱形の井側が据えられる。四隅に主柱が立てられ，その間に側板が横位に渡された状態が良好に検出された。主柱には一辺10cm前後の角材を使用している。長さは少なくとも155cmを測り，標高80～90cmの高さまで残存する。下端部は，標高－75～55cmの間に位置する。ほぞ穴は３×７cmの長方形を呈し，南西隅の１本が標高35cm，他は標高55cmの位置に２面づつ穿たれ，側板が差し込まれる。側板は厚さ２～３cm・幅５cmを測り，内側に二つに折れた状態で出土した。

掲載の土層断面図は井側外の堆積状況である。底面から標高50cmまでは有機物を含む粘土層（21・22層）が堆積する。21層と22層の間に有機物が認められ，井側内では特にその状況は顕著で，厚さ５cm前後におよぶ。籾・シジミ等が塊状をなして確認される。粘土層上から標高約１mまでの摺り鉢状部には炭化物を多く含む層を中心とし，その中に灰層・焼土層・粘土層をはさむ堆積（11～20層）が約50cmにわたって認められる。

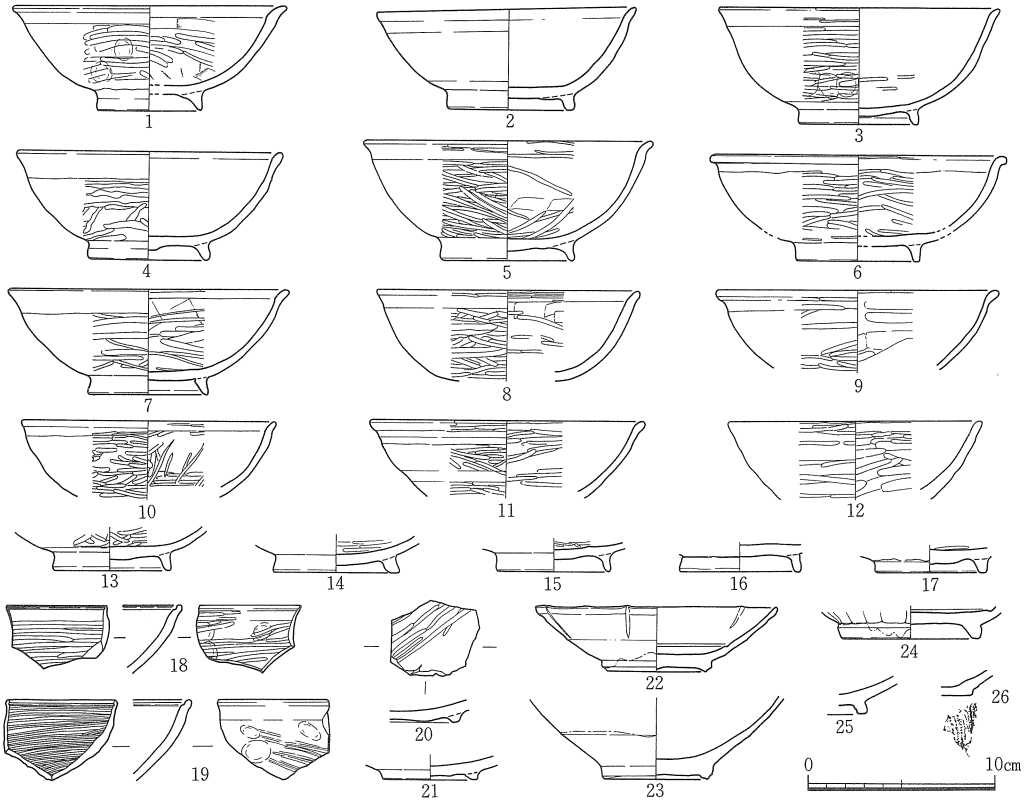
遺物は主に11～20層から出土する。土師質椀・皿・鍋（１～16・27～63），楠葉型瓦器椀（18～21），黒色土器椀Ａ類（17），白磁（22～24），緑釉陶器（25），土錘（Ｐ15），木器（W40～42），鉄器（Ｍ３），がある。他の井戸の出土遺物と比較すると，小皿の出土量が多く，また楠葉型瓦器椀の出土も注目される。

時期は，土師質椀の内外面の篦ミガキの状態・口径・伴出遺物などから，11世紀後半に比定される。（山本）



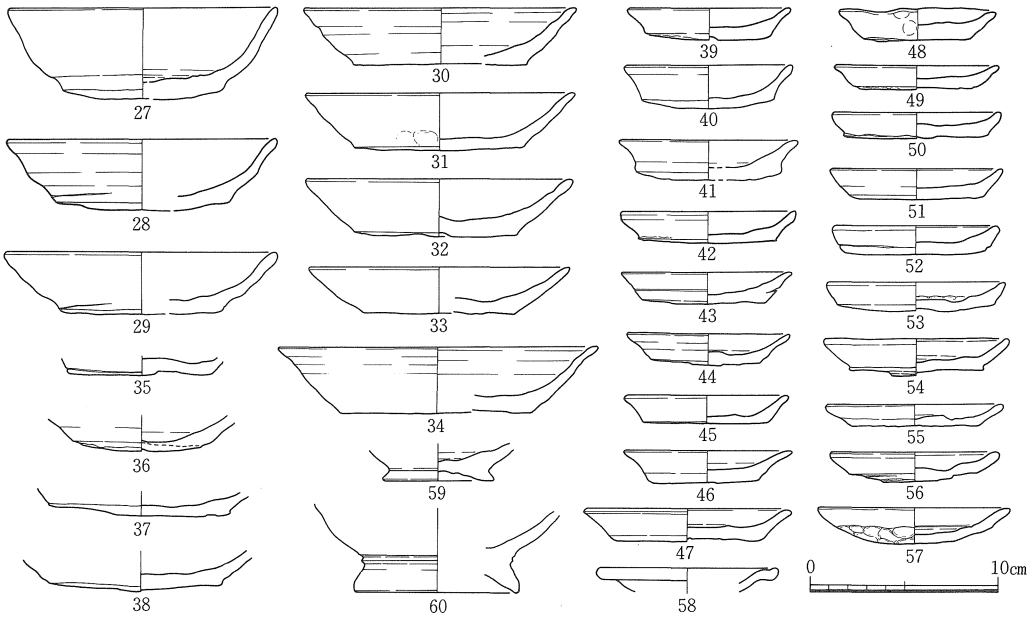
遺物番号	器　種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材 質	特　徴
M3－1	鎌先状鉄製品	6.1	1.9	0.3	8	鉄	
M3－2	不明板状鉄製品	13.0	1.9	0.8	51	鉄	Ｍ３－１鎌先状鉄製品と同一個体の可能性有り

図265　井戸－21　出土遺物(1)　縮尺 1/2



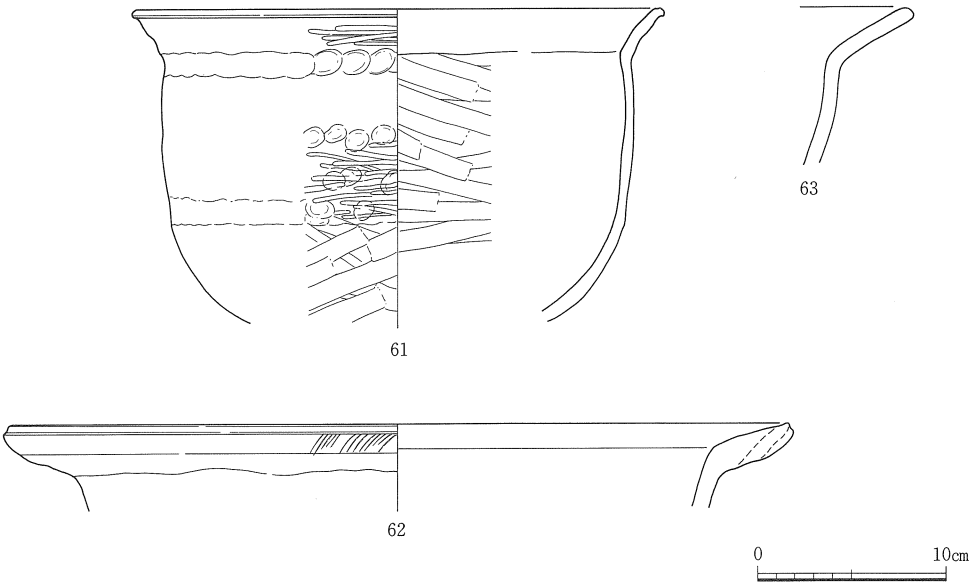
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	14.6	5.6	5.6	内面工具使用ナデ後篦ミガキ，外面押圧後篦ミガキ，内外面煤	乳白	微砂
2	〃 〃	13.8	6.8	5.3	内外面丁寧なナデ，高台は断面台形	淡黄～灰白	〃
3	〃 〃	15.0	6.4	6.2	内面篦ミガキ㊀，外面篦ミガキ㊁，内面炭化物付着，内外面煤多量	灰白	〃
4	〃 〃	14.2	6.5	5.8	内面工具使用ナデ，底部外面回転篦キリ，高台内以外煤付着（内面多量）	白～灰白	〃 ㊂
5	〃 〃	15.3	7.2	6.4	内面工具使用ナデ後篦ミガキ，外面篦ミガキ㊁，底部外面押圧	乳白	〃 ㋑，細礫㊂
6	〃 〃	15.8	6.6	5.6	内外面篦ミガキ，口縁部は玉縁形，内面重ね焼き痕・煤少量	淡黄白	〃 ，細礫㋑
7	〃 〃	15.0	6.4	5.6	内面工具使用ナデ後篦ミガキ，外面押圧篦ミガキ，煤付着	乳白	〃 ， 〃 〃
8	〃 〃	14.0	—	—	〃 〃 〃 ㊀，外面篦ミガキ㊁	淡(灰)白	〃 ， 〃 〃
9	〃 〃	15.1	—	—	〃 〃 〃 ，外面篦ミガキ，口縁部肥厚	(内)淡灰(外)黄白	〃
10	〃 〃	13.5	—	—	内面横後縦位の篦ミガキ，外面押圧後篦ミガキ	(内)淡黄褐(外)淡灰	〃
11	〃 〃	14.6	—	—	篦ミガキ	(内)灰白(外)黄白	粗砂㋑
12	〃 〃	13.5	—	—	〃	(内)黒灰(外)黄褐	微砂
13	〃 〃	—	6.3	—	内面篦ミガキ，外面押圧後篦ミガキ	淡黄白	〃 ，粗砂㋑
14	〃 〃	—	6.7	—	〃	淡(灰)白	粗砂
15	〃 〃	—	6.1	—	内面ナデ後一部篦ミガキ	灰白	細～粗砂
16	〃 〃	—	6.4	—	ナデ	淡灰白	微砂㊂
17	〃 〃	—	6.0	—	内面ナデ後一部篦ミガキ，「黒色土器」	(内)黒(外)乳灰	〃
18	瓦 器 〃	—	—	—	内面篦ミガキ㊀，外面押圧後篦ミガキ㊁，２次焼成痕，「楠葉型」	(内)灰(外)淡黄白	〃 ㊃，精良
19	〃 〃	—	—	—	口縁部内面に沈線１条，２次焼成痕，「楠葉型」	淡赤灰～乳白	〃 〃，〃
20	〃 〃	—	—	—	内面篦ミガキ㊀，外面横ナデ，２次焼成痕，「楠葉型」	(内)黒(外)黄白	〃 〃，〃
21	〃 〃	—	5.1	—	底部平行ナデ，２次焼成痕，「楠葉型」	淡赤褐～白	〃 〃，〃
22	白磁 皿	12.8	6.2	3.5	外面下半篦ミガキ，高台篦ケズリ下半は露胎，７等分の輪花，内面沈線	灰白(釉)淡緑白	〃 〃，〃
23	〃 碗	—	5.5	—	内面ナデ・釉，外面篦ケズリ下半は露胎，底部横ナデ・露胎	〃 〃 〃	〃 〃，〃
24	〃 皿	—	7.4	—	内面横ナデ・沈線，高台ケズリ出し・露胎，蓮弁文，高台内部に赤色顔料	〃 〃	〃 〃，〃
25	緑釉 椀	—	—	—	内面篦ミガキ・薄い釉，外面薄い釉，高台内面篦ケズリ	灰白(釉)淡緑	〃 〃，〃
26	須恵器 椀	—	—	—	横ナデ，底部糸キリ	淡灰	〃 〃，〃

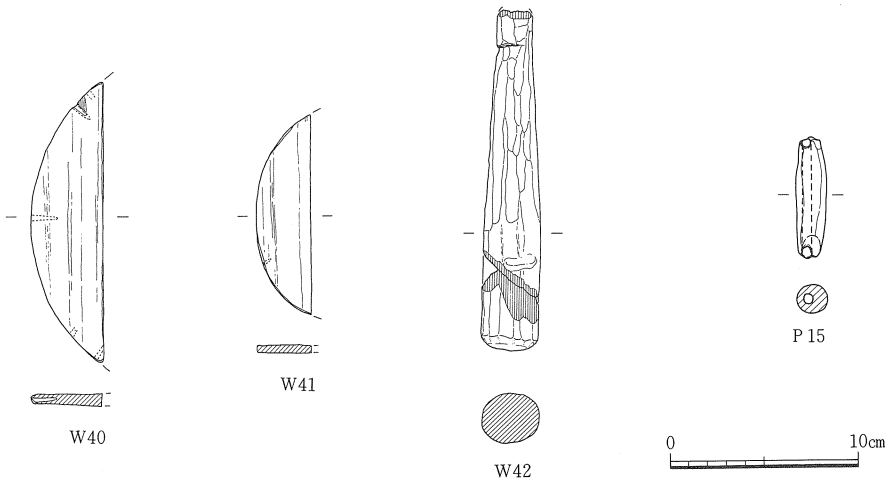
図266　井戸－21　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
27	土師質 皿	14.4	8.5	4.8	底部内面平行仕上げナデ，底部篦キリ後板目痕，ロクロ回転㊁，黒斑	淡黄褐	微砂㊅，赤色粒㊈
28	〃 〃	14.4	9.2	3.8	横ナデ，底部篦キリ後軽いナデ，ロクロ回転㊁	淡茶白	〃 ㊈，雲母㊉
29	〃 〃	14.5	8.6	3.3	〃 ， 底部篦キリ，ロクロ回転㊁	淡黄白	〃 ㊅
30	〃 〃	14.5	9.2	3.0	〃 ， 〃	黄灰白	〃 ，雲母
31	〃 〃	14.3	9.0	3.0	〃 ，底部篦キリ後板目痕，底部内面平行ナデ	淡乳灰	細砂，〃
32	〃 〃	14.2	8.7	3.1	〃 ，底部篦キリ，ロクロ回転㊁	淡黄灰	微砂，〃
33	〃 〃	13.8	8.0	2.5	〃 ， 〃	淡灰褐	〃 ㊅，赤色粒㊈
34	〃 〃	16.9	10.0	3.5	〃 ， 〃 後ナデ	灰白	〃 〃
35	〃 〃	—	7.7	—	底部篦キリ・内面ナデ後押圧，ロクロ回転㊁，内面赤色顔料，煤付着	淡乳赤灰	〃 〃
36	〃 〃	—	7.3	—	横ナデ，底部篦キリ，ロクロ回転㊁	赤褐	〃 ㊇，赤粒子
37	〃 〃	—	9.7	—	〃 ， 〃 ， 〃	淡乳褐	細砂，雲母
38	〃 〃	—	9.2	—	〃 ， 〃 ，外面煤付着，内面炭化物	黒褐	微砂㊆
39	〃 小皿	8.6	6.6	1.7	〃 ，底部篦キリ後軽いナデ，ロクロ回転㊁，口縁部煤付着	淡茶白	〃 〃
40	〃 〃	8.9	7.0	2.3	〃 ， 〃 ，ロクロ回転㊁	灰白	〃 〃
41	〃 〃	9.5	7.7	2.1	〃 ， 〃 ，底部内面平行ナデ	(内)淡褐(外)明赤褐	〃 〃
42	〃 〃	9.3	7.3	1.7	〃 ， 〃 ，ロクロ回転㊁	淡茶白	細砂㊇
43	〃 〃	9.0	6.5	1.7	〃 ， 〃 ，底部内面平行ナデ，ロクロ回転㊁	淡黄褐	微砂㊅，精良
44	〃 〃	8.6	5.8	1.7	〃 ， 〃 ，底部内面押圧	灰白	〃 〃，〃
45	〃 〃	8.7	6.7	1.5	〃 ， 〃 ，底部内面平行ナデ，ロクロ回転㊁	淡茶灰褐	細砂㊈
46	〃 〃	8.9	5.7	1.7	〃 ，底部篦キリ後ナデ，底部内面押圧，ロクロ回転㊁	淡乳褐	微砂㊅，精良
47	〃 〃	11.0	8.1	1.7	〃 ， 〃	(内)乳白(外)乳褐	〃 ㊇
48	〃 〃	8.3	5.6	1.8	〃 ，底部篦キリ，底部内面平行ナデ，外面押圧，ロクロ回転㊁，	淡茶白	細砂㊇
49	〃 〃	8.7	6.5	1.3	〃 ， 〃 ，ロクロ回転㊁	淡赤褐	〃 〃
50	〃	9.0	7.4	1.4	〃 ， 〃 ，底部内面平行ナデ，板目痕，ロクロ回転㊁	淡赤灰褐	微砂
51	〃 〃	9.2	7.1	1.6	〃 ， 〃 ・板目痕，ロクロ回転㊁	(内)暗褐(外)赤褐	〃 ㊅，精良
52	〃 〃	8.9	7.4	1.5	〃 ， 〃 ，底部内面押圧	淡乳褐	〃 〃，〃
53	〃 〃	9.5	8.4	1.6	〃 ， 〃 ，底部内面平行ナデ・押圧，ロクロ回転㊁	(内)褐(外)暗灰	〃 〃，〃
54	〃 〃	9.8	7.1	2.0	〃 ， 〃 ，ロクロ回転㊁	明赤褐	〃 ㊇
55	〃 〃	9.4	6.9	1.2	〃 ， 〃 ，底部内面平行ナデ，ロクロ回転㊁	灰褐	微～粗砂
56	〃 〃	9.0	6.8	1.6	〃 ， 〃 ， 〃 ， 〃 ㊁	淡赤白	粗砂
57	〃 〃	10.2	4.0	1.9	〃 ，底部押圧・浅い皿状を呈す，底部内面押圧	(内)灰褐(外)明灰褐	微砂㊇
58	〃 〃	9.6	—	—	〃	淡乳褐	〃 ㊅
59	〃 脚台	—	6.0	—	〃 ，底部篦キリ，ロクロ回転㊁	(内)暗褐(外)赤褐	〃 ㊇
60	〃 〃	—	8.8	—	〃 ，椀部と脚部の境に沈線２条	灰白	〃 ㊅，精良

図267　井戸－21　出土遺物(3)　縮尺 1/4





遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
61	土師質 鍋	27.8	—	—	内面工具使用ナデ，外面下半はケズリ後工具使用ナデ，外面煤付着	(内)暗褐(外)明褐	粗砂～細礫◎
62	〃 〃	41.4	—	—	押圧後横ナデ，口縁部一部荒いハケ，外面煤付着	(内)黄褐(外)暗褐	〃 ～ 〃 〃
63	〃 〃	—	—	—	内面横方向の荒いハケ，外面縦方向の荒いハケ，内外面厚く煤付着	黒褐	〃

遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P15	土錘	6.4	1.6	1.5	17	ナデ	明赤褐～黒褐	微砂

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W40	曲物底板	15.0	—	0.7	—	釘穴を5ケ所持つ柾目材，復元径は18.8cm
W41	〃	10.6	—	0.5	—	片面黒漆塗り側縁の削り痕は明瞭，釘穴は2ケ所，柾目材，復元径は12.8cm
W42	すりこぎ	19.0	2.9	2.7	ヤブツバキまたはネズミサシ	棒材の表面を丁寧に面を取る，先端は丸く磨滅，基部に抉り

図268　井戸－21　出土遺物(4)　縮尺 1/4

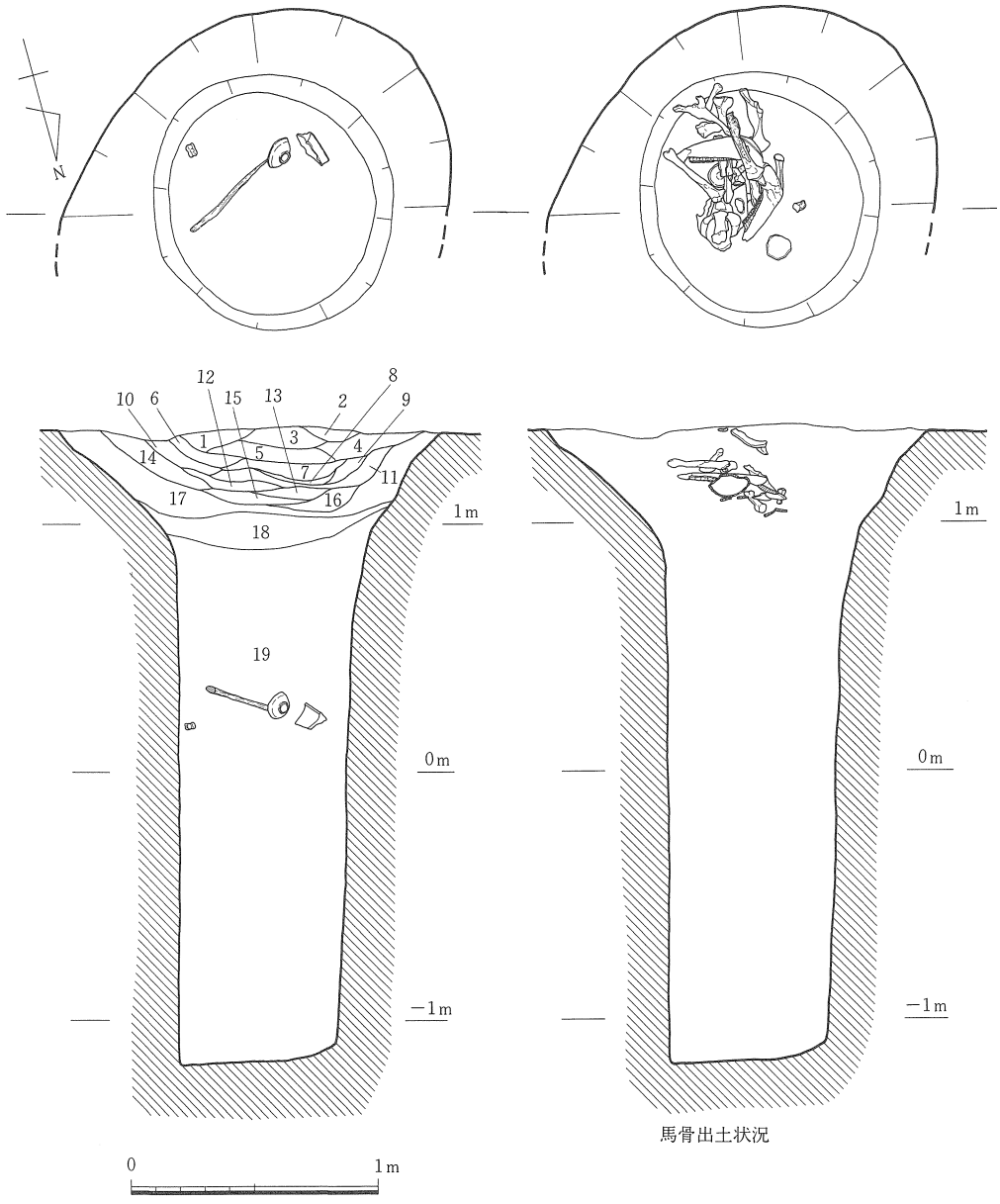
井戸－22（図269・270，図版36・73）

本遺構はＡＺ39区中央北寄りに位置する素掘り井戸で，井戸30の東側に隣接して検出されている。北端の一部は攪乱溝によって上部が削平されているが，平面形は東西直径約155㎝を測るほぼ楕円形をなすと推定される。掘り方断面形は検出面下50㎝前後で大きくくびれている。くびれ部より上位は摺り鉢状に大きく開いており，以下は直径70㎝前後の円筒状を呈し，灰色シルトの湧水層に達している。検出面から底面までの深さは約256㎝を測り，検出面の標高は約138㎝，底面の標高は約－118㎝である。

井戸内埋土は主に摺り鉢状部分に堆積した上部の層群（１～17層）と主に円筒状部に堆積した下部の層群（18・19層）とに大きく分かれる。上部の層群は灰層と灰・炭を含む粘質土層とが，レンズ状に複雑に堆積したものであり，灰・炭などの量によって大きく上層（１～５層），中層（６～12層），下層（13～16層），最下層（17層）に四分することが可能である。上層のうち，２層は炭・灰・焼土等の混入物は少ないが，他の４層は量の多寡は若干あるが，いずれも多量の灰，炭，焼土等を含む粘質土層である。中層のうち６，７，８，12層が緑色粘土ブロック，炭，焼土等を含む灰層であり，９，10層は灰を多量に含む粘質土層である。これらの層に狭まれる11層は灰を少量しか含まない粘質土層である。下層は灰を含まない粘質土であり，炭，焼土のほか中層にも認められた緑灰色粘土のブロックを混入している。最下の17層は上位の層がレンズ状堆積を呈するのに対し，ほぼ摺り鉢状に全面に堆積する粘質土である。下部の層群は，炭，灰等の混入物をほとんど含まない粘土層である。19層は層厚が２ｍを越える均質な粘土層で，中位からは竈片（17），ほぼ完形の瓦器椀（５），曲物の破片，木の棒，馬の距骨，などが出土している。

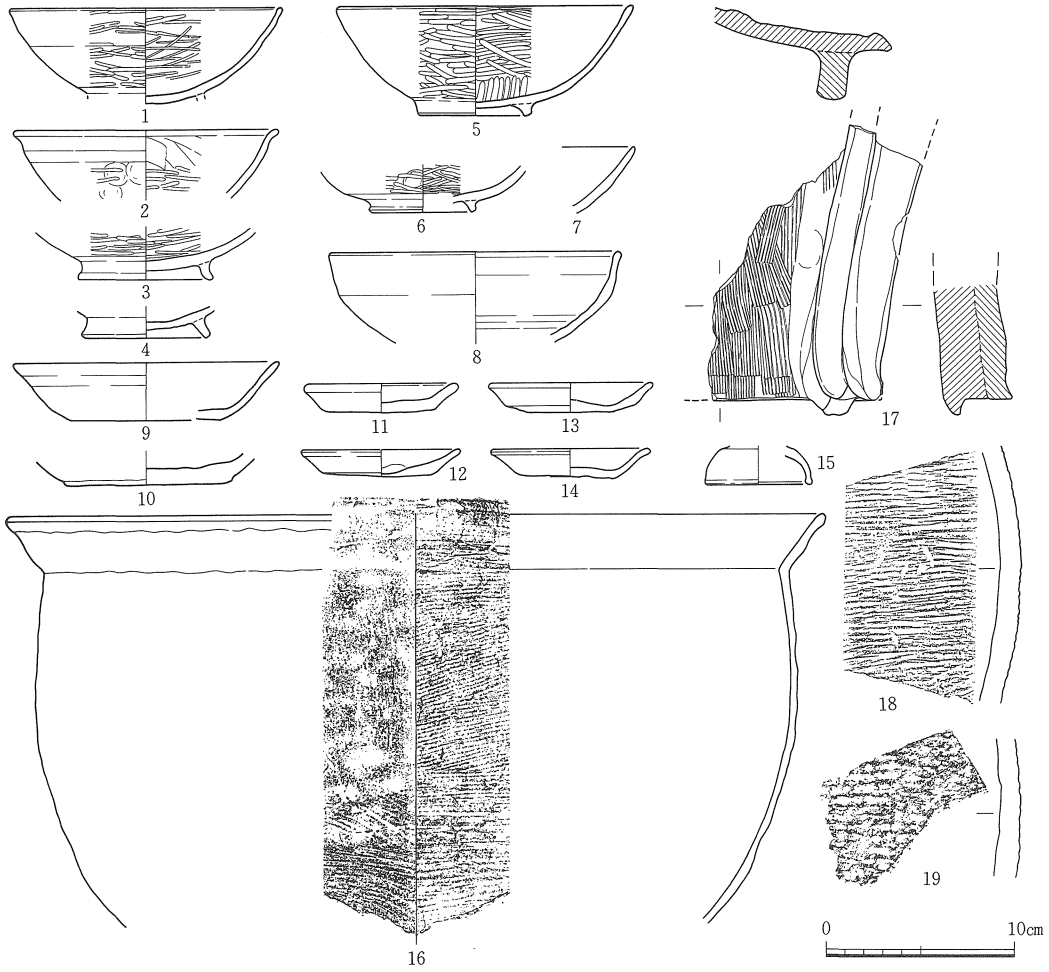
本井戸の下位の層群の堆積は井戸内の埋土としては一般的なものではあるが，上位の層群は，大量の灰と馬骨を含み，特徴ある堆積状況を呈している。馬骨は本井戸の一部が削平されていることもあって，肋骨等の一部の部位を欠き，各部位が散在しているが，ほぼ一個体分に相当するとみられる。９～10才の雌馬で，頭骨頂部は陥没しており，致命傷かと推定される。肉眼では焼けた痕跡は認められない。馬骨は17層上面上から井戸中央部に集積しており，馬骨がおかれた後，一気に上部の層群が堆積したものとみられる。馬は馬骨の出土状況から他地点で解体された後，井戸内に集積されたとみられる。このような一連の堆積は，井戸の廃棄にともなう祭祀行為かと推定されるが，下位層群中からも馬の距骨が出土していることから，井戸使用時の祭祀とも関連することも考えられる。

本井戸からは土師質椀（１～４），瓦器椀（５～７），須恵質椀（８），土師質皿（９・10），土師質小皿（11～14），褐釉陶器（15），土鍋（16），竈（17），須恵質の甕もしくは壺（18・19）などが出土している。本井戸の時期は11世紀末から12世紀前半とみられる。　　（栄）



1　黒灰色粘質土
2　淡灰色粘質土
3　暗灰色粘質土
4　暗灰黒色粘質土（炭・灰・焼土含）
5　灰黒色粘質土　（炭・焼土含）
6　灰黒色灰　（炭・焼土含）
7　淡灰黒色灰　（炭・焼土含）
8　灰黒色灰　（炭・焼土含）
9　灰黒色粘質土　（炭・灰・焼土含）
10　〃　〃　（〃・〃・〃含）
11　淡灰褐色粘質土（炭・灰・焼土含）
12　黒灰色灰　（炭・焼土含）
13　灰黒色粘質土　（焼土含）
14　灰褐色粘質土　（炭・焼土含）
15　緑灰色粘質土　（焼土含）
16　灰黒色粘質土　（炭・焼土含）
17　淡緑灰色粘質土（炭・焼土含）
18　茶褐色粘質土
19　淡茶褐色粘質土

図269　井戸ー22　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	14.6	—	—	内面丁寧なナデ後篦ミガキ，外面押圧後篦ミガキ	淡灰白	微砂
2	〃 〃	14.2	—	—	内面工具使用ナデ後篦ミガキ，外面押圧後篦ミガキ	淡黄白	〃 ㉒
3	〃 〃	—	7.2	—	内外面篦ミガキ，高台内押圧	淡(黄)白	〃 〃，精良
4	〃 〃	—	6.9	—	内面丁寧なナデ，外面横ナデ	(内)黒(外)淡灰褐	〃
5	瓦器 〃	15.8	6.1	5.8	内外面篦ミガキ㉖	(内)淡灰(外)黒	微～細砂
6	〃 〃	—	5.7	—	〃 〃	灰黒	微砂
7	〃 〃	—	—	—	〃 〃	(内)灰(外)灰黒	〃
8	須恵質 〃	15.5	—	—	横ナデ，口縁部重ね焼きにより黒変	灰白	微～細砂
9	土師質 皿	14.2	7.9	3.1	横ナデ，底部篦キリ後ナデ	淡黄褐	微砂㉒
10	〃 〃	—	8.7	—	内外面横ナデ，底部篦キリ後軽いナデ・板目痕，ロクロ回転㊤	淡黄褐～黄白色	〃
11	〃 小皿	8.2	6.0	1.5	内面仕上げナデ，底部篦キリ後板目痕，ロクロ回転㊤	淡黄褐	細砂㉔
12	〃 〃	8.6	5.8	1.4	横ナデ，内面中央に指ナデ，底部篦キリ・板目痕，ロクロ回転㊤	明黄褐	微砂㉔
13	〃 〃	8.7	6.9	1.6	〃 ，底部篦キリ，ロクロ回転㊤	淡黄褐	〃 ㉒，雲母㉗
14	〃 〃	8.5	5.0	1.6	〃 ， 〃 ， 〃 〃	淡灰褐	〃 〃，赤色粒子
15	褐釉陶器 蓋	5.7	—	—	〃	(内)灰白(外)緑黄灰	微～細砂
16	土師質 鍋	43.5	—	—	内面ハケ，外面上半ハケ後押圧・下半ハケ	茶褐	細砂㉔，雲母
17	〃 竈	—	—	—	内面押圧・ナデ，煮口押圧・ナデ，下端面篦ケズリ，２次焼成痕	黄褐	粗砂㉔，〃 ㉕
18	須恵質 甕	—	—	—	内面ナデ，外面タタキ	灰黒	粗砂～細礫㉔
19	〃 〃	—	—	—	〃 ， 〃	(内)灰(外)青灰	粗砂

図270　井戸－22　出土遺物　縮尺 1/4

井戸－23（図271・272）

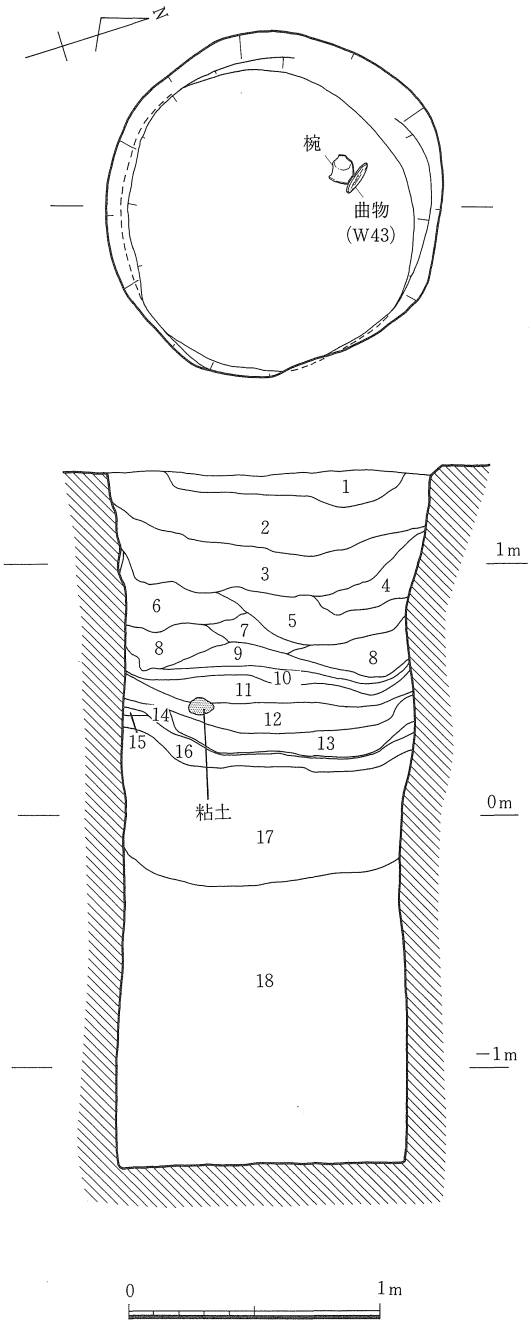


図271　井戸－23　縮尺 1/30

ＡＺ37・38区に位置する。東半部を中世の溝70によって削平され，上半部を失う。

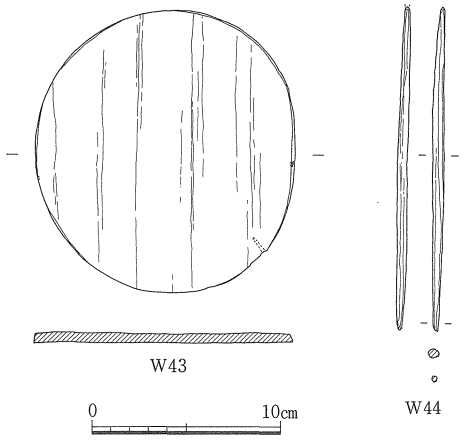
平面形は径130cmの円形を呈す。掘り方は底面からほぼ垂直に近い角度で立上がり，断面形は長方形を呈す。底面のレベルは検出面下273cm，標高－140cmを測り，平坦で径115cmの円形プランを有す。形状において上面形と大きな差はない。

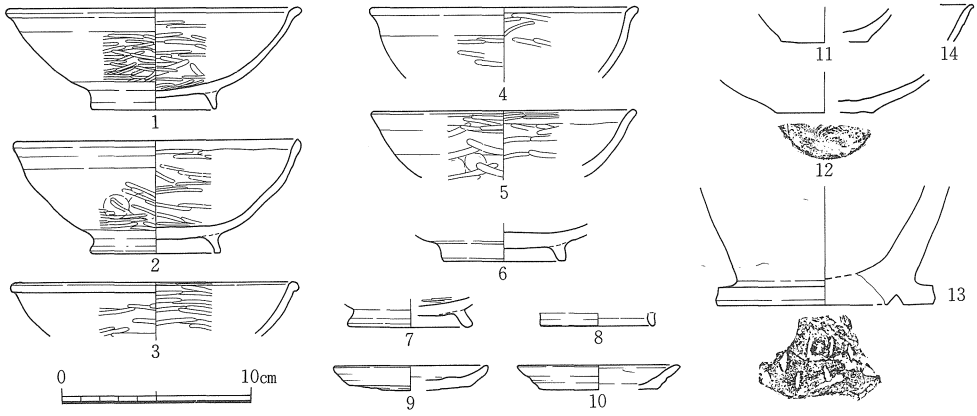
埋土は包含物・堆積状況等から，流入土的要素を持つ１～３層，粘質土がブロック状に堆積する４～８層，炭層（９～16層），粘土層（17～18層）の四分割が可能である。その中で，炭層部分の状況は次のようである。最下層に最も炭化物の包含度が高い16層が堆積し，その上面には木質（14層）が中心部に薄く，周囲に厚い状態で全面に

1　暗灰褐色砂質土
2　暗灰褐色土　（粘土塊含）
3　暗灰褐色細砂粘質土（粘土含）
4　暗黄灰色　〃
5　暗灰色　〃　（土器含）
6　暗灰褐色　〃　（　〃　）
7　灰色微～粗砂粘土　（　〃　）
8　淡黄青灰色粗砂粘土（　〃　）
9　炭　層　（土器・有機物含）
10　〃
11　〃
12　〃
13　〃
14　褐色木質層
15　淡灰色粘土
16　炭　層
17　淡灰色粘土　（有機物含）
18　黒褐色砂混り粘土　（有機物多含，土器含）

認められる。続いて，9～13層では各層間に灰の薄層を狭み互層構造をなす。最低4回の反復行為が認められる。炭層の厚さは中央部で50cmに達す。

遺物は全体的に少ないが，土師質椀（1～8），皿（9・10），須恵質椀（11・12），白磁（14），底部から曲物（W43）・はし（W44）等が出土した。摺り鉢（13）は混入品で時期的に古く本遺構には伴わない。また，須恵質椀はいずれも東播系の特徴をもつ。時期は12世紀代と考える。



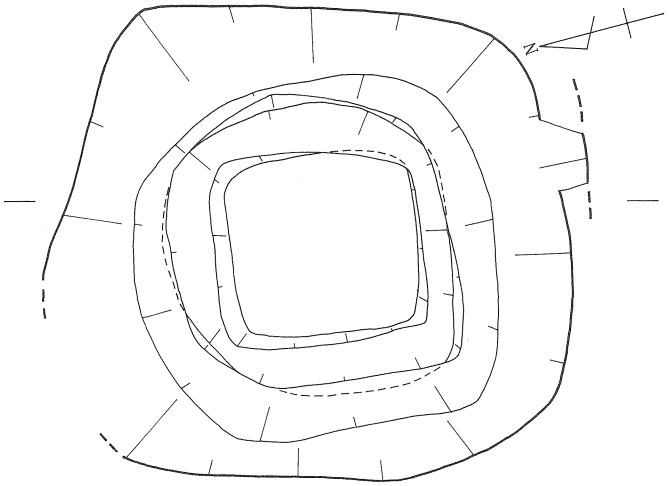


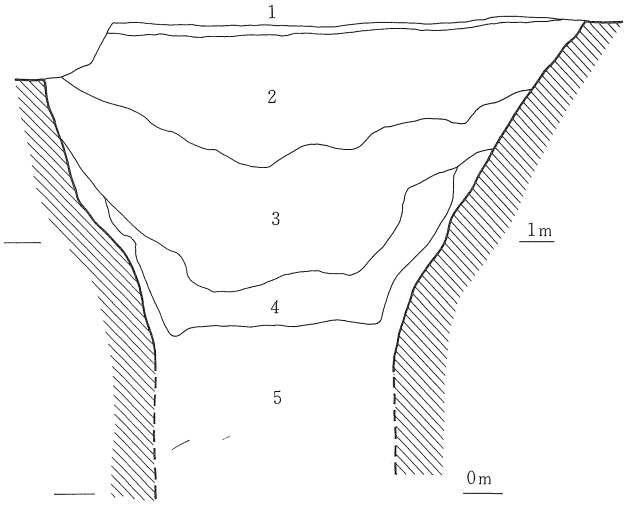
遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	15.7	6.6	5.4	ナデ後篦ミガキ	淡黄白	微砂㊦
2	〃 〃	15.2	6.9	6.0	押圧後篦ミガキ	〃	〃 〃
3	〃 〃	15.3	—	—	内外面ナデ後篦ミガキ，口縁部玉縁状をなす	〃	〃
4	〃 〃	14.2	—	—	内外面下半ナデ後篦ミガキ	〃	微～細砂
5	〃 〃	14.1	—	—	内外面ナデ後篦ミガキ	淡(黄)白	微砂㊦
6	〃 〃	—	6.5	—	内面丁寧なナデ，外面ナデ，内外面煤付着	暗灰褐	〃
7	〃 〃	—	6.6	—	内面ナデ，一部篦ミガキ，外面ナデ	淡黄白	微～細砂
8	〃 〃	—	6.1	—	横ナデ，高台部楕円形	灰白	微砂㋐
9	〃 小皿	8.3	6.4	1.3	〃，底部篦キリ，内面煤付着	淡灰褐	細砂㋐
10	〃 〃	8.7	6.3	1.3	〃	灰白	微～細砂
11	須恵質 椀	—	4.6	—	〃，底部篦キリ	暗青灰	細砂㋑
12	〃 〃	—	5.1	—	〃 〃 〃，内面煤付着，「備前焼」	灰	〃 〃
13	〃 鉢	—	11.5	—	〃，底部篦ケズリ・中心に向って深い刻み目が並ぶ	青灰～淡灰	〃
14	白磁 皿	—	—	—	ナデ，施釉，釉外面に貫入	白	微砂㊦，黒色粒子

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W43	曲物底板	15.0	13.7	0.6	ヒノキまたはコウヤマキ	完形，釘穴は3ヶ所でうち2ヶ所は浅い，扁平円をなす，柾目材
W44	はし	17.1	0.6	0.5	ヒノキ	細木を削り込む，中程にふくらみを持たせ上下を細くする，先端は斜めに削る

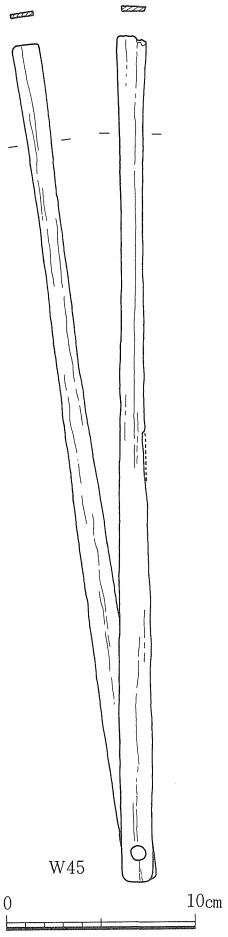
図272　井戸－23　出土遺物　縮尺 1/4

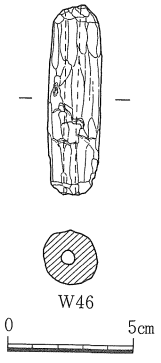
井戸－24（図273・274，図版69）





1　黄褐色土
2　暗黄褐色土（炭・土器含）
3　暗茶褐色土
4　暗褐色粘土（黄白色粘土塊多含）
5　暗灰色粘土



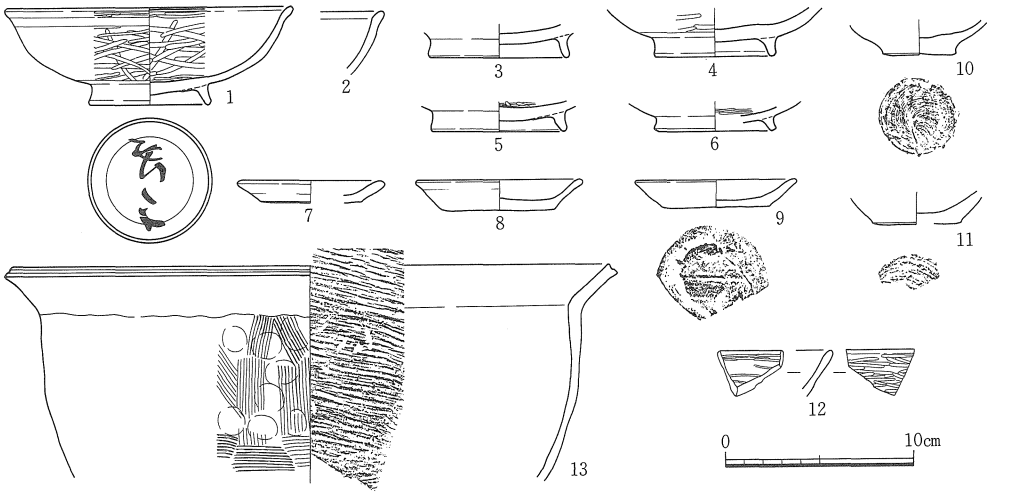


遺物番号	器　種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹　種	特　徴
W45	扇　子	44.8	1.7	0.3	ヒノキ	要孔径0.9cm，平面形は中程でふくらみ先端に向かってバチ形に広がる，板目材
W46	浮　子	7.5	2.1	2.3	－	孔径0.5cm，棒材を面取りし両端を丸く削り込む

図273　井戸－24，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4・1/3（W46）

ＡＹ30・31区に位置する。一部を後世の攪乱穴により削平される。また，調査区全体の土層観察用の土手がほぼ中央を南北に走るため，平面調査における検出面よりかなり上部において掘り方の掘削が確認された。本遺構は平面調査においては標高165㎝で検出された。方形プランを有し一辺190㎝前後の規模をもつ。また，断面観察で確認される上面掘削レベルは標高188㎝で，規模は一辺220㎝（復元推定）まで拡大する。掘り方は底面から標高85㎝まで，ほぼ垂直に立上がり，そこから上面に向って摺り鉢状に大きく開く。井戸下半部は調査時の壁面崩壊によって形状をほとんど失った。そのため，底部の確認は，やや正確さを欠くが，標高－100㎝前後，断面における検出最上部より約290㎝下方に一辺70㎝の方形プランが推定される。下半部の掘り方断面形および土層堆積状況については復元不可能であるが，上部堆積土中には少なくとも炭化物層等のような特徴的な層は存在しない。

出土遺物は土師質椀（１～６）・皿（７～９）・鍋（13），須恵質椀（10・11），瓦器椀（12），扇子（W45），浮子（W46），スクレーパー等がある。椀（１）は高台内に墨書が認められる。時期は12世紀代と考えられる。



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	15.4	6.6	5.2	内外面篦ミガキ，高台内に墨書	黄褐	細～粗砂
2	〃 〃	－	－	－	ナデ	黄白	微砂，粗砂㋑
3	〃 〃	－	7.5	－	ナデ，内面煤付着多量，２次焼成痕	㈫黒褐㈬淡褐	〃
4	〃 〃	－	6.5	－	内面丁寧なナデ，外面ナデ後篦ミガキ	淡黄白	粗砂㋑
5	〃 〃	－	7.2	－	内面篦ミガキ，外面ナデ	淡灰褐	〃
6	〃 〃	－	6.5	－	〃 ，外面横ナデ	淡赤～黄褐	微砂㋑
7	〃 小 皿	7.9	5.4	1.1	横ナデ	白	〃
8	〃 〃	8.9	5.9	1.6	内面仕上げナデ，底部篦キリ後ナデ，内面煤付着，ロクロ回転㊧	灰褐	微～細砂㋑
9	〃 〃	8.6	5.7	1.5	〃 ， 〃 ，板目痕有り， 〃 〃	明～淡黄褐	微砂㋑
10	須恵質 椀	－	3.9	－	横ナデ，底部糸キリ	青灰	細砂
11	〃 〃	－	4.6	－	〃 ， 〃	淡灰白	細～粗砂㋒
12	瓦 器 〃	－	－	－	内外面篦ミガキ，「和泉型」	銀黒	微砂㋑
13	土師質 鍋	31.7	－	－	内面ハケ，口縁部外面は横ナデ，体部は押圧・ハケ，外面煤付着多量	黒褐	細砂

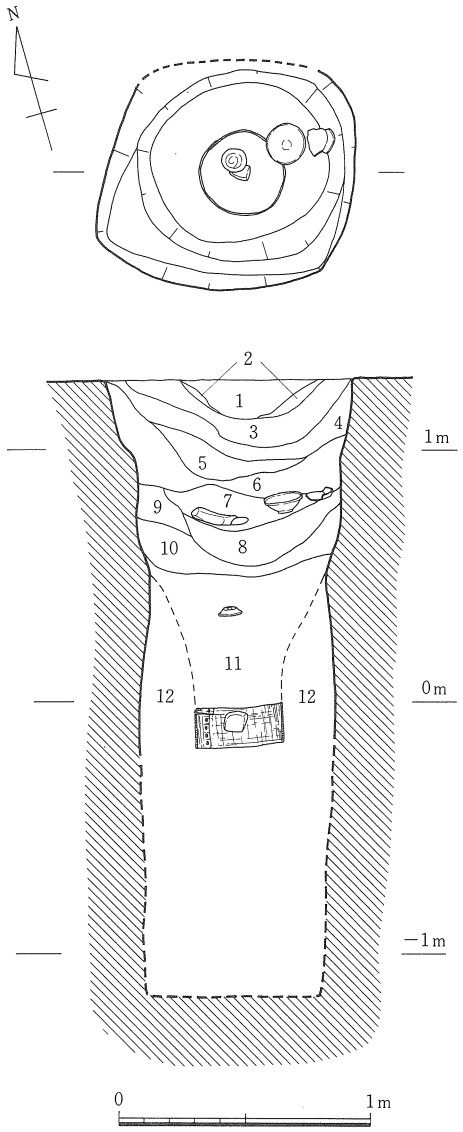
図274　井戸－24　出土遺物(2)　縮尺 1/4

井戸－25（図275・276，図版37・71）

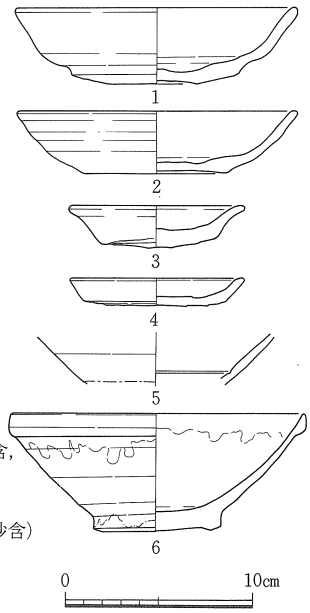
ＢＡ32区に位置する。東端部を後世の攪乱溝によって削平される。

検出面における平面形は一辺100㎝前後の方形を呈す。床面は検出面下245㎝，標高－115㎝に位置し，東西70㎝，南北60㎝を測る隅丸方形から楕円形に近いプランを持つ。掘り方は底面から上面に向ってほぼ垂直に立上がり，標高は50㎝あたりから若干開き気味になる。

埋土は10層と11層の間で二分される。下層では標高０㎝の位置に大形の曲物（W47）が出土し，その上部層（11層）と外側の層（12層）との間に若干の差異を見せる。また，曲物は上部



1　灰褐色土
2　〃　（粘土粒含）
3　〃
4　灰褐色微～細砂土
5　黄灰褐色土
（粘土粒・砂土粒含）
6　茶褐色土
（炭・焼土・土器含）
7　茶褐色粘質土
8　暗灰褐色土
（炭・焼土多含，円礫含，
細砂粒多含）
9　灰褐色土
10　暗灰褐色粘質土（細砂含）
11　灰色粘土（細砂多含）
12　〃　（有機物含）



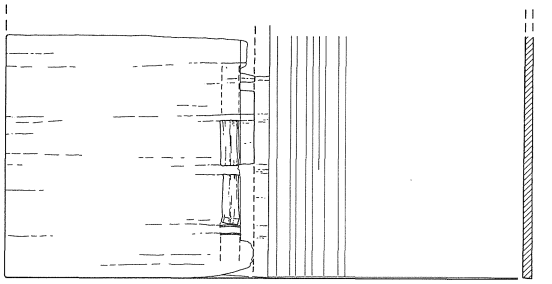
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質　椀	15.0	8.6	4.1	横ナデ，底部篦キリ，ロクロ回転㊨	黄褐	細砂㉑，赤色粒子
2	〃　〃	14.9	7.7	3.3	〃，〃，〃　〃	明黄褐	微砂㉓，〃
3	〃　小皿	9.4	6.0	2.3	〃，〃，〃　〃	淡黄褐	〃㉑，雲母
4	〃　〃	9.3	7.5	1.5	〃，〃，内面仕上げナデ，ロクロ回転㊧	淡灰白	細砂㉓
5	白磁　椀	－	－	－	ナデ，外面下半篦ケズリ，内面沈線１条	淡灰白(釉)緑白	微砂㊽，精良
6	〃　碗	15.5	6.8	6.3	外面下半篦ケズリ，ケズリ出し高台露胎，口縁部釉が厚くたれる	白(釉)淡緑灰	〃〃，〃

図275　井戸－25　出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4

を欠損しているが，径35cm，残存高16cmを測り，底板は本来的に持っていない。内部には焼石1個が認められる。こうした状況から，曲物は井筒の機能をなしていたと考えられる。

遺物は全体的に小片を含めて非常に少なく，完形品，あるいはそれに近い破片が人為的に埋置された状態で出土する。11層出土の土師質小皿（3・4）は合せ口の状態で井戸中央に，完形品の白磁碗（6）と土師質皿（1）は，炭化物を多く含む8層上面に火を受けた花崗岩石と共に置かれる。井戸廃棄時において，丁寧に埋納されたことが窺われる。

時期は12～13世紀と考えられる。



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W47	曲物	16.0	35.0	0.6	ヒノキ	内面には縦方向の刻み目がある，底板は残存せず，また側板にも釘穴はない，外面には綴皮の横に刻み目が1条入る，綴皮は桜皮

図276　井戸－25　出土遺物(2)　縮尺 1/5

井戸－26（図277，図版71）

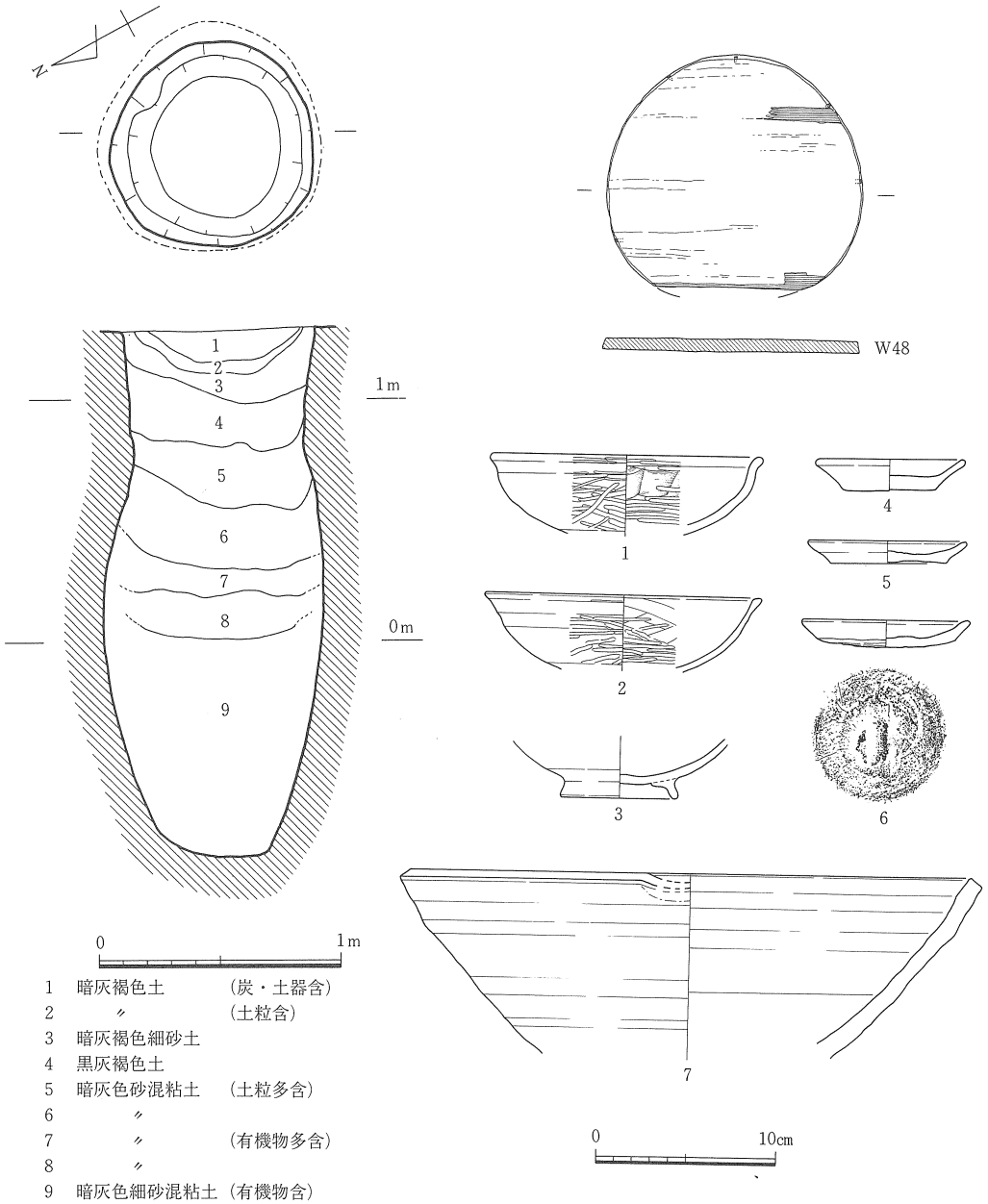
ＢＡ31・32区に位置する。

検出面での平面形は径85cmの円形を呈す。掘り方は，上面から深さ50cm，標高80cmまで垂直に掘りこまれた後，最大径95cmにまでオーバーハングして胴張り状をなし，検出面下228cm，標高－90cmに位置する底面に至る。底面形は，径45cmの円形を呈し，床は平坦ではない。下半部の壁のオーバーハングは本来の形状というよりも使用時の壁面崩壊による結果の可能性が高い。

埋土は粘質の弱い1～4層と暗灰色砂混り粘土の5～9層とに大きく二分割される。後者には植物遺体や木質等の有機物が多く含まれる特徴が認められる。

遺物は土師質椀（1～3）・皿（4～6），須恵質鉢（7）のほかに，曲物の底（W48）があげられが，量は全体的に少なく，土器は9層中にやや集中的に出土し，また曲物は6層下半から8層上半にかけて堆積する木材の最下部から出土した。土師質皿（6）の底部外面には篦切り後の板目痕が明瞭に認められる。須恵器鉢（7）は片口を持ち，その胎土等の特徴から東播系のものであると考えられる。

時期は大きく12世紀代に入ると考えたい。



1　暗灰褐色土　（炭・土器含）
2　〃　（土粒含）
3　暗灰褐色細砂土
4　黒灰褐色土
5　暗灰色砂混粘土　（土粒多含）
6　〃
7　〃　（有機物多含）
8　〃
9　暗灰色細砂混粘土（有機物含）

遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	15.1	—	—	内面工具使用ナデ後篦ミガキ，外面篦ミガキ，口縁部丸く肥厚	黄褐～淡灰白	微砂，粗砂㉗
2	〃 〃	15.3	—	—	〃 ，口縁部横ナデ2回，内面煤付着多量	淡黄褐	〃
3	〃 〃	—	6.6	—	内外面ナデ，煤付着	淡灰褐	細砂㉓，雲母
4	〃 小皿	8.2	5.0	1.8	横ナデ，底部篦キリ後ナデ，ロクロ回転㊤	淡黄褐	微砂
5	〃 〃	8.8	6.4	1.3	〃 ，底部篦キリ，ロクロ回転㊤	明褐	〃
6	〃 〃	9.3	7.7	1.5	〃 ，内面仕上げナデ，底部篦キリ，板目痕，ロクロ回転㊦	淡灰白	細砂㉓
7	須恵質 鉢	31.0	—	—	〃 ，内面下半は丁寧なナデ，片口部あり	淡青灰	粗砂㉓，黒色粒

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W48	曲物底板	12.8	14.1	0.7	ヒノキ	表裏両面および側面の一部に黒漆，釘穴5ケ所残存，うち1ケ所竹釘残存，柾目材

図277　井戸－26，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

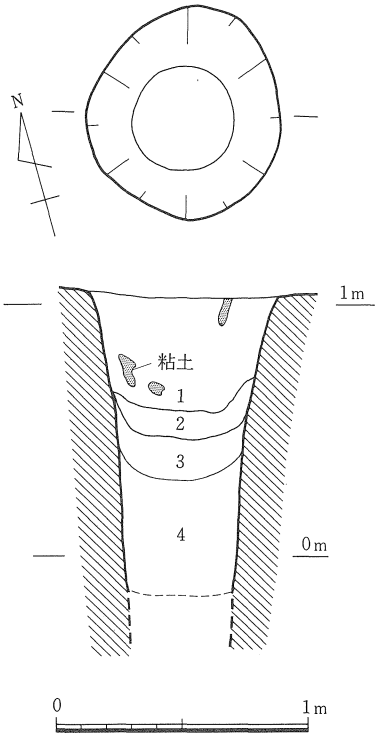
井戸－27（図278，図版69）

ＢＡ34区に位置する。平面形は径80～85cmの円形を呈す。掘り方ラインは，約95°の急角度で直線的に下降する。ただし，検出面は標高105cmで，他の中世遺構検出レベルに比べてかなり低い。一番近くに位置する井戸25の検出レベルは標高130cmである。このことから本来の井戸上面は少なくとも30cm以上は上方に考えられる。また，井戸下半部は，径40cm前後となり，標高－15cm付近から掘削不可能なため未調査である。底面の確認はボーリング調査によって行ない，標高－130cmに認められる砂層上面に求めた。

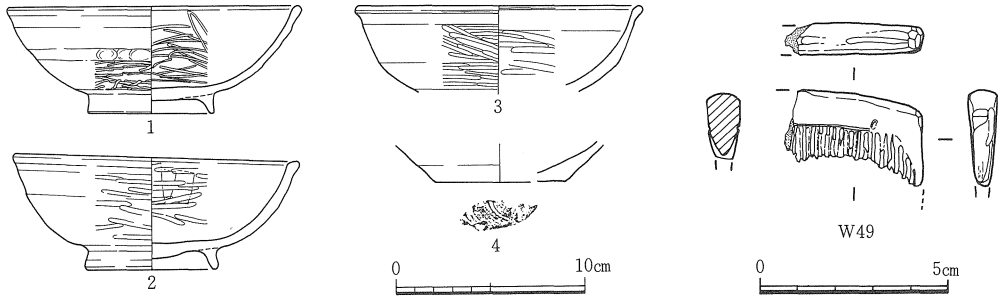
埋土中の３層の炭化物の組成については正確なことは不明であるが，籾殻・あるいは藁のようなものを細かくし，砕いて焼いたようなもので，木炭ではなく，灰とも言えるかもしれない。厚さ15cmにおよぶことから，かなりの量が推定される。

遺物は炭化物層以上（１・２層）から土師質椀（１～３），須恵質椀（４），横櫛（W49）が出土した。

時期は12世紀代に入ると考えられる。



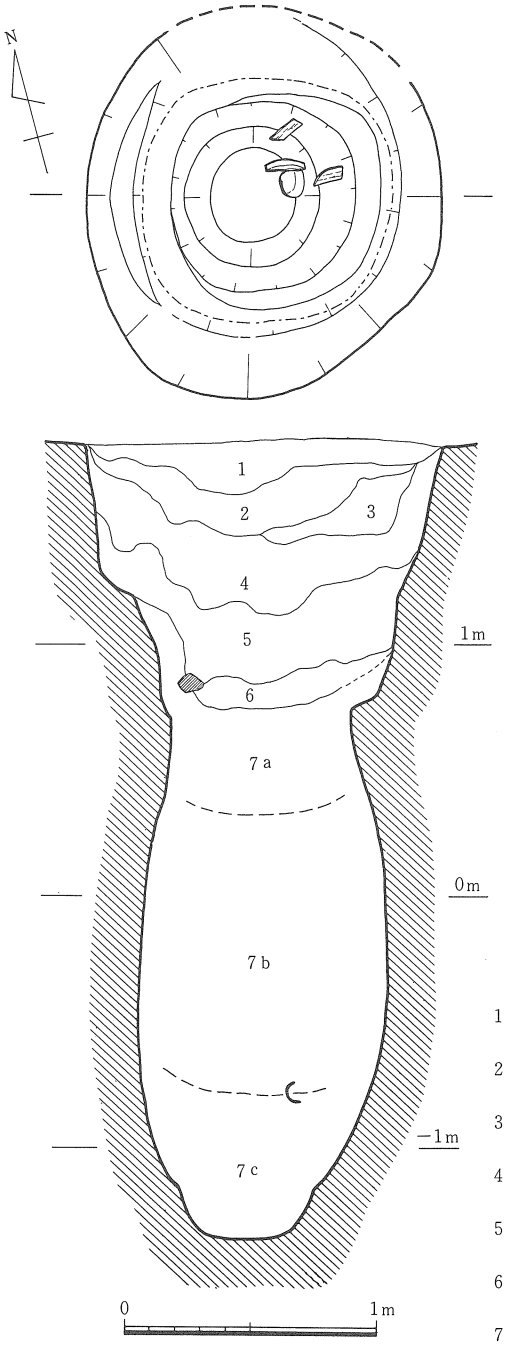
1　暗茶褐色粘質土（粘土塊含）
2　灰褐色粘土
3　炭　層
4　灰褐色粘土



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質　椀	15.7	6.7	5.7	内外面下半篦ミガキ，内外面煤	淡灰白～灰褐	微～細砂
2	〃　〃	15.3	7.1	6.2	内面工具使用ナデ後篦ミガキ，外面篦ミガキ，重ね焼き痕	(黄)白	細砂㉖，細礫㉗
3	〃　〃	15.3	－	－	内外面篦ミガキ，口縁部強い横ナデ・丸く肥厚	白，(断)黒	微砂㉘，〃 ㉙
4	須恵質　〃	－	6.9	－	横ナデ，底部糸キリ	(黄)灰白	細砂

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W49	横　櫛	3.6	－	0.9	ツゲ	棟部は面を取った後磨きやや弧を描く，歯は両側から鋸で挽き出す

図278　井戸－27，出土遺物　縮尺 1/30，1/4・1/2（W49）



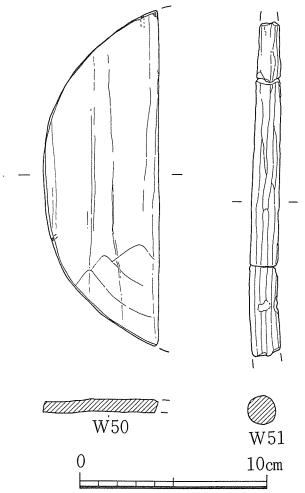
井戸－28（図279・280，図版69）

ＡＶ35区のほぼ中央に位置する。北側を後世の攪乱溝により削平される。

平面形は径150㎝前後のほぼ円形を呈す。掘り方は検出面下110㎝，標高70～75㎝まで段掘り状に掘り込まれ，径は約70㎝にまですぼまる。そこから最大径98㎝まで胴張り状をなして検出面下318㎝，標高－136㎝の底面に至る。底面は径35㎝前後の円形を呈す。

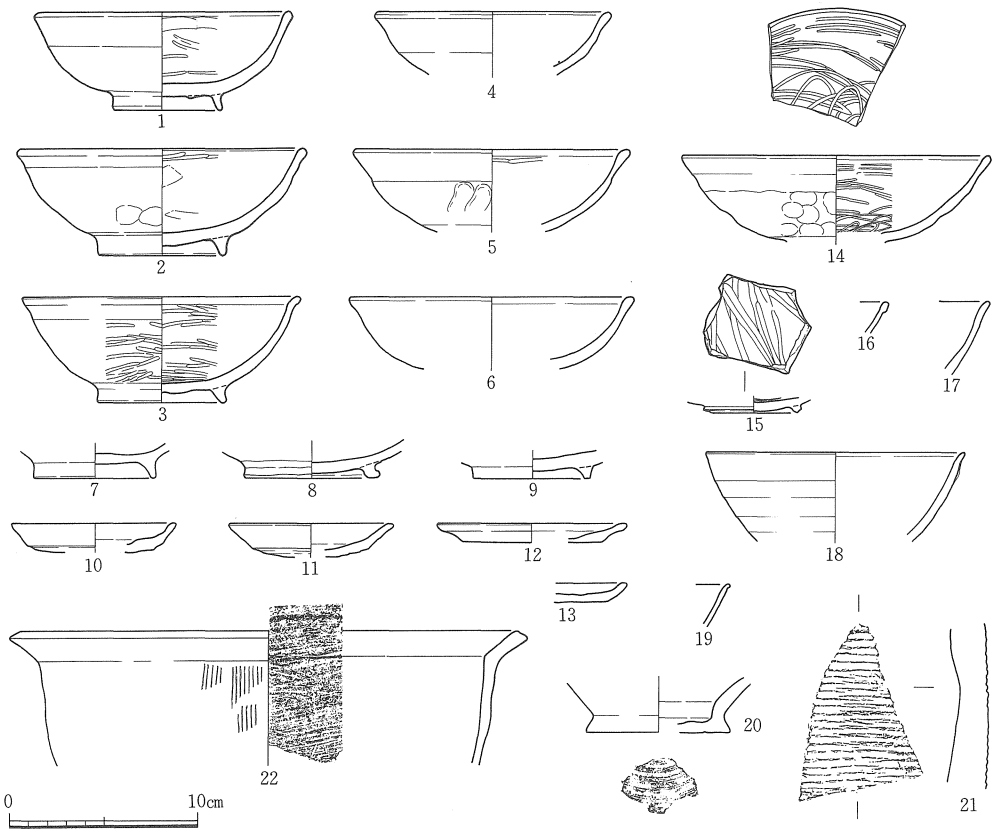
埋土は流入土的な１～３層・確実に人為的埋土である４～６層・粘土層である７層の三群に大別できる。特に４層は炭化物を多く含む。７層には有機物が含まれ炭化物の包含は少ない。遺物は全体的に出土するが，特に１～６層が多く，７層については７ｂと７ｃ層の間で，椀（１）・木器（W50・51）が一括出土した。時期は13世紀初頭に比定される。遺物の中で須恵質椀（20）は東播系の可能性があるが時期的に古く，混入と考えられる。

1　暗灰色砂質土
（炭・焼土・土器多含）
2　暗黄灰色砂質土
（炭・焼土・土器含）
3　暗灰色土
（粘土塊多含）
4　暗灰色粘質土
（土器・焼土含）
5　暗灰色粘質土
（炭・焼土・土器含）
6　暗灰色細砂粘質土
（不均質）
7ａ　暗灰褐色粘質土
7ｂ　暗灰褐色粘土
7ｃ　暗灰褐色砂混粘土



遺物番号	器　種	現存長(㎝)	最大幅(㎝)	最大厚(㎝)	樹　種	特　徴
W50	曲物底板	17.7	－	0.7	ヒノキ	釘穴２ケ所残存，表面に工具痕が残る，柾目材
W51	尖棒状木製品	17.6	1.5	1.52	－	入念な面取りを施し断面は円形となる，先端に向かって細くなる

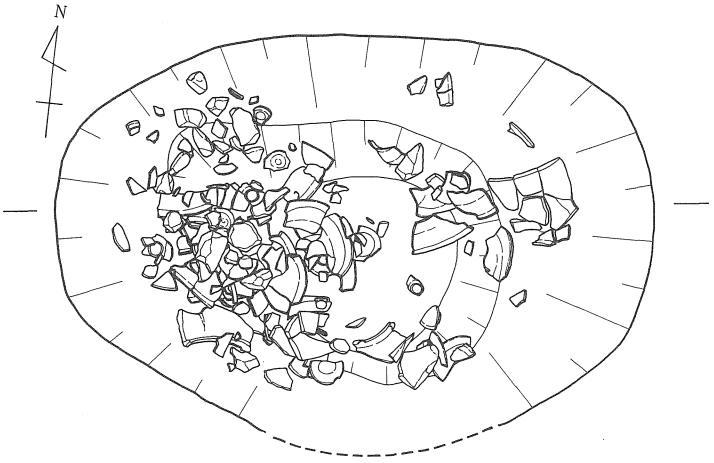
図279　井戸－28，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4

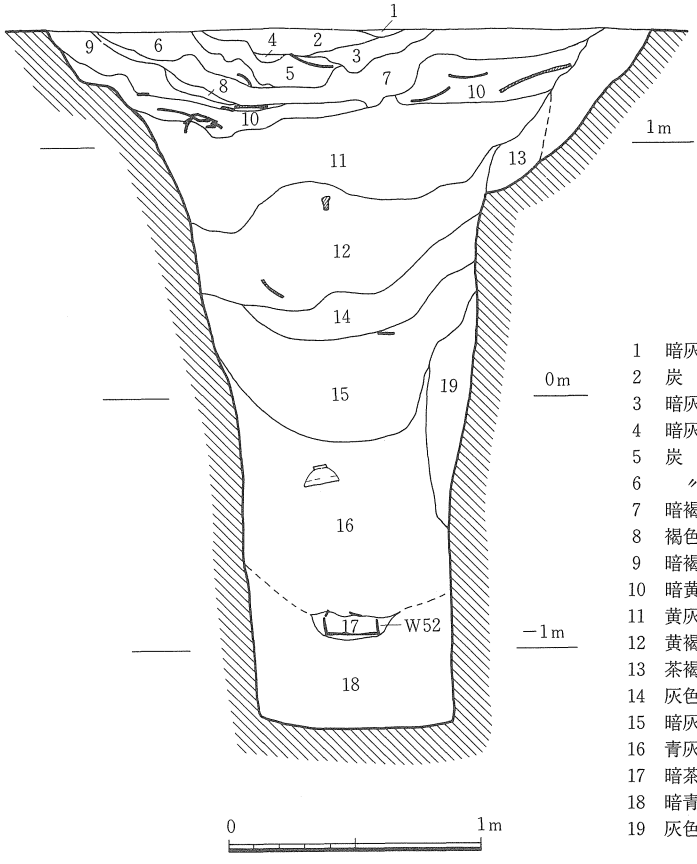


遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	13.7	5.8	5.2	内面工具使用ナデ，一部篦ミガキ，外面押圧，全面煤付着	茶褐	微砂
2	〃 〃	15.3	6.8	5.7	〃 ，〃 ，〃 ，〃 ，重ね焼き痕	淡黄白	粗砂
3	〃 〃	14.8	6.9	5.6	篦ミガキ，内面重ね焼き痕	〃	微砂㋑
4	〃 〃	12.6	—	—	内面工具使用ナデ，外面横ナデ・押圧	淡灰白	〃 ㋩
5	〃 〃	14.7	—	—	内面丁寧なナデ，外面横ナデ・押圧	淡黄白	粗砂
6	〃 〃	15.1	—	—	ナデ，全面煤付着	㈠黄白㈡灰褐	微砂㋥
7	〃 〃	—	6.5	—	〃	白	〃
8	〃 〃	—	7.3	—	〃	〃	〃 ㋥
9	〃 〃	—	6.2	—	〃 ，黒斑	灰白	粗砂㋑
10	〃 皿	8.7	7.0	1.5	横ナデ，底部篦キリ	赤褐	微砂㋑
11	〃 〃	8.7	6.2	1.7	〃 ，〃	褐	〃
12	〃 〃	10.1	7.4	1.0	〃 ，〃	灰褐	〃
13	〃 〃	—	—	1.0	〃 ，〃	白	〃 ㋑
14	瓦器 椀	16.4	—	—	〃 ，外面下半押圧，内面暗文，「和泉型」	銀黒	〃 ㋥，精良
15	〃 〃	—	4.6	—	ナデ，内面暗文	銀黒灰	〃
16	白磁 碗	—	—	—	内外面貫入	淡灰(釉)淡緑白	〃 ㋥，〃
17	〃 〃	—	—	—	施釉	白 (釉) 〃	〃 〃，〃
18	〃 〃	13.8	—	—	体部下半は篦ケズリ，一部厚い施釉	〃 〃 〃	〃 〃，〃
19	〃 〃	—	—	—	横ナデ	灰	〃
20	須恵質 椀	—	7.7	—	〃 ，底部糸キリ	淡青灰	〃 ㋑
21	〃 甕	—	—	—	外面タタキ，内面ナデ，焼成やや不良	淡灰	粗砂～細礫

図280 井戸－28 出土遺物(2) 縮尺 1/4

井戸－29（図281～288，図版38・70～72）





1　暗灰褐色粘土
2　炭　層　（焼土塊多含）
3　暗灰褐色土
4　暗灰色土　（土器含）
5　炭　層　（灰多含，焼土含）
6　〃
7　暗褐色土（炭・地山粒多含・土器含）
8　褐色土
9　暗褐色土　（土器含）
10　暗黄褐色土　（土器多含）
11　黄灰褐色粘質土（炭・粘土・土器含）
12　黄褐色粘土　（炭・土器含）
13　茶褐色土（炭・焼土・粘土粒・土器含）
14　灰色粘土
15　暗灰色粘土（炭・土器含，有機物多含）
16　青灰色粘土　（土器含）
17　暗茶灰色粘土　（炭・木器含）
18　暗青灰色粘土
19　灰色粘土　（土器含，有機物含）

図281　井戸－29　縮尺 1/30

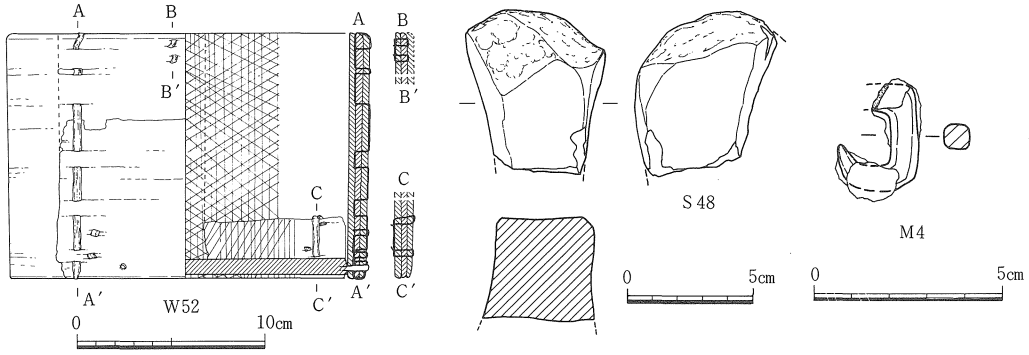
ＡＸ37区に位置する。南端の一部は調査前の試掘坑によって削平を受ける。西側には本遺構より一段階古い時期の溝70が南北に走り，東側には掘立柱建物群が検出される。

平面形は長軸238cm，短軸168cmを測り，東西に軸を持つ楕円形を呈す。掘り方は検出面下280cm，標高－130cmに位置する。底面から標高80cmまで80～90°の角度で，やや上開きに立上がり，そこから上面に向って大きく摺り鉢状に開く。底面形は径78cm前後の円形を呈す。

遺構内埋土は炭化物・遺物等を多量に含む１～10層，粘質が強く包含物の少ない11層以下の二群に大別される。１～10層は掘り方内上部の摺り鉢状部分に堆積し，上半部（２・５・６・７層）には多量の炭化物を，下半部（10層）には遺物を多く含む傾向が強い。炭化物・遺物は西側から入れられた状況が認められる。11層以下では下層に向って粘質を強め，14層では粘土となる。また，有機物も含まれ，15層下半では特に厚く堆積する。

多量の遺物は上部摺り鉢状部分から出土し，土師質椀・皿・杯・鍋・竈（１・３～７・９～17・19～22・50～63），瓦器（23～27），白磁（28～30），須恵質壺・甕・鉢（31～39・41・42），鉄器（Ｍ４）が，また，下層（16・17層）からは土師質椀・皿（２・８・18），須恵質鉢（40），曲物（W52），砥石（Ｓ48）が各々あげられる。各器種とも量は豊富であるが，特に土鍋の多さと小皿の量の少なさが目立ち，前述の井戸21と対照的である。注目される遺物の中で瓦器（25）は他の和泉型の瓦器に対して楠葉型であること，時期もやや古手であることなどから，本遺構の時期とはずれる。混入品と考えたい。また，鍋と同様に量の豊富な須恵質土器類には，備前焼・魚住焼などが含まれる。墨書土器（８）の存在も注目される。

時期は13世期前半と考えられる。　（山本）

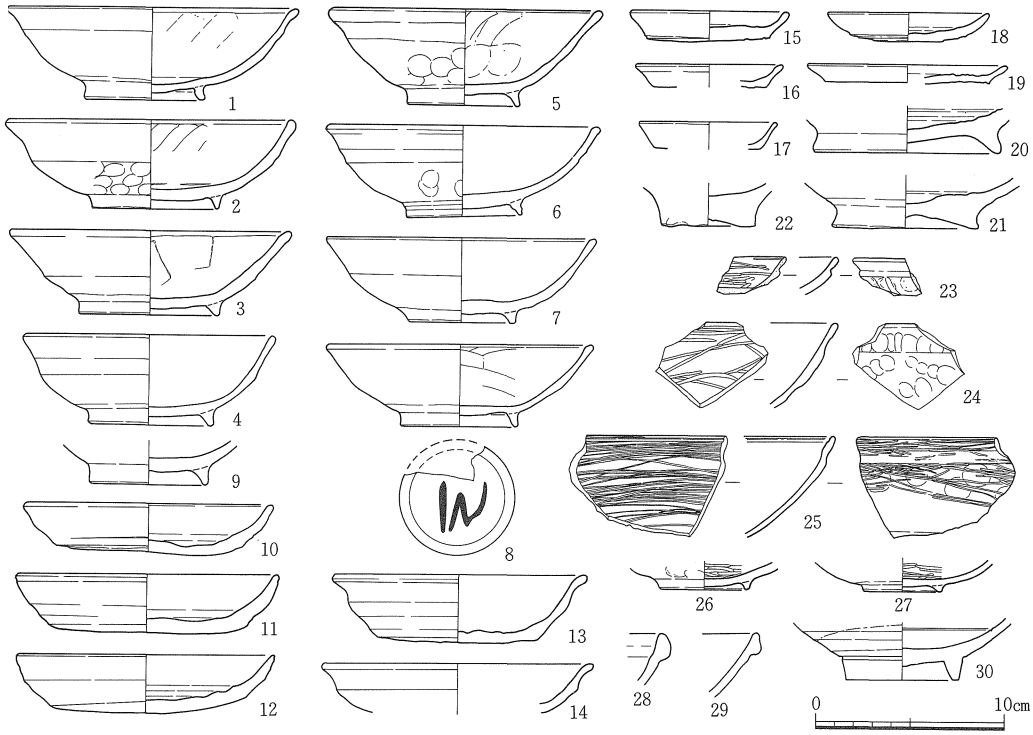


遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W52	曲物	器高18.0	17.4	底板1.0	コウヤマキ	側板は内外２枚，A–A′では外側板を合わせ綴じB–B′では内外をつなぎ綴じる，C–C′では内側
				側板0.3	ヒノキ	板の合わせ部と外側板をつなぎ綴じる，釘穴は６ケ所うち５ケ所に竹釘残存，綴皮桜皮

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
Ｓ48	砥石	6.9	5.4	4.7	225.0	砂岩	欠損品，三面に研磨面残る

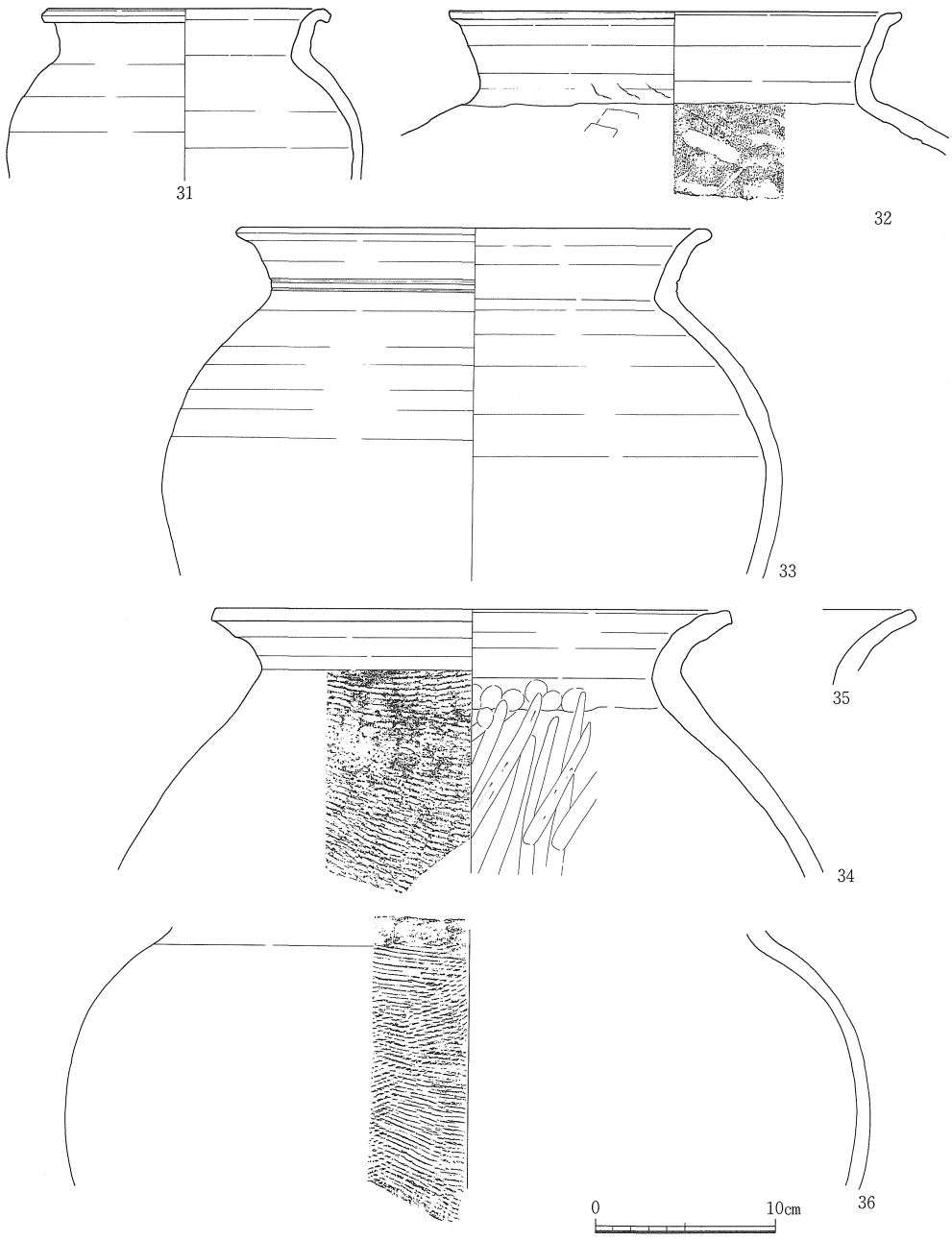
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
Ｍ４	釘状鉄製品	2.9	0.7	0.7	5	鉄	欠損しているが，鏃の可能性あり，先端残存

図282　井戸－29　出土遺物(1)　縮尺 1/4（W52）・1/3（Ｓ48）・1/2（Ｍ4）



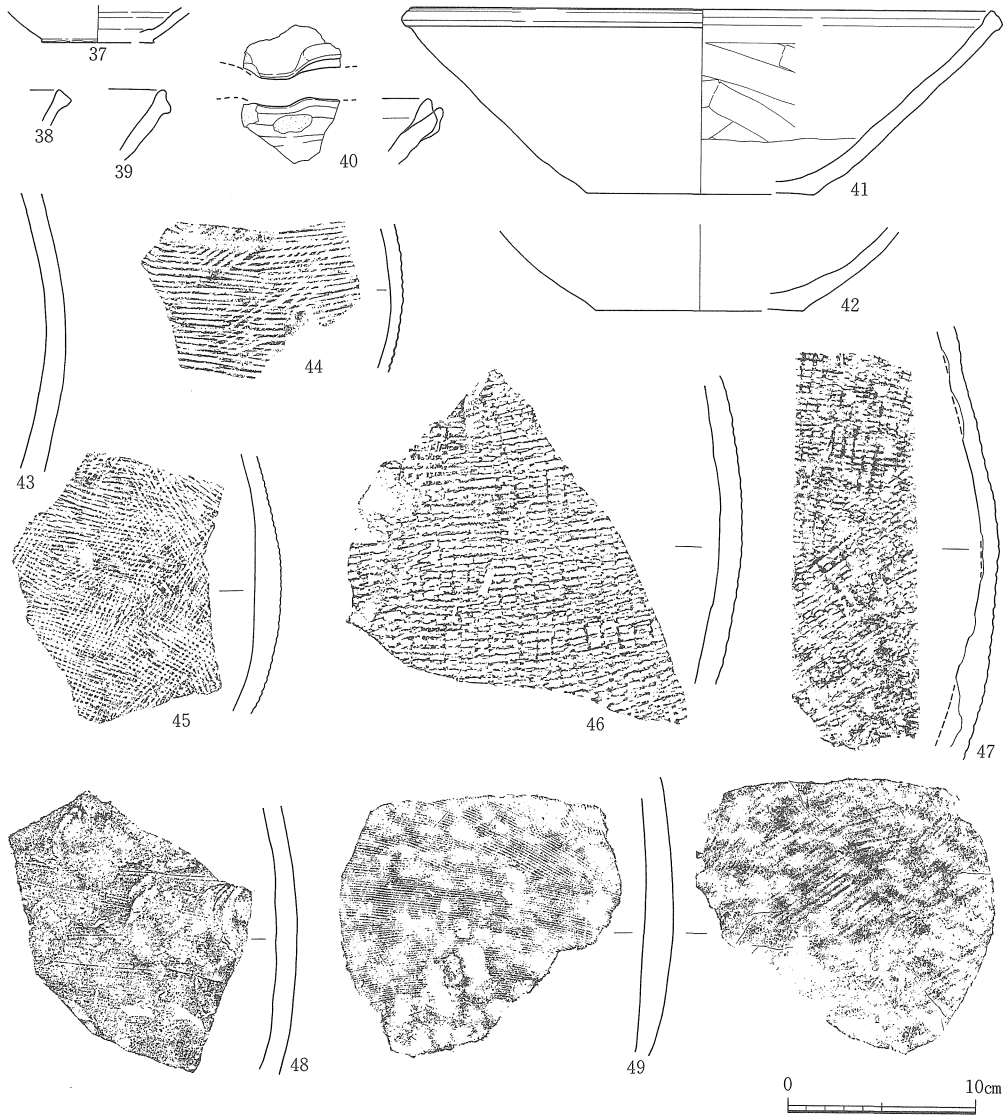
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	15.4	6.5	4.9	内面工具使用ナデ，外面押圧・篦ミガキ㉒，重ね焼き痕あり	淡黄白	微砂，細礫㉒
2	〃 〃	15.3	6.8	4.8	〃 ，体部下半押圧多量，内面重ね焼き痕	淡茶灰白	細砂㉓
3	〃 〃	15.0	7.5	4.5	内面上半工具使用ナデ・下半押圧	灰白	〃 ㉕，細礫㉒
4	〃 〃	13.4	6.7	4.8	内面煤付着・重ね焼き痕	淡黄灰白	微～細砂㉔
5	〃 〃	14.4	6.0	5.1	内面上半工具使用ナデ・下半大きな押圧，口縁部煤付着	〃	細砂
6	〃 〃	14.5	6.2	4.9	口縁部横ナデ2段，内外面煤付着，内面重ね焼き痕	淡赤白～灰白	〃 ，雲母㉔
7	〃 〃	14.3	5.7	4.5	高台は楕円形，内面煤付着，2次焼成痕	(内)灰白(外)黄灰	微～細砂㉔
8	〃 〃	14.2	6.2	4.4	内面工具使用ナデ，高台内に墨書，内外面煤付着多量	(内)暗褐(外)灰白	微砂㉒
9	〃 〃	—	6.3	—	ナデ	淡乳～黄褐	粗砂，雲母㉒
10	〃 皿	13.4	10.0	2.7	底部内面平行ナデ，底部篦キリ後板目痕，内面煤少量・ロクロ回転㊁	淡赤褐	微砂㉑，赤色粒子
11	〃 〃	14.0	10.6	3.2	〃 ， 〃 ，ロクロ回転㊁	淡茶褐	〃 〃， 〃
12	〃 〃	13.8	10.5	3.2	〃 ，底部篦キリ後ナデ，ロクロ回転㊁	淡赤灰褐	〃 〃， 〃
13	〃 〃	13.6	8.5	3.6	底部篦キリ後ナデ	淡乳褐	微～細砂
14	〃 〃	14.5	—	—	横ナデ	〃	微砂
15	〃 小皿	8.4	6.5	1.7	底部内面平行ナデ，底部篦キリ，ロクロ回転㊁	淡赤褐	〃 ，赤色粒子
16	〃 〃	7.9	6.0	1.2	底部篦キリ	淡灰白	〃
17	〃 〃	7.4	5.6	1.5	横ナデ	〃	〃
18	〃 〃	8.7	6.2	1.5	底部篦キリ	〃	微～細砂
19	〃 〃	10.7	8.8	0.92	〃 ，ロクロ回転㊁	淡黄灰	微砂
20	〃 杯	10.0	—	—	横ナデ	淡乳褐	〃 ，赤色粒子
21	〃 〃	7.8	—	—	底部篦でケズリこむ，内外面煤付着	暗灰褐	〃 ， 〃
22	〃 〃	5.0	—	—	〃	淡黄白	細砂
23	瓦器 皿	—	—	—	内面篦ミガキ㊃，外面押圧，口縁部横ナデ，「和泉型」	灰	〃
24	〃 椀	—	—	—	〃 〃， 〃 ，「和泉型」	黒灰	〃
25	〃 〃	14.1	—	—	内面工具使用ナデ後篦ミガキ，外面ナデ押圧後篦ミガキ㊃，「楠葉型」	銀灰黒	微砂㊂，精良
26	〃 〃	—	4.8	—	内面篦ミガキ㊃，外面押圧・ナデ，2次焼成痕，「和泉型」	(内)暗灰(外)黄褐	細砂㉒
27	〃 〃	—	4.2	—	〃 ，外面押圧・ナデ，「和泉型」	黒灰	微砂
28	白磁 碗	—	—	—	ナデ，施釉（透明），「白磁碗Ⅳ類」	淡灰白	微砂㊂，精良
29	〃 〃	—	—	—	〃 ， 〃 ，釉は厚め，「白磁碗Ⅳ類」	〃	〃 〃， 〃
30	〃 〃	6.0	—	—	内面ナデ・施釉・沈線，体部下半～高台露胎，外面煤付着，「Ⅴ類」	〃 (釉)緑灰白	〃 〃， 〃

図283　井戸－29　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
31	須恵質 壺	16.0	—	—	横ナデ，「備前焼Ⅱ期」	内暗灰外暗赤褐	細砂，黒色粒子
32	〃 〃	25.0	—	—	胴部鋭ケズリ，頸部粘土帯のよじれあり，「備前焼Ⅰ期」	明茶～赤紫灰	微砂◎，黒色粒子
33	〃 〃	25.8	—	—	横ナデ，頸部沈線２条，外面煤付着，２次焼成痕，「備前焼Ⅱ期」	内淡灰外黒灰	微～細砂
34	〃 〃	28.4	—	—	内面ナデあげ，外面平行タタキ，胴部外面自然釉	淡灰	細砂，黒色粒子
35	〃 〃	—	—	—	「備前焼」	灰	微砂◎
36	〃 〃	—	—	—	内面ナデ，外面タタキ，頸部タタキ後押圧，外面自然釉，「東播系」	内紫灰外暗青灰	〃 〃

図284　井戸－29　出土遺物(3)　縮尺 1/4

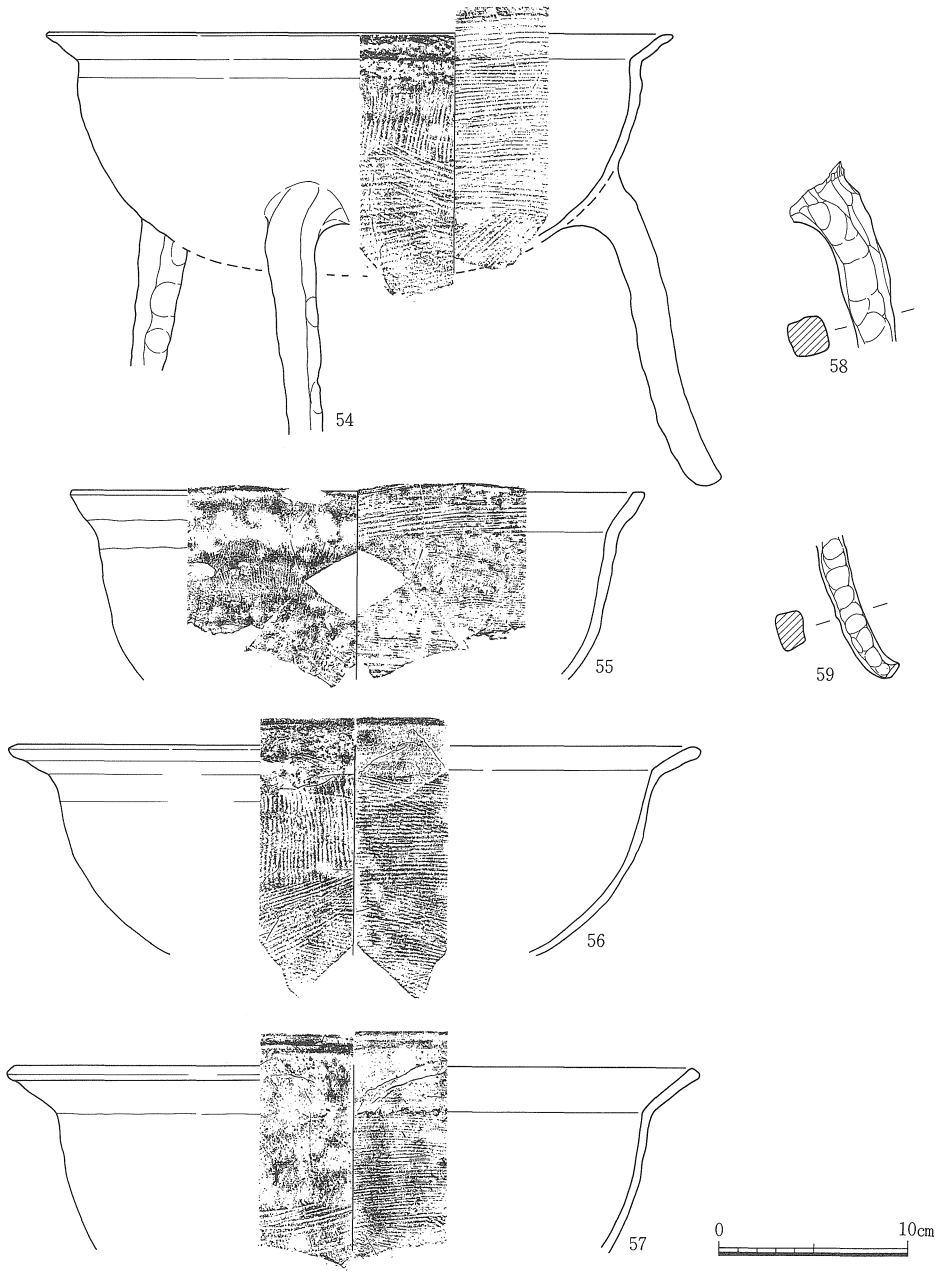


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
37	須恵質 椀	—	5.9	—	底部糸キリ	淡青灰白	微砂㋐
38	〃 鉢	—	—	—	ナデ	〃	〃 〃
39	〃 〃	—	—	—	「東播系」	淡茶灰	〃
40	〃 〃	—	—	—	片口部	淡青灰	細～粗砂㋒
41	〃 〃	30.7	12.0	9.8	内面上半工具使用ナデ・下半ナデ，底部工具使用ナデ，「東播系」	紫灰	〃～ 〃 〃
42	〃 〃	—	11.1	—	「東播系」	〃	〃～ 〃 〃
43	〃 〃	—	—	—	ナデ	灰黒	微砂㋑
44	〃 〃	—	—	—	内面横ナデ，外面タタキ	(内)灰(外)黒灰	細砂
45	〃 〃	—	—	—	内面ナデ，外面タタキ	紫灰	微～粗砂㋒
46	〃 〃	—	—	—	〃 ， 〃	(内)淡灰(外)淡青灰	〃～ 〃 ㋐
47	〃 〃	—	—	—	〃 ， 〃	(内)淡灰白(外)灰	〃～ 〃
48	〃 〃	—	—	—	内面横ナデ・押圧，外面横ナデ，「東播系」	灰褐	微砂㋑，精良
49	〃 〃	—	—	—	内面ハケ下半はその後押圧，外部タタキ後ナデ，「備前焼」	(内)灰(外)暗灰	細砂㋒

図285　井戸－29　出土遺物(4)　縮尺 1/4

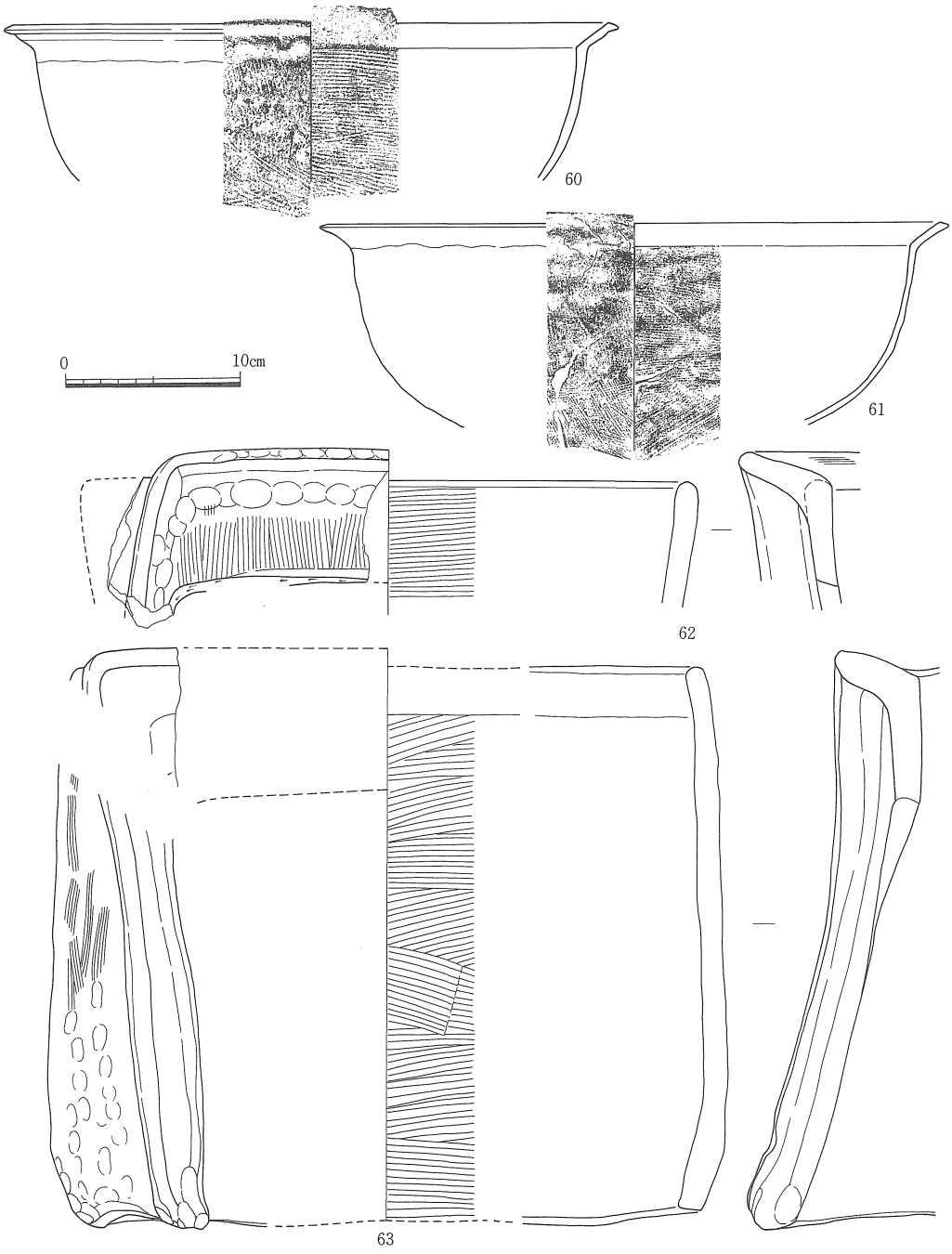
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
50	土師質 鍋	30.5	—	13.6	内外面ハケ（下半は不定方向・上半を切る），外面押圧，外面煤	淡茶褐	細砂◎
51	〃 〃	32.3	—	—	内面横位のハケ，外面ハケ・押圧◎，外面煤付着	茶褐	微砂
52	〃 〃	33.4	—	14.4	内外面ハケ（下半は不定方向・上半を切る），外面は押圧，外面煤付着	内淡黄褐/外淡赤褐	微～細砂
53	〃 〃	34.5	—	15.3	〃 （ 〃 ・ 〃 ）， 〃 ， 〃	内淡乳褐/外黒褐	微砂

図286　井戸－29　出土遺物(5)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
54	土師質 鍋	33.2	—	23.9	ハケ・三足付（押圧・ナデ），口縁部つまみ出し，外面脚端部に煤付着	(内)淡黄灰(外)黒褐	微砂㋑
55	〃 〃	30.6	—	—	ハケ，口縁部ナデ・押圧・他の鍋ほど外反せず立上る，外面煤付着	(内)灰褐(外)黒褐	微～細砂㋑
56	〃 〃	36.0	—	—	体部ハケ（下半不定方向），口縁部工具使用ナデ，外面押圧・煤付着	淡黄褐	〃～〃〃
57	〃 〃	36.0	—	—	〃（〃），〃，〃・〃	〃	微砂㋑
58	〃 支脚	—	—	—	押圧・ナデ	淡黄灰	微～細砂㋑
59	〃 〃	—	—	—	〃・〃	〃	微砂㋑

図287　井戸－29　出土遺物(6)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
60	土師質 鍋	34.0	—	—	体部内外面ハケ，口縁部工具使用ナデ，つまみ出す，外面煤付着多量	黄褐	細砂㋑
61	〃 〃	34.8	—	—	体部ハケ下半は不定方向，口縁部工具使用ナデ・つまみ出す，外面煤	褐色	〃 〃
62	〃 竈	34.0	—	—	内面ハケ，体部外面押圧・ナデ，焚口ハケ・押圧，煤付着	(内)暗褐(外)赤褐	細礫㋒
63	〃 〃	34.0	35.2	32.8	体部外面ハケ・押圧，焚口ナデ・押圧，下部端面篦ケズリ，煤付着	茶褐	細砂〃

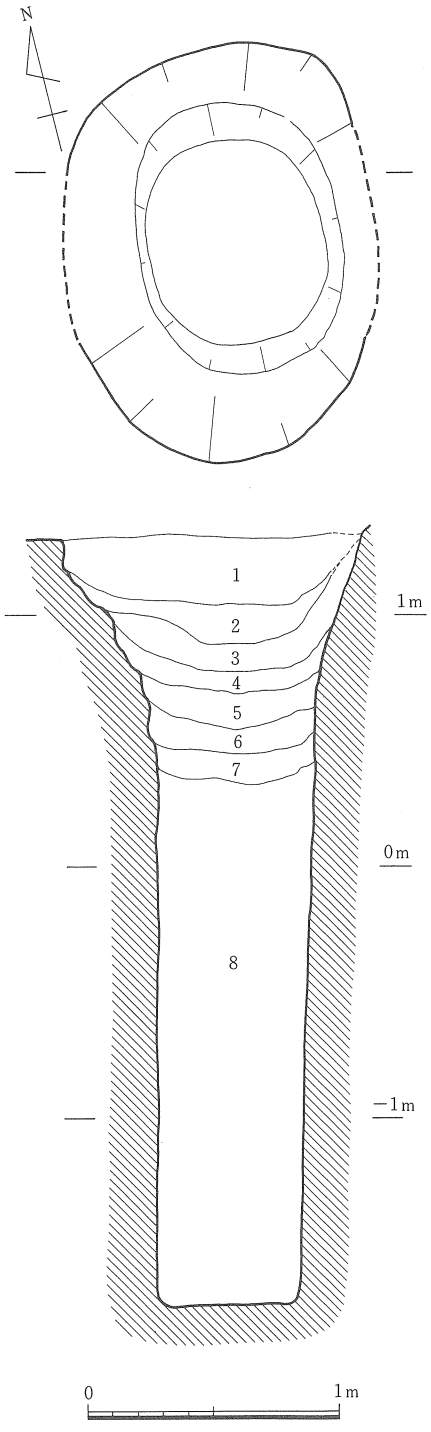
図288　井戸－29　出土遺物(7)　縮尺 1/4

井戸ー30（図289・290）

本井戸はＡＺ39区北西部に位置する。井戸中央部分は東西に走る後世の攪乱溝によって，幅30cm前後，深さ40cm前後にわたって破壊されている。本井戸は井筒をもたない素掘り井戸であり，現状からその掘り方平面形は長径約165cm，推定短径125cm前後の北北東方向に長軸をもつ楕円形を呈すると推定される。掘り方断面形をみると，検出面から50cm前後までの上位部分は，若干外へ開き気味になっている。それ以下は長径80～110cm前後，短径80cm前後のほぼ垂直な円筒状に掘り込まれている。本井戸の検出面の標高は，1.3m前後を測り，検出面から底面までの深さは３ｍ前後である。底面の標高は約－175cmを測り，本地区の中心的な湧水層である砂層に達している。

本井戸内の埋土は８層に分かれ，大きくは第１群（１・２層），第２群（３～６層），第３群（７層），第４群（８層）にまとめることができる。

第１群は微砂を含む淡黄褐色～灰褐色土で，第２群以下に比べて，粘性が弱い。若干の炭化物や土器片を含んでいる。



1　淡灰褐色土（炭含）
2　灰褐色土（炭少含）
3　茶灰色粘質土
4　灰色粘質土
5　灰褐色粘質土
6　〃　〃
7　暗灰青色粘質土
8　暗青灰色粘土

図289　井戸ー30　縮尺 1/30

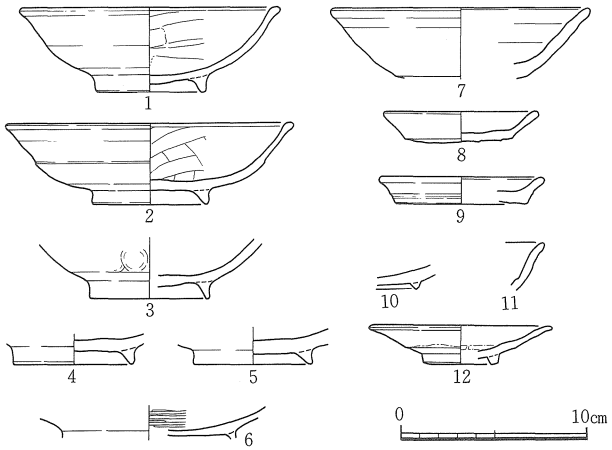
第２群は，第１群よりも粘性の強い層群で，鉄分の沈着が比較的顕著である。若干の土器片が出土している。

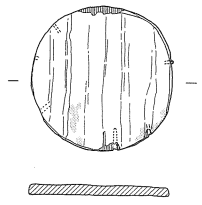
第３群の７層は暗灰青色粘質土で，第２群よりも粘性は弱く，軟質であり，混入物の少ない，比較的均質な層である。

第４群とした８層は，上位の各層が，１層を除き，層厚10～15cm前後であるのに対し，層厚２ｍを越える厚い粘土層である。本層も７層と同様，比較的均質な層であるが，上層に比べ，比較的遺物の出土が顕著であり，中には，モモの種子やクルミも含まれている。

本井戸からは，総体的に遺物の出土は少ないが，その中で８層からは土師質椀（１～６），同皿（７），白磁（10～12），曲物底板（W53）などの遺物が比較的まとまって出土している。

本井戸は出土土器から13世紀前半に属するとみられる。（栄）





遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	13.9	5.9	4.5	内面工具使用ナデ，外面押圧，内外面煤付着	内)灰褐外)灰白	細砂㉖
2	〃 〃	15.3	6.2	4.3	〃 ， 〃	淡灰白	微砂
3	〃 〃	－	6.4	－	内面丁寧なナデ，外面押圧，内面重ね焼き痕	灰白	〃
4	〃 〃	－	6.4	－	ナデ，内面重ね焼き痕・煤付着	淡黄白	〃
5	〃 〃	－	6.4	－	内面丁寧なナデ，外面横ナデ	淡(黄)白	〃 ⑯
6	〃 〃	－	－	－	内面篦ミガキ㉓，外面横ナデ，「黒色土器」	内)黒外)褐	〃
7	〃 皿	13.6	7.0	3.9	横ナデ	淡黄灰	〃 ，雲母
8	〃 〃	8.2	5.8	1.6	〃 ，底部外面篦キリ，ロクロ回転㉖	淡黄褐	〃
9	〃 〃	8.8	6.8	1.4	〃 ， 〃 ，内面重ね焼き痕	〃	細～粗砂
10	白磁 碗	－	－	－	体部ナデ・施釉，底部篦ケズリ・露胎	白 (釉)淡緑白	微砂㉓，精良
11	〃 〃	－	－	－	ナデ，施釉	白	〃 〃，〃
12	〃 皿	9.7	4.0	2.1	ケズリ出し高台，内・外面上半ナデ・施釉・貫入有り	白 (釉)淡緑白	〃 〃，〃

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W53	曲物底板	7.6	7.5	0.6	ヒノキ	表面の一部に黒漆残存，釘穴６ケ所，うち１ケ所に竹釘残存，柾目材

図290　井戸－30　出土遺物　縮尺 1/4

井戸－31（図291・292，図版39・70）

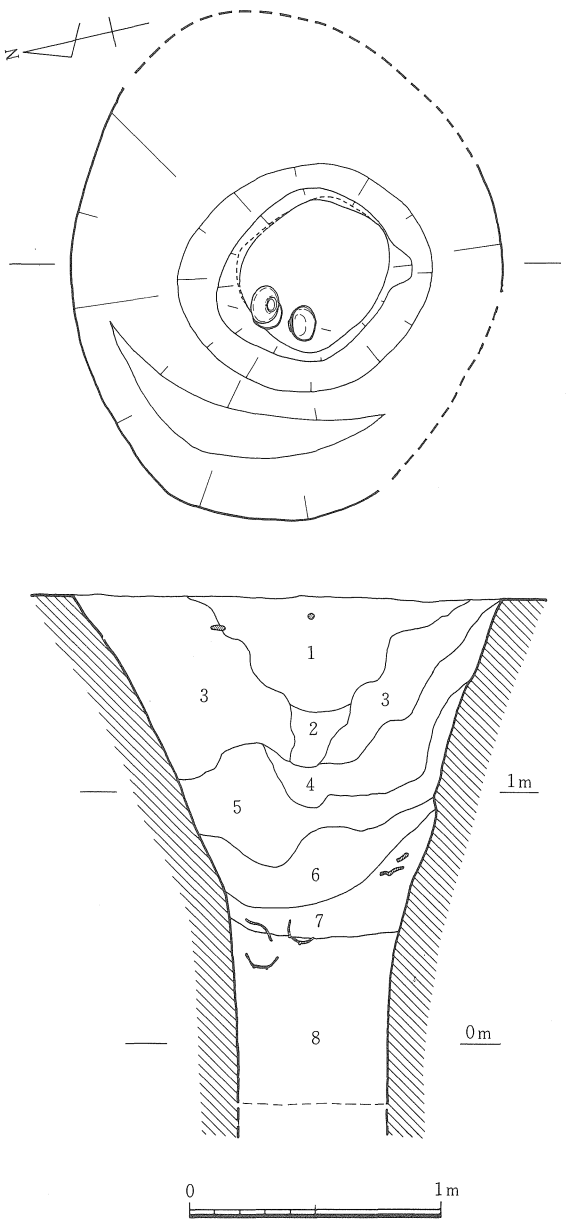
調査区北東端に近いＡＶ28区に位置する。東側上部は後世の溝に，南側は攪乱によって削平を受ける。

平面形は長軸200㎝（復元推定），短軸171㎝の南北に長い楕円形を呈す。掘り方は上面から深さ120㎝，標高50㎝までは65～75°の角度で掘り込まれ，そこから垂直に落ちこみ底面に至る。底面は壁面崩壊等のために調査不可能となり，確認はできなかった。

埋土は標高50㎝以下では粘土化し，包含物はほとんど含まない。それに対して上半部は炭化物・焼土・土器片等を全体的に含む。ただし，炭化物層のような炭の集中は認められない。

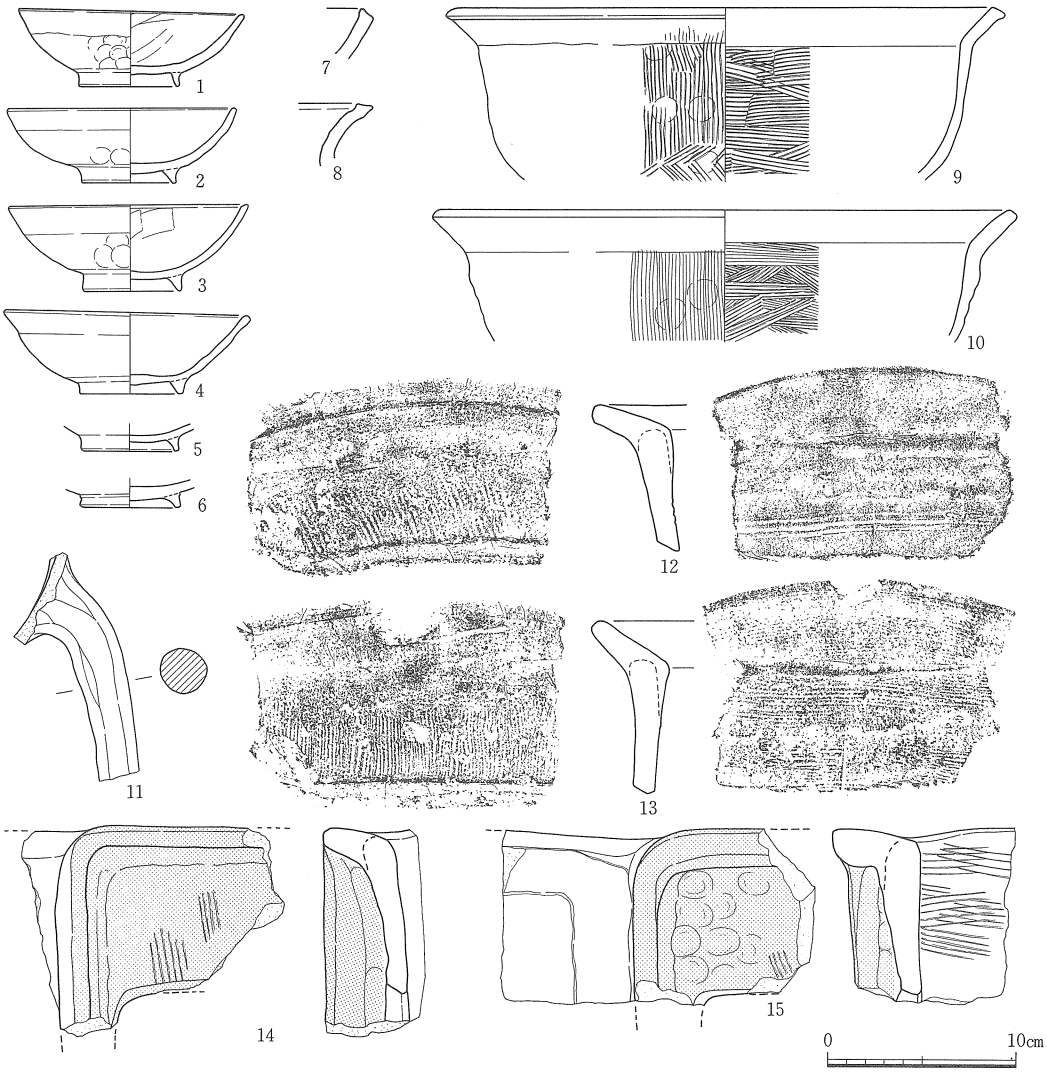
遺物は８層上面以上から出土する。１～６層出土のものはいずれも小～細片がその大半を占め，比較的大形の破片は７層以下が中心となる。６層下面～７層上半では土鍋（９～11），竈（12～15）の大形破片を中心に，土師質椀（４～６），須恵質鉢（７），須恵質甕（８）が，また，７層下半～８層上半では完形品の土師質椀（１～３）が一括出土する。全体的に竈の占める割合が高く，掲載以外にも数個体出土している。土鍋，竈とも多量の煤が付着しており，竈についてはトーンで付着場所を示した。

時期は13世紀後半と考えられる。



1　淡青灰色砂質土　（炭・焼土・土器含）
2　〃　粘質土
3　黄灰色砂質土
4　黄灰褐色細砂砂質土（炭・土器・焼土含，粘土粒多含）
5　暗灰褐色粘質土　（〃・〃含，粘土粒・砂土粒含）
6　灰色粘質土　（〃・〃含）
7　茶褐色粘質土　（〃・〃・焼土含）
8　灰色粘土

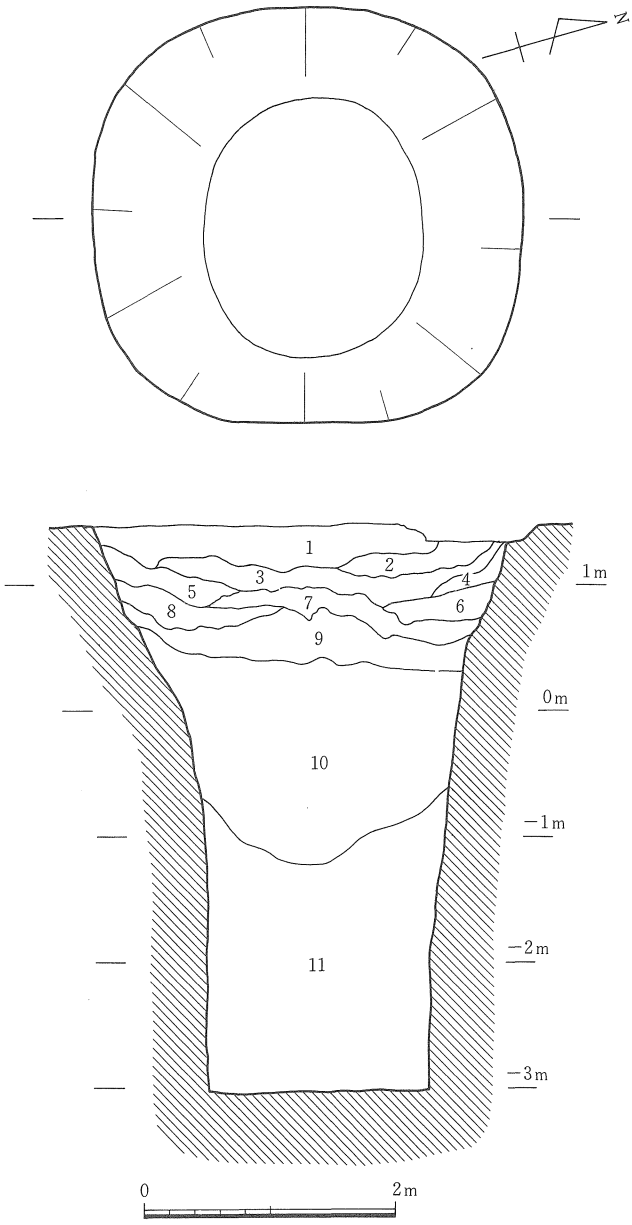
図291　井戸－31　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	12.0	5.4	4.1	内面工具使用ナデ，外面横ナデ・押圧	淡黄白	細砂㉓，雲母
2	〃 〃	12.2	5.1	4.0	内面丁寧なナデ，外面横ナデ・押圧	淡黄褐	〃 〃，〃
3	〃 〃	12.8	5.3	4.6	内面工具使用ナデ，外面横ナデ・押圧，2次焼成痕	淡黄白	細砂・細礫⑰
4	〃 〃	13.1	5.5	4.5	〃 ，〃 ・〃	淡黄褐	〃 ㉕
5	〃 〃	—	5.3	—	横ナデ，高台内板目痕	淡灰	〃
6	〃 〃	—	5.4	—	〃	淡灰褐	〃 ㉕
7	須恵質 鉢	—	—	—	〃	淡灰	〃
8	〃 甕	—	—	—	〃	淡青灰	微～細砂
9	土師質 鍋	28.2	—	—	内面ハケ，外面押圧後ハケ・煤付着多量	黒褐	細砂
10	〃 〃	30.2	—	—	〃 ，〃 ・〃 ，剝落㉓	〃	粗砂
11	〃 支脚	—	—	—	ナデ・押圧，鍋内面はハケ	茶褐	細砂㉓
12	〃 竈	内半径(推定)15cm前後			内外面下半荒いハケ，No14と同一の可能性あり，全面煤付着多量	暗～黒褐～暗赤褐	粗砂～細礫㉓
13	〃 〃	〃			内外面荒いハケ，口縁部外面横ナデ・押圧，全面煤付着	黒褐	〃 ～ 〃 〃
14	〃 〃	—			ナデ，煮口内面一部に荒いハケ，トーン部に煤付着多量	茶褐	〃 ～ 〃 〃
15	〃 〃	—			内面荒いハケ，外面ナデ・押圧，粘土を薄く張りつけた痕あり	〃	〃 ～ 〃 〃

図292　井戸ー31　出土遺物　縮尺 1/4

井戸－32（図293・294）



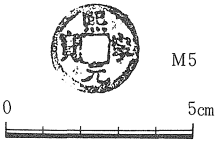
ＡＸ38・39区に位置する。東北部分上層を後世の攪乱により削平されるが旧状復元に支障はない。

平面形は長軸340cm，短軸330cmを測る南北にわずかに長い隅丸方形を呈す。掘り方は，検出面下100cm，標高50cmまでは約60°の角度で下降し，そこから角度を85°前後に変えて，直線的に底面へ向って掘り込まれる。検出面下450cm，標高－300cmまで掘削して調査したが，底面は確認できなかった。標高－300cmでの平面形は，径170cmを測る円形を呈す。

埋土は９層と10層の間で大きな差を示す。９層以上は大小の粘土塊をブロック状に含み，土器・炭等の包含物も認められるが，10層以下では僅かの炭化物が認められるのみである。

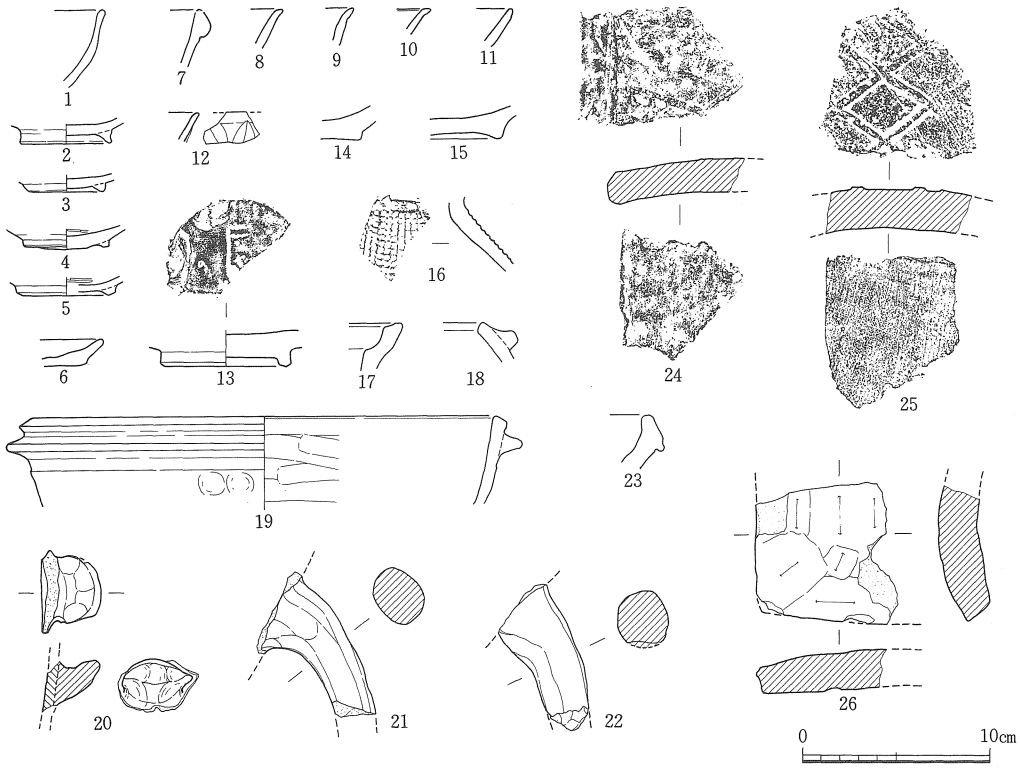
遺物は量的には多いが，いずれも小片である。土師質椀では高台部の縮小が進む。瓦・瓦質土器・施釉陶器・熙寧元宝を含む。13世紀末～14世紀初頭が考える。

1　暗灰色砂質土　（粘土塊）
2　〃　（〃　多含，土器含）
3　暗茶褐色砂質土（粘土塊多含，土器含）
4　灰褐色砂質土　（土器含）
5　茶褐色粗砂粘質土（粘土塊多含）
6　〃　（〃　，炭含）
7　茶灰色粘土（大粘土塊含）
8　〃　（大粘土塊・砂塊等）
9　灰色粘土
10　〃
11　灰色砂混り粘土



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
M５	銅銭	2.4	2.3	0.12	3	銅	熙寧元宝

図293　井戸－32，出土遺物(1)　縮尺 1/60，1/2



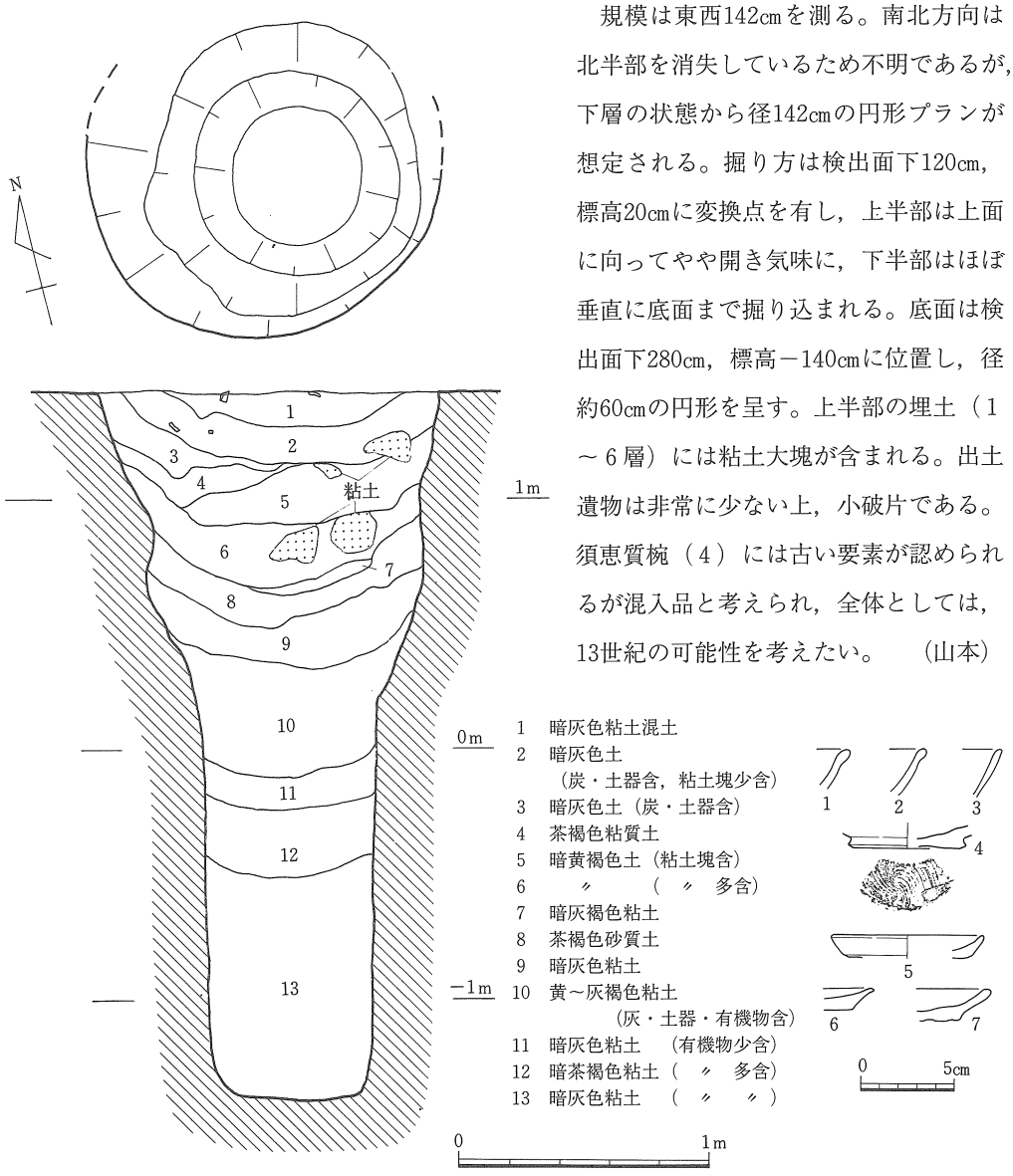
遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	—	—	—	ナデ	淡黄白	微砂，雲母
2	〃 〃	—	4.8	—	ナデ，底部内面重ね焼き痕	〃	〃，細礫㉔
3	〃 〃	—	4.1	—	〃，〃	〃	〃 ㉕
4	瓦 器 〃	—	4.5	—	内面一部篦ミガキ，高台内押圧	(内)淡灰(外)銀黒	〃
5	〃 〃	—	5.2	—	〃	淡灰	〃
6	土師質小皿	—	—	—	ナデ	淡黄白	粗砂
7	白 磁 碗	—	—	—	全面施釉，玉縁口縁下部に釉厚い	白 (釉)淡黄緑白	砂粒㊱，緻密
8	〃 〃	—	—	—	〃	〃	微砂㊲，〃
9	〃 〃	—	—	—	〃，線刻文様	〃	砂粒㊱，〃
10	〃 皿	—	—	—	〃，釉不良	淡灰白	微砂㊲，〃
11	〃 〃	—	—	—	〃	白	砂粒㊱，〃
12	青 磁 碗	—	—	—	〃 ㉚，外面鍋蓮弁文2枚，「龍泉窯系」	灰 (釉)淡青緑	〃 〃，〃
13	〃 〃	—	6.8	—	高台内露胎，他は施釉，削出し高台，内面底部刻印あり	灰 (釉)黄緑	微砂㊲，〃
14	緑 釉 〃	—	—	—	内面篦ミガキ，外面篦ケズリ後ナデ，全面施釉	灰白(釉)黄緑	〃
15	須恵質 椀	—	—	—	内面自然釉	淡灰白	〃
16	〃 甕	—	—	—	内面ナデ，外面タタキ，「亀山焼」	暗青灰	〃 ㉕
17	〃 鍋	—	—	—	ナデ，外面煤	淡灰	〃
18	〃 〃	—	—	—	内面左上り工具使用ナデ，外面煤	青灰	〃 ㉕
19	土師質 鍋	24.6	—	—	内面工具使用ナデ，外面横ナデ・一部押圧，外面煤多量	暗褐	〃
20	〃 把手	—	—	—	押圧・ナデ	明黄褐	〃 ㉙
21	〃 鍋支脚	—	—	—	〃・〃，鍋内面ハケ	淡黄褐	〃
22	〃 〃	—	—	—	〃・〃，〃	〃	〃
23	須恵質 鉢	—	—	—	ナデ，「東播系」	暗青灰	〃
24	平 瓦	—	—	—	内面布目痕上にナデ，外面斜格子タタキ，端面篦ケズリ	(内)暗灰(外)淡灰	〃
25	〃	—	—	—	〃，〃	灰	粗砂㉙，細礫
26	〃	—	—	—	内面布目痕上に篦ケズリ，外面ナデ	淡黄褐	〃

図294 井戸－32 出土遺物(2) 縮尺 1/4

井戸－33（図295）

ＡＷ38に位置する。北半上部を調査時の側溝によって削平される。

規模は東西142cmを測る。南北方向は北半部を消失しているため不明であるが，下層の状態から径142cmの円形プランが想定される。掘り方は検出面下120cm，標高20cmに変換点を有し，上半部は上面に向ってやや開き気味に，下半部はほぼ垂直に底面まで掘り込まれる。底面は検出面下280cm，標高－140cmに位置し，径約60cmの円形を呈す。上半部の埋土（1～6層）には粘土大塊が含まれる。出土遺物は非常に少ない上，小破片である。須恵質椀（4）には古い要素が認められるが混入品と考えられ，全体としては，13世紀の可能性を考えたい。　（山本）



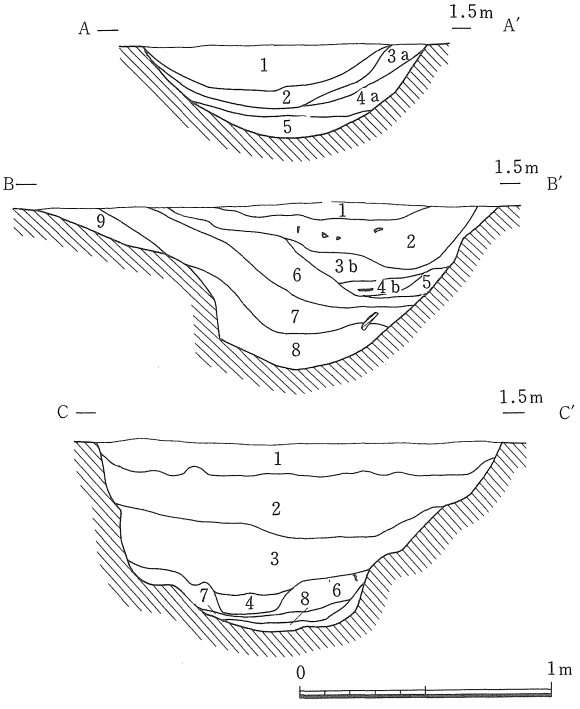
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質　椀	－	－	－	非常に丁寧なナデ	淡黄灰	微砂
2	〃　〃	－	－	－	内面非常に丁寧なナデ，外面横位の篦ミガキ㊽	淡黄白	〃 ㊾
3	須恵質　〃	－	－	－	ナデ，口縁端部幅約1cmに重ね焼きによる変色あり（暗灰色）	淡灰白	〃 〃
4	〃　〃	－	6.3	－	〃，底部糸キリ	灰白	〃 〃
5	土師質小皿	8.1	7.0	1.1	〃，底部は台状をなす	黄白	〃 〃
6	〃　〃	－	－	－	〃，底部篦キリ後ナデ	褐	〃 〃
7	〃　〃	－	－	－	〃，　〃　・板目痕	淡灰褐	〃 〃

図295　井戸－33　出土遺物　縮尺 1/30，1/4

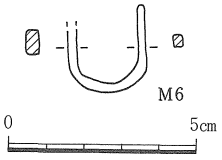
c．溝

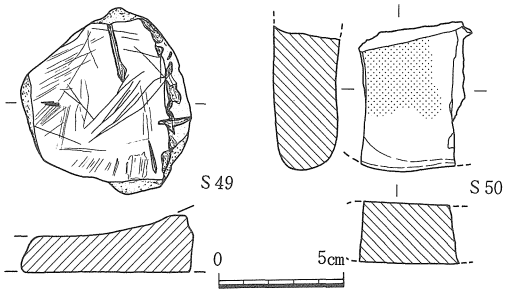
溝－70（図262・296～300，図版69・72・73・76）

ＡＷ～ＢＡ38ライン付近を南北に走る。Ｂ断面より１度の改修が認められる。上部溝（１～５層）は総延長218cmを測る。南端部は調査区外へ延び，北端部はＡＸラインの北約2.5ｍで緩く立上がり終結する。幅92～169cm，底面高はＡ・Ｂ断面で標高105cm前後，Ｃ断面で70cmを測り，両間に大きな落差を示す。下部溝（６～８層）は，ＡＹラインの南50cmから認められる。底面高は標高37～94cmを測り，上部溝同様に南流する。幅は上部溝のため不明だが，幅100cm前後が考えられる。遺物はＡＹライン以南に多量に出土する。土師質椀・皿・鍋・瓦器・輸入陶磁器等の他に土錘・砥石・石鍋・鉄器がある。土師質椀・瓦器椀からは篦ミガキの有無によって時期差の存在も考えられるが，出土状態から両者を分離することはできなかった。同時併存の可能性を考えたい。また上下の溝は検出状況から連続使用された遺構と考えられる。時期は12世紀末～13世紀初頭に属する。



1　暗黄褐色土（焼土・炭含）
2　暗灰褐色土（炭多含，焼土含）
3ａ　暗灰色土（炭多含）
3ｂ　暗灰褐色土
4ａ　暗黄灰色土
4ｂ　暗～黒褐色土（炭・焼土多含）
5　暗黄褐色土
6　暗～黒褐色粘土（炭多含）
7　黒褐色粘土（炭・焼土多含）
8　〃　（〃・〃含）
9　暗黄褐色土（炭多含）

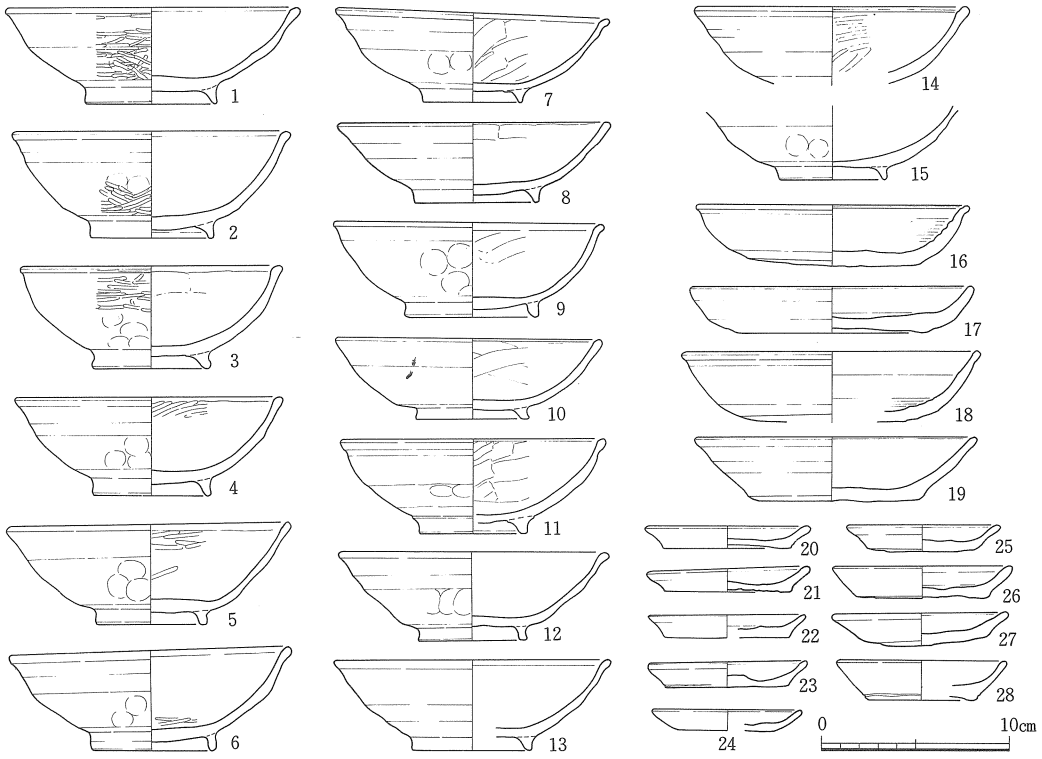




遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
M6	釣針状鉄製品	2.2	2.1	0.7	2	鉄	断面方形，両端ともに折損

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S49	石鍋片	7.2	6.7	1.8	152.2	滑石	底部片，内面には削痕多く折れ面には転用の研磨
S50	砥石	4.3	6.0	2.7	120.0	流紋岩	欠損品，両面・側面に研磨面残る

図296　溝－70，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/2（M6）1/3（S49・50）



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	15.6	7.0	5.1	内面丁寧なナデ，外面ナデ・押圧後篦ミガキ・２次焼成痕	灰白	微砂
2	〃 〃	14.8	6.6	5.7	〃 ， 〃 ・押圧後一部篦ミガキ	淡灰白～黄白	微～細砂
3	〃 〃	13.9	6.3	5.4	内面工具使用ナデ，外面ナデ・押圧後一部篦ミガキ，重ね焼き痕	黄白～灰黒	〃～〃
4	〃 〃	14.2	6.4	5.2	内面丁寧なナデ・一部篦ミガキ，口縁部横ナデ２回，押圧，重ね焼き痕	淡黄白	微砂，細礫㋑
5	〃 〃	15.0	6.0	5.4	〃 ・ 〃 ，外面横ナデ・押圧	〃	〃
6	〃 〃	15.0	6.7	5.5	〃 ・ 〃 ，口縁部横ナデ２回・押圧，重ね焼き痕	〃	〃
7	〃 〃	14.6	5.3	5.0	内面工具使用ナデ，口縁部横ナデ２回・押圧，煤付着	淡灰白	〃，細礫㋑
8	〃 〃	14.5	6.7	4.3	〃 ， 〃 ・〃，２次焼成痕	㈠黄白㈡暗褐	〃，〃〃
9	〃 〃	14.4	7.2	5.1	〃 ， 〃 ・押圧	淡黄白	粗砂
10	〃 〃	14.2	6.0	4.2	〃 ， 〃 ・〃，重ね焼き痕，２次焼成痕	黄白	微砂，細礫㋑
11	〃 〃	14.1	5.8	5.0	〃 ， 〃 ・〃，板目痕	淡黄白	〃
12	〃 〃	14.4	5.8	4.8	内面丁寧なナデ，口縁部横ナデ・押圧，板目痕	淡灰白	〃
13	〃 〃	14.7	6.4	4.8	〃 ，口縁部横ナデ２回・押圧	淡黄褐	微～細砂
14	〃 〃	14.6	－	－	内面篦ミガキに近いナデ・端部に段をもつ，口縁部横ナデ２回，押圧	淡黄白	〃～〃
15	〃 〃	、－	5.7	－	内面工具使用ナデ，外面ナデ・押圧	淡灰白	微砂
16	〃 皿	14.5	9.1	3.3	横ナデ，底部篦キリ後板目痕，ロクロ回転㋐	淡黄褐	〃，精良
17	〃 〃	15.0	9.5	2.5	〃	淡褐	〃，〃
18	〃 〃	15.9	9.5	3.8	〃 ，底部篦キリ後板目痕，内面に煤付着	黄褐	〃，〃
19	〃 〃	15.0	9.0	3.4	〃 ，底部内面仕上げナデ，底部ナデ後板目痕	淡灰褐	〃
20	〃 小皿	8.8	6.8	1.2	〃 ，底部篦キリ後板目痕，ロクロ回転㋐	淡黄褐	〃，雲母
21	〃 〃	8.7	6.7	1.4	〃 ， 〃 ， 〃 〃	黄褐	細砂
22	〃 〃	8.4	6.6	1.2	〃 ，底部篦キリ後ナデ	淡黄白	〃 ㋒，雲母
23	〃 〃	8.4	6.5	1.3	〃 ，底部篦キリ後板目痕，ロクロ回転㋐，内面煤付着	赤～黄褐	微砂㋑，精良
24	〃 〃	8.0	5.0	1.1	〃 ，底部篦キリ，ロクロ回転㋐	淡黄白	微～細砂
25	〃 〃	8.2	5.7	1.4	〃 ， 〃 ， 〃 〃	淡黄褐	微砂，精良
26	〃 〃	9.6	7.0	1.7	〃 ，底部篦キリ後板目痕	淡黄～灰褐	細砂
27	〃 〃	9.4	6.7	1.8	〃 ， 〃 〃 ，ロクロ回転㋐	黄褐	微砂，精良
28	〃 〃	9.1	6.0	2.1	〃 ，底部篦キリ	淡黄褐	細砂㋒

図297　溝－70　出土遺物(2)　縮尺 1/4

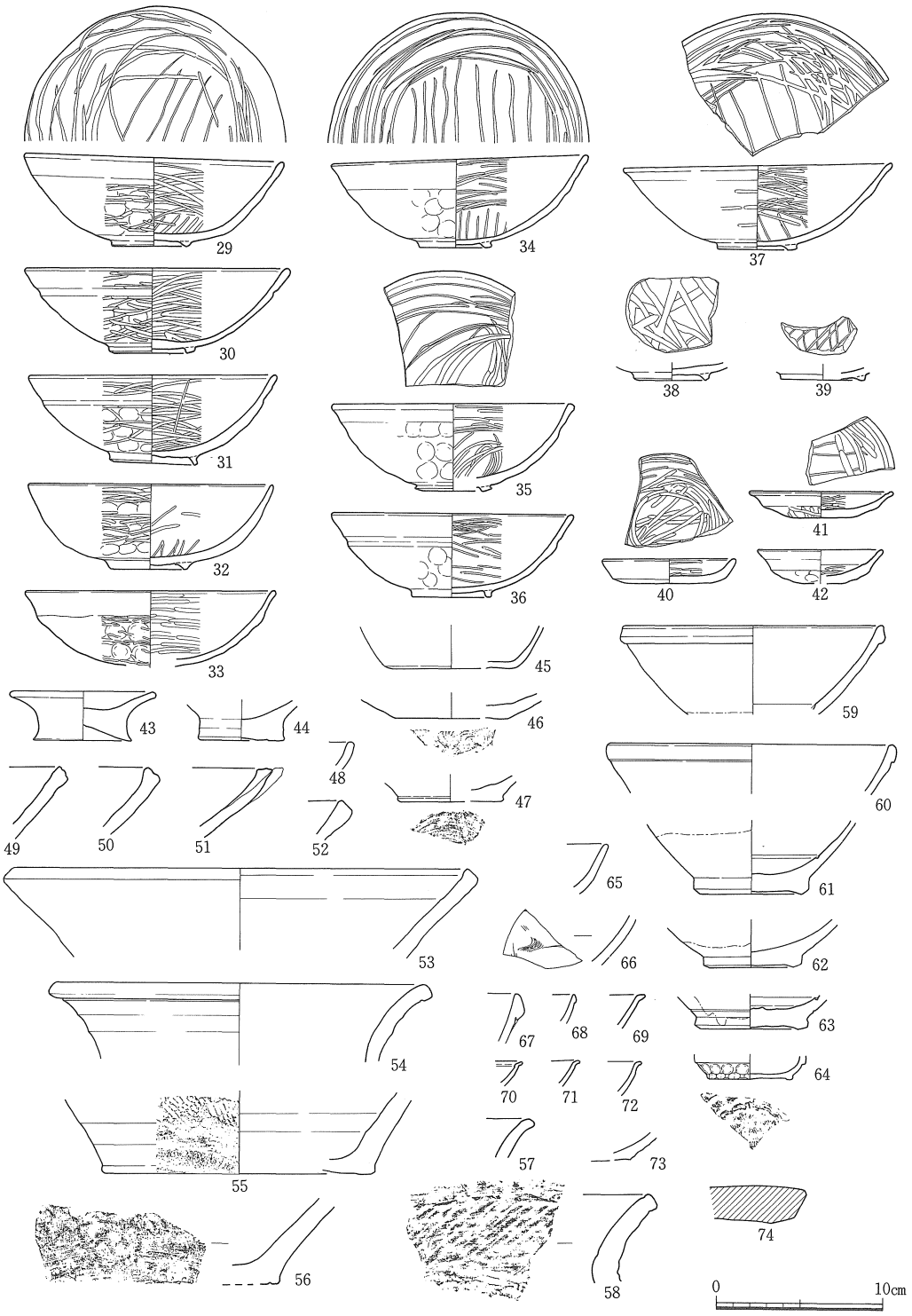
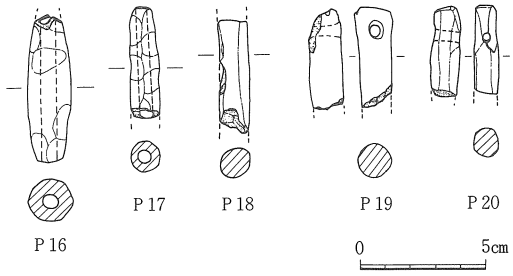


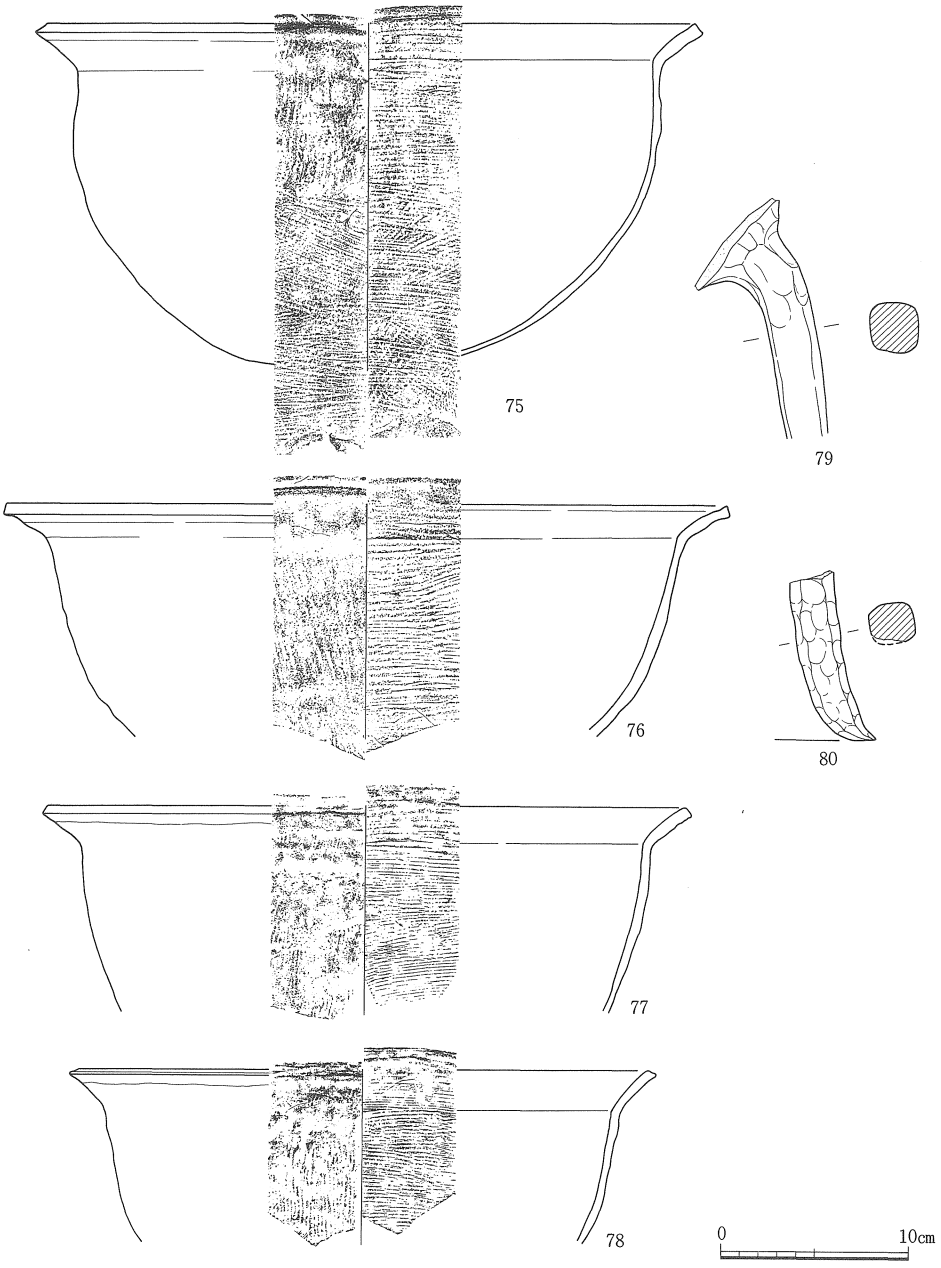
図298　溝－70　出土遺物(3)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P16	土錘	(5.9)	1.6	1.7	14	ナデ	暗灰茶	精良
P17	〃	(4.5)	1.2	1.2	9	〃	赤褐～黄褐	微砂
P18	〃	(4.5)	1.2	1.2	9	〃	暗褐灰	精良
P19	〃	(4.0)	1.3	1.3	10	〃	淡褐灰	〃
P20	〃	(3.4)	1.2	1.1	6	〃	灰褐	〃

遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
29	瓦器 椀	15.6	4.7	5.6	内面ナデ後篦ミガキ，外面押圧後篦ミガキ	銀灰黒	微砂，粗砂㉒
30	〃 〃	16.0	5.1	5.1	〃 ⑳，底部内面平行ミガキ後篦ミガキ	灰黒	〃，〃〃
31	〃 〃	14.9	5.3	5.4	〃 〃，外面押圧後篦ミガキ，口縁部横ナデ後篦ミガキ	〃	〃，〃〃
32	〃 〃	14.7	4.6	5.1	〃 ⑩，口縁部横ナデ後篦ミガキ	内銀灰外銀灰黒	〃 ㉕，細密
33	〃 〃	15.1	—	—	〃 ，外面押圧後篦ミガキ	青灰	〃 ，粗砂㉒
34	〃 〃	15.4	4.4	5.3	〃 ，外面押圧，外面煤付着	灰～黒	〃 ⑯
35	〃 〃	14.6	4.7	5.2	〃 ， 〃	灰黒	〃 ㉒
36	〃 〃	14.6	4.8	5.0	〃 ， 〃	〃	〃
37	〃 〃	16.1	4.7	5.2	〃 ， 〃 後篦ミガキ⑳	灰	〃
38	〃 〃	—	4.5	—	〃 ，外面横ナデ・高台内は押圧，張付け高台	淡黄褐	〃 ，粗砂㉒
39	〃 〃	—	5.0	—	〃 ， 〃 ，2次焼成痕	黄褐～淡赤褐	細砂
40	〃 小皿	8.1	5.0	1.5	〃 ， 〃 ・下半は押圧	淡灰	微砂
41	〃 〃	8.7	3.8	1.6	内面口縁部に段が巡る，ナデ後篦ミガキ，外面下半押圧後篦ミガキ	灰	〃
42	〃 〃	7.6	2.9	2.0	ナデ，底部内面篦ミガキ㉓，外面の下半は押圧	淡黒	微～細砂㉒
43	土師質 杯	8.7	5.9	3.0	内外面横ナデ，底部篦キリ，ロクロ回転㊱	淡黄白	細砂
44	〃 〃	—	5.2	—	〃 ， 〃 ， 〃 ㊱	淡黄褐	〃
45	須恵質 椀	—	8.0	—	〃 ，上端は重ね焼きによる黒色化	(黄)白	微砂
46	〃 〃	—	6.8	—	〃 ，底部糸キリ	淡灰白	〃 ㉕，精良
47	〃 〃	—	6.4	—	〃 ， 〃	灰白	〃 〃
48	〃 〃	—	—	—	〃 ，口縁端部重ね焼きによる黒色化	青灰	〃 ⑱，精良
49	〃 鉢	—	—	—	〃 ， 〃	〃	細～粗砂㉓
50	〃 〃	—	—	—	〃 ， 〃 ，「東播系」	〃	細砂㉓，白色粒子
51	〃 〃	—	—	—	〃 ，片口部あり，「東播系」	暗灰	〃 〃，〃
52	〃 〃	—	—	—	〃 ，口縁端部重ね焼きによる黒色化，「東播系」	青灰	〃 〃，〃
53	〃 〃	27.2	—	—	内面横ナデ・下半は斜めのナデが加わる，口縁部重ね焼きによる暗色化	灰	粗砂～細礫
54	〃 壺	22.0	—	—	〃 ，内面自然釉	淡灰	微～細砂
55	〃 甕	—	16.3	—	内面強い横ナデ，外面下半篦ケズリ，上半格子タタキ，底部未調整	内暗青灰外暗灰	〃～〃
56	〃 〃	—	—	—	〃 ，外面篦ケズリ	内紫灰外黒灰	〃～〃
57	〃 壺	—	—	—	横ナデ	淡灰	細砂
58	〃 〃	—	—	—	内面横ナデ，外面平行タタキ	〃	粗砂
59	白磁 碗	15.6	—	—	高台の少し上まで施釉，貫入あり，内底に沈線1条，釉はやや質が落る	淡灰白(釉)淡緑	微砂⑱，精良
60	〃 〃	17.0	—	—	全面に施釉⑲，釉はやや質が落る	白 (釉)淡緑	〃 〃，〃
61	〃 〃	—	6.9	—	全面施釉，沈線1条，外面篦ケズリ，ケズリ出し高台・上半のみ施釉	白 (釉)緑白	〃 ， 〃
62	〃 〃	—	5.9	—	内面ナデ，全面施釉，外面篦ケズリ上半に施釉，釉はやや質が落る	白 (釉)淡灰白	〃 ⑱，〃
63	〃 〃	—	6.8	—	全面施釉，沈線1条，外面篦ケズリ，高台にかけて施釉・沈線1条	淡灰白(釉)淡緑	〃 〃，〃
64	〃 合子	—	5.1	—	施釉は高台内以外，釉に黒色粒子混入，口縁・底部輪花，底部刻印あり	淡灰(釉)灰	〃 ㉒，〃
65	青磁 碗	—	—	—	内外面ナデ・施釉	灰 (釉)暗緑灰	〃 ⑱，〃
66	〃 〃	—	—	—	〃 ・〃・内面文様あり，「龍泉窯系」	淡灰(釉)淡緑灰	〃 〃，〃
67	白磁 碗	—	—	—	〃 ・〃	白 (釉)淡緑	〃 〃，〃
68	〃 〃	—	—	—	〃 ・〃，釉の質は悪い	白	〃 ㉒，〃
69	〃 〃	—	—	—	〃 ・〃	〃	〃 ⑱，〃
70	〃 〃	—	—	—	〃 ・〃，貫入	白 (釉)淡緑	〃 〃，〃
71	〃 〃	—	—	—	〃 ・〃，〃	白 (釉)淡黄緑	〃 ⑱，〃
72	〃 〃	—	—	—	〃 ・〃	白 (釉)淡黄白	〃 〃，〃
73	褐釉	—	—	—	〃 ，底部篦ケズリ，内面のみ施釉，外面煤付着	内茶褐外灰褐	〃 ㉒，精良
74	平瓦	—	—	—	内外面ケズリ	灰	微～細砂，精良

図299 溝－70 出土遺物(4) 縮尺 1/3



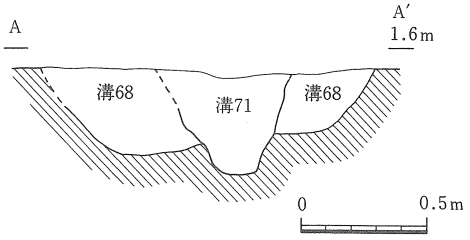
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
75	土師質 鍋	34.5	—	18.4	内面横位のハケ，外面上半は縦位のハケ・下半は横位のハケ，煤付着多量	茶褐	微砂，雲母
76	〃 〃	38.2	—	—	〃 ，外面縦位ハケ・押圧	〃	〃 ，〃
77	〃 〃	33.9	—	—	〃 ，〃 ・〃 ，煤付着多量	(暗)茶褐	微～細砂
78	〃 〃	30.2	—	—	〃 ，外面縦位ハケ後押圧，〃	内暗灰褐外黒褐	細砂
79	〃 支脚	—	—	—	内外面ナデ・押圧，鍋内面部はハケ，外面煤付着，断面方形	茶褐	〃 ，雲母
80	〃 〃	—	—	—	押圧，外面煤付着，断面方形	淡黄褐～暗褐	〃 ㊟

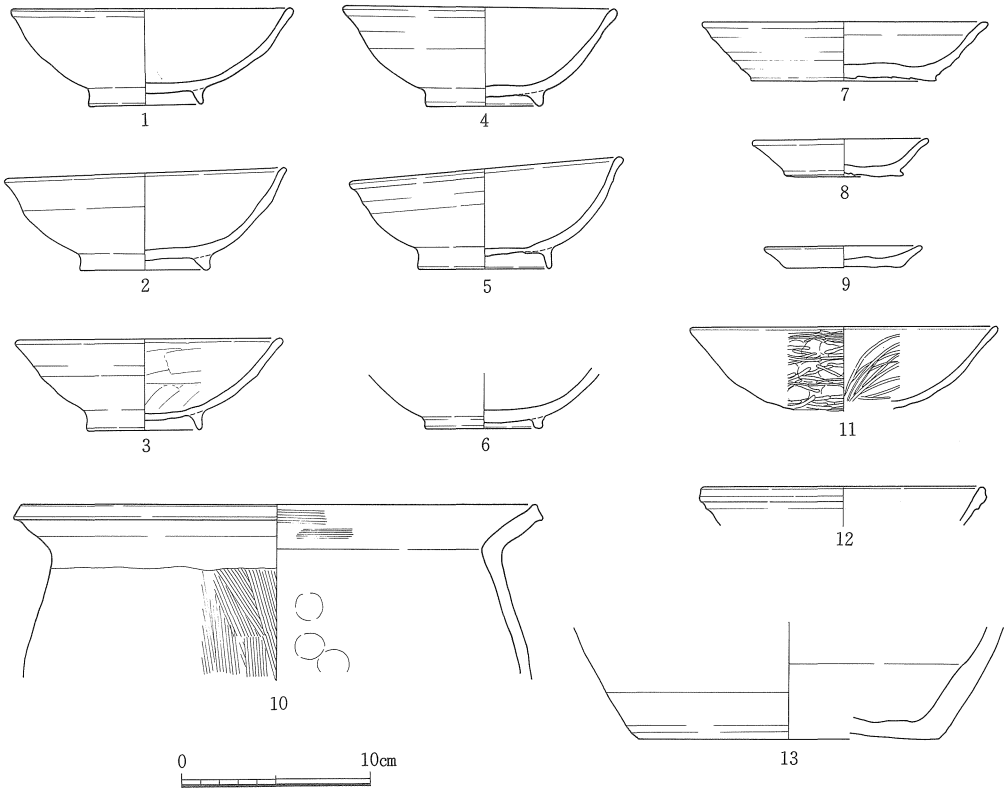
図300　溝－70　出土遺物(5)　縮尺 1/4

溝－71（図262・301・302，図版70・71・76）

ＢＣ29～34区に位置する。ＢＤラインの北100～200cmに東西に走る総延長23ｍが検出された。東端部分は後世の大きな攪乱穴によって切断されているが，西端部分と同様に調査区外へ延びる。

遺構検出面は，平面調査においては，31ライン以





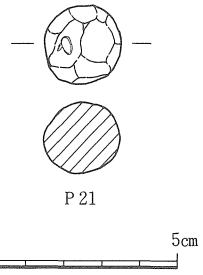
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	土師質 椀	15.0	6.1	5.3	内外面ナデ，２次焼成痕	内)灰白外)暗褐	細砂
2	〃 〃	14.9	7.0	5.4	内面丁寧なナデ，外面押圧	淡黄白	〃
3	〃 〃	14.2	6.2	4.8	内面工具使用ナデ，外面ナデ・口縁部横ナデが２回	〃	微～細砂㉖
4	〃 〃	14.5	6.3	5.3	内面ナデ，外面押圧，口縁部横ナデ２回，２次焼成痕	淡黄～灰白	微砂㉖
5	〃 〃	14.5	7.1	5.9	〃 ，〃 ，〃	暗褐～淡灰褐	微～細砂㉖
6	〃 〃	－	6.2	－	内外面ナデ	淡黄白	〃～〃〃
7	〃 皿	15.1	9.8	3.2	〃 ，底部篦キリ，ロクロ回転㊧，内面底部重ね焼き痕	明黄褐	微砂㉖
8	〃 小皿	9.3	6.3	2.0	〃 ，〃 ，〃〃	淡黄褐	〃
9	〃 〃	8.4	6.0	1.2	〃 ，〃 ，板目痕	明赤褐～黄褐	〃 ㉗
10	〃 甕	27.2	－	－	内面ナデ・押圧，口縁部内面ハケ，外面ハケ	内)暗褐外)暗赤褐	細砂㉖
11	瓦器 椀	16.3	－	－	内面ナデ後篦ミガキ，外面押圧後篦ミガキ	銀青灰	〃 ㉗，精良
12	白磁 碗	14.8	－	－	内外面ナデ，全体にオリーブ色の釉が厚くかかる	淡(灰)白	微砂㊽，〃
13	須恵質 甕	－	16.0	－	内面横ナデ，外面上半ナデ・下半篦ケズリ，底部ナデ	暗青灰	細砂

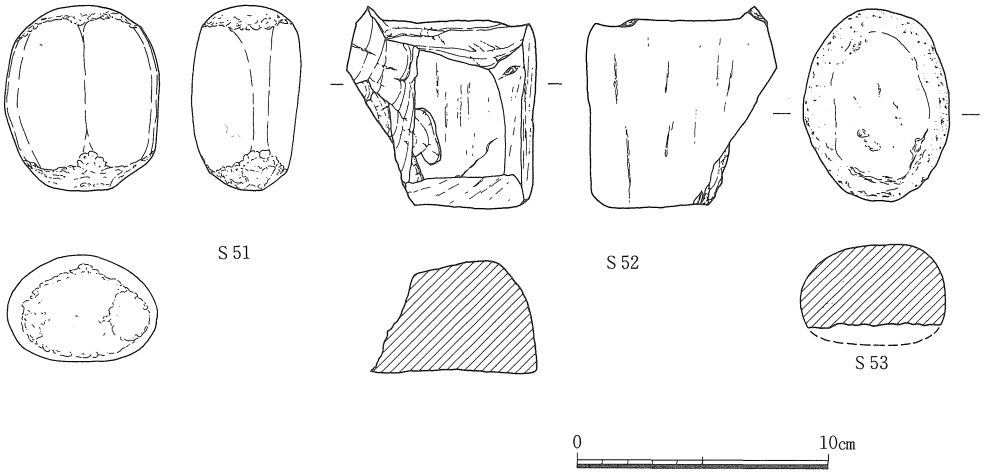
図301　溝－71　出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4

東で標高135cm，以西で標高130cmで，溝の幅は20～30cmを測る。また，31ラインにおける調査区全体の土層断面観察からは，標高150cmに掘り込み面が求められる。掘り方断面は逆台形を呈し，底面は深さ40cm，標高110cmの高さに位置する。西端部での底面高は標高105cmを測り，15ｍで５cmの落差を示し，西流していたことが認められる。上面での幅は約50cmである。埋土は炭化物を少し含む灰褐色粘質土の単一土層である。

遺物としては，土師質椀（１～６），皿（７～９），瓦器椀（11），白磁碗（12），土玉（P21），砥石（S52），敲石（S51），磨石（S53）があげられるほか獣骨も出土している。また，完形に近い須恵器も出土するが，これは本溝の西半部，32ライン以東に古代の溝68が下層に重複しているためである。

時期は土師質椀の外面の篦ミガキが消失していること，口径の大きさ等から，前述の溝70とほぼ同時期と考えられる。12世紀末～13世紀初頭に比定される。（山本）





遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P21	土玉	2.1	2.0	1.9	7	ナデ，やや面取り有り	黄褐	微砂

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S51	敲石	7.5	6.2	4.3	305.0	流紋岩	両端敲打痕，両面に磨面
S52	砥石	8.0	7.6	4.6	350.0	粘板岩	欠損品，残存各面研磨面
S53	磨石	7.6	5.7	4.0	205.0	花崗岩	欠損品，周縁部磨面

図302　溝－71　出土遺物(2)　縮尺 1/2（P21）・1/3（S51～53）

(9) 近世の遺構

当時期に伴う遺構は畦畔・溝２条・井戸１基・野壺状遺構７基・土壙４基がある。また，調査区内では南北で比高差のある水田面が検出された。北側の水田面は調査区内で鍵手状に削り出された微高地部となる。南側の水田面は，上段水田面と比高差約40㎝の段があり，やや湿低地気味の水田となっている。上段の検出面は標高185㎝前後，下段は150㎝前後である。

溝は調査区東端に２条が平行して南流する。溝64のＢＢ28区内においては溜り状部分が検出され，また，それに付随して西へ向う細い引水溝の存在も確認された。用水路の機能を有す溝64・66から引水溝によって下段水田へ接続される状況が想定される。溝64の西側には，井戸・野壺が並ぶ。井戸34は上段部際に位置し径約140㎝の円形プランを持ち，底面は深さ272㎝・標高－70㎝を測る。野壺２～５は桶枠をもち，水田東端に約５ｍの間隔で設けられている。野壺状遺構７は径160㎝の楕円形を呈し，深さ83㎝を測る。形態的には野壺１～５と同様の状態が認められるが，土層堆積状況から東側の野壺群とは別の性格を持つ可能性が高い。掘り方底面からは，近世に位置付けられる完形の灯明皿が出土している。 (山本)

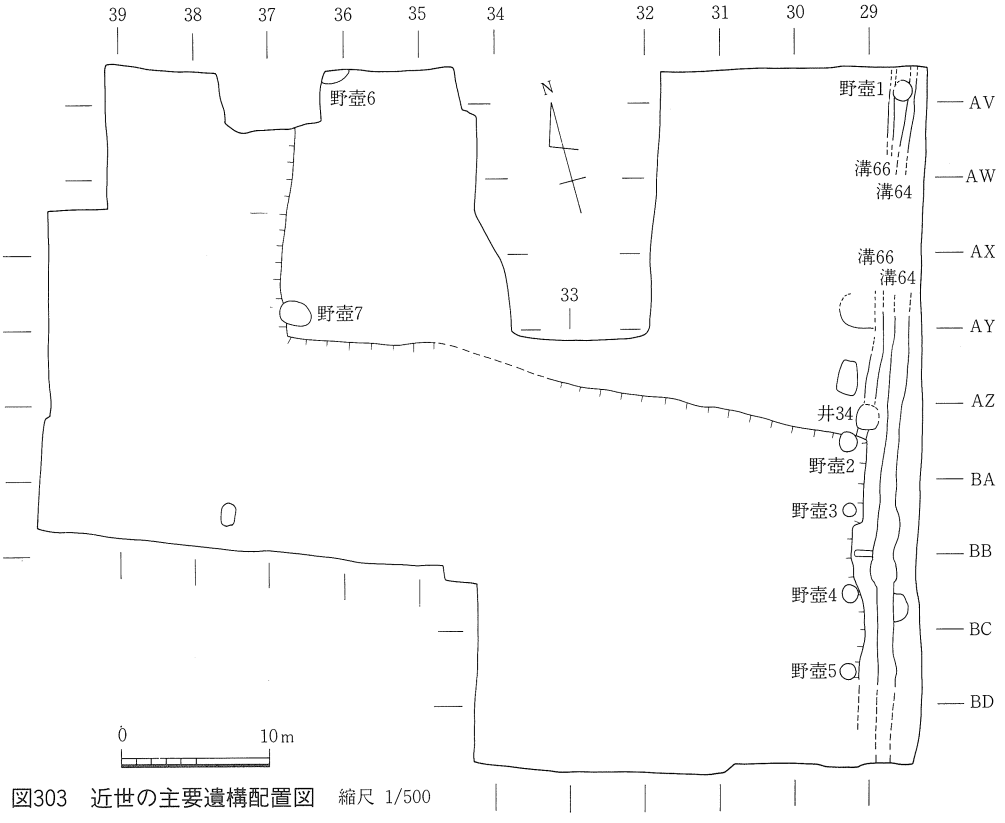
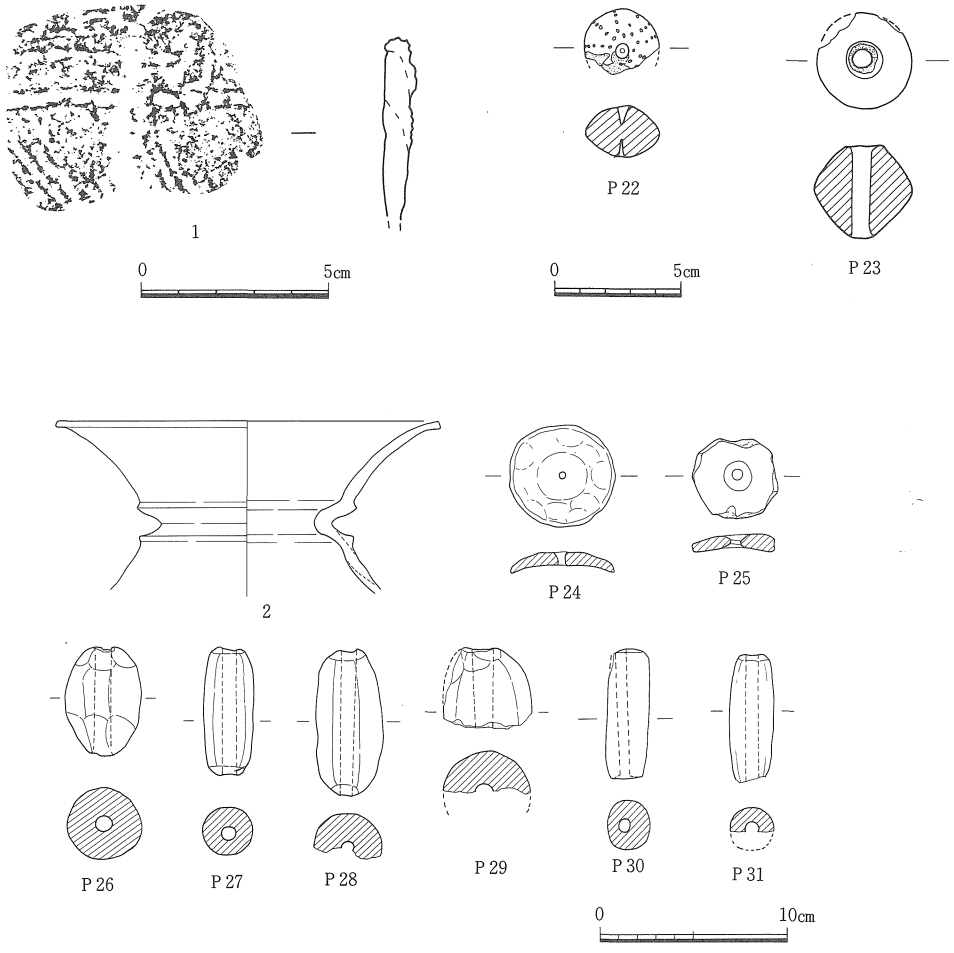


図303　近世の主要遺構配置図　縮尺 1/500

⑽　その他の出土遺物

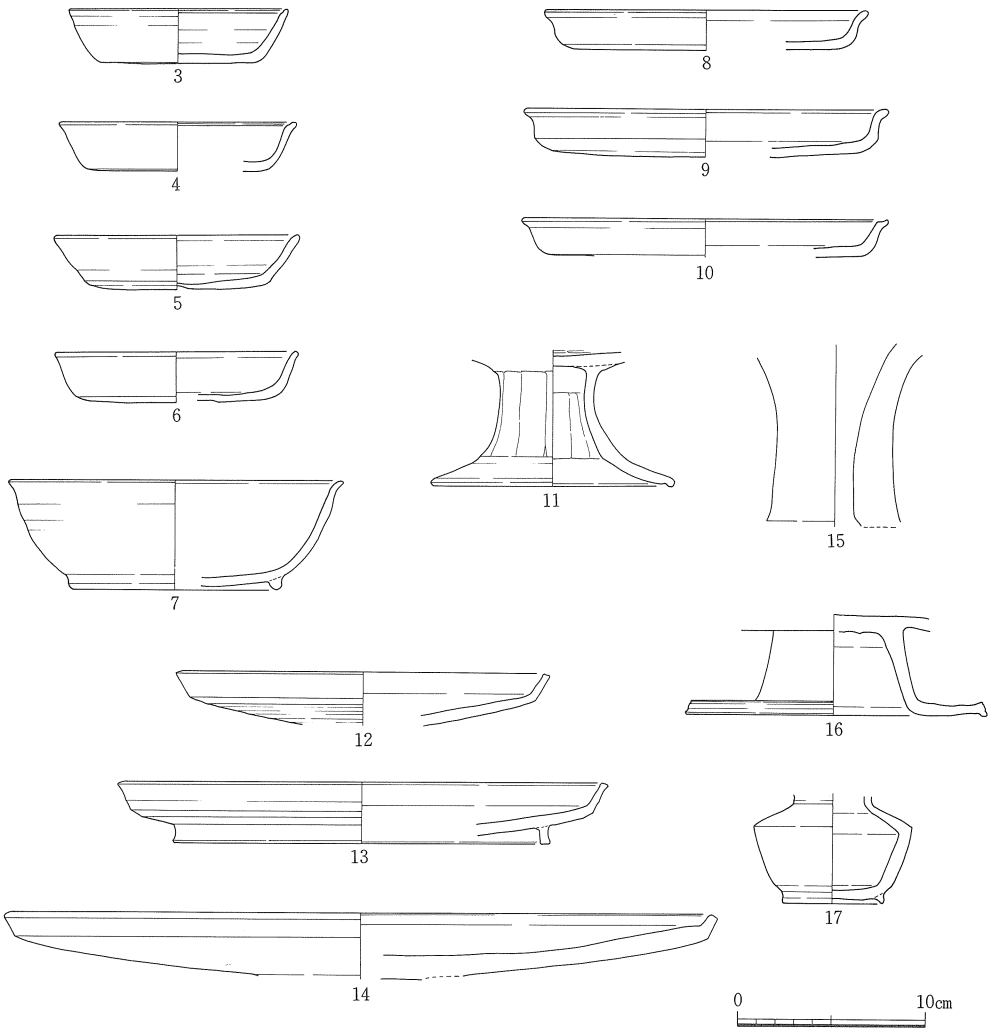
a．土器・土製品（図304～306，図版77・75）

縄文土器（1）は土壙28から出土している。内面は押圧気味のナデが，外面にはＲＬ縄文が施される。口縁部には低い刻み目凸帯が認められる。黒灰色を呈し，１～２㎜の砂礫を含む。



遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	出土地点	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P 22	土玉	－	3.0	2.0	14	土237	丁寧なナデ，両面に刺突文が旋される	暗茶褐	微砂
P 23	〃	3.7	3.9	3.7	44	AZ29区	〃　，片面穿孔部打ち欠き	黒灰褐	細～粗砂
P 24	紡錘車	5.5	5.5	0.7	24	土360	高杯の円盤を再利用，上面ナデ，下面篦ミガキ	明褐	微～細砂
P 25	〃	4.5	4.2	0.8	17	包	磨滅で不明	明褐～灰	細砂⑩
P 26	土錘	5.9	4.0	3.8	80	〃	押圧，黒斑	明赤褐	微砂㉕，精良
P 27	〃	6.7	2.7	2.5	50	〃	ナデ，〃	明黄褐	微砂
P 28	〃	7.8	3.6	－	68	〃	〃	明赤褐	〃 ㉕，精良
P 29	〃	－	4.6	－	43	〃	押圧	黄褐	〃 ⑯，水漉粘土
P 30	〃	7.0	2.3	2.6	42	〃	ナデ，黒斑	明褐	〃 ⑯，精良
P 31	〃	－	2.4	－	21	〃	ナデ	明灰褐	微～細砂㉓

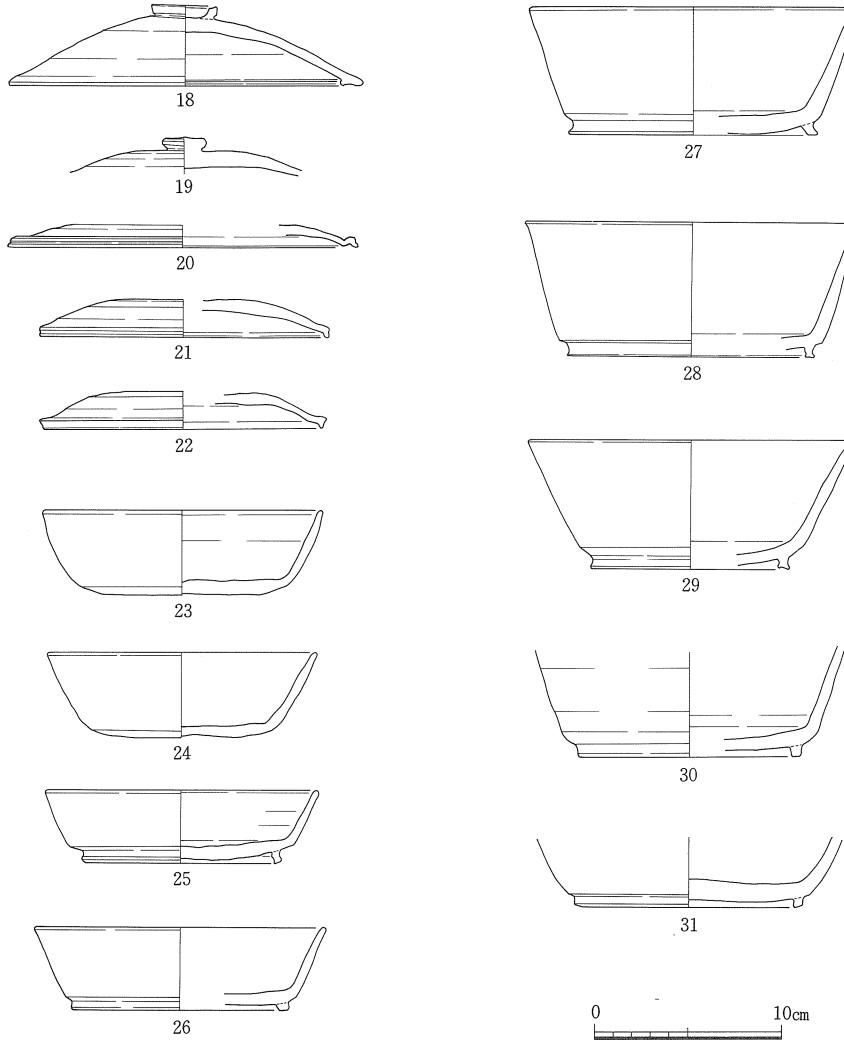
図304　その他の出土遺物(1)　縮尺 1/2（1）・1/3・1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	出土地点	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	深鉢	—	—	—	土28	縄文土器，RL縄文，口縁部に貼付け凸帯，内面ナデ・押圧	黒灰	粗砂～細礫㊎
2	鼓形器台	20.3	—	—	包	内外面強い横ナデ	淡乳黄褐	細砂㊎

遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	出土地点	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
3	土師器 杯	11.7	8.5	2.9	包	底部押圧・ナデ，全面丹塗り，口縁部内面に沈線1条	黄褐，(丹)赤褐	細砂，金雲母
4	〃 〃	12.7	9.6	2.6	〃	丹塗り	〃，〃	〃，〃
5	〃 〃	13.1	9.2	2.9	〃	底部押圧・ナデ，丹塗り	〃，〃	〃，〃
6	〃 〃	13.0	10.0	2.7	〃	〃・〃，〃	〃，〃	微砂㊎
7	〃 〃	17.8	11.2	5.8	〃	底部外面押圧・ナデ，丹塗り	〃，〃	細～粗砂
8	〃 皿	17.2	14.7	2.2	〃	〃 ハケ後ナデ	〃，〃	微砂
9	〃 〃	19.3	16.5	2.5	〃	丹塗り	淡黄褐，(丹)赤褐	〃，金雲母
10	〃 〃	19.5	17.1	2.0	〃	〃	〃，〃	〃，〃
11	〃 高杯	—	13.0	—	〃	杯部内面篦ミガキ，脚部外面10角形の面取り，丹塗り	黄褐，(丹)赤褐	細～粗砂㊎，雲母
12	須恵器 皿	20.0	—	—	〃	外面篦ケズリ，ロクロ回転㊧	灰白	微～細砂
13	〃 〃	26.2	20.2	3.3	〃	〃，内面底部ナデ・炭付着，ロクロ回転㊧	灰	〃～〃
14	〃 〃	37.6	—	—	〃	全体磨滅で不鮮明，高台付き	淡灰	微砂㊎
15	〃 壺	—	—	—	〃	ナデ	〃	微～細砂㊎
16	〃 高杯	—	16.1	—	〃	〃	〃	微砂㊎
17	〃 壺	—	5.4	—	〃	〃，自然釉，ロクロ回転㊧	暗青灰	〃 ㊍

図305　その他の出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	出土地点	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
18	須恵器杯蓋	17.0	—	4.3	包	天井部内面仕上げナデ，自然釉	淡灰	微砂
19	〃 〃	—	—	—	〃	つまみ部横ナデ，外面篦ケズリ，ロクロ回転㊧	灰	微～細砂
20	〃 〃	18.6	—	—	〃	ナデ	〃	〃～〃
21	〃 〃	15.4	—	—	〃	外面上半篦ケズリ	暗茶褐	粗砂
22	〃 〃	14.9	—	—	〃	〃 ，天井部内面仕上げナデ，外面自然釉	淡灰	微～細砂
23	〃 杯身	15.0	8.1	4.5	〃	底部外面篦キリ	暗灰	細砂㊂
24	〃 〃	14.4	9.3	4.6	〃	〃	㈠白㈡灰白	微砂
25	〃 〃	14.6	10.6	3.9	〃	底部外面篦ケズリ，ロクロ回転㊧	淡灰	細砂
26	〃 〃	15.5	11.6	4.4	〃	〃 後ナデ	㈠淡灰㈡暗青灰	微砂
27	〃 〃	17.5	13.2	6.8	〃	ナデ	暗青灰	〃
28	〃 〃	17.8	13.2	7.2	〃	ナデ	青灰	〃
29	〃 〃	17.4	10.6	6.8	〃	〃 ，底部外面篦ケズリ	〃	〃 ㊃
30	〃 〃	—	11.9	—	〃	底部外面篦ケズリ，ロクロ回転㊧	〃	〃
31	〃 〃	—	12.2	—	〃	〃 ，〃 〃	㈠淡灰㈡暗青灰	微～細砂

図306　その他の出土遺物(3)　縮尺 1/4

縄文時代中期前半，船元Ⅱ式の範囲に考えられる。

その他に，縄文～弥生時代前期の遺物としては，土壙268-14の縄文後期土器（図111），井戸20-19の縄文晩期土器（図258），土壙192-16（図32）・土壙109の弥生前期土器が挙げられるが，いずれも土器自体の磨滅は進んでいない。

次に，包含層中からの遺物は弥生時代中期後半から古墳初頭の遺物が特に多い。特異な遺物は少ない。その中では，手焙り形土器・鼓形器台などがあるが，小片のため図化不可能なものが多く，完形に近い鼓形器台（図304-２）のみをあげた。また，時期の新しい遺物としてはＢＣ・ＢＤ・31・32区から出土した土師器（図305-３～11）・須恵器（図305-12～17・図306-18～31）がある。８世紀後半から９世紀の時期が想定される。それらは，かなり集中して出土しており，出土地点の下方には古代の溝68が存在することから，当溝に伴う可能性が想定される。

土製品としては玉・紡錘車・土錘がある。全体的に土製品の出土は少ないが，その中で土錘の出土数は各時期を通じて多く，注目に値する。

土玉Ｐ22は土壙237から出土している。全面に径・深さとも１㎜程度の小さい刺突文が中心から放射状に施される。中央の孔は未貫通である。把手部全面にやはり刺突文を有すカップ形土器を伴う。時期は鹿田・後・２期である。土玉Ｐ23はＡＺ29区の柱穴から出土している。全面を丁寧なナデで仕上げている。弥生時代の遺物である。

紡錘車Ｐ24は土壙360からかなりまとまった遺物と共に出土した。高杯の円盤充塡部分の再利用と考えられる。穿孔は両面からである。時期は鹿田・中・３期に含まれる。Ｐ25は弥生時代包含層から出土している。赤褐色の水漉粘土を利用している。

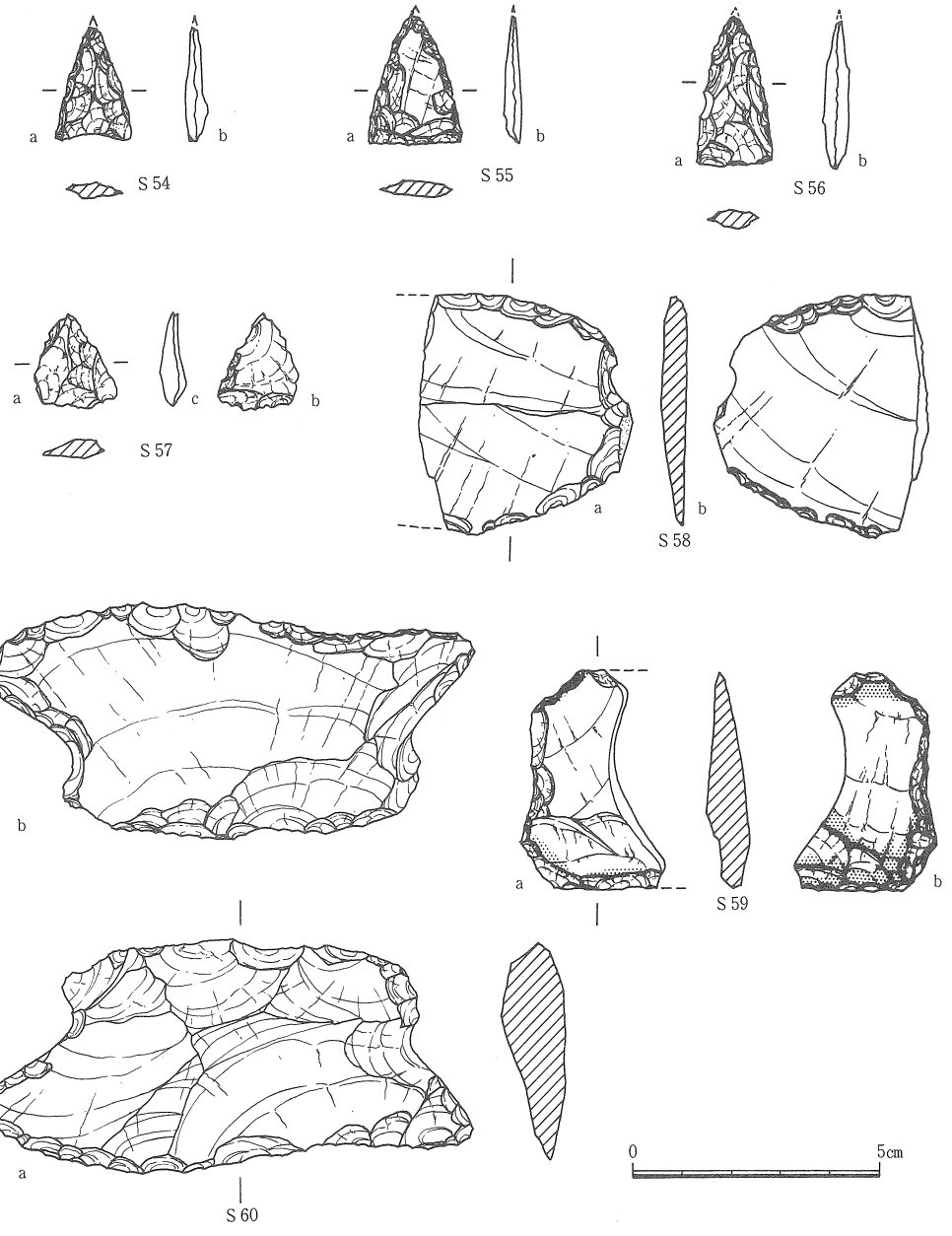
土錘はＰ26～30が弥生時代後期に，そして，Ｐ31が中世に含まれる。　（山本）

ｂ．石器（図307～311，図版78～81）

ここでは先に取り上げた遺構以外からの出土遺物について説明する。所属時期は全て弥生～古墳時代初頭に含まれる。細分可能なものについては次のようになる。鹿田・中・３期にＳ'55・58・62・65，鹿田・後・２期にＳ59・67・68・76，鹿田・後・３期にＳ64・73～75，鹿田・後・４期にＳ78・79，鹿田・古・１期にＳ66が属す。また，Ｓ71とＳ72，Ｓ74とＳ75は各々共伴している。

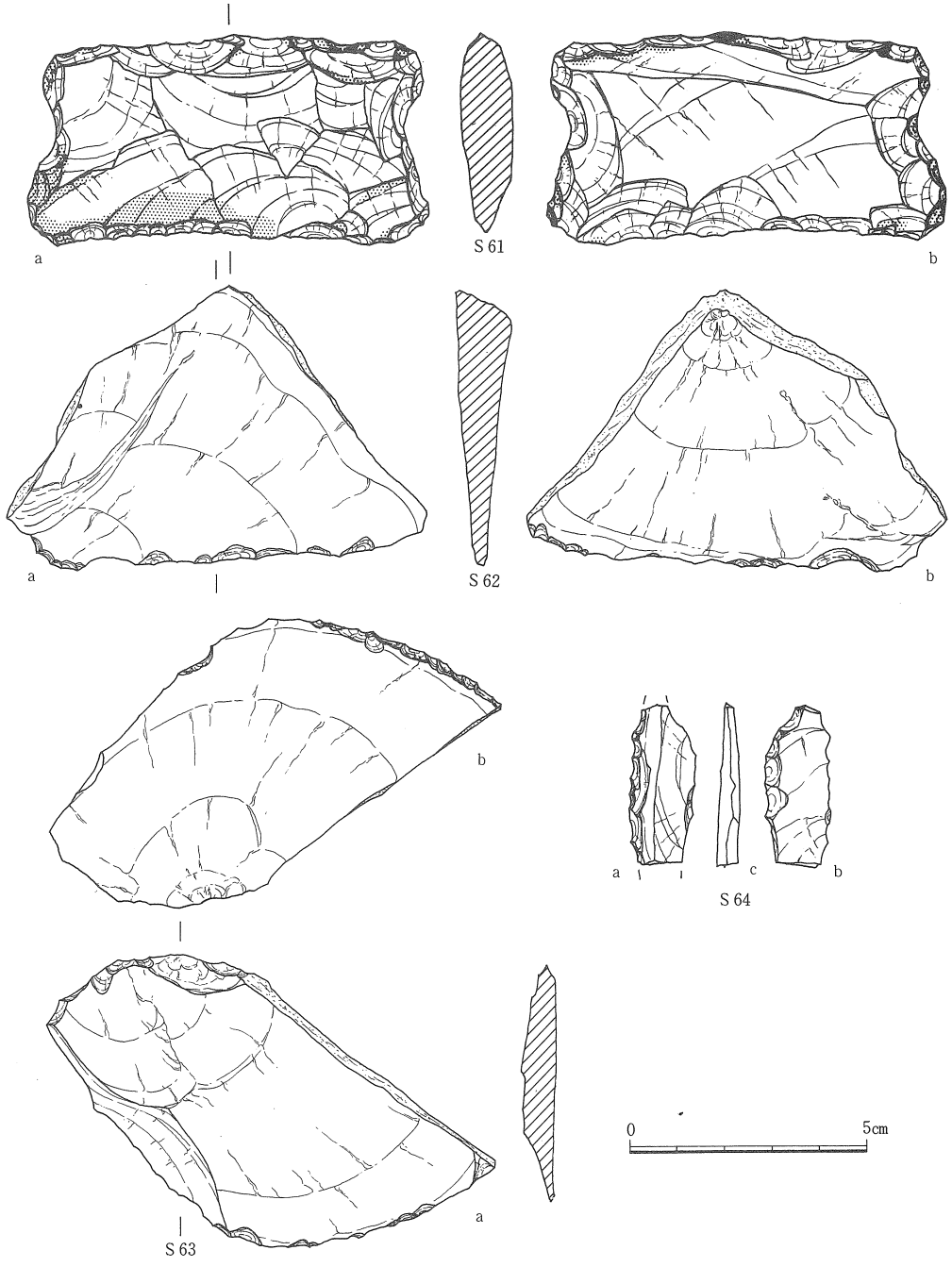
石鏃（Ｓ54～57）　Ｓ54～57はいずれもサヌカイト製の打製石鏃である。Ｓ54は浅い凹基，Ｓ55・56は平基を呈し，いずれもやや細身の形態を示している。Ｓ57もやや不整ではあるが，平基鏃である。Ｓ55にはａ面に素材の剝離面を残すが，他の石鏃はいずれも全面に二次加工が施されている。

打製石庖丁（Ｓ58～61）　Ｓ58・59は欠損品であるが，いずれも横長剝片素材と推定される。共に周辺部に両面から二次加工が施され，残存する側縁には抉りが作出されている。Ｓ60・61



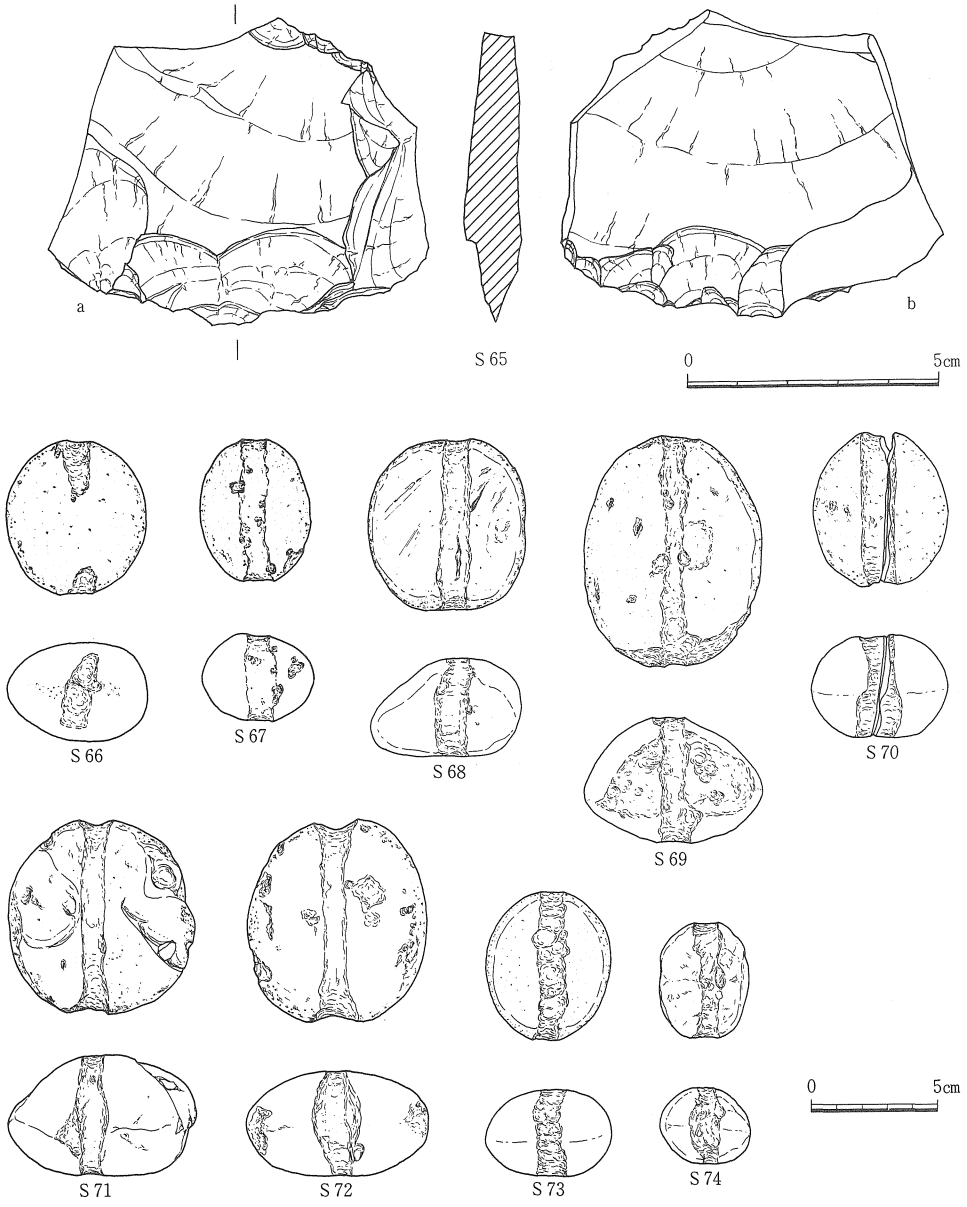
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	出土地点	特徴
S 54	石鏃	2.3	1.5	0.2	2.0	サヌカイト	AX37区ピット	両面全面二次加工
S 55	〃	2.6	1.9	0.4	2.0	〃	BC30区 〃	a面に素材面を残す
S 56	〃	3.0	1.6	0.5	3.0	〃	包	両面全面二次加工
S 57	〃	1.9	1.8	0.5	1.0	〃	包	両面全面二次加工
S 58	打製石包丁	4.9	4.3	0.6	17.0	〃	土356	横長剝片素材，周縁部両面二次加工，側面自然面残す
S 59	〃	5.0	2.8	0.9	10.0	〃	土114	横長剝片素材，周縁部両面二次加工，刃部磨耗著しい
S 60	〃	4.5	9.9	1.2	56.0	〃	包	横長剝片素材，両側抉り，周縁部両面二次加工，端部一部つぶれ

図307　その他の出土遺物(4)　縮尺 2/3



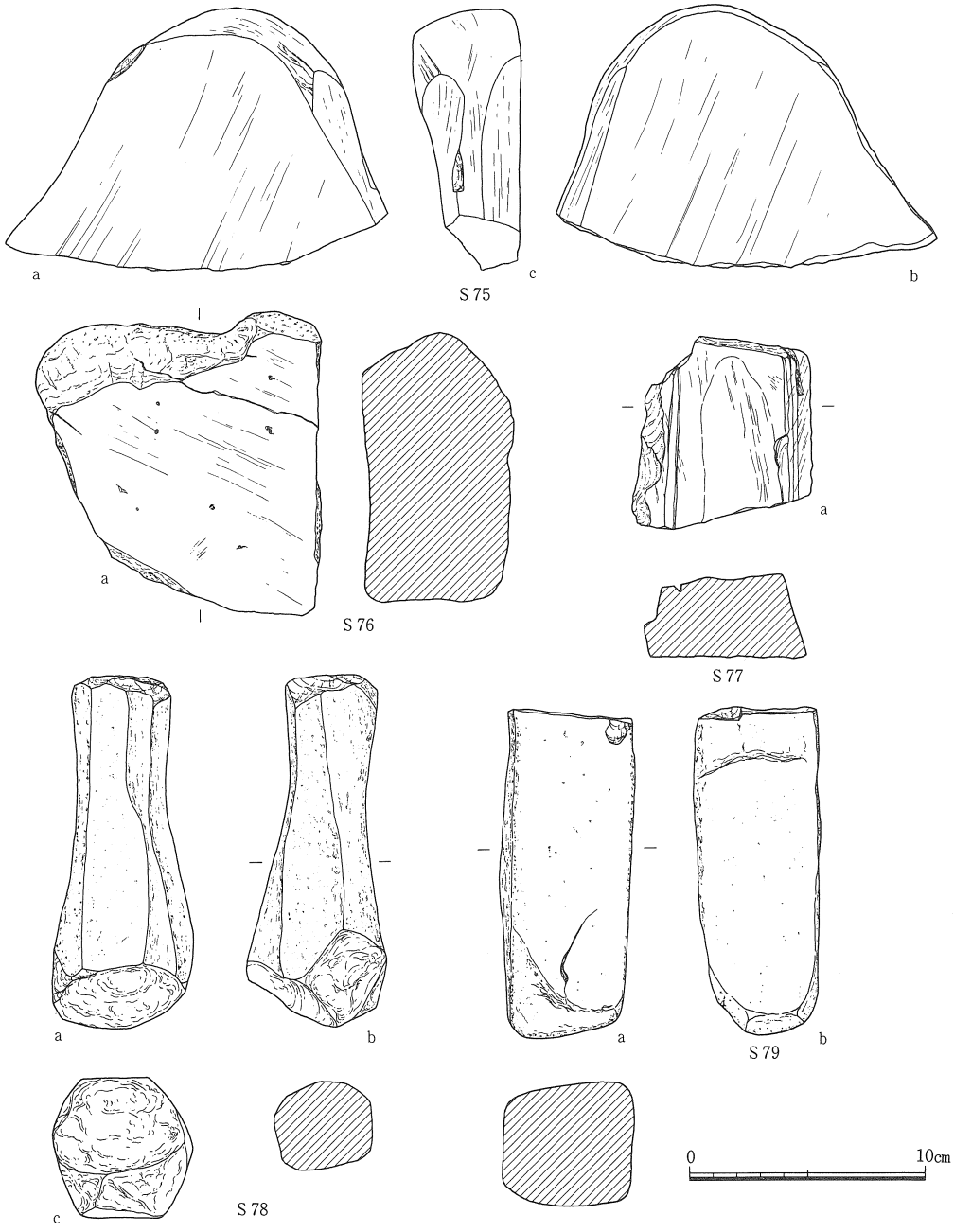
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	出土地点	特徴
S61	打製石包丁	4.4	8.5	1.1	64.0	サヌカイト	包	横長剥片素材，両側抉り，周縁部両面二次加工，刃部表面磨耗著しい
S62	微小剥離痕ある剥片	5.7	8.8	1.0	46.0	〃	土286	自然面稜上加撃，末端両面微小剥離痕
S63	〃	10.0	5.7	1.0	43.0	〃	包	点状打面末端両面微小剥離痕，表面ポジ面，側縁自然面残る
S64	スクレイパー	3.5	1.4	0.5	3.0	〃	AZ35区ピット	横長剥片素材，末端両面二次加工，基端主に表面二次加工

図308　その他の出土遺物(5)　縮尺 2/3



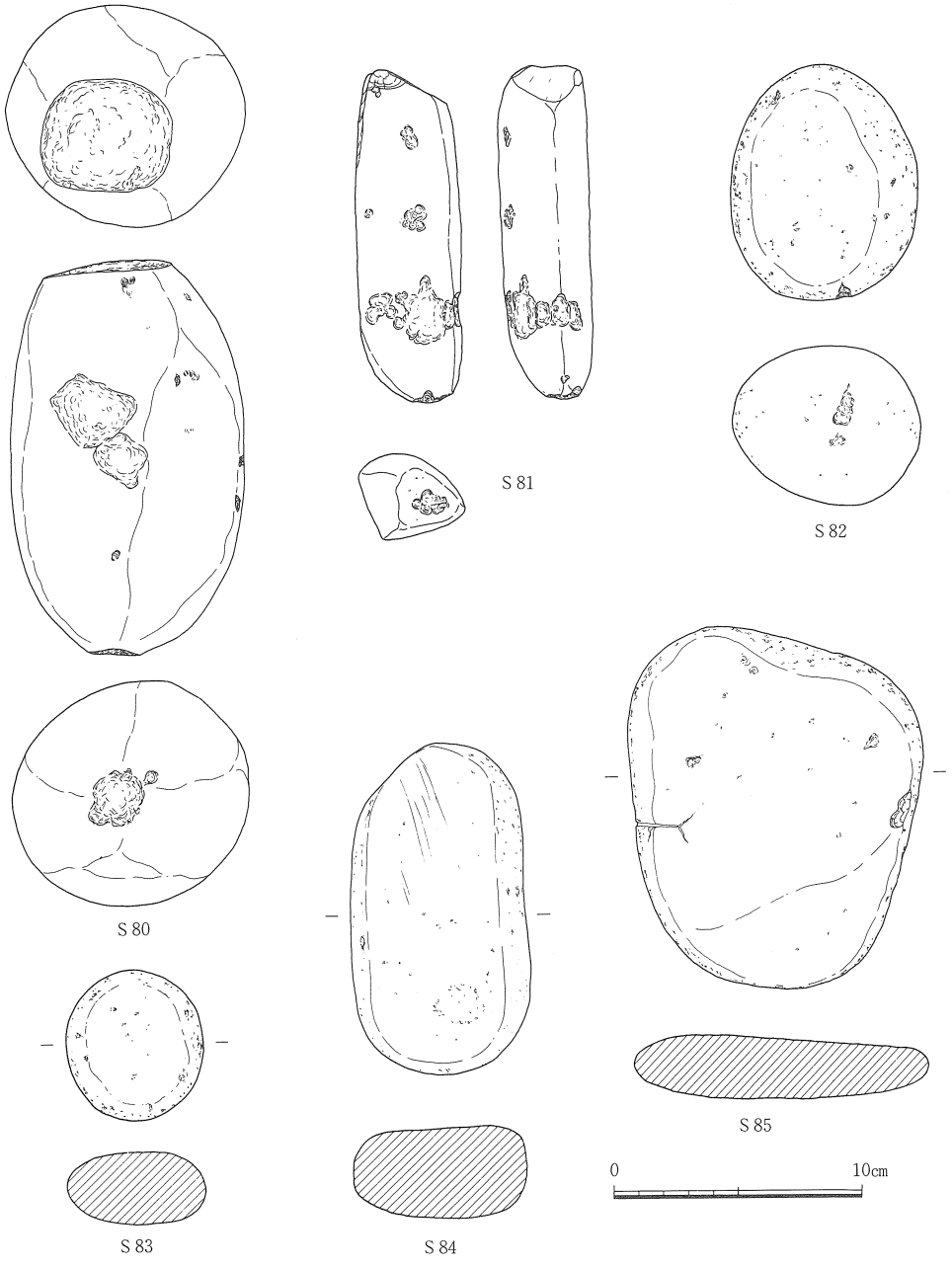
遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	出土地点	特徴
S 65	スクレイパー	6.1	7.6	1.1	57.0	サヌカイト	AZ37区ピット	三縁辺折り取り，刃部両面粗雑な二次加工
S 66	石錘	6.0	5.6	3.9	188.8	玢岩	土246	長軸両端に敲打による溝
S 67	〃	5.6	4.4	3.5	116.80	細粒花崗岩	土169	長軸方向全周に敲打による溝
S 68	〃	6.8	6.2	4.2	265.0	角閃石花崗岩	土270	〃
S 69	〃	8.1	7.1	5.1	440.0	花崗斑岩	AX35	〃
S 70	〃	6.0	5.3	4.2	182.0	細粒花崗岩	包	〃
S 71	〃	7.3	7.2	4.9	370.0	安山岩	BA31区ピット	〃
S 72	〃	8.1	7.2	4.5	346.0	花崗岩	〃 〃	〃
S 73	〃	6.0	4.0	3.5	175.0	閃緑岩	BA30区 〃	〃
S 74	〃	4.6	3.7	3.1	70.0	珪長岩	BB30区 〃	〃

図309　その他の出土遺物(6)　縮尺 1/3・2/3（S 65）



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	出土地点	特徴
S 75	砥石	10.7	16.2	4.1	715.0	砂岩	BB30区ピット	両面・側面研磨面
S 76	〃	12.7	12.0	5.8	1395.0	斑花崗岩	土169	a面研磨面
S 77	〃	8.2	7.5	3.7	285.0	流紋岩質凝灰岩	土13	a面にV字状溝1条，側面研磨面
S 78	〃	14.7	6.4	5.8	590.0	両雲母花崗岩	土144	六角柱状を呈し，各面研磨面
S 79	〃	13.7	5.3	5.2	780.0	珪長岩(?)	土120	四角柱状を呈し，〃

図310　その他の出土遺物(7)　縮尺 1/3



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	出土地点	特徴
S 80	敲石	15.8	9.3	8.1	1805.0	流紋岩	土49	大形棒状を呈し，両端体部中央に敲打痕
S 81	〃	13.4	4.5	3.5	330.0	珪長岩(?)	土203	柱状を呈し，体部端部寄りに敲打痕
S 82	磨石	9.6	7.6	6.5	695.0	玢岩	土381	楕円柱状を呈し全面磨面，一端にわずかに敲打痕残す
S 83	〃	6.0	5.6	2.9	141.0	石英玢岩	土91	扁平球状を呈す，自然礫の可能性
S 84	〃	13.3	7.0	3.2	600.0	礫岩	BC29区ピット	扁平楕円球状，全面磨面
S 85	〃	14.5	11.9	2.6	715.0	玢岩	土94	扁平円礫

図311　その他の出土遺物(8)　縮尺 1/3

は完形品であるが，その平面形はＳ60が両側縁に抉りの入った台形状，Ｓ61が同じく両側縁に抉りが入った長方形を呈している。共にｂ面には周縁部を中心に二次加工を施しているが，ａ面には比較的大形で深い二次加工を施している。Ｓ58・59・61には縁辺の磨耗痕が顕著である。以上の打製石庖丁はいずれもサヌカイト製である。

微小剝離痕ある剝片（Ｓ62・63）　Ｓ62は自然面打面を有するサヌカイト製の大形の横長剝片である。平面形は三角形を呈し，両側面には自然面を残しており，自然面がほぼ直角に交わる石核の稜上が打点となっている。この剝片の末端には両面に使用痕と考えられる微小剝離痕が残っている。Ｓ63はサヌカイト製の点状打面を有する大形の剝片である。打面に接するａ面右側面には自然面が残存している。本例の末端にも両面に微小剝離痕が認められる。

スクレイパー（Ｓ64・65）　Ｓ64はサヌカイト製の横長剝片素材と推定される小形のスクレイパーである。素材の末端側は両面からの，基端側は表面（ａ面）からの二次加工によってそれぞれ刃部を作出している。Ｓ65はサヌカイト製の大形剝片を素材とするスクレイパーである。基端側及び両側が折り取られているが，末端両面に二次加工が施され，刃部が作出されている。

石錘（Ｓ66～74）　花崗岩などの円形の河原石を素材に敲打によって緊縛のための溝を作出したものである。溝はいずれも素材の河原石の長軸側に作出されるが，Ｓ66の溝が両端部にとどまっているほかは，いずれも全周に溝が作出されている。重量は70ｇ～440ｇの間に分散し，特定の範囲に集中する傾向は現状では認められない。

砥石（Ｓ75～79）　Ｓ75・76は比較的大形で広い研磨面を有する砥石である。Ｓ77は欠損品で，ａ面とａ面右側面に研磨面が残存し，ａ面左には断面Ｖ字の溝も残存している。Ｓ78・79は棒状の砥石であり，Ｓ78には６面，Ｓ79には４面の研磨面が認められる。素材は砂岩，花崗岩など多様である。

敲石（Ｓ80・81）　Ｓ80は重量1805ｇを測る大形の流紋岩円礫を素材としており，その長軸両端及び体部中央に敲打痕が残存している。Ｓ81は断面三角形に近い棒状礫を素材とし，その稜部を中心に敲打痕が認められる。

磨石（Ｓ82～85）　Ｓ82・83は小形の円形の河原石を素材とし，ほぼ全面が研磨面とみられる磨石である。Ｓ84・85は比較的大形で両面がやや平坦な面をなしており，主としてこれらの面が磨面として使用されたと推定される磨石である。素材は玢岩及び礫岩である。　（栄）